クノ外第五條第一項又ハ第十一條第一項ノ規定ニ依ル命令ニ基キ讓渡又ハ出資アリタル後ト雖モ仍原財團ニ屬スルモノトス

第十七條　主務大臣ハ第五條第一項又ハ第十一條第一項ノ規定ニ依ル命令ニ基キ事業ニ屬スル設備又ハ權利ヲ讓渡又ハ出資シタル者ヲシテ第十八條ノ規定ニ依リ債務ノ承繼アリタル場合ヲ除クノ外讓渡又ハ出資ヲ受ケタル者ガ擔保權ノ實行ニ因リ受クルコトアルベキ損失ノ補償ニ充ツル爲命令ノ定ムル所ニ依リ相當ノ擔保ヲ供託セシムルコトヲ得

讓渡又ハ出資ヲ受ケタル者ハ前項ノ規定ニ依リ供託セラレタルモノノ上ニ質權ヲ有ス

第十八條　主務大臣ハ第五條第一項又ハ第十一條第一項ノ規定ニ依リ事業ニ屬スル設備又ハ權利ノ讓渡又ハ出資ヲ命ジタル場合ニ於テ讓渡又ハ出資シタル者ヲシテ當該設備又ハ權利ヲ擔保トスル債務ヲ引續キ負擔セシメ置クコトヲ適當ナラズト認ムルトキハ國家總動員法第十八條ノ二ノ規定ニ基キ命令ノ定ムル所ニ依リ讓渡又ハ出資ヲ受ケタル者ヲシテ當該債務ノ全部又ハ一部ヲ承繼セシムルコトヲ得

前項ノ場合ニ於ケル承繼價格其ノ他ノ承繼ニ關スル條件ハ當事者間ノ協議ニ依ル

第六條第二項及第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十九條　主務大臣ハ必要アリト認ムルトキハ事業主ニ對シ事業ノ委託、受託、讓渡若ハ讓受又ハ事業主タル會社ノ合併ヲ命ズルコトヲ得

第五條第二項、第六條乃至第十條及第十二條乃至前條ノ規定ハ前項ノ規定ニ依リ事業ノ讓渡又ハ讓受ノ命令アリタル場合ニ之ヲ準用ス

第五條第二項及第六條ノ規定ハ第一項ノ規定ニ依リ事業ノ委託若ハ受託、

又ハ會社ノ合併ノ命令アリタル場合ニ之ヲ準用ス

第二十條　第六條（第十一條第二項、第十八條第三項及前條第二項第三項ニ於テ準用スル場合ヲ含ム）ノ協議若ハ決定、第七條（第八條、第十一條第二項及前條第二項ニ於テ準用スル場合ヲ含ム）ノ協議若ハ裁定又ハ第十八條ノ協議ニ基キ會社ガ事業ノ讓渡、合併其ノ他當該協議、決定又ハ裁定ニ於テ定メラレタル事項ノ實行ヲ爲サントスルニ付株主總會又ハ之ニ準ズベキモノノ決議、同意等ヲ必要トスル場合ニ於テ其ノ決議、同意等ヲ得ルコト能ハザルトキハ會社ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケ當該事項ノ實行ヲ爲スコトヲ得

第二十一條　本令ニ規定スルモノノ外第六條（第十一條第二項、第十八條第三項及第十九條第二項第三項ニ於テ準用スル場合ヲ含ム）ノ決定及第七條（第八條、第十一條第二項及第十九條第二項ニ於テ準用スル場合ヲ含ム）ノ裁定竝ニ第五條第一項又ハ第十一條第一項ノ規定ニ依リ事業ニ屬スル設備又ハ權利ノ讓渡又ハ出資ヲ命ジタル場合及第十九條第一項ノ規定ニ依リ事業ノ讓渡ヲ命ジタル場合ニ於ケル讓渡又ハ出資シタル者ノ負擔スル債務ノ承繼及擔保ノ處理ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十二條　主務大臣ハ必要アリト認ムルトキハ事業主ニ對シ事業ノ全部又ハ一部ノ廢止又ハ休止ヲ命ズルコトヲ得

第五條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二十三條　國家總動員法第二十七條ノ規定ニ基キ補償スベキ損失ハ前條第一項ノ規定ニ依ル命令ニ因ル通常生ズベキ損失トス

前項ノ規定ニ依ル損失補償請求ノ時期ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ

之ヲ定ム

第二十四條　主務大臣ハ國家總動員法第三十一條ノ規定ニ基キ事業主、第五條ノ規定ニ依リ主務大臣ノ指定スル法人其ノ他關係者ヨリ必要ナル報告ヲ徵シ又ハ當該官吏ヲシテ工場、事業場、店舖、倉庫其ノ他ノ場所ニ臨檢シ業務ノ狀況若ハ帳簿書類、設備其ノ他ノ物件ヲ檢査セシムルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ當該官吏ヲシテ臨檢檢査セシムル場合ニ於テハ其ノ身分ヲ示ス證票ヲ携帶セシムベシ

第二十五條　主務大臣ハ本令ニ定ムル職權ノ一部ヲ地方長官（東京府ニ在リテハ警視總監ヲ含ム）又ハ當該主務大臣ノ所轄スル官衙ノ長ニ委任スルコトヲ得

前項ノ規定中地方長官（東京府ニ在リテハ警視總監ヲ含ム）ニ關スル規定ハ樺太及南洋群島ニハ之ヲ適用セズ

第二十六條　第五條、第六條（第十一條第二項及第十八條第三項ニ於テ準用スル場合ヲ含ム）、第七條（第八條及第十一條第二項ニ於テ準用ズル場合ヲ含ム）、第十條乃至第十四條、第十七條、第十八條、第二十條（事業ノ委託、受託、讓渡、讓受及會社ノ合併ニ關スル場合ヲ除ク）及第二十四條中主務大臣トアルハ軍事上特ニ必要アル設備又ハ權利ニ付テハ陸軍大臣又ハ海軍大臣トス

前項ノ場合ヲ除クノ外本令中主務大臣、他ノ大臣、所管大臣又ハ當該大臣トアルハ朝鮮、臺灣、樺太又ハ南洋群島ニ在リテハ各朝鮮總督、臺灣總督、樺太廳長官又ハ南洋廳長官トス

前條中地方長官（東京府ニ在リテハ警視總監ヲ含ム）トアルハ朝鮮ニ在リテハ道知事、臺灣ニ在リテハ州知事又ハ廳長トス

第二十七條　主務大臣本令ニ依リ命令ヲ爲サントスル場合ニ於テ當該設備若ハ權利ノ屬スル事業又ハ當該事業ガ他ノ大臣ノ所管ニ屬スルモノナルトキハ當該所管大臣ニ協議スベシ但シ陸軍大臣又ハ海軍大臣軍機保護上特ニ必要アル設備又ハ權利ニ付命令ヲ爲サントスル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

主務大臣本令ニ依リ命令ヲ爲サントスル場合ニ於テ當該命令ガ軍事上ニ影響ヲ及ボスベキモノナルトキハ陸軍大臣又ハ海軍大臣ニ協議スベシ

主務大臣本令ニ依リ命令ヲ爲サントスル場合ニ於テ當該事項ガ他ノ法令ニ基キ他ノ大臣ノ許可、認可、承認、免許等ヲ要スルモノナルトキハ當該大臣ニ協議スベシ

附　則

本令ハ昭和十七年五月十五日ヨリ之ヲ施行ス但シ朝鮮、臺灣、樺太及南洋群島ニ在リテハ昭和十七年六月十五日ヨリ之ヲ施行ス

●企業整備令施行規則

昭和十七年六月十五日
朝鮮總督府令第百六十五號

企業整備令施行規則左ノ通定ム

企業整備令施行規則

第一條　企業整備令（以下令ト稱ス）第五條第一項ノ規定ニ依ル命令ハ命令ヲ受クベキ者ニ對シ左ニ揭グル事項ヲ記載シタル令書ヲ送達シテ之ヲ爲ス

一　當事者ノ氏名（法人ニ在リテハ其ノ名稱及代表者ノ氏名トス以下同

シ）及住所
二　當該設備又ハ權利ノ表示
三　讓渡又ハ貸借ノ條件ニ關スル協議ニ付認可ヲ申請スベキ期限
四　其ノ他必要ト認ムル事項
第二條　令第六條第二項ノ規定ニ依リ認可ヲ受ケントスル者ハ左ニ揭グル事項ヲ記載シタル申請書ニ當事者連署ノ上之ヲ朝鮮總督ニ提出スベシ
一　讓渡又ハ貸借ニ關スル契約ノ內容
二　讓渡價格又ハ賃貸料ノ算出ノ基礎
三　協議ノ顚末
第三條　朝鮮總督令第六條第三項ノ決定ヲ爲ス場合ニ於テハ期間ヲ指定シテ當事者ニ意見書提出ノ機會ヲ與フ
決定ハ理由ヲ附シタル決定書ヲ以テ之ヲ爲シ其ノ謄本ヲ當事者ニ送達ス
第四條　當事者令第六條ノ協議又ハ決定ニ基キ當該設備ノ引渡ヲ完了シタルトキハ其ノ旨ヲ記載シタル屆書ニ當事者連署ノ上遲滯ナク之ヲ朝鮮總督ニ提出スベシ
前項ノ規定ハ當該權利ニ付令第六條ノ協議又ハ決定アリタル場合ニ之ヲ準用ス
第五條　令第七條第二項ノ規定ニ依リ裁定ヲ受ケントスル者ハ左ニ揭グル事項ヲ記載シタル申請書ヲ朝鮮總督ニ提出スベシ
一　申請人ノ氏名及住所
二　相手方ノ氏名及住所
三　當該擔保權及當該擔保權ノ目的タル設備又ハ權利ノ表示
四　申請ノ目的及理由
前項ノ申請書ニハ相手方ノ員數ニ相當スル數ノ副本ヲ添附スベシ
朝鮮總督第一項ノ申請書ヲ受理シタルトキハ其ノ副本ヲ相手方ニ送付シ期間ヲ指定シテ答辯書提出ノ機會ヲ與フ
第三條第二項ノ規定ハ第一項ニ揭グル裁定ニ之ヲ準用ス
第六條　前條ノ規定ハ令第八條ノ規定ニ依ル裁定ニ之ヲ準用ス
第七條　令第十條第一項ノ規定ニ依ル命令ハ命令ヲ受クベキ者ニ對シ左ニ揭グル事項ヲ記載シタル令書ヲ送達シテ之ヲ爲ス
一　當該設備ヲ占有スル者ノ氏名及住所
二　當該設備ノ屬スル事業ノ事業主ノ氏名及住所
三　當該設備ヲ使用スベキ者ノ氏名及住所
四　當該設備ノ表示
五　使用ノ期間
六　令第十條第二項ノ規定ニ依リ當該設備ヲ使用スベキ者ヲシテ擔保ヲ供託セシムル場合ニ在リテハ擔保ノ種類及額並ニ之ヲ供託スベキ期限
七　其ノ他必要ト認ムル事項
第八條　令第十一條第一項ノ規定ニ依ル命令ハ命令ヲ受クベキ者ニ對シ左ニ揭グル事項ヲ記載シタル令書ヲ送達シテ之ヲ爲ス
一　當事者ノ氏名及住所
二　當該設備又ハ權利ノ表示
三　出資ノ條件ニ關スル協議ニ付認可ヲ申請スベキ期限
四　其ノ他必要ト認ムル事項
第二條乃至第六條ノ規定ハ令第十一條第二項ノ場合ニ之ヲ準用ス
第九條　令第十一條第三項ノ場合ニ於テ同條第一項ノ出資ノ相手方ガ株式

會社ナルトキハ當該會社ハ朝鮮民事令ニ於テ依ルコトヲ定メタル商法第二百九條第一項ノ手續ヲ爲シ當該株券ヲ擔保權者ニ交付スベシ
前項ノ規定ハ令第十一條第一項ノ出資ノ相手方ガ株式合資會社ナル場合ニ之ヲ準用ス
令第十一條第三項ノ場合ニ於テ同條第一項ノ出資ノ相手方ガ有限會社ナルトキハ當該會社ハ朝鮮民事令ニ於テ依ルコトヲ定メタル有限會社法第二十三條第二項ニ於テ準用スル同法第二十條ノ手續ヲ爲スベシ
第十條　令第十二條第一項ノ規定ニ依リ報告ヲ爲スベキ者ハ左ニ揭グル事項ヲ記載シタル報告書ヲ朝鮮總督ニ提出スベシ
一　當該設備ノ表示
二　滅失又ハ毀損ノ程度其ノ他命令ニ應ズルコト能ハザル狀況
三　前號ニ揭グル狀況ニ至リタル時期及事情
四　其ノ他參考ト爲ルベキ事項
前項ノ規定ハ令第十二條第二項ニ揭グル者ノ爲ス報告ニ之ヲ準用ス
第十一條　令第十三條ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケントスル者ハ左ニ揭グル事項ヲ記載シタル申請書ヲ朝鮮總督ニ提出スベシ
一　當該設備又ハ權利ノ表示
二　當該設備又ハ權利ニ關シ讓渡、貸渡其ノ他新ナル處分ノ必要アル事由
三　前號ニ揭グル處分ノ時期及內容
四　其ノ他參考ト爲ルベキ事項
第十二條　令第十四條ノ規定ニ依リ朝鮮總督ノ許可ヲ受クベキ期間ハ當該設備又ハ權利ノ讓渡又ハ出資ヲ受ケタル日ヨリ五年トス但シ朝鮮總督當該設備又ハ權利ノ讓渡又ハ出資ヲ受ケタル者ニ對シ別段ノ期間ヲ指定シタル場合ニ於テハ其ノ指定シタル期間トス
第十三條　第十一條ノ規定ハ令第十四條ノ規定ニ依ル許可ノ申請ニ之ヲ準用ス
第十四條　令第十七條第一項ノ規定ニ依ル命令ハ當該設備又ハ權利ヲ讓渡又ハ出資シタル者ニ對シ左ニ揭グル事項ヲ記載シタル令書ヲ送達シテ之ヲ爲ス
一　當事者ノ氏名及住所
二　第十六條ノ協議ヲ爲スベキ期限
三　其ノ他必要ト認ムル事項
第十五條　令第十七條第一項ノ規定ニ依リ擔保トシテ供託スベキモノハ國債又ハ國債以外ノ有價證券ニシテ當該設備若ハ權利ノ讓渡若ハ出資ヲ受ケタル者ノ同意シタルモノトス
第十六條　令第十七條第一項ノ規定ニ依リ供託スベキ有價證券ノ數量及擔保價格ニ付テハ當事者間ニ於テ協議スベシ
前項ノ協議調ハズ又ハ協議ヲ爲スコト能ハザルトキハ朝鮮總督之ヲ裁定ス
第十七條　前條第二項ノ規定ニ依リ裁定ヲ受ケントスル者ハ左ニ揭グル事項ヲ記載シタル申請書ヲ朝鮮總督ニ提出スベシ
一　申請人ノ氏名及住所
二　相手方ノ氏名及住所
三　申請ノ目的及理由
第三條第二項並ニ第五條第二項及第三項ノ規定ハ前項ニ揭グル裁定ニ之ヲ準用ス

第十八條　第十六條ノ規定ニ依ル協議調ヒタルトキ又ハ裁定アリタルトキハ當該設備又ハ權利ヲ讓渡又ハ出資シタル者ハ遲滯ナク供託ヲ爲シ供託物受入ノ記載アル供託書ノ寫ヲ當該設備又ハ權利ノ讓渡又ハ出資ヲ受ケタル者ニ交付スベシ

第十九條　令第十七條第一項ノ規定ニ依リ擔保ヲ供託シタル者ハ左ニ揭グル場合ニ於テハ供託物ノ一部ノ取戻ヲ爲スコトヲ得

一　當該設備又ハ權利ノ屬スル工場財團若ハ鑛業財團又ハ工場財團若ハ鑛業財團ニ屬セザル當該設備又ハ權利ヲ擔保トスル債務ノ額ガ減少シタルトキ

二　當該設備又ハ權利ノ一部ガ擔保權者ノ同意ヲ得テ工場財團若ハ鑛業財團又ハ其ノ他ノ擔保物件ヨリ分離セラレタルトキ

第十六條及第十七條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第一項ノ規定ニ依リ供託物ノ取戻ヲ爲シタル者ハ遲滯ナク其ノ旨ヲ當該設備又ハ權利ノ讓渡又ハ出資ヲ受ケタル者ニ通知スベシ

第二十條　令第十八條第一項ノ規定ニ依ル命令ハ命令ヲ受クベキ者ニ對シ左ニ揭グル事項ヲ記載シタル令書ヲ送達シテ之ヲ爲ス

一　當事者ノ氏名及住所

二　承繼セシムベキ債務ノ表示

三　承繼ノ條件ニ關スル協議ニ付認可ヲ申請スベキ期限

四　其ノ他必要ト認ムル事項

前項ニ揭グル命令ニ依リ社債ヲ承繼セシムベキ場合ハ承繼人ガ株式會社又ハ株式合資會社ナルトキニ限ル

朝鮮總督社債ニ付第一項ニ揭グル命令ヲ爲シタルトキハ其ノ旨ヲ公告シ且擔保附社債信託法ニ依ル社債ニ在リテハ受託會社ニ通知シ其ノ他ノ債務ニ付第一項ニ揭グル命令ヲ爲シタルトキハ其ノ旨ヲ當該債權者（擔保附社債信託法ニ依ル社債ニ在リテハ受託會社）ハ當該命令ヲ受ケタル者ニ對シ意見ヲ述ブルコトヲ得

第二十二條　前條ノ規定ニ依リ意見ヲ述ベタル者ハ朝鮮總督ニ意見書ヲ提出スルコトヲ得

第二十三條　令第十八條第三項ニ於テ準用スル令第六條第二項ノ規定ニ依ル認可ノ申請ハ債務ノ承繼價格其ノ他ノ承繼ニ關スル條件ヲ記載シタル申請書ニ當事者連署ノ上之ヲ朝鮮總督ニ提出スベシ

第二十四條　第三條ノ規定ハ令第十八條第三項ニ於テ準用スル令第六條第三項ノ規定ニ依ル決定ニ之ヲ準用ス

第二十五條　令第十八條第一項ノ規定ニ依ル命令ニ依リ社債ヲ承繼シタルトキハ承繼人ハ遲滯ナク其ノ旨ヲ公告シ且知レタル社債權者（擔保附社債信託法ニ依ル社債ニ在リテハ受託會社）及社債ノ總額ヲ引受ケタル者ニ各別ニ之ヲ通知シ其ノ他ノ債務ヲ承繼シタルトキハ承繼人ハ遲滯ナク債權者ニ其ノ旨ヲ通知スベシ

第二十六條　令第十八條第一項ノ規定ニ依ル命令ニ依リ債務ノ承繼アリタルトキハ被承繼人ハ當該債務ニ關スル信託證書其ノ他ノ契約證書及社債原簿ノ原本又ハ謄本其ノ他必要ナル書類ヲ承繼人ニ引渡スベシ

第二十七條　令第十九條第一項ノ規定ニ依ル事業ノ委託、受託、讓渡又ハ讓受ノ命令ハ命令ヲ受クベキ者ニ對シ左ニ揭グル事項ヲ記載シタル令書ヲ送達シテ之ヲ爲ス

一　當事者ノ氏名及住所

二　委託又ハ讓渡ノ目的タル事業ノ範圍

三　委託又ハ讓渡ノ條件ニ關スル協議ニ付認可ヲ申請スベキ期限

四　其ノ他必要ト認ムル事項

第二十八條　令第十九條第一項ノ規定ニ依ル會社ノ合併ノ命令ハ命令ヲ受クベキ者ニ對シ左ニ揭グル事項ヲ記載シタル令書ヲ送達シテ之ヲ爲ス

一　當事者ノ氏名及住所

二　合併ノ方法

三　合併ノ條件ニ關スル協議ニ付認可ヲ申請スベキ期限

四　其ノ他必要ト認ムル事項

第二十九條　第二條乃至第七條及第十條乃至第二十六條ノ規定ハ令第十九條第二項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二條乃至第四條ノ規定ハ令第十九條第三項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第三十條　令第十九條第一項ノ規定ニ基ク命令ニ依リ事業ノ受託若ハ讓受又ハ會社ノ合併ヲ爲シタルトキハ受託人若ハ讓受人又ハ合併後存續スル會社若ハ合併ニ因リテ設立シタル會社ハ遲滯ナク其ノ旨ヲ朝鮮總督ニ屆出ヅベシ

第三十一條　令第二十條ノ規定ニ依リ認可ヲ受ケントスル者ハ左ニ揭グル事項ヲ記載シタル申請書ヲ朝鮮總督ニ提出スベシ

一　協議、決定又ハ裁定ノ內容

二　株主總會又ハ之ニ準ズベキモノノ決議、同意等ヲ得ルコト能ハザル事情

前項ノ申請書ニハ株主總會ノ議事錄又ハ之ニ準ズベキモノヲ添附スベシ

第三十二條　朝鮮總督令第二十條ノ規定ニ依ル認可ヲ爲シタルトキハ其ノ旨ヲ公告ス

第三十三條　令第二十二條第一項ノ規定ニ依ル命令ハ命令ヲ受クベキ者ニ對シ左ニ揭グル事項ヲ記載シタル令書ヲ送達シテ之ヲ爲ス

一　廢止又ハ休止ヲ爲スベキ者ノ氏名及住所

二　廢止又ハ休止ノ目的タル事業ノ範圍

三　廢止ノ時期又ハ休止ノ期間

四　其ノ他必要ト認ムル事項

第三十四條　令第二十二條第一項ノ規定ニ依ル命令ニ依リ事業ノ廢止又ハ休止ヲ爲シタル者ハ遲滯ナク其ノ旨ヲ朝鮮總督ニ屆出ヅベシ

第三十五條　令第二十三條ノ規定ニ依リ損失ノ補償ヲ請求セントスル者ハ事業ノ廢止ノ場合ニ在リテハ廢止ノ後一年以內ニ、事業ノ休止ノ場合ニ在リテハ休止期間滿了ノ後六月以內ニ損失補償請求書ヲ朝鮮總督ニ提出スベシ

特別ノ事由アル場合ニ於テ朝鮮總督ノ許可ヲ受ケタルトキハ前項ト異リタル時期ニ損失補償請求書ヲ提出スルコトヲ得

第三十六條　前條ノ損失補償請求書ニハ左ニ揭グル事項ヲ記載スベシ

一　廢止又ハ休止ノ目的タル事業ノ範圍

二　廢止ノ場合ニ在リテハ其ノ時期、休止ノ場合ニ在リテハ其ノ期間

三　補償請求ノ事由

四　補償請求額及其ノ算出ノ基礎

五　其ノ他參考ト爲ルベキ事項

第三十七條　令第二十四條第一項ニ定ムル朝鮮總督ノ職權ハ道知事之ヲ行フコトヲ得

第三十八條　令第二十四條第二項ノ證票ハ別記樣式ニ依ル

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

別記樣式（用紙ノ大サハ日本標準規格A6トシ中央點線ノ所ヨリ二ツ折ト爲ス）

（表面）

企業整備令第二十四條ノ規定ニ依ル證票

（裏面）

第　號　昭和　年　月　日交付

當該官廳印

官職氏名

國家總動員法第三十一條　政府ハ國家總動員上必要アルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ報告ヲ徵シ又ハ當該官吏ヲシテ必要ナル場所ニ臨檢シ業務ノ狀況若ハ帳簿書類其ノ他ノ物件ヲ檢査セシムルコトヲ得

國家總動員法第四十二條　第三十一條ノ規定ニ依ル當該官吏ノ檢査ヲ拒ミ、妨ゲ又ハ忌避シタル者ハ六月以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

企業整備令第二十四條　主務大臣ハ國家總動員法第三十一條ノ規定ニ基キ事業主、第五條ノ規定ニ依リ主務大臣ノ指定スル法人其ノ他關係者ヨリ必要ナル報告ヲ徵シ又ハ當該官吏ヲシテ工場、事業場、店舖、倉庫其ノ他ノ場所ニ臨檢シ業務ノ狀況若ハ帳簿、書類、設備其ノ他ノ物件ヲ檢査セシムルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ當該官吏ヲシテ臨檢檢査セシムル場合ニ於テハ其ノ身分ヲ示ス證票ヲ携帶セシムベシ

企業整備令第三十六條第二項　前項ノ場合ヲ除クノ外本令中主務大臣、他ノ大臣、所管大臣又ハ當該大臣トアルハ朝鮮總督、臺灣總督、樺太廳長官又ハ南洋廳長官トス

前條中地方長官（東京府ニ在リテハ警視總監ヲ含ム）トアルハ朝鮮ニ在リテハ道知事、臺灣ニ在リテハ州知事又ハ廳長トス

企業整備令施行規則第三十七條　令第二十四條第一項ニ定ムル朝鮮總督ノ職權ハ道知事之ヲ行フコトヲ得

企業整備令施行規則第三十八條　令第二十四條第二項ノ證票ハ別記樣式ニ依ル

〔朝二〕

●金融事業整備令

昭和十七年五月十六日
勅令第五百十一號

脫金融事業整備令ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

金融事業整備令

第一條　國家總動員法第十六條ノ三ノ規定ニ基ク金融事業（有價證券ニ關スル事業ヲ含ム以下同ジ）ノ委託若ハ讓渡又ハ金融事業ヲ營ム法人ノ合併ニ關スル命令ニ付テハ本令ノ定ムル所ニ依ル

第二條　主務大臣金融事業ノ整備ヲ圖ル爲必要アリト認ムルトキハ金融事業ヲ營ム者（以下金融機關ト稱ス）ニ對シ金融事業ノ委託、受託、讓渡若ハ讓受又ハ法人ノ合併ヲ命ズルコトヲ得

第三條　前條ノ場合ニ於ケル委託、讓渡又ハ合併ノ條件ハ當事者間ノ協議ニ依ル

前項ノ協議ハ主務大臣ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ

第一項ノ協議調ハズ又ハ協議ヲ爲スコト能ハザルトキハ主務大臣之ヲ裁定ス

第四條　主務大臣金融事業ノ委託ニ關シ前條ノ認可又ハ裁定ヲ爲シタルトキハ遲滯ナク其ノ旨及當該委託ニ關スル協議又ハ裁定ノ要旨ヲ告示シ且命令ノ定ムル所ニ依リ登記ヲ嘱託スルコトヲ要ス

第五條　本令ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外第二條ノ規定ニ依ル命令ニ基キ金融事業ノ委託ヲ爲シタル金融機關（以下委託金融機關ト稱ス）ト同條ノ規定ニ依ル命令ニ基キ金融事業ノ受託ヲ爲シタル金融機關（以下受託金融機關ト稱ス）トノ間ノ關係ハ委任ニ關スル規定ニ從フ

第六條　受託金融機關ガ委託金融機關ノ爲ニ法律行爲ヲ爲スニハ委託金融機關ノ爲ニスルコトヲ表示スルモノトス

前項ノ表示ヲ爲サズシテ爲シタル法律行爲ハ之ヲ自己ノ爲ニ爲シタルモノト看做ス

商法第三十八條第一項ノ規定ハ受託金融機關ニ之ヲ準用ス

民法第四十四條第一項ノ規定ハ第二條ノ規定ニ依ル命令ニ基キ金融事業ノ委託アリタル場合ニ之ヲ準用ス

第七條　第二條ノ規定ニ依ル命令ニ基キ爲シタル金融事業ノ委託ハ第三條ノ協議又ハ裁定ニ於テ定ムル事由ニ因リテノミ終了ス

前項ノ場合ニ於テハ主務大臣ハ遲滯ナク金融事業ノ委託ノ終了シタル旨ヲ告示シ且命令ノ定ムル所ニ依リ登記ヲ嘱託スルコトヲ要ス

第八條　金融機關金融事業ノ讓渡ニ關シ第三條ノ認可又ハ裁定アリタル場合ニ於テ遲滯ナク其ノ旨及當該讓渡ニ關スル協議又ハ裁定ノ要旨ヲ公告シ且預金者其ノ他命令ヲ以テ定ムル者以外ノ知レタル債權者ニ各別ニ之ヲ通知シタルトキハ當該讓渡ニ付債權者ノ承認アリタルモノト看做ス

第九條　金融機關第二條ノ規定ニ依ル命令ニ基キ金融事業ノ讓渡ヲ爲シタル場合ニ於テ遲滯ナク其ノ旨ヲ公告シタルトキハ當該金融機關ノ債務者ニ對シ民法第四百六十七條ノ規定ニ依ル確定日附アル證書ヲ以テスル通知アリタルモノト看做ス此ノ場合ニ於テハ其ノ公告ノ日附ヲ以テ確定日附トス

第十條　第八條ノ規定ハ第二條ノ規定ニ依リ法人ノ合併ノ命令アリタル場合ニ之ヲ準用ス

第十一條　主務大臣第二條ノ規定ニ依リ命令ヲ爲シタル場合ニ於テ必要アリト認ムルトキハ當該金融機關ニ對シ事業ノ停止、株主ノ名義書換ノ停

〔朝二〕

止其ノ他必要ナル事項ヲ命ズルコトヲ得

第十二條　金融機關第二條ノ規定ニ依ル命令ニ基キ金融事業ノ委託、受託、讓渡若ハ讓受又ハ法人ノ合併ヲ爲ス場合ニ於テハ他ノ法令ニ依ル認可又ハ許可ヲ受クルコトヲ要セズ

第十三條　第三條ノ協議又ハ裁定ニ基キ法人タル金融機關ガ金融事業ノ委託、讓渡、合併其ノ他當該協議又ハ裁定ニ於テ定ムル事項ノ實行ヲ爲サントスルニ付株主總會又ハ之ニ準ズベキモノノ決議、同意等ヲ得ルコト能ハザルトキハ當該金融機關ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケ當該事項ノ實行ヲ爲スコトヲ得

第十四條　主務大臣第二條ノ規定ニ依ル命令又ハ第三條ノ認可若ハ裁定ヲ爲スニ付必要アリト認ムルトキハ國家總動員法第三十一條ノ規定ニ依リ金融機關ノ取引先ヨリ必要ナル報告ヲ徵シ又ハ當該官吏ヲシテ其ノ業務ノ狀況若ハ帳簿書類其ノ他ノ物件ヲ檢査セシムルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ當該官吏ヲシテ檢査セシムル場合ニ於テハ其ノ身分ヲ示ス證票ヲ携帶セシムベシ

第十五條　主務大臣ノ指定スル金融機關ハ第二條ノ規定ニ依ル命令ニ基ク場合ヲ除クノ外主務大臣ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ金融事業ヲ讓渡シ又ハ讓受クルコトヲ得ズ

第十六條　本令中主務大臣トアルハ第二項及第三項ニ規定スル場合ヲ除クノ外大藏大臣トス

本令中主務大臣トアルハ産業組合中央金庫及産業組合法第一條第四項ノ規定ニ依リ手形ノ割引又ハ貯金ノ取扱ヲ爲ス信用組合（以下市街地信用組合ト稱ス）ニ付テハ大藏大臣及農林大臣トシ信用組合聯合會及市街地信用組合ニ非ザル信用組合ニ付テハ農林大臣トス但シ市街地信用組合ト市街地信用組合ニ非ザル信用組合トノ間ノ金融事業ノ委託若ハ讓渡又ハ合併ニ關シテハ大藏大臣及農林大臣トス

本令中主務大臣トアルハ朝鮮、臺灣又ハ樺太ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スル金融機關（朝鮮銀行、臺灣銀行及臺灣ニ本店ヲ有シ銀行法又ハ貯蓄銀行法ノ適用ヲ受クル銀行ヲ除ク）ニ付テハ各朝鮮總督、臺灣總督又ハ樺太廳長官トス

第十七條　大藏大臣第二條、第三條又ハ第十五條ノ規定ニ依リ命令、認可又ハ裁定ヲ爲サントスル場合ニ於テ當該命令、認可又ハ裁定ガ前條第一項ノ規定ニ依リ大藏大臣ノ所管スル金融機關ト同條第三項ノ規定ニ依リ朝鮮總督、臺灣總督又ハ樺太廳長官ノ所管スル金融機關トノ間ノ金融事業ノ委託若ハ讓渡又ハ合併ニ關スルモノナルトキハ朝鮮總督、臺灣總督又ハ樺太廳官ニ協議スベシ

朝鮮總督、臺灣總督又ハ樺太廳長官第二條、第三條又ハ第十五條ノ規定ニ依リ命令、認可又ハ裁定ヲ爲サントスル場合ニ於テ當該命令、認可又ハ裁定ガ前條第一項ノ規定ニ依リ大藏大臣ノ所管スル金融機關ト同條第三項ノ規定ニ依リ朝鮮總督、臺灣總督又ハ樺太廳長官ノ所管スル金融機關トノ間ノ金融事業ノ委託若ハ讓渡又ハ合併ニ關スルモノナルトキハ大藏大臣ニ協議スベシ

第十八條　本令ニ規定スルモノヲ除クノ外金融事業ノ整備ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス但シ朝鮮、臺灣及樺太ニ在リテハ昭和十七年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

〔朝二〕

●金融事業整備令施行規則

昭和十七年七月一日
朝鮮總督府令第百七十三號

金融事業整備令施行規則左ノ通定ム

金融事業整備令施行規則

第一條　金融事業整備令（以下令ト稱ス）第二條ノ規定ニ依ル金融事業（有價證券ニ關スル事業ヲ含ム以下同ジ）ノ委託、受託、讓渡若ハ讓受又ハ法人ノ合併ノ命令ヲ受クベキ者ニ對シ令書ヲ送達シテ之ヲ爲ス

第二條　金融事業ノ委託又ハ受託ノ令書ニハ左ニ揭グル事項ヲ記載ス

一　當事者ノ氏名（法人ニ在リテハ其ノ名稱及代表者ノ氏名トス以下同ジ）及住所
二　委託ノ目的タル金融事業ノ範圍
三　委託ノ條件ニ關スル協議ニ付認可ヲ申請スベキ期限
四　其ノ他必要ト認ムル事項

第三條　金融事業ノ讓渡又ハ讓受ノ令書ニハ左ニ揭グル事項ヲ記載ス

一　當事者ノ氏名及住所
二　讓渡ノ目的タル金融事業ノ範圍
三　讓渡ノ條件ニ關スル協議ニ付認可ヲ申請スベキ期限
四　其ノ他必要ト認ムル事項

第四條　法人ノ合併ノ令書ニハ左ニ揭グル事項ヲ記載ス

一　當事者ノ氏名及住所
二　合併ノ方法
三　合併ノ條件ニ關スル協議ニ付認可ヲ申請スベキ期限
四　其ノ他必要ト認ムル事項

第五條　金融事業ヲ營ム者（以下金融機關ト稱ス）令第三條第二項ノ規定ニ依リ委託ノ條件ニ關スル協議ニ付認可ヲ受ケントスルトキハ認可申請書ニ當事者連署ノ上左ニ揭グル書類ヲ添附シテ之ヲ朝鮮總督ニ提出スベシ

一　委託ニ關スル契約書
二　委託ニ關シ株主總會又ハ之ニ準ズベキモノノ決議、同意等アリタルトキハ其ノ決議、同意等ノ要領書
三　最近ノ日計表

第六條　金融機關令第三條第二項ノ規定ニ依リ讓渡ノ條件ニ關スル協議ニ付認可ヲ受ケントスルトキハ認可申請書ニ當事者連署ノ上左ニ揭グル書類ヲ添附シテ之ヲ朝鮮總督ニ提出スベシ

一　讓渡ニ關スル契約書
二　讓渡ニ關シ株主總會又ハ之ニ準ズベキモノノ決議、同意等アリタルトキハ其ノ決議、同意等ノ要領書
三　金融事業ノ一部ノ讓渡又ハ金融事業ノ全部若ハ一部ノ讓受ヲ爲ス金融機關ノ定款
四　最近ノ日計表

第七條　金融機關令第三條第二項ノ規定ニ依リ合併ノ條件ニ關スル協議ニ付認可ヲ受ケントスルトキハ認可申請書ニ當事者連署ノ上左ニ揭グル書類ヲ添附シテ之ヲ朝鮮總督ニ提出スベシ

一　合併ニ關スル契約書
二　合併ニ關シ株主總會又ハ之ニ準ズベキモノノ決議、同意等アリタル

〔朝二〕

トキハ其ノ決議、同意等ノ要領書

三　合併後存續スル金融機關又ハ合併ニ因リ設立スル金融機關ノ定款

四　朝鮮民事令ニ於テ依ルコトヲ定メタル商法第九十九條ノ規定ニ依リ作成シタル貸借對照表又ハ之ニ準ズベキモノ

第八條　金融機關令第三條第三項ノ規定ニ依リ裁定ヲ受ケントスルトキハ協議調ハズ又ハ協議ヲ爲スコト能ハザリシ顚末ヲ記載シタル申請書ヲ朝鮮總督ニ提出スベシ

第九條　朝鮮總督令第三條第三項ノ裁定ヲ爲サントスル場合ニ於テ必要アリト認ムルトキハ當事者ヨリ意見書ヲ徵スルコトヲ得

第十條　令第三條第三項ノ裁定ハ理由ヲ附シタル裁定書ヲ以テ之ヲ爲シ其ノ謄本ヲ當事者ニ送達ス

第十一條　金融機關令第二條ノ規定ニ依ル命令ニ基キ金融事業ノ委託又ハ受託ヲ爲シタルトキハ遲滯ナク其ノ旨ヲ朝鮮總督ニ屆出ヅベシ

前項ノ屆出アリタルトキハ朝鮮總督ハ令第二條ノ規定ニ依ル命令ニ基キ金融事業ノ委託ヲ爲シタル法人タル金融機關（以下法人タル委託金融機關ト稱ス）ニ付管轄登記所ニ左ニ揭グル事項ノ登記ヲ囑託ス

一　金融事業ノ委託ヲ爲シタル旨及委託條件ノ概要

二　金融事業ノ受託ヲ爲シタル金融機關ノ氏名及住所

第十二條　前條第二項ノ規定ニ依ル登記ノ囑託書ニハ左ニ揭グル書類ヲ添附ス

一　委託ニ關スル契約書又ハ裁定書ノ謄本

二　委託ニ關スル株主總會若ハ之ニ準ズベキモノノ決議、同意等又ハ令第十三條ノ認可アリタルコトヲ證スル書面

第十三條　令第二條ノ規定ニ依ル命令ニ基キ爲シタル金融事業ノ委託終了シタルトキハ遲滯ナク其ノ旨ヲ朝鮮總督ニ屆出ヅベシ

前項ノ屆出アリタルトキハ朝鮮總督ハ管轄登記所ニ委託終了ノ旨ノ登記ヲ囑託ス

第十四條　金融事業ノ委託ニ關スル登記ハ法人タル委託金融機關ノ本店及支店又ハ各事務所ノ所在地ニ於テ之ヲ爲スコトヲ要ス

第十五條　令第八條（令第十條ニ於テ準用スル場合ヲ含ム）ノ規定ニ依リ通知スルコトヲ要セザル債權者ハ貯金者、積金者、信託ノ委託者及受益者、保險契約者、保險金受取人竝ニ無盡掛金者トス

第十六條　金融機關令第十一條ノ規定ニ依リ株主ノ名義書換ノ停止ノ命令ヲ受ケタルトキハ遲滯ナク其ノ旨ヲ公告スベシ

第十七條　金融機關令第十三條ノ規定ニ依ル認可ヲ受ケントスルトキハ認可申請書ニ左ニ揭グル書類ヲ添附シテ之ヲ朝鮮總督ニ提出スベシ

一　株主總會又ハ之ニ準ズベキモノノ決議、同意等ヲ得ルコト能ハザリシ顚末ヲ記載シタル書面

二　株主總會又ハ之ニ準ズベキモノノ會議ヲ開キタルトキハ其ノ議事ノ要領ヲ記載シタル書面

第十八條　金融機關令第二條ノ規定ニ依ル命令ニ基キ金融事業ノ讓渡若ハ讓受又ハ法人ノ合併ヲ爲シタルトキハ遲滯ナク其ノ旨ヲ朝鮮總督ニ屆出ヅベシ

前項ノ屆書ニハ令第八條（令第十條ニ於テ準用スル場合ヲ含ム）ノ規定ニ依ル公告及通知竝ニ令第九條ノ規定ニ依ル公告ヲ爲シタルトキハ之ヲ證スル書面ヲ添附スベシ

第十九條　令第十四條第二項ノ證票ハ別記樣式ニ依ル

第二十條　朝鮮總督令第十五條ノ規定ニ依リ金融機關ノ指定ヲ爲シタルトキハ其ノ旨ヲ告示ス

第二十一條　金融機關令第十五條ノ規定ニ依リ認可ヲ受ケントスルトキハ認可申請書ニ左ニ揭グル書類ヲ添附シテ之ヲ朝鮮總督ニ提出スベシ

一　讓渡ニ關スル契約書

二　讓渡ニ關シ株主總會又ハ之ニ準ズベキモノノ決議、同意等ヲ要スルトキハ其ノ決議、同意等ノ要領書

三　金融事業ノ一部ノ讓渡又ハ金融事業ノ全部若ハ一部ノ讓受ヲ爲ス金融機關ノ定款

四　最近ノ日計表

第二十二條　金融機關令第十五條ノ規定ニ依リ認可ヲ受ケテ金融事業ノ讓渡又ハ讓受ヲ爲シタルトキハ遲滯ナク之ヲ朝鮮總督ニ屆出ヅベシ

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

別記樣式（用紙ノ大サハ日本標準規格B7トシ）（中央點線ノ所ヨリ二ツ折ト爲ス）

（表面）

金融事業整備令第十四條ノ規定ニ依ル證票

〔朝二〕

（裏面）

第　號　昭和　年　月　日交付

官職　朝鮮總督府印　氏名

國家總動員法第三十一條　政府ハ國家總動員上必要アルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ報告ヲ徴シ又ハ當該官吏ヲシテ必要ナル場所ニ臨檢シ業務ノ狀況若ハ帳簿書類其ノ他ノ物件ヲ檢査セシムルコトヲ得

國家總動員法第四十二條　第三十一條ノ規定ニ依ル當該官吏ノ檢査ヲ拒ミ、妨ゲ又ハ忌避シタル者ハ六月以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

金融事業整備令第十四條　主務大臣第二條ノ規定ニ依ル命令又ハ第三條ノ認可若ハ裁定ヲ爲スニ付必要アリト認ムルトキハ國家總動員法第三十一條ノ規定ニ依リ金融機關ノ取引先ヨリ必要ナル報告ヲ徴シ又ハ當該官吏ヲシテ其ノ業務ノ狀況若ハ帳簿書類其ノ他ノ物件ヲ檢査セシムルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ當該官吏ヲシテ檢査セシムル場合ニ於テハ其ノ身分ヲ示ス證票ヲ携帶セシムベシ

金融事業整備令第十六條第三項抄　本令中主務大臣トアルハ朝鮮總督トス

金融事業整備令施行規則第十九條　令第十四條第二項ノ證票ハ別記樣式ニ依ル

〔朝二〕

●總動員業務事業設備令

昭和十四年七月一日
勅令第四百二十七號

朕總動員業務事業設備令ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

總動員業務事業設備令

第一條　國家總動員法第十六條ノ規定ニ依リ總動員業務タル事業ニ屬スル設備ノ新設、擴張又ハ改良ヲ命ズルハ本令ノ定ムル所ニ依ル

第二條　主務大臣總動員業務タル事業ノ擴充ノ爲特ニ必要アリト認ムルトキハ軍用ニ供スル物資ノ生産若ハ修理ニ關スル業務タル事業又ハ命令ヲ以テ定ムル總動員業務タル事業ヲ營ム者ニ對シ其ノ事業ニ屬スル設備ノ新設、擴張又ハ改良ヲ命ズルコトヲ得

主務大臣前項ノ命令ヲ發シ又ハ同項ノ規定ニ依リ設備ノ新設、擴張若ハ改良ヲ命ゼントスルトキハ內閣總理大臣ニ協議スベシ

第三條　國家總動員法第二十七條ノ規定ニ依リ補償スベキ損失ノ前條ノ規定ニ依ル設備ノ新設、擴張又ハ改良ノ命令ニ因ル通常生ズベキ損失トス

損失ノ補償ヲ請求セントスル者ハ主務大臣ノ定ムル所ニ依リ前條ノ規定ニ依ル新設、擴張又ハ改良ノ命令ニ係ル設備ノ使用ヲ廢止シタル後之ヲ請求スベシ但シ主務大臣ノ定ムル所ニ依リ別段ノ時期ニ於テ之ヲ請求スルコトヲ得

第四條　第二條ノ命令ヲ受ケ設備ノ新設、擴張又ハ改良ヲ爲シタル者其ノ設備ヲ變更又ハ廢止セントスルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ主務大臣ノ許可ヲ受クベシ

第五條　第二條ノ規定ニ依ル新設、擴張又ハ改良ノ命令ニ係ル設備ノ屬スル事業ヲ承繼スル者ハ本令又ハ本令ニ依ル命令ニ基ク前者ノ權利義務ヲ承繼ス

第六條　第二條ノ規定ニ依ル新設、擴張又ハ改良ノ命令ニ係ル設備又ハ其ノ設備ノ屬スル事業ヲ讓渡サントスル者ハ國家總動員法第三十一條ノ規定ニ基キ命令ノ定ムル所ニ依リ讓受人ト連署ノ上其ノ旨ヲ主務大臣ニ報告スベシ

主務大臣ハ國家總動員法第三十一條ノ規定ニ基キ第二條ノ規定ニ依ル新設、擴張若ハ改良ノ命令ニ係ル設備ニ關シ報告ヲ徴シ又ハ當該官吏ヲシテ其ノ設備ノ存スル場所其ノ他必要ナル場所ニ臨檢シ業務ノ狀況若ハ帳簿書類其ノ他ノ物件ヲ檢査セシムルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ當該官吏ヲシテ臨檢檢査セシムル場合ニ於テハ其ノ身分ヲ示ス證票ヲ携帶セシムベシ

第七條　本令中主務大臣トアルハ軍機保護上其ノ他軍事上特ニ必要アル設備ニ付テハ陸軍大臣又ハ海軍大臣トス

前項ノ場合ヲ除クノ外本令中主務大臣トアルハ朝鮮、臺灣、樺太又ハ南洋群島ニ在リテハ各朝鮮總督、臺灣總督、樺太廳長官又ハ南洋廳長官トス

附　則

本令ハ昭和十四年七月十日ヨリ之ヲ施行ス

〔朝〕

●新聞事業令

昭和十六年十二月十三日
勅令第千百七號

（新聞事業令ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム）

新聞事業令

第一條　國家總動員法（昭和十三年勅令第三百十七號ニ於テ依ル場合ヲ含ム）第十六條ノ三ノ規定ニ基ク新聞事業ノ開始、委託、共同經營、讓渡、廢止又ハ休止ニ關スル命令及新聞事業ヲ行フ法人ノ目的ノ變更、合併又ハ解散ニ關スル命令、同法第十八條ノ規定ニ基ク新聞事業ノ統制ヲ目的トスル團體ノ設立等ニ關スル命令及當該團體ニ關シ必要ナル事項竝ニ同法第十八條ノ三ノ規定ニ基ク新聞事業ノ讓渡又ハ新聞事業ヲ營ム會社ノ合併ニ付テノ租稅ノ輕減ニ付テハ本令ノ定ムル所ニ依ル

第二條　本令ニ於テ新聞事業ト稱スルハ時事ニ關スル事項ヲ掲載スル新聞紙ノ發行ヲ目的トスル事業ニシテ命令ヲ以テ定ムルモノヲ謂フ

第三條　新聞事業ヲ開始セントスル者ハ主務大臣ノ許可ヲ受クベシ新聞事業主其ノ事業ノ委託、共同經營、讓渡、廢止又ハ休止ヲ爲サントスルトキ亦同ジ

新聞事業ヲ行フ法人ノ目的ノ變更、合併又ハ解散ノ決議ハ主務大臣ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ

第一項ノ許可及前項ノ認可ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第四條　主務大臣新聞事業ノ整備ノ爲必要アリト認ムルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ新聞事業主ニ對シ事業ノ讓渡若ハ讓受又ハ會社ノ合併ヲ命ズルコトヲ得

前項ノ場合ニ於ケル讓渡又ハ合併ノ條件ハ當事者間ノ協議ニ依ル其ノ協議調ハズ又ハ協議ヲ爲スコト能ハザルトキハ主務大臣之ヲ裁定ス

前項ノ協議ハ主務大臣ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ

第五條　左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ主務大臣ハ當該新聞事業主ニ對シ其ノ事業ノ廢止又ハ休止ヲ命ズルコトヲ得

一　前項第一項ノ規定ニ依ル命令又ハ同條第二項ノ規定ニ依ル裁定ニ從ハザルトキ

二　第六條ノ規定ニ依ル團體ノ定款又ハ統制規程ニ違反シタルトキ

三　當該新聞事業ノ運營ガ國策ノ遂行ニ重大ナル支障ヲ及ボシ又ハ及ボスノ虞アルトキ

前項ノ處分ハ豫メ警告ヲ爲シタル後之ヲ行フ

〔朝〕

第六條　主務大臣ハ命令ノ定ムル所ニ依リ第八條ノ規定ニ該當スル者ニ對シ新聞事業ノ綜合的統制運營ヲ圖リ且新聞事業ニ關スル國策ノ立案及遂行ニ協力スルコトヲ目的トスル團體ノ設立ヲ命ズルコトヲ得

第七條　前條ノ規定ニ依ル團體ハ其ノ目的ヲ達スル爲左ニ掲グル事業ヲ行フ

一　新聞紙ノ編輯其ノ他新聞事業ノ運營ニ關スル統制指導

二　新聞事業ノ整備ニ關スル指導助成

三　新聞共同販賣其ノ他新聞事業ニ關スル共同經營機關ノ指導助成

四　新聞記者ノ登錄竝ニ新聞從業者ノ厚生施設及養成訓練ノ實施

五　新聞用紙其ノ他ノ資材ノ配給ノ調整

六　新聞事業ノ向上ニ關シ必要ナル調査研究

七　其ノ他本團體ノ目的ヲ達スルニ必要ナル事業

第八條　第六條ノ規定ニ依ル團體ノ會員タル資格ヲ有スル者ハ左ニ掲グル者ニシテ主務大臣ノ指定スルモノトス

一　新聞事業主

二　新聞事業主ニ對シ報道事項ノ供給ヲ爲スヲ目的トスル事業其ノ他新聞事業ニ關係アル事業ノ事業主

第九條　重要產業團體令第八條第二項及第九條乃至第三十六條ノ規定ハ統制會ノ會員タル團體ヲ組織スル者ニ關スル部分ヲ除キ第六條ノ規定ニ依ル團體ニ之ヲ準用ス但シ閣令トアルハ命令トス

本令ニ規定スルモノヲ除クノ外第六條ノ規定ニ依ル團體ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十條　第四條第一項ノ規定ニ依ル命令ニ基キ左ノ事項ニ付登記ヲ受クル場合ニ於テハ其ノ登錄稅ノ額ハ左ノ額トス但シ登錄稅法ニ依リ算出シタル登錄稅ノ額ガ左ノ額ヨリ少キトキハ其ノ額ニ依ル

一　合併ニ因ル會社ノ設立

金錢出資ニ依ル拂込株金額及金錢ヲ目的トスル株金以外ノ出資ノ價格ノ千分ノ五ト金錢以外ノ財產ノ出資ニ依ル拂込株金額及金錢以外ノ財產ヲ目的トスル株金以外ノ出資ノ價格ノ千分ノ一トノ合計額

二　合併ニ因ル會社資本ノ增加

金錢出資ニ依ル增資拂込株金額及金錢ヲ目的トスル株金以外ノ出資ノ價格ノ千分ノ五ト金錢以外ノ財產ノ出資ニ依ル增資拂込株金額及金錢以外ノ財產ヲ目的トスル株金以外ノ出資ノ價格ノ千分ノ一トノ合計額

三　新聞事業ノ讓受ノ場合ニ於ケル不動產ニ關スル權利ノ取得

不動產ノ價格ノ千分ノ三

第十一條　本令中主務大臣トアルハ內地ニ在リテハ內閣總理大臣及內務大臣トシ、朝鮮、臺灣、樺太又ハ南洋群島ニ在リテハ各朝鮮總督、臺灣總督、樺太廳長官又ハ南洋廳長官トス

第十二條　朝鮮及南洋群島ニ在リテハ第五條第一項第二號及第六條乃至第十條ノ規定ヲ、臺灣及樺太ニ在リテハ第五條第一項第二號及第六條乃至第九條ノ規定ヲ適用セズ

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス但シ朝鮮、臺灣、樺太及南洋群島ニ在リテハ昭和十六年十二月二十五日ヨリ之ヲ施行ス

〔朝〕

新聞事業令施行規則

昭和十七年六月十五日
朝鮮總督府令第百六十六號

新聞事業令施行規則左ノ通定ム

新聞事業令施行規則

第一條　新聞事業令（以下令ト稱ス）第二條ノ規定ニ依ル新聞事業ハ時事ニ關スル事項ヲ掲載スル日刊新聞紙ノ發行ヲ目的トスルモノヲ謂フ

第二條　令第三條第一項ノ規定ニ依リ新聞事業開始ノ許可ヲ受ケントスル者ハ法人ニシテ其ノ法人ノ理事、取締役其ノ他法人ノ業務ヲ執行スル役員左ノ條件ヲ具フル者タルコトヲ要ス但シ朝鮮總督ノ指定スル者ハ此ノ限ニ在ラズ

一　帝國臣民ニシテ成年者タルコト
二　新聞事業以外ノ營利事業ニ從事セザルコト
三　禁治産者又ハ準禁治産者ニ非ザルコト
四　禁錮以上ノ刑ニ處セラレ其ノ刑ノ執行ヲ終リ又ハ執行ヲ受クルコトナキニ至リタル後二年ヲ經過スルニ至ラザル者ニ非ザルコト
五　新聞事業ニ關シ罰金刑ニ處セラレタル後二年ヲ經過スルニ至ラザル者ニ非ザルコト

第三條　令第三條第一項ノ規定ニ依リ新聞事業開始ノ許可ヲ受ケントスル者ハ左ノ事項ヲ記載シタル許可申請書ニ副本一通ヲ添附シ朝鮮總督ニ之ヲ提出スベシ

一　新聞紙ノ題號
二　掲載事項ノ種類
三　發行ノ時期
四　主ナル販賣頒布區域及讀者ノ種類
五　當該新聞紙ノ發行開始ノ豫定時期
六　發行所及印刷所
七　發行人、編輯人及印刷人ノ本籍、住所、氏名及年齡
八　新聞用紙其ノ他ノ資材ノ向フ一年間ノ所要見込數量

前項ノ許可申請書ニハ法人ノ定款又ハ寄附行爲、社員名簿又ハ株主名簿、事業ノ起業目論見書及收支概算書ヲ添附スベシ

第四條　令第三條第一項ノ規定ニ依リ新聞事業ノ委託、共同經營又ハ讓渡ノ許可ヲ受ケントスル者ハ許可申請書ニ其ノ契約書ノ寫ヲ添附シ前條第一項ノ例ニ依リ朝鮮總督ニ之ヲ提出スベシ

第五條　令第三條第一項ノ規定ニ依リ新聞事業ノ廢止又ハ休止ノ許可ヲ受ケントスル者ハ許可申請書ニ其ノ事由及時期又ハ期間ヲ記載シ第三條第一項ノ例ニ依リ朝鮮總督ニ之ヲ提出スベシ

第六條　令第三條第二項ノ規定ニ依リ法人ノ目的變更、合併又ハ解散ノ決議ニ付キ認可ヲ受ケントスル者ハ認可申請書ニ其ノ決議書ノ寫ヲ添附シ第三條第一項ノ例ニ依リ朝鮮總督ニ之ヲ提出スベシ

第七條　朝鮮總督令第四條第一項ノ規定ニ依リ新聞事業ノ讓渡又ハ讓受ヲ命ズルトキハ左ノ事項ヲ記載シタル命令書ヲ當該事業主ニ送達スベシ

一　讓渡ノ當事者ノ名稱又ハ氏名及住所
二　讓渡シ又ハ讓受クベキ事業ノ範圍
三　讓渡又ハ讓受ノ期限
四　其ノ他必要ト認ムル事項

第八條　朝鮮總督令第四條第一項ノ規定ニ依リ會社ノ合併ヲ命ズルトキハ左ノ事項ヲ記載シタル命令書ヲ當該事業主ニ送達スベシ

一　合併ノ當事者ノ名稱及住所
二　合併方法
三　合併ノ期限
四　其ノ他必要ト認ムル事項

第九條　令第四條第一項ニ依リ事業ノ讓渡若ハ讓受又ハ會社ノ合併ヲ命セラレタル者其ノ條件ニ付協議調ヒタルトキハ當事者連署ノ上認可申請書ニ副本一通及當該契約書ノ謄本二通ヲ添ヘ朝鮮總督ニ之ヲ提出スベシ

第十條　令第四條第二項ノ規定ニ依リ裁定ヲ受ケントスル者ハ申請書ニ相手方ノ員數ニ一ヲ加ヘタル數ノ副本ヲ添ヘ朝鮮總督ニ之ヲ提出スベシ

朝鮮總督前項ノ申請書ヲ受理シタルトキハ副本ヲ申請書ノ相手方ニ送付シ其ノ指定スル期間内ニ答辯書ヲ差出サシムベシ

前項ノ期間内ニ答辯書ヲ差出サザルトキハ朝鮮總督ハ申請書ノミニ依リテ裁定ヲ爲スコトヲ得

朝鮮總督裁定ヲ爲シタルトキハ裁定書ニ理由ヲ附シ之ヲ當事者ニ送付スベシ

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

重要産業團體令

昭和十六年八月三十日
勅令第八百三十一號

改正　昭和一七年四月第四二三號

朕重要産業團體令ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

重要産業團體令

第一章　總則

第一條　國家總動員法（昭和十三年勅令第三百十七號ニ於テ依ル場合ヲ含ム以下同ジ）第十八條ノ規定ニ基ク重要産業ニ於ケル事業ノ統制ヲ目的トスル團體ニ付テハ別ニ定ムルモノヲ除クノ外本令ノ定ムル所ニ依ル

第二條　本令ヲ適用スベキ重要産業ハ閣令ヲ以テ之ヲ定ム

第三條　本令ニ依ル團體ハ統制會及統制組合トス

統制會又ハ統制組合ハ其ノ名稱中ニ統制會又ハ統制組合ナル文字ヲ用フベシ但シ主務大臣ノ認可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第二章　統制會

第四條　統制會ハ國民經濟ノ總力ヲ最モ有效ニ發揮セシムル爲當該産業ノ綜合的統制運營ヲ圖リ且當該産業ニ關スル國策ノ立案及遂行ニ協力スルコトヲ目的トス

第五條　統制會ハ産業ノ種類別ニ之ヲ設立ス

第六條　統制會ハ其ノ目的ヲ達スル爲左ニ揭ゲル事業ヲ行フ

一　當該産業ニ於ケル生産及配給竝ニ當該産業ニ要スル資材、資金、勞務等ノ需給ニ關スル政府ノ計畫其ノ他當該産業ニ關スル政府ノ計畫ニ對スル參畫

二　當該産業ニ於ケル生産及配給ニ關スル統制指導其ノ他會員及會員タル團體ヲ組織スル者ノ當該産業ニ屬スル事業ニ關スル統制指導

三　當該産業ノ整備確立

四　技術ノ向上、能率ノ增進、規格ノ統一、經理ノ改善其ノ他會員及會員タル團體ヲ組織スル者ノ當該産業ニ屬スル事業ノ發達ニ關スル施設

五　當該産業ニ關スル調査及研究

六　會員及會員タル團體ヲ組織スル者ノ當該産業ニ屬スル事業ニ關スル檢査

七　前各號ニ揭ゲルモノノ外統制會ノ目的ヲ達スルニ必要ナル事業

第七條　統制會ノ會員タル資格ヲ有スル者ハ左ニ揭ゲル者ニシテ主務大臣ノ指定スルモノトス

一　當該産業ヲ營ム者

二　當該産業ヲ營ム者ヲ以テ組織スル團體

三　第一號ニ揭ゲル者及前號ニ揭ゲル團體ヲ以テ組織スル團體又ハ前號ニ揭ゲル團體ヲ以テ組織スル團體

第八條　主務大臣統制會ヲ設立セシメントスルトキハ閣令ノ定ムル所ニ依リ前條ノ規定ニ依リ會員タル資格ヲ有スル者ニ對シ統制會ノ設立ヲ命ズベシ

前項ノ規定ニ依ル統制會ノ設立ノ命令アリタルトキハ閣令ノ定ムル所ニ依リ創立總會ヲ開キ之ニ諮リテ定款其ノ他統制會ノ設立ニ必要ナル事項ヲ定メ主務大臣ノ認可ヲ受クベシ

第九條　統制會ノ定款ニハ左ニ揭ゲル事項ヲ記載スベシ

一　目的

二　名稱

三　事務所ノ所在地

四　會員ニ關スル規定

五　事業及其ノ執行ニ關スル規定

六　役員ニ關スル規定

七　會議ニ關スル規定

八　會計ニ關スル規定

第十條　統制會ハ第八條第二項ノ認可アリタル時又ハ國家總動員法第十八條第三項ノ規定ニ依リ定款ノ作成アリタル時成立ス

前項ノ場合ニ依テハ主務大臣ハ統制會成立ノ旨及定款ヲ告示スベシ

第十一條　統制會成立シタルトキハ其ノ會員タル資格ヲ有スル者ハ總テ其ノ統制會ノ會員トス

第十二條　統制會ニハ左ノ役員ヲ置クベシ

會長　一人
理事　若干人
監事　若干人
評議員　若干人

統制會ニハ前項ノ役員ノ外定款ノ定ムル所ニ依リ副會長二人以內又ハ理事長一人ヲ置クコトヲ得

第十三條　會長ハ統制會ヲ代表シ當該産業ノ統制指導其ノ他ノ會務ヲ總理ス

副會長ハ會長ヲ輔佐シ豫メ會長ノ定ムル順位ニ依リ會長事故アルトキハ其ノ職務ヲ代理シ會長缺員ノトキハ其ノ職務ヲ行フ

理事長ハ會長及副會長ヲ輔佐シ會務ヲ掌理シ會長及副會長共ニ事故アルトキハ會長ノ職務ヲ代理シ會長及副會長共ニ缺員ノトキハ會長ノ職務ヲ行フ

理事ハ會長、副會長及理事長ヲ輔佐シ會務ヲ分掌シ豫メ會長ノ定ムル順位ニ依リ會長、副會長及理事長共ニ事故アルトキハ會長ノ職務ヲ代理シ會長、副會長及理事長共ニ缺員ノトキハ會長ノ職務ヲ行フ

監事ハ統制會ノ財產ノ狀況ヲ監査ス

評議員ハ會長ノ諮問ニ對シ答申シ又ハ會長ニ對シ意見ヲ具申ス

第十四條　會長ハ銓衡委員ノ推薦シタル者ノ中ヨリ主務大臣之ヲ命ズ

前項ノ銓衡委員ハ當該産業ニ關シ經驗アル者及學識アル者ノ中ヨリ主務大臣之ヲ命ズ

副會長、理事長、理事及評議員ハ當該産業ニ關シ經驗アル者及學識アル者ノ中ヨリ會長之ヲ命ズ

監事ハ閣令ノ定ムル所ニ依リ評議員之ヲ選任ス

第三項ノ規定ニ依ル副會長、理事長及理事ノ任命ハ主務大臣ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ

主務大臣第一項ノ規定ニ依ル任命又ハ前項ノ認可ヲ爲シタルトキハ其ノ旨ヲ告示スベシ

第十五條　統制會ノ役員ノ任期ハ左ノ通トス

會長　三年
副會長　三年
理事長　三年
理事　三年
監事　二年

評議員　二年

會長必要アリト認ムルトキハ任期中ト雖モ副會長、理事長又ハ理事ヲ解任スルコトヲ得

前項ノ解任ハ主務大臣ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ

主務大臣前項ノ認可ヲ爲シタルトキハ其ノ旨ヲ告示スベシ

第十六條　會長、副會長、理事長及理事ハ他ノ職務又ハ商業ニ從事スルコトヲ得ズ但シ主務大臣ノ認可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第十七條　統制會ハ當該產業ニ關スル事項ニ付關係各大臣ニ建議スルコトヲ得

統制會ハ關係各大臣ノ諮問ニ對シ答申スベシ

第十八條　統制會ハ其ノ會員及會員タル團體ヲ組織スル者ニ對シ當該產業ニ關スル事項ノ調查ヲ爲ス爲必要ナル資料ノ提出ヲ求ムルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ資料ノ提出ヲ求メラレタル者ハ遲滯ナク之ヲ提出スベシ

第十九條　統制會ハ定款ノ定ムル所ニ依リ其ノ會員ニ對シ經費ヲ賦課スルコトヲ得

第二十條　統制會ハ其ノ事業ヲ行フ爲特ニ必要アルトキハ閣令ノ定ムル所ニ依リ主務大臣ノ認可ヲ受ケ其ノ會員ノ全部又ハ一部ニ對シ前條ノ規定ニ依ル賦課金ノ外特別ノ賦課金ヲ課スルコトヲ得

第二十一條　統制會ハ定款ノ定ムル所ニ依リ定款又ハ統制規程ニ違反シタル會員ニ對シ過怠金ヲ課スルコトヲ得

第二十二條　第十九條若ハ第二十條ノ規定ニ依ル賦課金又ハ過怠金ヲ滯納スル者アル場合ニ於テ統制會ノ請求アルトキハ市町村ハ市町村稅ノ例ニ依リ之ヲ處分ス此ノ場合ニ於テ統制會ハ其ノ徵收金額ノ百分ノ四ヲ市町村ニ交付スベシ

前項中町村トアルハ町村制ヲ施行セザル地ニ在リテハ之ニ準ズベキモノトス

第一項ノ規定ニ依ル徵收金ノ先取特權ノ順位ハ市町村其ノ他之ニ準ズベキモノノ徵收金ニ次ギ其ノ時效ニ付テハ市町村稅ノ例ニ依ル

第二十三條　統制會ハ其ノ會員又ハ會員タル團體ヲ組織スル者ノ當該產業ニ屬スル事業ニ關スル統制規程ヲ設定スベシ

第二十四條　定款ノ變更竝ニ統制規程ノ設定及變更ハ主務大臣ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ

主務大臣前項ノ認可ヲ爲シタルトキハ其ノ旨ヲ告示スベシ

第二十五條　統制會ノ會員及會員タル團體ヲ組織スル者ハ當該統制會ノ統制規程ニ依ルベシ

第二十六條　統制會必要アリト認ムルトキハ統制會ノ役員又ハ使用人ヲシテ會員及會員タル團體ヲ組織スル者ノ業務若ハ財產ノ狀況又ハ帳簿書類、設備其ノ他ノ物件ヲ檢查セシムルコトヲ得

統制會ノ會員及會員タル團體ヲ組織スル者ハ前項ノ規定ニ依ル檢查ヲ拒ミ、妨ゲ又ハ忌避スルコトヲ得ズ

統制會第一項ノ規定ニ依リ役員又ハ使用人ヲシテ檢查セシムル場合ニ於テハ其ノ身分ヲ示ス證票ヲ携帶セシムベシ

第二十七條　會長當該統制會ノ會員タル法人又ハ會員タル團體ヲ組織スル法人ノ理事、取締役其ノ他法人ノ業務ヲ執行スル役員ノ行爲ガ左ノ各號ノ一ニ該當シ當該產業ノ統制運營上特ニ支障アリト認ムルトキハ主務大臣ノ認可ヲ受ケ當該法人ニ對シ其ノ役員ノ解任ヲ命ズルコトヲ得但シ當

統制會ノ會員タル統制組合ノ理事長ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

一　法令又ハ法令ニ基キテ爲ス行政官廳ノ處分ニ違反シタルトキ

二　公益ヲ害シタルトキ

三　統制規程ニ違反シタルトキ

第二十八條　通常總會ハ每年一回會長之ヲ招集ス

會長必要アリト認ムルトキハ何時ニテモ臨時總會ヲ招集スルコトヲ得

第二十九條　左ニ揭グル事項ハ總會ニ諮リ會長之ヲ決ス

一　定款ノ變更

二　收支豫算

三　第十九條又ハ第二十條ノ規定ニ依ル賦課金ノ賦課徵收方法

第三十條　會長ハ每年總會ニ統制會ノ事業ノ狀況ヲ報告シ監事ヲシテ財產ノ狀況ヲ報告セシムベシ

第三十一條　行政官廳必要アリト認ムルトキハ國家總動員法第三十一條ノ規定ニ依リ統制會又ハ其ノ會員若ハ會員タル團體ヲ組織スル者ヨリ其ノ事業ニ關シ報告ヲ徵シ又ハ當該官吏ヲシテ其ノ事務所、營業所、工場、事業場其ノ他ノ場所ニ臨檢シ業務ノ狀況若ハ帳簿書類、設備其ノ他ノ物件ヲ檢查セシムルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ當該官吏ヲシテ臨檢檢查セシムル場合ニ於テハ其ノ身分ヲ示ス證票ヲ携帶セシムベシ

第三十二條　關係各大臣ハ統制會ニ對シ當該產業ニ關スル事項ノ調查ヲ命ズルコトヲ得

第三十三條　主務大臣當該產業ノ統制運營上必要アリト認ムルトキハ統制會ニ對シ必要ナル事業ノ施行ヲ命ジ又ハ定款ノ變更其ノ他必要ナル事項ヲ命ズルコトヲ得

第三十四條　主務大臣ハ統制會ニ對シ業務及會計ニ關シ監督上必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

主務大臣必要アリト認ムルトキハ監事ヲシテ監查ノ結果ヲ報告セシムルコトヲ得

第三十五條　主務大臣ハ會長ノ行爲ガ法令又ハ法令ニ基キテ爲ス處分ニ違反シタルトキ、公益ヲ害シタルトキ其ノ他當該產業ノ統制運營上會長ヲ不適當ナリト認ムルトキハ之ヲ解任スルコトヲ得

主務大臣ハ副會長、理事長、理事、監事又ハ評議員ノ行爲ガ法令若ハ法令ニ基キテ爲ス處分ニ違反シタルトキ又ハ公益ヲ害シタルトキハ之ヲ解任スルコトヲ得

主務大臣前二項ノ規定ニ依リ會長、副會長、理事長又ハ理事ヲ解任シタルトキハ其ノ旨ヲ告示スベシ

第三十六條　統制會ハ主務大臣ノ命令ニ因リテ解散ス

主務大臣前項ノ命令ヲ爲シタルトキハ其ノ旨ヲ告示スベシ

第三章　統制組合

第三十七條　統制組合ハ國民經濟ノ總力ヲ最モ有效ニ發揮セシムル爲當該產業ノ統制運營ヲ圖リ且當該產業ニ關スル國策ノ遂行ニ協力スルコトヲ目的トス

第三十八條　統制組合ハ一定地區ニ於テ產業ノ種類別ニ之ヲ設立ス

前項ノ地區ハ特別ノ場合ヲ除クノ外道府縣又ハ二以上ノ道府縣ノ區域ニ依ル

第三十九條　統制組合ハ其ノ目的ヲ達スル爲左ニ揭グル事業ヲ行フ

一　當該地區內ノ當該産業ニ於ケル生産及配給ニ關スル統制指導其ノ他組合員ノ當該産業ニ屬スル事業ニ關スル統制指導
二　當該地區內ニ於ケル當該産業ノ整備確立
三　技術ノ向上、能率ノ增進、經理ノ改善其ノ他組合員ノ當該産業ニ屬スル事業ノ發達ニ關スル施設
四　當該地區內ニ於ケル當該産業ニ關スル調査及研究
五　組合員ノ當該産業ニ屬スル事業ニ關スル檢査
六　前各號ニ揭グルモノノ外統制組合ノ目的ヲ達スルニ必要ナル事業

第四十條　統制組合ノ組合員タル資格ヲ有スル者ハ左ニ揭グル者ニシテ主務大臣ノ指定スルモノトス

一　當該地區內ニ於テ當該産業ヲ營ム者
二　當該地區內ニ於テ當該産業ヲ營ム者ヲ以テ組織スル團體
三　第一號ニ揭グル者及前號ニ揭グル團體ヲ以テ組織スル團體又ハ前號ニ揭グル團體ヲ以テ組織スル團體

第四十一條　主務大臣統制組合ヲ設立セシメントスルトキハ閣令ノ定ムル所ニ依リ地區ヲ定メ前條ノ規定ニ依リ組合員タル資格ヲ有スル者ニ對シ統制組合ノ設立ヲ命ズベシ

第四十二條　統制組合ノ定款ニハ左ニ揭グル事項ヲ記載スベシ

一　目的
二　名稱
三　地區
四　事務所ノ所在地
五　組合員ニ關スル規定
六　事業及其ノ執行ニ關スル規定
七　役員ニ關スル規定
八　會議ニ關スル規定
九　會計ニ關スル規定

第四十三條　統制組合ニハ左ノ役員ヲ置クベシ

理事長　一人
理事　若干人
監事　若干人
評議員　若干人

統制組合ニハ前項ノ役員ノ外定款ノ定ムル所ニ依リ副理事長二人以內ヲ置クコトヲ得

第四十四條　理事長ハ統制組合ヲ代表シ當該産業ノ統制指導其ノ他ノ組合事務ヲ總理ス

理事長ハ當該産業ニ關シ經驗アル者及學識アル者ノ中ヨリ當該統制組合ノ所屬スル統制會ノ會長之ヲ命ズ當該統制組合ニ所屬スル統制會ナキトキハ當該産業ニ關シ經驗アル者及學識アル者ノ中ヨリ主務大臣之ヲ命ズ前項前段ノ規定ニ依ル理事長ノ任命ハ主務大臣ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ

第四十五條　第十三條第二項第四項乃至第六項及第十四條第三項乃至第五項ノ規定ハ統制組合ノ副理事長、理事、監事及評議員ニ之ヲ準用ス

第四十六條　統制組合ノ役員ノ任期ハ左ノ通トス

理事長　三年
副理事長　三年
理事　三年
監事　二年
評議員　二年

理事長必要アリト認ムルトキハ任期中ト雖モ副理事長又ハ理事ヲ解任スルコトヲ得

前項ノ解任ハ主務大臣ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ

第四十七條　統制會ノ會長ハ當該統制會ノ會員タル統制組合ノ理事長ノ行爲ガ法令又ハ法令ニ基キテ爲ス行政官廳ノ處分ニ違反シタルトキ、公益ヲ害シタルトキ其ノ他當該産業ノ統制運營上理事長ヲ不適當ナリト認ムルトキハ之ヲ解任スルコトヲ得

前項ノ解任ハ主務大臣ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ

第四十八條　統制組合ハ定款ノ定ムル所ニ依リ總會ニ代ルベキ總代會ヲ設クルコトヲ得

第二十八條乃至第三十條ノ規定ハ前項ノ總代會ニ之ヲ準用ス

第四十九條　統制組合ハ閣令ノ定ムル所ニ依リ登記ヲ爲スコトヲ要ス

前項ノ規定ニ依リ登記スベキ事項ハ登記ノ後ニ非ザレバ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ズ

第五十條　第八條第二項、第十條、第十一條、第十七條乃至第二十六條、第二十八條乃至第三十四條、第三十五條第一項第二項及第三十六條第一項ノ規定ハ統制組合ニ之ヲ準用ス但シ主務大臣又ハ關係各大臣トアルハ第八條第二項第十條第二項及第三十六條第一項ニ規定スル場合ヲ除クノ外行政官廳トス

第四章　雜則

第五十一條　第十七條第二項、第三十一條第一項及第三十二條（各前條ニ於テ準用スル場合ヲ含ム）並ニ第三十三條（前條ニ於テ準用スル場合ヲ含ム）中市町村トアルハ朝鮮ニ在リテハ府邑面、臺灣ニ在リテハ市街庄、南洋群島ニ在リテハ南洋群島地方廳トシ市町村稅トアルハ朝鮮ニ

含ム以下本條及第五十二條ニ於テ同シ）中關係各大臣、行政官廳又ハ主務大臣トアルハ當該諸閒、報告、臨檢檢査又ハ命令ガ軍事上ノ必要ニ基ク場合ニ於テハ陸軍大臣又ハ海軍大臣トス

陸軍大臣又ハ海軍大臣第三十三條ノ規定ニ依リ命令ヲ爲サントスルトキハ當該統制會又ハ當該統制組合ノ所管大臣ニ協議スベシ

第五十二條　當該統制會又ハ當該統制組合ノ所管大臣第三十三條ノ規定ニ依リ命令ヲ爲サントスル場合ニ於テ當該命令ガ軍事上ニ影響ヲ及ボスベキモノナルトキハ陸軍大臣又ハ海軍大臣ニ協議スベシ

第五十二條ノ二　第五十一條第一項、前條第五十三條第一項第二項、第五十四條及第五十五條ノ場合ヲ除クノ外本令中主務大臣又ハ所管大臣トアルハ地方鐵道事業及軌道事業ノ統制會ニ關シテハ鐵道大臣トス但シ第二十四條、第二十七條、第三十三條、第三十四條第一項（會計ニ關スル場合ヲ除ク）及第五十一條第二項中主務大臣又ハ所管大臣トアルハ軌道事業ニ關スル事項ニ付テハ鐵道大臣及內務大臣トス

第五十三條　第五十一條第一項ノ場合ヲ除クノ外本令中主務大臣、關係各大臣又ハ當該統制會又ハ當該統制組合ノ所管大臣トアルハ朝鮮、臺灣、樺太又ハ南洋群島（以下外地ト稱ス）ニ在リテハ各朝鮮總督、臺灣總督、樺太廳長官又ハ南洋廳長官トス

第七條各號ノ一ニ該當スル者ニシテ內地ニ在ルモノト同條各號ノ一ニ該當スル者ニシテ外地ニ在ルモノトヲ以テ組織スル統制會ニ關スル場合ニ在リテハ本令中主務大臣、關係各大臣又ハ當該統制會又ハ當該統制組合ノ所管大臣トアルハ外地ノミニ關スル事項ニ關スル場合ニ限リ前項ノ規定ニ拘ラズ各朝鮮總督、臺灣總督、樺太廳長官又ハ南洋廳長官トス

第二十二條中市町村トアルハ朝鮮ニ在リテハ府邑面、臺灣ニ在リテハ市街庄、南洋群島ニ在リテハ南洋群島地方廳トシ市町村稅トアルハ朝鮮ニ

在リテハ國稅、臺灣ニ在リテハ市街庄稅、南洋群島ニ在リテハ地方費稅トシ百分ノ四トアルハ朝鮮ニ在リテハ百分ノ五トス

第三十八條中道府縣トアルハ朝鮮ニ在リテハ道、臺灣ニ在リテハ州又ハ廳、樺太及南洋群島ニ在リテハ支廳管轄區域トス

第二項ノ統制會ニ關スル場合ヲ除クノ外本令中閣令トアルハ朝鮮又ハ臺灣ニ在リテハ總督府令、樺太又ハ南洋群島ニ在リテハ廳令トス

第五十四條　主務大臣前條第二項ノ統制會ニ關シ左ニ揭グル處分ヲ爲サントスルトキハ朝鮮總督、臺灣總督、樺太廳長官又ハ南洋廳長官ニ協議スベシ

一　第七條ノ規定ニ依ル指定又ハ第十四條第一項若ハ第二項ノ規定ニ依ル任命但シ第七條ノ規定ニ依ル指定ハ同條各號ノ一ニ該當スル者ニシテ外地ニ在ルモノヲ指定スル場合ニ限ル

二　第八條第一項、第三十三條又ハ第三十六條第一項ノ規定ニ依ル命令但シ第三十三條ノ規定ニ依ル命令ハ會員又ハ會員タル團體ヲ組織スル者ガ外地ニ於テ行フ事業ニ關スルモノナル場合ニ限ル

三　第八條第二項、第十四條第五項、第十五條第三項、第十六條、第二十條、第二十四條第一項又ハ第二十七條ノ規定ニ依ル認可但シ第二十條ノ規定ニ依ル認可ハ當該統制會ノ會員ニシテ外地ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スルモノニ對シ賦課金ヲ課スル場合、第二十七條ノ規定ニ依ル認可ハ當該統制會ノ會員タル法人又ハ會員タル團體ヲ組織スル法人ニシテ外地ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スルモノノ役員ノ解任ヲ命ズル場合ニ限ル

四　第三十五條第一項又ハ第二項ノ規定ニ依ル解任

第五十五條　朝鮮總督、臺灣總督、樺太廳長官又ハ南洋廳長官左ニ揭グル處分ヲ爲サントスルトキハ主務大臣ニ協議スベシ

一　第五十三條第二項ノ統制會ニ對スル第三十三條ノ規定ニ依ル命令

二　第五十三條第二項ノ統制會アル場合ニ於テ第四十一條ノ規定ニ依リテ爲ス當該産業ニ關スル統制組合ノ設立ノ命令

三　第五十三條第二項ノ統制會ノ會員タル統制組合ニ對スル第五十條ニ於テ準用スル第三十六條第一項ノ規定ニ依ル命令

第五十六條　本令ニ規定スルモノヲ除クノ外統制會及統制組合ニ關シ必要ナル事項ハ閣令ヲ以テ之ヲ定ム

附　則

本令ハ昭和十六年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

●重要産業團體令施行規則

昭和十六年九月一日
閣令第十九號

重要産業團體令施行規則左ノ通定ム

重要産業團體令施行規則

第一章　統制會

第一條　主務大臣重要産業團體令(以下令ト稱ス)第八條第一項ノ規定ニ依リ統制會ノ設立ヲ命ズル場合ニ於テハ左ニ揭グル事項ヲ指定シ之ヲ告示ス

一　産業ノ種類

二　設立ノ認可ヲ申請スベキ期限

前項ノ場合ニ於テ主務大臣ハ會員タル資格ヲ有スル者ノ中ヨリ設立委員ヲ命ジ其ノ氏名又ハ名稱及住所ヲ告示ス

前項ノ告示アリタルトキハ設立委員ハ遲滯ナク創立總會ヲ招集スベシ

第二條　創立總會ヲ招集スルニハ會員タル資格ヲ有スル者ニ對シ少クトモ二週間前ニ會議ノ目的タル事項、日時及場所ヲ示シ招集ノ通知ヲ發スベシ

第三條　左ニ揭グル事項ハ創立總會ニ諮リ設立委員之ヲ定ム

一　定款

二　統制會ノ負擔ニ歸スベキ創立費及其ノ償却方法

三　初年度ノ收支豫算及初年度ニ於ケル令第十九條ノ規定ニ依ル賦課金ノ賦課徵收方法

第四條　創立總會終結シタルトキハ設立委員ハ遲滯ナク統制會ノ設立認可ヲ申請スベシ

設立認可申請書ニハ定款、創立總會ノ議事錄ノ謄本並ニ前條第二號及第三號ニ揭グル事項ヲ記載シタル書面ヲ添附スベシ

第五條　監事ノ選任ハ評議員ノ過半數ヲ以テ之ヲ爲ス

第六條　評議員ノ任命又ハ監事ノ選任アリタルトキハ統制會ハ遲滯ナク其ノ氏名及住所ヲ主務大臣ニ屆出ヅベシ

會長、副會長、理事長、理事、監事又ハ評議員辭任又ハ死亡シタルトキハ統制會ハ遲滯ナク其ノ旨ヲ主務大臣ニ屆出ヅベシ其ノ者ノ任期滿了シタルトキ亦同ジ

會長、副會長、理事長又ハ理事ニ付前項ノ屆出アリタルトキハ主務大臣ハ其ノ旨ヲ告示スベシ

第七條　統制會令第二十條ノ規定ニ依ル認可ヲ受ケントスルトキハ左ニ揭グル事項ヲ記載シタル申請書ヲ主務大臣ニ提出スベシ

一　特別ノ賦課金ヲ必要トスル事由

二　特別ノ賦課金ノ收支豫算及賦課徵收方法

前項ノ申請書ニハ前項第二號ノ收支豫算ノ明細書及總會ノ議事錄ノ謄本ヲ添附スベシ

第八條　總會ヲ招集スルニハ會員ニ對シ少クトモ二週間前ニ會議ノ目的タル事項、日時及場所ヲ示シ招集ノ通知ヲ發スベシ

第九條　每事業年度ノ收支豫算及令第十九條ノ規定ニ依ル賦課金ノ賦課徵收方法決定シタルトキハ統制會ハ遲滯ナク之ヲ主務大臣ニ屆出ヅベシ其ノ變更アリタルトキ亦同ジ

第十條　統制會ハ解散ノ後ト雖モ清算ノ目的ノ範圍內ニ於テハ仍存續スルモノト看做ス

第十一條　主務大臣統制會ノ解散ヲ命ジタル場合ニ於テハ其ノ旨ヲ當該統制會ノ主タル事務所ノ所在地ノ區裁判所ニ通知スベシ

前項ノ通知アリタルトキハ裁判所ハ職權ヲ以テ清算人ヲ選任ス

裁判所必要アリト認ムルトキハ職權ヲ以テ清算人ヲ解任スルコトヲ得

裁判所清算人ヲ選任又ハ解任シタルトキハ其ノ旨ヲ主務大臣ニ通知スベシ

前項ノ通知アリタルトキハ主務大臣ハ其ノ旨ヲ告示スベシ

第十二條　清算人ハ統制會ヲ代表シ清算ヲ爲スニ必要ナル一切ノ行爲ヲ爲ス權限ヲ有ス

第十三條　清算人ハ清算及財產處分ノ方法ヲ定メ裁判所ノ認可ヲ受クベシ

裁判所必要アリト認ムルトキハ清算人ニ對シ清算及財產處分ノ方法ノ變更其ノ他監督上必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第十四條　統制會ハ解散ノ後ト雖モ裁判所ノ認可ヲ受ケ其ノ債務ヲ完濟スルニ必要ナル金額ヲ賦課徵收スルコトヲ得

令第二十二條及第五十三條第三項ノ規定ハ前項ノ賦課徵收ニ關シ之ヲ準用ス

第十五條　主務大臣ハ裁判所ニ對シ清算ニ關シ意見ヲ述ブルコトヲ得

第十六條　統制會ノ清算結了シタルトキハ裁判所ハ其ノ旨ヲ主務大臣ニ通知スベシ前項ノ通知アリタルトキハ主務大臣ハ其ノ旨ヲ告示スベシ

第二章　統制組合

第十七條　主務大臣令第四十一條ノ規定ニ依リ統制組合ノ設立ヲ命ズル場合ニ於テハ左ニ揭グル事項ヲ指定シ之ヲ告示ス

一　產業ノ種類

二　地區

三　設立ノ認可ヲ申請スベキ期限

第十八條　第一條第二項第三項、第二條乃至第五條、第六條第一項第二項、第七條乃至第十條、第十一條第一項乃至第四項、第十二條乃至第十五條及第十六條第一項ノ規定ハ統制組合ニ之ヲ準用ス但シ主務大臣トアルハ第一條第二項及第十一條第一項ニ規定スル場合ヲ除クノ外行政官廳トシ總會トアルハ總會又ハ總代會トシ第八條中會員トアルハ組合員又ハ總代會ヲ構成スル者トス

第十九條　統制組合成立シタルトキハ各事務所ノ所在地ニ於テ左ニ揭グル事項ヲ登記スルコトヲ要ス

一　目的

二　名稱

三　地區

四　事務所

五　成立ノ年月日

六　理事長、副理事長及理事ノ氏名及住所

前項ニ揭グル事項ニ變更ヲ生ジタルトキハ變更ノ登記ヲ爲スコトヲ要ス

第二十條　統制組合成立ノ後新ニ事務所ヲ設ケタルトキハ其ノ事務所ノ所在地ニ於テハ前條第一項ニ揭グル事項ヲ登記スルコトヲ要ス但シ既ニ存スル事務所ノ所在地ノ登記所ノ管轄區域內ニ於テ新ニ事務所ヲ設ケタルトキハ其ノ事務所ヲ設ケタルコトヲ登記スルヲ以テ足ル

第二十一條　統制組合ガ事務所ヲ移轉シタルトキハ舊所在地ニ於テハ移轉ノ登記ヲ爲シ新所在地ニ於テハ第十九條第一項ニ揭グル事項ヲ登記スルコトヲ要ス但シ同一ノ登記所ノ管轄區域內ニ於テ事務所ヲ移轉シタルトキハ其ノ移轉ノ登記ヲ爲スヲ以テ足ル

第二十二條　統制組合ノ解散ノ命令アリタルトキハ各事務所ノ所在地ニ於テ解散ノ登記ヲ爲スコトヲ要ス

第二十三條　統制組合ノ清算人ノ選任アリタルトキハ各事務所ノ所在地ニ於テ清算人ノ氏名及住所ヲ登記スルコトヲ要ス

第十九條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二十四條　統制組合ノ清算結了シタルトキハ各事務所ノ所在地ニ於テ清算結了ノ登記ヲ爲スコトヲ要ス

第二十五條　統制組合ノ登記ニ付テハ其ノ事務所ノ所在地ノ區裁判所ヲ以テ管轄登記所トス

各登記所ニ統制團體登記簿ヲ備フ

第二十六條　第十九條乃至第二十二條ノ規定ニ依ル登記ハ當該行政官廳ノ囑託ニ因リテ之ヲ爲ス

第二十三條及第二十四條ノ規定ニ依ル登記ハ裁判所ノ囑託ニ因リテ之ヲ爲ス

第二十七條　登記シタル事項ハ裁判所遲滯ナク之ヲ公告スルコトヲ要ス

第二十八條　非訟事件手續法第百二十五條第一項（第百五十條、第百五十條ノ三及第百七十七條ノ規定ヲ準用スル部分ヲ除ク）ノ規定ハ統制組合ノ登記ニ之ヲ準用ス

第三章　雜則

第二十九條　令第二十六條第三項（令第五十條ニ於テ準用スル場合ヲ含ム）ノ證票ハ別記第一號樣式ニ、令第三十一條第二項（令第五十條ニ於テ準用スル場合ヲ含ム）ノ證票ハ別記第二號樣式ニ依ル

第三十條　令第五十條（令第三十一條第一項ノ規定ヲ準用スル場合ヲ除ク）及本令第十八條中行政官廳トアルハ鑛業若ハ砂鑛業ノ統制組合ニシテ地區ガ鑛山監督局ノ管轄區域ヲ超ユルモノニ關スル場合又ハ其ノ他ノ統制組合ニシテ地區ガ道府縣ノ區域ヲ超ユルモノニ關スル場合ニ在リテハ主務大臣トシ鑛業若ハ砂鑛業ノ統制組合ニシテ地區ガ鑛山監督局ノ管轄區域ヲ超エザルモノニ關スル場合又ハ其ノ他ノ統制組合ニシテ地區ガ道府縣ノ區域ヲ超エザルモノニ關スル場合ニ在リテハ各鑛山監督局長又ハ地方長官トス

第三十一條　民法第七十九條、第八十條及第八十二條第二項竝ニ非訟事件手續法第三十五條第二項、第三十六條及第三十七條ノ二ノ規定ハ統制會及統制組合ノ清算ニ之ヲ準用ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

別記

第一號樣式（用紙ノ大サハ日本標準規格A6ト シ中央點線ノ所ヨリ二ツ折ト爲ス）

（表面）

重要產業團體令第二十六條ノ規定ニ依ル證票

（裏面）

第　號　　昭和　年　月　日交付

氏名

當該統制會又ハ統制組合印

（裏面）

第　號　　昭和　年　月　日交付

官職氏名

當該官廳印

國家總動員法第三十一條　政府ハ國家總動員上必要アルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ報告ヲ徴シ又ハ當該官吏ヲシテ必要ナル場所ニ臨檢シ業務ノ狀況若ハ帳簿書類其ノ他ノ物件ヲ檢査セシムルコトヲ得

國家總動員法第四十二條　第三十一條ノ規定ニ依ル當該官吏ノ檢査ヲ拒ミ、妨ゲ又ハ忌避シタル者ハ六月以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

重要産業團體令第三十一條　行政官廳必要アリト認ムルトキハ國家總動員法第三十一條ノ規定ニ依リ統制會又ハ其ノ會員若ハ會員タル團體ヲ組織スル者ヨリ其ノ事業ニ關シ報告ヲ徴シ又ハ當該官吏ヲシテ其ノ事務所、營業所、工場、事業場其ノ他ノ場所ニ臨檢シ業務ノ狀況若ハ帳簿書類、設備其ノ他ノ物件ヲ檢査セシムルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ當該官吏ヲシテ臨檢檢査セシムル場合ニ於テ其ノ身分ヲ示ス證票ヲ携帶セシムベシ

重要産業團體令第五十條　第八條第二項、第十條、第十一條、第十七條乃至第二十六條、第二十八條乃至第三十四條、第三十五條第一項第二項及第三十六條第一項ノ規定ハ統制組合ニ之ヲ準用ス但シ主務大臣又ハ關係各大臣トアルハ第八條第二項、第十條第二項及第三十一條第一項ニ規定スル場合ヲ除クノ外行政官廳トス

重要産業團體令施行規則第二十九條　令第二十六條第三項（令第五十條ニ於テ準用スル場合ヲ含ム）ノ證票ハ別記第一號樣式ニ、令第三十一條第二項（令第五十條ニ於テ準用スル場合ヲ含ム）ノ證票ハ別記第二號樣式ニ依ル

別記

第二號樣式（用紙ノ大サハ日本標準規格A6ト）シ中央點線ノ所ヨリ二ツ折ト爲ス）

（表面）

重要産業團體令第三十一條ノ規定ニ依ル證票

●重要産業指定規則

昭和十七年八月四日
閣令第二十號

重要産業指定規則左ノ通改正ス

重要産業指定規則

重要産業團體令第二條ノ規定ニ依リ同令ヲ適用スベキ重要産業ヲ定ムルコト左ノ如シ

一　鉄鋼ノ生産及販賣竝ニ製鉄原料タル鉄鑛、マンガン鑛及鉄屑ノ販賣ニ關スル事業（朝鮮ニ於ケル當該事業ヲ含ム）

二　石炭ノ生産及販賣ニ關スル事業

三　原動機（發電用ノ蒸氣罐、蒸氣タービン及水車ヲ除ク）及生産用機器ノ製造及販賣ニ關スル事業

四　電氣機器、發電用ノ蒸氣罐、蒸氣タービン及水車竝ニ電氣通信機器ノ製造及販賣ニ關スル事業

五　精密機器ノ製造及販賣ニ關スル事業

六　車輛及鉄道信號保安裝置ノ製造及販賣ニ關スル事業

七　自動車ノ製造及販賣ニ關スル事業

八　セメントノ製造及販賣ニ關スル事業

九　鑛産物（石炭、亜炭、石油及土瀝青ヲ除ク）ノ生産及販賣ニ關スル事業（鉄鑛及ニッケル鑛ノ製錬及販賣、アルミニウム、アルミナ及マグネシウムノ製造及販賣竝ニ燐鑛、ボーキサイト及蠟土頁岩ノ販賣ニ關スル事業ヲ除ク）

十　非鉄金屬ノ加工及其ノ加工品ノ販賣ニ關スル事業

十一　貿易業竝ニ貿易ノ振興及統制ニ關スル事業
十二　造船事業（朝鮮及臺灣ニ於ケル當該事業ヲ含ム）
十三　地方鉄道事業及軌道事業
十四　アルミニウム、アルミナ、マグネシウム、人造氷晶石及弗化アルミニウムノ製造及販賣竝ニアルミニウム屑、マグネシウム屑、ボーキサイト及蠟土頁岩ノ販賣ニ關スル事業（朝鮮及臺灣ニ於ケル當該事業ヲ含ム）
十五　化學工業品（硫酸アンモニア、石灰窒素、過燐酸石灰、トーマス燐肥、化成肥料、硝酸、硝酸アンモニア、亜硝酸ソーダ、アンモニア、酸素、硫酸、ソーダ塩類、塩素、塩酸、晒粉、カーバイド、アセチレン系誘導品、酸酵ブチルアルコール、酸酵アセトン、メタノール及同誘導品、ガス輕油分溜物、コールタール分溜物、タール系中間物竝ニ合成染料）ノ製造及販賣ニ關スル事業（硫酸アンモニア、石灰窒素、過燐酸石灰、トーマス燐肥及化成肥料ノ販賣ニ關スル事業ヲ除ク）
十六　ゴムノ販賣竝ニゴム製品ノ製造及販賣ニ關スル事業
十七　皮革及皮革製品竝ニ鞣劑ノ製造及販賣ニ關スル事業
十八　油脂製品（硬化油、硬化蠟及脂肪酸ヲ含ム）及塗料ノ製造及販賣ニ關スル事業（朝鮮ニ於ケル當該事業ヲ含ム）
十九　綿ス・フ紡機ニ依ル綿糸、ステープルファイバー糸其ノ他ノ糸ノ製造竝ニ其ノ加工及販賣、綿ス・フ織機ニ依ル綿織物、ステープルファイバー織物其ノ他ノ織物ノ製造竝ニ其ノ加工及販賣、綿漁網ノ製造竝ニ棉花ノ販賣ニ關スル事業
二十　絹紡機ニ依ル絹紡糸其ノ他ノ糸ノ製造竝ニ其ノ加工及販賣、人絹パルプ、ステープルファイバー及人造絹糸ノ製造、加工及販賣、人絹絹織機ニ依ル人造絹織物、絹織物其ノ他ノ織物ノ製造竝ニ其ノ加工及販賣竝ニ副蚕糸ノ販賣ニ關スル事業
二十一　毛紡機ニ依ル毛糸其ノ他ノ糸ノ製造竝ニ其ノ加工及販賣、毛織機ニ依ル毛織物其ノ他ノ織物ノ製造竝ニ其ノ加工及販賣、フェルトノ製造、加工及販賣竝ニ羊毛ノ販賣ニ關スル事業
二十二　麻製品ノ製造及販賣（綿ス・フ紡機、絹紡機又ハ毛紡機ニ依ル糸ノ製造及綿ス・フ織機、人絹絹織機又ハ毛織機ニ依ル織物ノ製造竝ニ其ノ販賣ヲ除ク）竝ニ麻ノ販賣ニ關スル事業

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●金融統制團體令

昭和十七年四月十八日
勅令第四百四十號

腀金融統制團體令ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

金融統制團體令

第一章　總則

第一條　國家總動員法第十八條ノ規定ニ基ク金融事業（有價證券ニ關スル事業ヲ含ム以下同ジ）ノ統制ヲ目的トスル團體ニ付テハ本令ノ定ムル所ニ依ル

第二條　本令ニ依ル團體ハ全國金融統制會、業態別統制會、統制組合及地方金融協議會トス

全國金融統制會ハ全國金融統制會ナル名稱ヲ用フベシ

業態別統制會、統制組合又ハ地方金融協議會ハ其ノ名稱中ニ各統制會、統制組合又ハ金融協議會ナル文字ヲ用フベシ但シ主務大臣ノ認可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第二章　全國金融統制會

第三條　全國金融統制會ハ國民經濟ノ總力ヲ最モ有效ニ發揮セシムル爲金融事業ノ機能ノ綜合的發揮ヲ圖ルニ必要ナル指導統制ヲ行ヒ且金融ニ關スル國策ノ立案及遂行ニ協力スルコトヲ目的トス

第四條　全國金融統制會ハ其ノ目的ヲ達スル爲左ニ掲グル事業ヲ行フ

一　金融ニ關スル政府ノ計畫ニ對スル參畫
二　金融事業ヲ營ム者ノ行フ資金ノ吸收及運用ニ關スル指導統制
三　金融事業ノ整備ノ促進
四　金融事業ノ機能ノ增進
五　金融事業ト産業トノ關係ノ緊密化ノ促進
六　金融事業ニ關スル調査及研究
七　前各號ニ掲グルモノノ外全國金融統制會ノ目的ヲ達スルニ必要ナル事業

第五條　全國金融統制會ノ會員タル資格ヲ有スル者ハ左ニ掲グル者トス

一　日本銀行
二　業態別統制會

三　前二號ニ掲グル者ノ外金融事業ヲ營ム者ニシテ主務大臣ノ指定スルモノ

第六條　主務大臣全國金融統制會ヲ設立セシメントスルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ前條ノ規定ニ依リ會員タル資格ヲ有スル者ニ對シ全國金融統制會ノ設立ヲ命ズベシ

前項ノ規定ニ依ル全國金融統制會ノ設立ノ命令アリタルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ創立總會ヲ開キ之ニ諮リテ定款其ノ他全國金融統制會ノ設立ニ必要ナル事項ヲ定メ主務大臣ノ認可ヲ受クベシ

第七條　全國金融統制會ノ定款ニハ左ニ掲グル事項ヲ記載スベシ

一　目的
二　名稱
三　事務所ノ所在地
四　會員ニ關スル規定
五　事業及其ノ執行ニ關スル規定
六　役員ニ關スル規定
七　會議ニ關スル規定
八　經理ニ關スル規定

第八條　全國金融統制會ハ第六條第二項ノ認可アリタル時又ハ國家總動員法第十八條第三項ノ規定ニ依リ定款ノ作成アリタル時成立ス

前項ノ場合ニ於テハ主務大臣ハ全國金融統制會成立ノ旨及定款ヲ告示スベシ

第九條　全國金融統制會成立シタルトキハ其ノ會員タル資格ヲ有スル者ハ總テ全國金融統制會ノ會員トス

第十條　全國金融統制會ニハ會長一人竝ニ理事、監事及評議員各若干人ヲ置クベシ

全國金融統制會ニハ前項ノ役員ノ外定款ノ定ムル所ニ依リ副會長二人以内又ハ理事長一人ヲ置クコトヲ得

第十一條　會長ハ全國金融統制會ヲ代表シ金融事業ノ指導統制其ノ他ノ會務ヲ總理ス

副會長ハ會長ヲ輔佐シ豫メ會長ノ定ムル順位ニ依リ會長事故アルトキハ其ノ職務ヲ代理シ會長缺員ノトキハ其ノ職務ヲ行フ

理事ハ會長及副會長ヲ輔佐シ會務ヲ掌理シ會長及副會長共ニ事故アルトキハ會長ノ職務ヲ代理シ會長缺員ノトキハ會長ノ職務ヲ行フ

監事ハ全國金融統制會ノ經理ノ狀況ヲ監査ス

評議員ハ會長ノ諮問ニ對シ答申シ又ハ會長ニ對シ意見ヲ具申ス

第十二條　會長ハ日本銀行總裁ヲ以テ之ニ充ツ

副會長、理事長、理事及監事ハ金融事業ニ關シ經驗アル者及學識アル者ノ中ヨリ主務大臣之ヲ命ズ

評議員ハ金融事業又ハ產業ニ關シ經驗アル者及學識アル者ノ中ヨリ主務大臣之ヲ命ズ

主務大臣第二項ノ規定ニ依リ副會長、理事長又ハ理事ヲ任命シタルトキハ其ノ旨ヲ告示スベシ

第十三條　副會長、理事長及理事ノ任期ハ三年、監事及評議員ノ任期ハ二年トス

第十四條　副會長、理事長及理事ハ主務大臣ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ他ノ職務又ハ商業ニ從事スルコトヲ得ズ但シ日本銀行ノ職員タルコトヲ妨ゲズ

第十五條　全國金融統制會ハ金融事業ニ關スル事項ニ付主務大臣ニ建議スルコトヲ得

全國金融統制會ハ主務大臣ノ諮問ニ對シ答申スベシ

第十六條　全國金融統制會ハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ會員、業態別統制會ノ會員、業態別統制會ノ會員タル統制組合ノ組合員、第四條第二項ノ命令ヲ以テ定ムル統制組合又ハ地方金融協議會ニ對シ金融事業ニ關スル事項ノ調査ヲ爲ス爲必要ナル資料ノ提出ヲ求ムルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ資料ノ提出ヲ求メラレタル者ハ遲滯ナク之ヲ提出スベシ

第十七條　全國金融統制會ハ定款ノ定ムル所ニ依リ其ノ會員ニ對シ賦課金ヲ課スルコトヲ得

賦課金又ハ過怠金ヲ滯納スル者アル場合ニ於テ全國金融統制會ノ請求アルトキハ市町村ハ市町村稅ノ例ニ依リ之ヲ處分ス此ノ場合ニ於テ全國金融統制會ハ其ノ徵收金額ノ百分ノ四ヲ市町村ニ交付スベシ

前項中町村トアルハ町村制ヲ施行セザル地ニ在リテハ之ニ準ズベキモノトス

第十八條　全國金融統制會ハ定款ノ定ムル所ニ依リ定款又ハ統制規程ニ違反シタル會員ニ對シ過怠金ヲ課スルコトヲ得

第十九條　賦課金又ハ過怠金ヲ滯納スル者アル場合ニ於テ全國金融統制會ノ請求アルトキハ市町村ハ市町村稅ノ例ニ依リ之ヲ處分ス此ノ場合ニ於テ全國金融統制會ハ其ノ徵收金額ノ百分ノ四ヲ市町村ニ交付スベシ

前項中町村トアルハ町村制ヲ施行セザル地ニ在リテハ之ニ準ズベキモノトス

第一項ノ規定ニ依ル徵收金ノ先取特權ノ順位ハ市町村其ノ他之ニ準ズベキモノノ徵收金ニ次ギ其ノ時效ニ付テハ市町村稅ノ例ニ依ル

第二十條　全國金融統制會ハ其ノ會員ノ事業ニ關スル統制規程ヲ設定スベシ

第二十一條　定款ノ變更竝ニ統制規程ノ設定及變更ハ主務大臣ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ

主務大臣前項ノ認可ヲ爲シタルトキハ其ノ旨ヲ告示スベシ

第二十二條　全國金融統制會ノ會員ハ全國金融統制會ノ統制規程ニ依ルベシ

第二十三條　全國金融統制會ハ主務大臣ノ命令アリタルトキ又ハ其ノ事業ノ遂行上必要アリト認ムル場合ニ於テ主務大臣ノ認可ヲ受ケタルトキハ其ノ會員、業態別統制會ノ會員又ハ業態別統制會ノ會員タル統制組合ノ組合員ノ業務又ハ財產ノ狀況ヲ檢査スルコトヲ得

全國金融統制會ノ會員、業態別統制會ノ會員又ハ業態別統制會ノ會員タル統制組合ノ組合員ハ前項ノ規定ニ依ル檢査ヲ拒ミ、妨ゲ又ハ忌避スルコトヲ得ズ

全國金融統制會ハ第一項ノ規定ニ依リ檢査ヲ行フ役員又ハ使用人ヲシテ其ノ身分ヲ示ス證票ヲ携帶セシムベシ

第二十四條　全國金融統制會ハ主務大臣ノ命令アリタルトキ又ハ其ノ事業ノ遂行上必要アリト認ムル場合ニ於テ主務大臣ノ認可ヲ受ケタルトキハ業態別統制會ニ對シ其ノ會員若ハ其ノ會員タル統制組合ノ組合員ノ業務若ハ財產ノ狀況ヲ檢査シ又ハ其ノ會員タル統制組合ヲシテ當該統制組合ノ組合員ノ業務若ハ財產ノ狀況ヲ檢査セシメ其ノ結果ヲ報告スベキコトヲ命ズルコトヲ得

前條第二項及第三項ノ規定ハ業態別統制會又ハ統制組合ガ前項ノ規定ニ依リ檢査ヲ行フ場合ニ之ヲ準用ス

第二十五條　全國金融統制會ハ主務大臣ノ命令アリタルトキ又ハ第四條第二項ノ命令ヲ以テ定ムル統制組合ノ事業ヲ指導統制スル爲必要アリト認ムル場合ニ於テ主務大臣ノ認可ヲ受ケタルトキハ當該統制組合ニ對シ其ノ組合員ノ業務若ハ財產ノ狀況ヲ檢査シ又ハ當該統制組合ニ對シ其ノ組合員ノ業務若ハ財產ノ狀況ヲ報告スベキコトヲ命ズルコトヲ得

第二十六條　全國金融統制會ハ主務大臣ノ命令アリタルトキ又ハ地方金融協議會ノ事業ヲ指導統制スル爲必要アリト認ムル場合ニ於テ主務大臣ノ認可ヲ受ケタルトキハ地方金融協議會ノ業務又ハ財產ノ狀況ヲ檢査スルコトヲ得

第二十三條第二項及第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二十七條　通常總會ハ每年一回會長之ヲ招集ス

會長必要アリト認ムルトキハ何時ニテモ臨時總會ヲ招集スルコトヲ得

第二十八條　左ニ揭ゲル事項ハ總會ニ諮リ會長之ヲ決ス

一　定款ノ變更

二　收支豫算

三　賦課金ノ賦課徵收方法

第二十九條　會長ハ每年總會ニ全國金融統制會ノ事業ノ狀況ヲ報告シ監事ヲシテ經理ノ狀況ヲ報告セシムベシ

第十三章　軍事
第九章　國家總動員

第三十條　主務大臣必要アリト認ムルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ金融事業ニ關シ報告ヲ徵シ又ハ檢査ヲ爲スコトヲ得

第三十一條　主務大臣ハ國家總動員法第二十一條ノ規定ニ依リ金融統制會ヲシテ金融事業ニ關シ左ノ事項ヲ爲サシムルコトヲ得

一　金融事業ノ經營ニ關スル計畫ノ樹立ニ關スル事項
二　金融事業ノ經營ニ關スル調整ニ關スル事項
三　金融事業ノ經營ニ關スル改善ニ關スル事項
四　金融事業ノ經營ニ關スル統制ニ關スル事項
五　金融事業ノ經營ニ關スル調査及研究ニ關スル事項
六　前各號ニ揭ゲタルモノノ外金融事業ニ關スル統制會ノ目的ヲ達スルニ必要ナル事項

第三十二條　主務大臣ハ前條ノ規定ニ依リ金融統制會ヲシテ金融事業ニ關シ左ノ事項ヲ爲サシムルコトヲ得

一　金融事業ノ經營ニ關スル計畫ノ樹立ニ關スル事項
二　金融事業ノ經營ニ關スル調整ニ關スル事項
三　金融事業ノ經營ニ關スル改善ニ關スル事項
四　金融事業ノ經營ニ關スル統制ニ關スル事項
五　金融事業ノ經營ニ關スル調査及研究ニ關スル事項
六　前各號ニ揭ゲタルモノノ外金融事業ニ關スル統制會ノ目的ヲ達スルニ必要ナル事項

第三十三條　主務大臣ハ金融統制會ヲシテ金融事業ニ關シ報告ヲ徵シ又ハ檢査ヲ爲サシムルコトヲ得

第三十四條　主務大臣ハ金融統制會ヲシテ金融事業ニ關シ必要ナル命令ヲ爲サシムルコトヲ得

第三十五條　主務大臣ハ金融統制會ヲシテ金融事業ニ關シ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトヲ得

第三十六條　主務大臣ハ金融統制會ヲシテ金融事業ニ關シ必要ナル檢査ヲ爲サシムルコトヲ得

第三十七條　主務大臣ハ金融統制會ヲシテ金融事業ニ關シ必要ナル報告ヲ爲サシムルコトヲ得

第三十八條　主務大臣ハ金融統制會ヲシテ金融事業ニ關シ必要ナル命令ヲ爲サシムルコトヲ得

第三十九條　主務大臣ハ金融統制會ヲシテ金融事業ニ關シ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトヲ得

第四十條　主務大臣ハ金融統制會ヲシテ金融事業ニ關シ必要ナル檢査ヲ爲サシムルコトヲ得

第四十一條　主務大臣ハ金融統制會ヲシテ金融事業ニ關シ必要ナル報告ヲ爲サシムルコトヲ得

第四十二條　主務大臣ハ金融統制會ヲシテ金融事業ニ關シ必要ナル命令ヲ爲サシムルコトヲ得

第四十三條　主務大臣ハ金融統制會ヲシテ金融事業ニ關シ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトヲ得

第四十四條　主務大臣ハ金融統制會ヲシテ金融事業ニ關シ必要ナル檢査ヲ爲サシムルコトヲ得

第四十五條　主務大臣ハ金融統制會ヲシテ金融事業ニ關シ必要ナル報告ヲ爲サシムルコトヲ得

第四十六條　主務大臣ハ金融統制會ヲシテ金融事業ニ關シ必要ナル命令ヲ爲サシムルコトヲ得

第四十七條　主務大臣ハ金融統制會ヲシテ金融事業ニ關シ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトヲ得

第四十八條　主務大臣ハ金融統制會ヲシテ金融事業ニ關シ必要ナル檢査ヲ爲サシムルコトヲ得

第四十九條　主務大臣ハ金融統制會ヲシテ金融事業ニ關シ必要ナル報告ヲ爲サシムルコトヲ得

第五十條　主務大臣ハ金融統制會ヲシテ金融事業ニ關シ必要ナル命令ヲ爲サシムルコトヲ得

第五十一條　主務大臣ハ金融統制會ヲシテ金融事業ニ關シ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトヲ得

第五十二條　主務大臣ハ金融統制會ヲシテ金融事業ニ關シ必要ナル檢査ヲ爲サシムルコトヲ得

第五十三條　主務大臣ハ金融統制會ヲシテ金融事業ニ關シ必要ナル報告ヲ爲サシムルコトヲ得

第五十四條　主務大臣ハ金融統制會ヲシテ金融事業ニ關シ必要ナル命令ヲ爲サシムルコトヲ得

第五十五條　主務大臣ハ金融統制會ヲシテ金融事業ニ關シ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトヲ得

第五十六條　主務大臣ハ金融統制會ヲシテ金融事業ニ關シ必要ナル檢査ヲ爲サシムルコトヲ得

第五十七條　主務大臣ハ金融統制會ヲシテ金融事業ニ關シ必要ナル報告ヲ爲サシムルコトヲ得

第五十八條　主務大臣ハ金融統制會ヲシテ金融事業ニ關シ必要ナル命令ヲ爲サシムルコトヲ得

第五十九條　主務大臣ハ金融統制會ヲシテ金融事業ニ關シ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトヲ得

第六十條　主務大臣ハ金融統制會ヲシテ金融事業ニ關シ必要ナル檢査ヲ爲サシムルコトヲ得

第六十一條　主務大臣ハ金融統制會ヲシテ金融事業ニ關シ必要ナル報告ヲ爲サシムルコトヲ得

第六十二條　主務大臣ハ金融統制會ヲシテ金融事業ニ關シ必要ナル命令ヲ爲サシムルコトヲ得

第六十三條　主務大臣ハ金融統制會ヲシテ金融事業ニ關シ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトヲ得

第六十四條　主務大臣ハ金融統制會ヲシテ金融事業ニ關シ必要ナル檢査ヲ爲サシムルコトヲ得

第六十五條　主務大臣ハ金融統制會ヲシテ金融事業ニ關シ必要ナル報告ヲ爲サシムルコトヲ得

第六十六條　主務大臣ハ金融統制會ヲシテ金融事業ニ關シ必要ナル命令ヲ爲サシムルコトヲ得

第六十七條　主務大臣ハ金融統制會ヲシテ金融事業ニ關シ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトヲ得

第六十八條　主務大臣ハ金融統制會ヲシテ金融事業ニ關シ必要ナル檢査ヲ爲サシムルコトヲ得

第六十九條　主務大臣ハ金融統制會ヲシテ金融事業ニ關シ必要ナル報告ヲ爲サシムルコトヲ得

第七十條　主務大臣ハ金融統制會ヲシテ金融事業ニ關シ必要ナル命令ヲ爲サシムルコトヲ得

第七十一條　主務大臣ハ金融統制會ヲシテ金融事業ニ關シ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトヲ得

第七十二條　主務大臣ハ金融統制會ヲシテ金融事業ニ關シ必要ナル檢査ヲ爲サシムルコトヲ得

第七十三條　主務大臣ハ金融統制會ヲシテ金融事業ニ關シ必要ナル報告ヲ爲サシムルコトヲ得

第七十四條　主務大臣ハ金融統制會ヲシテ金融事業ニ關シ必要ナル命令ヲ爲サシムルコトヲ得

第七十五條　主務大臣ハ金融統制會ヲシテ金融事業ニ關シ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトヲ得

第七十六條　主務大臣ハ金融統制會ヲシテ金融事業ニ關シ必要ナル檢査ヲ爲サシムルコトヲ得

第七十七條　主務大臣ハ金融統制會ヲシテ金融事業ニ關シ必要ナル報告ヲ爲サシムルコトヲ得

第七十八條　主務大臣ハ金融統制會ヲシテ金融事業ニ關シ必要ナル命令ヲ爲サシムルコトヲ得

第七十九條　主務大臣ハ金融統制會ヲシテ金融事業ニ關シ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトヲ得

第八十條　主務大臣ハ金融統制會ヲシテ金融事業ニ關シ必要ナル檢査ヲ爲サシムルコトヲ得

第八十一條　主務大臣ハ金融統制會ヲシテ金融事業ニ關シ必要ナル報告ヲ爲サシムルコトヲ得

第八十二條　主務大臣ハ金融統制會ヲシテ金融事業ニ關シ必要ナル命令ヲ爲サシムルコトヲ得

第八十三條　主務大臣ハ金融統制會ヲシテ金融事業ニ關シ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトヲ得

第八十四條　主務大臣ハ金融統制會ヲシテ金融事業ニ關シ必要ナル檢査ヲ爲サシムルコトヲ得

第八十五條　主務大臣ハ金融統制會ヲシテ金融事業ニ關シ必要ナル報告ヲ爲サシムルコトヲ得

第八十六條　主務大臣ハ金融統制會ヲシテ金融事業ニ關シ必要ナル命令ヲ爲サシムルコトヲ得

第八十七條　主務大臣ハ金融統制會ヲシテ金融事業ニ關シ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトヲ得

第八十八條　主務大臣ハ金融統制會ヲシテ金融事業ニ關シ必要ナル檢査ヲ爲サシムルコトヲ得

第八十九條　主務大臣ハ金融統制會ヲシテ金融事業ニ關シ必要ナル報告ヲ爲サシムルコトヲ得

第九十條　主務大臣ハ金融統制會ヲシテ金融事業ニ關シ必要ナル命令ヲ爲サシムルコトヲ得

第九十一條　主務大臣ハ金融統制會ヲシテ金融事業ニ關シ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトヲ得

第九十二條　主務大臣ハ金融統制會ヲシテ金融事業ニ關シ必要ナル檢査ヲ爲サシムルコトヲ得

第九十三條　主務大臣ハ金融統制會ヲシテ金融事業ニ關シ必要ナル報告ヲ爲サシムルコトヲ得

第九十四條　主務大臣ハ金融統制會ヲシテ金融事業ニ關シ必要ナル命令ヲ爲サシムルコトヲ得

第九十五條　主務大臣ハ金融統制會ヲシテ金融事業ニ關シ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトヲ得

第九十六條　主務大臣ハ金融統制會ヲシテ金融事業ニ關シ必要ナル檢査ヲ爲サシムルコトヲ得

第九十七條　主務大臣ハ金融統制會ヲシテ金融事業ニ關シ必要ナル報告ヲ爲サシムルコトヲ得

第九十八條　主務大臣ハ金融統制會ヲシテ金融事業ニ關シ必要ナル命令ヲ爲サシムルコトヲ得

第九十九條　主務大臣ハ金融統制會ヲシテ金融事業ニ關シ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトヲ得

第百條　主務大臣ハ金融統制會ヲシテ金融事業ニ關シ必要ナル檢査ヲ爲サシムルコトヲ得

第百一條　主務大臣ハ金融統制會ヲシテ金融事業ニ關シ必要ナル報告ヲ爲サシムルコトヲ得

第百二條　主務大臣ハ金融統制會ヲシテ金融事業ニ關シ必要ナル命令ヲ爲サシムルコトヲ得

第百三條　主務大臣ハ金融統制會ヲシテ金融事業ニ關シ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトヲ得

第百四條　主務大臣ハ金融統制會ヲシテ金融事業ニ關シ必要ナル檢査ヲ爲サシムルコトヲ得

第百五條　主務大臣ハ金融統制會ヲシテ金融事業ニ關シ必要ナル報告ヲ爲サシムルコトヲ得

第百六條　主務大臣ハ金融統制會ヲシテ金融事業ニ關シ必要ナル命令ヲ爲サシムルコトヲ得

第百七條　主務大臣ハ金融統制會ヲシテ金融事業ニ關シ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトヲ得

第百八條　主務大臣ハ金融統制會ヲシテ金融事業ニ關シ必要ナル檢査ヲ爲サシムルコトヲ得

第百九條　主務大臣ハ金融統制會ヲシテ金融事業ニ關シ必要ナル報告ヲ爲サシムルコトヲ得

第百十條　主務大臣ハ金融統制會ヲシテ金融事業ニ關シ必要ナル命令ヲ爲サシムルコトヲ得

第百十一條　主務大臣ハ金融統制會ヲシテ金融事業ニ關シ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトヲ得

第百十二條　主務大臣ハ金融統制會ヲシテ金融事業ニ關シ必要ナル檢査ヲ爲サシムルコトヲ得

第百十三條　主務大臣ハ金融統制會ヲシテ金融事業ニ關シ必要ナル報告ヲ爲サシムルコトヲ得

第百十四條　主務大臣ハ金融統制會ヲシテ金融事業ニ關シ必要ナル命令ヲ爲サシムルコトヲ得

第百十五條　主務大臣ハ金融統制會ヲシテ金融事業ニ關シ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトヲ得

第百十六條　主務大臣ハ金融統制會ヲシテ金融事業ニ關シ必要ナル檢査ヲ爲サシムルコトヲ得

第百十七條　主務大臣ハ金融統制會ヲシテ金融事業ニ關シ必要ナル報告ヲ爲サシムルコトヲ得

第百十八條　主務大臣ハ金融統制會ヲシテ金融事業ニ關シ必要ナル命令ヲ爲サシムルコトヲ得

第百十九條　主務大臣ハ金融統制會ヲシテ金融事業ニ關シ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトヲ得

第百二十條　主務大臣ハ金融統制會ヲシテ金融事業ニ關シ必要ナル檢査ヲ爲サシムルコトヲ得

第百二十一條　主務大臣ハ金融統制會ヲシテ金融事業ニ關シ必要ナル報告ヲ爲サシムルコトヲ得

第百二十二條　主務大臣ハ金融統制會ヲシテ金融事業ニ關シ必要ナル命令ヲ爲サシムルコトヲ得

第百二十三條　主務大臣ハ金融統制會ヲシテ金融事業ニ關シ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトヲ得

第百二十四條　主務大臣ハ金融統制會ヲシテ金融事業ニ關シ必要ナル檢査ヲ爲サシムルコトヲ得

第百二十五條　主務大臣ハ金融統制會ヲシテ金融事業ニ關シ必要ナル報告ヲ爲サシムルコトヲ得

第百二十六條　主務大臣ハ金融統制會ヲシテ金融事業ニ關シ必要ナル命令ヲ爲サシムルコトヲ得

第百二十七條　主務大臣ハ金融統制會ヲシテ金融事業ニ關シ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトヲ得

第百二十八條　主務大臣ハ金融統制會ヲシテ金融事業ニ關シ必要ナル檢査ヲ爲サシムルコトヲ得

第百二十九條　主務大臣ハ金融統制會ヲシテ金融事業ニ關シ必要ナル報告ヲ爲サシムルコトヲ得

第百三十條　主務大臣ハ金融統制會ヲシテ金融事業ニ關シ必要ナル命令ヲ爲サシムルコトヲ得

第百三十一條　主務大臣ハ金融統制會ヲシテ金融事業ニ關シ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトヲ得

第百三十二條　主務大臣ハ金融統制會ヲシテ金融事業ニ關シ必要ナル檢査ヲ爲サシムルコトヲ得

第百三十三條　主務大臣ハ金融統制會ヲシテ金融事業ニ關シ必要ナル報告ヲ爲サシムルコトヲ得

第百三十四條　主務大臣ハ金融統制會ヲシテ金融事業ニ關シ必要ナル命令ヲ爲サシムルコトヲ得

第百三十五條　主務大臣ハ金融統制會ヲシテ金融事業ニ關シ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトヲ得

第百三十六條　主務大臣ハ金融統制會ヲシテ金融事業ニ關シ必要ナル檢査ヲ爲サシムルコトヲ得

第百三十七條　主務大臣ハ金融統制會ヲシテ金融事業ニ關シ必要ナル報告ヲ爲サシムルコトヲ得

第百三十八條　主務大臣ハ金融統制會ヲシテ金融事業ニ關シ必要ナル命令ヲ爲サシムルコトヲ得

第百三十九條　主務大臣ハ金融統制會ヲシテ金融事業ニ關シ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトヲ得

第百四十條　主務大臣ハ金融統制會ヲシテ金融事業ニ關シ必要ナル檢査ヲ爲サシムルコトヲ得

第百四十一條　主務大臣ハ金融統制會ヲシテ金融事業ニ關シ必要ナル報告ヲ爲サシムルコトヲ得

第百四十二條　主務大臣ハ金融統制會ヲシテ金融事業ニ關シ必要ナル命令ヲ爲サシムルコトヲ得

第百四十三條　主務大臣ハ金融統制會ヲシテ金融事業ニ關シ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトヲ得

第百四十四條　主務大臣ハ金融統制會ヲシテ金融事業ニ關シ必要ナル檢査ヲ爲サシムルコトヲ得

第百四十五條　主務大臣ハ金融統制會ヲシテ金融事業ニ關シ必要ナル報告ヲ爲サシムルコトヲ得

第百四十六條　主務大臣ハ金融統制會ヲシテ金融事業ニ關シ必要ナル命令ヲ爲サシムルコトヲ得

第百四十七條　主務大臣ハ金融統制會ヲシテ金融事業ニ關シ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトヲ得

第百四十八條　主務大臣ハ金融統制會ヲシテ金融事業ニ關シ必要ナル檢査ヲ爲サシムルコトヲ得

第百四十九條　主務大臣ハ金融統制會ヲシテ金融事業ニ關シ必要ナル報告ヲ爲サシムルコトヲ得

第百五十條　主務大臣ハ金融統制會ヲシテ金融事業ニ關シ必要ナル命令ヲ爲サシムルコトヲ得

第百五十一條　主務大臣ハ金融統制會ヲシテ金融事業ニ關シ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトヲ得

第百五十二條　主務大臣ハ金融統制會ヲシテ金融事業ニ關シ必要ナル檢査ヲ爲サシムルコトヲ得

第百五十三條　主務大臣ハ金融統制會ヲシテ金融事業ニ關シ必要ナル報告ヲ爲サシムルコトヲ得

第百五十四條　主務大臣ハ金融統制會ヲシテ金融事業ニ關シ必要ナル命令ヲ爲サシムルコトヲ得

第百五十五條　主務大臣ハ金融統制會ヲシテ金融事業ニ關シ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトヲ得

第百五十六條　主務大臣ハ金融統制會ヲシテ金融事業ニ關シ必要ナル檢査ヲ爲サシムルコトヲ得

第百五十七條　主務大臣ハ金融統制會ヲシテ金融事業ニ關シ必要ナル報告ヲ爲サシムルコトヲ得

第百五十八條　主務大臣ハ金融統制會ヲシテ金融事業ニ關シ必要ナル命令ヲ爲サシムルコトヲ得

第百五十九條　主務大臣ハ金融統制會ヲシテ金融事業ニ關シ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトヲ得

第百六十條　主務大臣ハ金融統制會ヲシテ金融事業ニ關シ必要ナル檢査ヲ爲サシムルコトヲ得

第百六十一條　主務大臣ハ金融統制會ヲシテ金融事業ニ關シ必要ナル報告ヲ爲サシムルコトヲ得

第百六十二條　主務大臣ハ金融統制會ヲシテ金融事業ニ關シ必要ナル命令ヲ爲サシムルコトヲ得

第百六十三條　主務大臣ハ金融統制會ヲシテ金融事業ニ關シ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトヲ得

第百六十四條　主務大臣ハ金融統制會ヲシテ金融事業ニ關シ必要ナル檢査ヲ爲サシムルコトヲ得

第百六十五條　主務大臣ハ金融統制會ヲシテ金融事業ニ關シ必要ナル報告ヲ爲サシムルコトヲ得

第百六十六條　主務大臣ハ金融統制會ヲシテ金融事業ニ關シ必要ナル命令ヲ爲サシムルコトヲ得

第百六十七條　主務大臣ハ金融統制會ヲシテ金融事業ニ關シ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトヲ得

第百六十八條　主務大臣ハ金融統制會ヲシテ金融事業ニ關シ必要ナル檢査ヲ爲サシムルコトヲ得

第百六十九條　主務大臣ハ金融統制會ヲシテ金融事業ニ關シ必要ナル報告ヲ爲サシムルコトヲ得

第百七十條　主務大臣ハ金融統制會ヲシテ金融事業ニ關シ必要ナル命令ヲ爲サシムルコトヲ得

第百七十一條　主務大臣ハ金融統制會ヲシテ金融事業ニ關シ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトヲ得

第百七十二條　主務大臣ハ金融統制會ヲシテ金融事業ニ關シ必要ナル檢査ヲ爲サシムルコトヲ得

第百七十三條　主務大臣ハ金融統制會ヲシテ金融事業ニ關シ必要ナル報告ヲ爲サシムルコトヲ得

第百七十四條　主務大臣ハ金融統制會ヲシテ金融事業ニ關シ必要ナル命令ヲ爲サシムルコトヲ得

第百七十五條　主務大臣ハ金融統制會ヲシテ金融事業ニ關シ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトヲ得

第百七十六條　主務大臣ハ金融統制會ヲシテ金融事業ニ關シ必要ナル檢査ヲ爲サシムルコトヲ得

第百七十七條　主務大臣ハ金融統制會ヲシテ金融事業ニ關シ必要ナル報告ヲ爲サシムルコトヲ得

第百七十八條　主務大臣ハ金融統制會ヲシテ金融事業ニ關シ必要ナル命令ヲ爲サシムルコトヲ得

第百七十九條　主務大臣ハ金融統制會ヲシテ金融事業ニ關シ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトヲ得

第百八十條　主務大臣ハ金融統制會ヲシテ金融事業ニ關シ必要ナル檢査ヲ爲サシムルコトヲ得

第百八十一條　主務大臣ハ金融統制會ヲシテ金融事業ニ關シ必要ナル報告ヲ爲サシムルコトヲ得

第百八十二條　主務大臣ハ金融統制會ヲシテ金融事業ニ關シ必要ナル命令ヲ爲サシムルコトヲ得

第百八十三條　主務大臣ハ金融統制會ヲシテ金融事業ニ關シ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトヲ得

第百八十四條　主務大臣ハ金融統制會ヲシテ金融事業ニ關シ必要ナル檢査ヲ爲サシムルコトヲ得

第百八十五條　主務大臣ハ金融統制會ヲシテ金融事業ニ關シ必要ナル報告ヲ爲サシムルコトヲ得

第百八十六條　主務大臣ハ金融統制會ヲシテ金融事業ニ關シ必要ナル命令ヲ爲サシムルコトヲ得

第百八十七條　主務大臣ハ金融統制會ヲシテ金融事業ニ關シ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトヲ得

第百八十八條　主務大臣ハ金融統制會ヲシテ金融事業ニ關シ必要ナル檢査ヲ爲サシムルコトヲ得

第百八十九條　主務大臣ハ金融統制會ヲシテ金融事業ニ關シ必要ナル報告ヲ爲サシムルコトヲ得

第百九十條　主務大臣ハ金融統制會ヲシテ金融事業ニ關シ必要ナル命令ヲ爲サシムルコトヲ得

第百九十一條　主務大臣ハ金融統制會ヲシテ金融事業ニ關シ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトヲ得

第百九十二條　主務大臣ハ金融統制會ヲシテ金融事業ニ關シ必要ナル檢査ヲ爲サシムルコトヲ得

第百九十三條　主務大臣ハ金融統制會ヲシテ金融事業ニ關シ必要ナル報告ヲ爲サシムルコトヲ得

第百九十四條　主務大臣ハ金融統制會ヲシテ金融事業ニ關シ必要ナル命令ヲ爲サシムルコトヲ得

第百九十五條　主務大臣ハ金融統制會ヲシテ金融事業ニ關シ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトヲ得

第百九十六條　主務大臣ハ金融統制會ヲシテ金融事業ニ關シ必要ナル檢査ヲ爲サシムルコトヲ得

第百九十七條　主務大臣ハ金融統制會ヲシテ金融事業ニ關シ必要ナル報告ヲ爲サシムルコトヲ得

第百九十八條　主務大臣ハ金融統制會ヲシテ金融事業ニ關シ必要ナル命令ヲ爲サシムルコトヲ得

第百九十九條　主務大臣ハ金融統制會ヲシテ金融事業ニ關シ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトヲ得

第二百條　主務大臣ハ金融統制會ヲシテ金融事業ニ關シ必要ナル檢査ヲ爲サシムルコトヲ得

第二百一條　主務大臣ハ金融統制會ヲシテ金融事業ニ關シ必要ナル報告ヲ爲サシムルコトヲ得

第二百二條　主務大臣ハ金融統制會ヲシテ金融事業ニ關シ必要ナル命令ヲ爲サシムルコトヲ得

第二百三條　主務大臣ハ金融統制會ヲシテ金融事業ニ關シ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトヲ得

第二百四條　主務大臣ハ金融統制會ヲシテ金融事業ニ關シ必要ナル檢査ヲ爲サシムルコトヲ得

第二百五條　主務大臣ハ金融統制會ヲシテ金融事業ニ關シ必要ナル報告ヲ爲サシムルコトヲ得

第二百六條　主務大臣ハ金融統制會ヲシテ金融事業ニ關シ必要ナル命令ヲ爲サシムルコトヲ得

第二百七條　主務大臣ハ金融統制會ヲシテ金融事業ニ關シ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトヲ得

第二百八條　主務大臣ハ金融統制會ヲシテ金融事業ニ關シ必要ナル檢査ヲ爲サシムルコトヲ得

第二百九條　主務大臣ハ金融統制會ヲシテ金融事業ニ關シ必要ナル報告ヲ爲サシムルコトヲ得

第二百十條　主務大臣ハ金融統制會ヲシテ金融事業ニ關シ必要ナル命令ヲ爲サシムルコトヲ得

第二百十一條　主務大臣ハ金融統制會ヲシテ金融事業ニ關シ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトヲ得

第二百十二條　主務大臣ハ金融統制會ヲシテ金融事業ニ關シ必要ナル檢査ヲ爲サシムルコトヲ得

第二百十三條　主務大臣ハ金融統制會ヲシテ金融事業ニ關シ必要ナル報告ヲ爲サシムルコトヲ得

第二百十四條　主務大臣ハ金融統制會ヲシテ金融事業ニ關シ必要ナル命令ヲ爲サシムルコトヲ得

第二百十五條　主務大臣ハ金融統制會ヲシテ金融事業ニ關シ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトヲ得

第二百十六條　主務大臣ハ金融統制會ヲシテ金融事業ニ關シ必要ナル檢査ヲ爲サシムルコトヲ得

第二百十七條　主務大臣ハ金融統制會ヲシテ金融事業ニ關シ必要ナル報告ヲ爲サシムルコトヲ得

第二百十八條　主務大臣ハ金融統制會ヲシテ金融事業ニ關シ必要ナル命令ヲ爲サシムルコトヲ得

第二百十九條　主務大臣ハ金融統制會ヲシテ金融事業ニ關シ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトヲ得

第二百二十條　主務大臣ハ金融統制會ヲシテ金融事業ニ關シ必要ナル檢査ヲ爲サシムルコトヲ得

第二百二十一條　主務大臣ハ金融統制會ヲシテ金融事業ニ關シ必要ナル報告ヲ爲サシムルコトヲ得

第二百二十二條　主務大臣ハ金融統制會ヲシテ金融事業ニ關シ必要ナル命令ヲ爲サシムルコトヲ得

第二百二十三條　主務大臣ハ金融統制會ヲシテ金融事業ニ關シ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトヲ得

第二百二十四條　主務大臣ハ金融統制會ヲシテ金融事業ニ關シ必要ナル檢査ヲ爲サシムルコトヲ得

第二百二十五條　主務大臣ハ金融統制會ヲシテ金融事業ニ關シ必要ナル報告ヲ爲サシムルコトヲ得

第二百二十六條　主務大臣ハ金融統制會ヲシテ金融事業ニ關シ必要ナル命令ヲ爲サシムルコトヲ得

第二百二十七條　主務大臣ハ金融統制會ヲシテ金融事業ニ關シ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトヲ得

第二百二十八條　主務大臣ハ金融統制會ヲシテ金融事業ニ關シ必要ナル檢査ヲ爲サシムルコトヲ得

第二百二十九條　主務大臣ハ金融統制會ヲシテ金融事業ニ關シ必要ナル報告ヲ爲サシムルコトヲ得

第二百三十條　主務大臣ハ金融統制會ヲシテ金融事業ニ關シ必要ナル命令ヲ爲サシムルコトヲ得

第二百三十一條　主務大臣ハ金融統制會ヲシテ金融事業ニ關シ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトヲ得

第二百三十二條　主務大臣ハ金融統制會ヲシテ金融事業ニ關シ必要ナル檢査ヲ爲サシムルコトヲ得

第二百三十三條　主務大臣ハ金融統制會ヲシテ金融事業ニ關シ必要ナル報告ヲ爲サシムルコトヲ得

第二百三十四條　主務大臣ハ金融統制會ヲシテ金融事業ニ關シ必要ナル命令ヲ爲サシムルコトヲ得

第二百三十五條　主務大臣ハ金融統制會ヲシテ金融事業ニ關シ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトヲ得

第二百三十六條　主務大臣ハ金融統制會ヲシテ金融事業ニ關シ必要ナル檢査ヲ爲サシムルコトヲ得

第二百三十七條　主務大臣ハ金融統制會ヲシテ金融事業ニ關シ必要ナル報告ヲ爲サシムルコトヲ得

第二百三十八條　主務大臣ハ金融統制會ヲシテ金融事業ニ關シ必要ナル命令ヲ爲サシムルコトヲ得

第二百三十九條　主務大臣ハ金融統制會ヲシテ金融事業ニ關シ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトヲ得

第二百四十條　主務大臣ハ金融統制會ヲシテ金融事業ニ關シ必要ナル檢査ヲ爲サシムルコトヲ得

第二百四十一條　主務大臣ハ金融統制會ヲシテ金融事業ニ關シ必要ナル報告ヲ爲サシムルコトヲ得

第二百四十二條　主務大臣ハ金融統制會ヲシテ金融事業ニ關シ必要ナル命令ヲ爲サシムルコトヲ得

第二百四十三條　主務大臣ハ金融統制會ヲシテ金融事業ニ關シ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトヲ得

第二百四十四條　主務大臣ハ金融統制會ヲシテ金融事業ニ關シ必要ナル檢査ヲ爲サシムルコトヲ得

第二百四十五條　主務大臣ハ金融統制會ヲシテ金融事業ニ關シ必要ナル報告ヲ爲サシムルコトヲ得

第二百四十六條　主務大臣ハ金融統制會ヲシテ金融事業ニ關シ必要ナル命令ヲ爲サシムルコトヲ得

第二百四十七條　主務大臣ハ金融統制會ヲシテ金融事業ニ關シ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトヲ得

第二百四十八條　主務大臣ハ金融統制會ヲシテ金融事業ニ關シ必要ナル檢査ヲ爲サシムルコトヲ得

第二百四十九條　主務大臣ハ金融統制會ヲシテ金融事業ニ關シ必要ナル報告ヲ爲サシムルコトヲ得

第二百五十條　主務大臣ハ金融統制會ヲシテ金融事業ニ關シ必要ナル命令ヲ爲サシムルコトヲ得

第二百五十一條　主務大臣ハ金融統制會ヲシテ金融事業ニ關シ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトヲ得

第二百五十二條　主務大臣ハ金融統制會ヲシテ金融事業ニ關シ必要ナル檢査ヲ爲サシムルコトヲ得

第二百五十三條　主務大臣ハ金融統制會ヲシテ金融事業ニ關シ必要ナル報告ヲ爲サシムルコトヲ得

第二百五十四條　主務大臣ハ金融統制會ヲシテ金融事業ニ關シ必要ナル命令ヲ爲サシムルコトヲ得

第二百五十五條　主務大臣ハ金融統制會ヲシテ金融事業ニ關シ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトヲ得

第二百五十六條　主務大臣ハ金融統制會ヲシテ金融事業ニ關シ必要ナル檢査ヲ爲サシムルコトヲ得

第二百五十七條　主務大臣ハ金融統制會ヲシテ金融事業ニ關シ必要ナル報告ヲ爲サシムルコトヲ得

第二百五十八條　主務大臣ハ金融統制會ヲシテ金融事業ニ關シ必要ナル命令ヲ爲サシムルコトヲ得

第二百五十九條　主務大臣ハ金融統制會ヲシテ金融事業ニ關シ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトヲ得

第二百六十條　主務大臣ハ金融統制會ヲシテ金融事業ニ關シ必要ナル檢査ヲ爲サシムルコトヲ得

第二百六十一條　主務大臣ハ金融統制會ヲシテ金融事業ニ關シ必要ナル報告ヲ爲サシムルコトヲ得

第二百六十二條　主務大臣ハ金融統制會ヲシテ金融事業ニ關シ必要ナル命令ヲ爲サシムルコトヲ得

第二百六十三條　主務大臣ハ金融統制會ヲシテ金融事業ニ關シ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトヲ得

第二百六十四條　主務大臣ハ金融統制會ヲシテ金融事業ニ關シ必要ナル檢査ヲ爲サシムルコトヲ得

第二百六十五條　主務大臣ハ金融統制會ヲシテ金融事業ニ關シ必要ナル報告ヲ爲サシムルコトヲ得

第二百六十六條　主務大臣ハ金融統制會ヲシテ金融事業ニ關シ必要ナル命令ヲ爲サシムルコトヲ得

第二百六十七條　主務大臣ハ金融統制會ヲシテ金融事業ニ關シ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトヲ得

第二百六十八條　主務大臣ハ金融統制會ヲシテ金融事業ニ關シ必要ナル檢査ヲ爲サシムルコトヲ得

第二百六十九條　主務大臣ハ金融統制會ヲシテ金融事業ニ關シ必要ナル報告ヲ爲サシムルコトヲ得

第二百七十條　主務大臣ハ金融統制會ヲシテ金融事業ニ關シ必要ナル命令ヲ爲サシムルコトヲ得

第二百七十一條　主務大臣ハ金融統制會ヲシテ金融事業ニ關シ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトヲ得

第二百七十二條　主務大臣ハ金融統制會ヲシテ金融事業ニ關シ必要ナル檢査ヲ爲サシムルコトヲ得

第二百七十三條　主務大臣ハ金融統制會ヲシテ金融事業ニ關シ必要ナル報告ヲ爲サシムルコトヲ得

第二百七十四條　主務大臣ハ金融統制會ヲシテ金融事業ニ關シ必要ナル命令ヲ爲サシムルコトヲ得

第二百七十五條　主務大臣ハ金融統制會ヲシテ金融事業ニ關シ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトヲ得

第二百七十六條　主務大臣ハ金融統制會ヲシテ金融事業ニ關シ必要ナル檢査ヲ爲サシムルコトヲ得

第二百七十七條　主務大臣ハ金融統制會ヲシテ金融事業ニ關シ必要ナル報告ヲ爲サシムルコトヲ得

第二百七十八條　主務大臣ハ金融統制會ヲシテ金融事業ニ關シ必要ナル命令ヲ爲サシムルコトヲ得

第二百七十九條　主務大臣ハ金融統制會ヲシテ金融事業ニ關シ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトヲ得

第二百八十條　主務大臣ハ金融統制會ヲシテ金融事業ニ關シ必要ナル檢査ヲ爲サシムルコトヲ得

第二百八十一條　主務大臣ハ金融統制會ヲシテ金融事業ニ關シ必要ナル報告ヲ爲サシムルコトヲ得

第二百八十二條　主務大臣ハ金融統制會ヲシテ金融事業ニ關シ必要ナル命令ヲ爲サシムルコトヲ得

第二百八十三條　主務大臣ハ金融統制會ヲシテ金融事業ニ關シ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトヲ得

第二百八十四條　主務大臣ハ金融統制會ヲシテ金融事業ニ關シ必要ナル檢査ヲ爲サシムルコトヲ得

第二百八十五條　主務大臣ハ金融統制會ヲシテ金融事業ニ關シ必要ナル報告ヲ爲サシムルコトヲ得

第二百八十六條　主務大臣ハ金融統制會ヲシテ金融事業ニ關シ必要ナル命令ヲ爲サシムルコトヲ得

第二百八十七條　主務大臣ハ金融統制會ヲシテ金融事業ニ關シ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトヲ

五　當該地區內ニ於ケル當該金融事業ニ關スル調査及研究
六　前各號ニ揭グルモノノ外統制組合ノ目的ヲ達スルニ必要ナル事業

第五十條　統制組合ノ組合員タル資格ヲ有スル者ハ當該地區內ニ於テ當該金融事業ヲ營ム者ニシテ主務大臣ノ指定スルモノトス

第五十一條　統制組合ノ定款ニハ左ニ揭グル事項ヲ記載スベシ

一　目的
二　名稱
三　地區
四　事務所ノ所在地
五　組合員ニ關スル規定
六　事業及其ノ執行ニ關スル規定
七　役員ニ關スル規定
八　會議ニ關スル規定
九　總理ニ關スル規定

第五十二條　統制組合ニハ理事長一人竝ニ理事、監事及評議員各若干人ヲ置クベシ

理事長ハ當該金融事業ニ關シ經驗アル者及學識アル者ノ中ヨリ當該統制組合ノ所屬スル業態別統制會ノ理事長之ヲ命ズ當該統制組合ノ所屬スル業態別統制會ナキトキハ當該金融事業ニ關シ經驗アル者及學識アル者ノ中ヨリ主務大臣之ヲ命ズ

前項前段ノ規定ニ依ル理事長ノ任命ハ主務大臣ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ

第十一條第一項第四項乃至第六項、第四十二條第一項乃至第三項及第四十五條第二項ノ規定ハ理事長、理事、監事及評議員ニ、第四十一條第三項乃至第五項ノ規定ハ理事、監事及評議員ニ之ヲ準用ス

第五十三條　業態別統制會ノ理事長ハ當該業態別統制會ノ會員タル統制組合ノ理事長ノ行爲ガ法令又ハ法令ニ基キテ爲ス行政官廳ノ處分ニ違反シタルトキ、公益ヲ害シタルトキ其ノ他當該統制組合ノ事業ノ運營上當該理事長ヲ不適當ナリト認ムルトキハ之ヲ解任スルコトヲ得

前項ノ解任ハ主務大臣ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ

第五十四條　統制組合ハ定款ノ定ムル所ニ依リ總會ニ代ルベキ總代會ヲ設クルコトヲ得

第二十七條乃至第二十九條ノ規定ハ前項ノ總代會ニ之ヲ準用ス

第五十五條　第四條第二項ノ命令ヲ以テ定ムル統制組合ハ全國金融統制會ノ行フ統制ニ從フベシ

第五十六條　統制組合ニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依リ登記ヲ爲スコトヲ要ス

前項ノ規定ニ依リ登記スベキ事項ハ登記ノ後ニ非ザレバ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ズ

第五十七條　第六條、第八條（定款ノ告示ニ關スル部分ヲ除ク）第九條、第十五條、第十七條乃至第二十二條（第二十一條中定款變更ノ認可ノ告示ニ關スル部分ヲ除ク）第二十三條乃至第三十三條、第三十五條第一項及第四十四條ノ規定ハ統制組合ニ之ヲ準用ス

第五章　地方金融協議會

第五十八條　地方金融協議會ハ國民經濟ノ總力ヲ最モ有效ニ發揮セシムル爲一定地區內ニ於ケル金融事業相互間ノ連絡調整ヲ圖ルニ必要ナル指導統制ヲ行ヒ且金融事業ニ關スル國策ノ遂行ニ協力スルコトヲ目的トス

第五十九條　地方金融協議會ハ一定地區ニ於テ之ヲ設立ス

前項ノ地區ハ主務大臣之ヲ指定ス

第六十條　地方金融協議會ハ其ノ目的ヲ達スル爲左ニ揭グル事業ヲ行フ

一　金融事業ヲ營ム者ガ當該地區內ニ於テ行フ資金ノ吸收及運用ニ關スル指導統制
二　當該地區內ニ於ケル金融事業ノ整備ノ促進
三　當該地區內ニ於ケル金融事業ノ機能ノ增進
四　前各號ニ揭グルモノノ外地方金融協議會ノ目的ヲ達スルニ必要ナル事業

第六十一條　地方金融協議會ノ會員タル資格ヲ有スル者ハ左ニ揭グル者ニシテ主務大臣ノ指定スルモノトス

一　當該地區內ニ於テ金融事業ヲ營ム者
二　當該地區內ニ於テ金融事業ヲ營ム者ヲ以テ組織スル統制組合

第六十二條　地方金融協議會ニハ理事長一人竝ニ理事、監事及評議員各若干人ヲ置クベシ

理事長ハ金融事業ニ關シ經驗アル者及學識アル者ノ中ヨリ主務大臣之ヲ命ズ

第六十三條　地方金融協議會ノ會員タル資格ヲ有スル者ハ左ニ揭グル者ニシテ主務大臣ノ指定スルモノトス

一　當該地區內ニ於テ金融事業ヲ營ム者
二　當該地區內ニ於テ金融事業ヲ營ム者ヲ以テ組織スル統制組合
三　當該地區內ニ於ケル金融事業ノ整備ノ促進
四　前各號ニ揭グルモノノ外地方金融協議會ノ目的ヲ達スルニ必要ナル事業

第六十四條　第六條、第八條（定款ノ告示ニ關スル部分ヲ除ク）、第九條、第十五條、第十七條乃至第二十二條（第二十一條中定款變更ノ認可ノ告示ニ關スル部分ヲ除ク）、第二十七條乃至第三十三條、第三十五條第一項、第四十四條、第五十一條及第五十四條乃至第五十六條ノ規定ハ地方金融協議會ニ之ヲ準用ス

第六章　雜則

第六十五條　主務大臣必要アリト認ムルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ第四章又ハ第五章ニ規定スル職權ノ一部ヲ地方長官ヲシテ行ハシムルコトヲ得

第六十六條　本令中主務大臣トアルハ第二項ニ規定スル場合ヲ除クノ外大藏大臣トス但シ產業組合中央金庫、信用組合聯合會（樺太ニ於テ設立セラレタルモノヲ除ク以下同ジ）又ハ信用組合（臺灣又ハ樺太ニ於テ設立セラレタルモノヲ除ク以下同ジ）ヲ會員又ハ組合員トスル業態別統制會、統制組合又ハ地方金融協議會ニ在リテハ大藏大臣及農林大臣トス

第二條及第五章中主務大臣トアルハ朝鮮、臺灣又ハ樺太ヲ地區トスル地方金融協議會ニ在リテハ各朝鮮總督、臺灣總督又ハ樺太廳長官トス

第十九條（第四十六條、第五十七條及第六十四條ニ於テ準用スル場合ヲ含ム）中市町村トアルハ朝鮮ニ在リテハ府邑面、臺灣ニ在リテハ市街庄トシ市町村稅トアルハ朝鮮ニ在リテハ國稅、臺灣ニ在リテハ市街庄稅トシ百分ノ四トアルハ朝鮮ニ在リテハ百分ノ五トス

第六十七條　大藏大臣全國金融統制會ニ付左ニ揭グル處分ヲ爲サントスル場合ニ於テ當該處分ガ恩給金庫ニ關スルモノナルトキハ內閣總理大臣、

〔朝二〕

コトヲ得

第六十四條　第六條、第八條（定款ノ告示ニ關スル部分ヲ除ク）、第九條、第十五條、第十七條乃至第二十二條（第二十一條中定款變更ノ認可ノ告示ニ關スル部分ヲ除ク）、第二十七條乃至第三十三條、第三十五條第一項、第四十四條、第五十一條及第五十四條乃至第五十六條ノ規定ハ地方金融協議會ニ之ヲ準用ス

第六章　雜則

第六十五條　主務大臣必要アリト認ムルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ第四章又ハ第五章ニ規定スル職權ノ一部ヲ地方長官ヲシテ行ハシムルコトヲ得

第六十六條　本令中主務大臣トアルハ第二項ニ規定スル場合ヲ除クノ外大藏大臣トス但シ產業組合中央金庫、信用組合聯合會（樺太ニ於テ設立セラレタルモノヲ除ク以下同ジ）又ハ信用組合（臺灣又ハ樺太ニ於テ設立セラレタルモノヲ除ク以下同ジ）ヲ會員又ハ組合員トスル業態別統制會、統制組合又ハ地方金融協議會ニ在リテハ大藏大臣及農林大臣トス

第二條及第五章中主務大臣トアルハ朝鮮、臺灣又ハ樺太ヲ地區トスル地方金融協議會ニ在リテハ各朝鮮總督、臺灣總督又ハ樺太廳長官トス

第十九條（第四十六條、第五十七條及第六十四條ニ於テ準用スル場合ヲ含ム）中市町村トアルハ朝鮮ニ在リテハ府邑面、臺灣ニ在リテハ市街庄トシ市町村稅トアルハ朝鮮ニ在リテハ國稅、臺灣ニ在リテハ市街庄稅トシ百分ノ四トアルハ朝鮮ニ在リテハ百分ノ五トス

第六十七條　大藏大臣全國金融統制會ニ付左ニ揭グル處分ヲ爲サントスル場合ニ於テ當該處分ガ恩給金庫ニ關スルモノナルトキハ內閣總理大臣、

〔朝二〕

産業組合中央金庫、信用組合聯合會又ハ信用組合ヲ會員又ハ組合員トスル業態別統制會、統制組合又ハ地方金融協議會ニ關スルモノナルトキハ農林大臣、商工組合中央金庫ニ關スルモノナルトキハ商工大臣、朝鮮殖產銀行ニ關スルモノナルトキハ朝鮮總督ニ協議スベシ

一　第五條ノ規定ニ依ル指定

二　第六條第一項、第三十二條及第三十三條第一項、第二十四條第一項、第二十五條第二項、第二十一條第一項、第二十三條第一項、第二十六條第一項及第二十六條第一項ノ規定ニ依ル認可

三　第六條第二項、第二十一條第一項、第二十三條第一項、第二十四條第一項及第二十六條第一項ノ規定ニ依ル命令

四　第三十三條第一項ノ規定ニ依ル命令又ハ處分

朝鮮總督朝鮮ヲ地區トスル地方金融協議會ニ付左ニ掲グル處分ヲ爲サントスル場合ニ於テ當該處分ガ朝鮮銀行又ハ朝鮮ニ於テ金融事業ヲ營ム者ニシテ內地ニ主タル營業所若ハ事務所ヲ有スルモノノ朝鮮ニ於ケル營業所若ハ事務所ニ於ケル金融事業ニ關スルモノナルトキハ大藏大臣ニ協議スベシ臺灣總督又ハ樺太廳長官臺灣又ハ樺太ヲ地區トスル地方金融協議會ニ付左ニ掲グル處分ヲ爲サントスル場合ニ於テ當該處分ガ臺灣若ハ樺太ニ營業所ヲ有スル銀行又ハ臺灣若ハ樺太ニ於テ金融事業ヲ營ム者ニシテ內地ニ主タル營業所若ハ事務所ヲ有スルモノノ臺灣若ハ樺太ニ於ケル營業所若ハ事務所ニ於ケル金融事業ニ關スルモノナルトキ亦同ジ

一　第六十一條ノ規定ニ依ル指定

二　第六十四條ニ於テ準用スル第六條第一項、第三十二條及第三十五條第一項ノ規定ニ依ル命令

三　第六十四條ニ於テ準用スル第六條第二項及第二十一條第一項ノ規定ニ依ル認可

四　第六十四條ニ於テ準用スル第三十三條第一項ノ規定ニ依ル命令又ハ處分

第六十八條　第三章及第四章ノ規定ハ朝鮮、臺灣及樺太ニ在リテハ之ヲ適用セズ但シ臺灣又ハ樺太ニ營業所ヲ有スル銀行ノ當該營業所ニ於ケル金融事業ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第六十五條ノ規定ハ朝鮮、臺灣及樺太ニ在リテハ之ヲ適用セズ

第六十九條　本令ニ規定スルモノヲ除クノ外全國金融統制會、業態別統制會、統制組合及地方金融協議會ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス但シ地方金融協議會ニ關スル規定ハ朝鮮、臺灣及樺太ニ在リテハ昭和十七年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

◉金融統制團體令施行規則

昭和十七年六月一日
朝鮮總督府令第百五十三號

金融統制團體令施行規則左ノ通定ム

金融統制團體令施行規則

第一條　朝鮮總督金融統制團體令（以下單ニ令ト稱ス）第六十四條ニ於テ準用スル令第六條第一項ノ規定ニ依リ地方金融協議會（以下單ニ協議會ト稱ス）ノ設立ヲ命ズル場合ニ於テハ左ニ掲グル事項ヲ指定シ之ヲ告示ス

一　地區

二　設立ノ認可ヲ申請スベキ期限

〔朝二〕

前項ノ場合ニ於テ朝鮮總督ハ會員タル資格ヲ有スル者ノ中ヨリ設立委員ヲ命ジ其ノ名稱及住所ヲ告示ス

前項ノ告示アリタルトキハ設立委員ハ遲滯ナク創立總會ヲ招集スベシ

第二條　創立總會ヲ招集スルニハ會員タル資格ヲ有スル者ニ對シ會日ヨリ少クトモ一週間前ニ會議ノ目的タル事項、日時及場所ヲ記載シタル招集狀ヲ發スベシ

第三條　左ニ掲グル事項ハ創立總會ニ諮リ設立委員之ヲ定ム

一　定款

二　協議會ノ負擔ニ歸スベキ創立費及其ノ償却方法

三　初年度ノ收支豫算及初年度ニ於ケル賦課金ノ賦課徵收方法

第四條　創立總會終結シタルトキハ設立委員ハ遲滯ナク協議會ノ設立ノ認可ヲ申請スベシ

設立ノ認可申請書ニハ定款、創立總會ノ議事錄ノ謄本竝ニ前條第二號及第三號ニ掲グル事項ヲ記載シタル書面ヲ添附スベシ

第五條　協議會成立シタルトキハ各事務所ノ所在地ニ於テ左ニ掲グル事項ヲ登記スルコトヲ要ス

一　目的

二　名稱

三　地區　〃

四　事務所

五　成立ノ年月日

六　理事長及理事ノ氏名及住所

前項ニ掲グル事項ニ變更ヲ生ジタルトキハ變更ノ登記ヲ爲スコトヲ要ス

第六條　協議會成立後新ニ事務所ヲ設ケタルトキハ其ノ事務所ノ所在地ニ於テ前條第一項ニ掲グル事項ヲ登記スルコトヲ要ス但シ既ニ存スル事務所ノ所在地ノ登記所ノ管轄區域內ニ於テ新ニ事務所ヲ設ケタルトキハ其ノ事務所ヲ設ケタルコトヲ登記スルヲ以テ足ル

第九條　協議會事務所ヲ移轉シタルトキハ舊所在地ニ於テハ移轉ノ登記ヲ爲シ新所在地ニ於テハ第五條第一項ニ掲グル事項ヲ登記スルコトヲ要ス但シ同一ノ登記所ノ管轄區域內ニ於テ事務所ヲ移轉シタルトキハ其ノ移轉ノ登記ヲ爲スヲ以テ足ル

第八條　監事ノ選任ハ評議員ノ過半數ヲ以テ之ヲ爲ス

第九條　監事ノ選任アリタルトキハ協議會ハ遲滯ナク其ノ氏名及住所ヲ朝鮮總督ニ屆出ヅベシ

理事長、理事、監事又ハ評議員辭任又ハ死亡シタルトキハ協議會ハ遲滯ナク其ノ旨ヲ朝鮮總督ニ屆出ヅベシ其ノ者ノ任期滿了シタルトキ亦同ジ

第十條　事務所ノ位置又ハ理事長若ハ理事ノ住所ニ變更アリタルトキハ協議會ハ遲滯ナク其ノ旨ヲ朝鮮總督ニ屆出ヅベシ

第十一條　協議會令第六十四條ニ於テ準用スル令第四十四條ノ規定ニ依リ其ノ會員ニ對シ資料ノ提出ヲ求メントスルトキハ令第六十四條ニ於テ準用スル令第二十條ノ規定ニ依ル統制規程ニ依ル場合ヲ除クノ外朝鮮總督ノ認可ヲ受クベシ

第十二條　總會ヲ招集スルニハ會員ニ對シ會日ヨリ少クトモ一週間前ニ會議ノ目的タル事項、日時及場所ヲ記載シタル招集狀ヲ發スベシ

第十三條　每事業年度ノ收支豫算及賦課金ノ賦課徵收方法ヲ決定シタルトキハ協議會ハ遲滯ナク之ヲ朝鮮總督ニ屆出ヅベシ其ノ變更アリタルトキ

〔朝二〕

亦同シ

第十四條　協議會ノ解散ノ命令アリタルトキハ各事務所ノ所在地ニ於テ解散ノ登記ヲ爲スコトヲ要ス

第十五條　協議會ハ解散ノ後ト雖モ清算ノ目的ノ範圍内ニ於テハ仍存續スルモノト看做ス

第十六條　朝鮮總督協議會ノ解散ヲ命ジタル場合ニ於テハ其ノ清算人ヲ選任ス

朝鮮總督必要アリト認ムルトキハ清算人ヲ解任スルコトヲ得

第十七條　協議會ノ清算人ノ選任アリタルトキハ各事務所ノ所在地ニ於テ清算人ノ氏名及住所ヲ登記スルコトヲ要ス

第五條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十八條　清算人ハ協議會ヲ代表シ清算ヲ爲スニ必要ナル一切ノ行爲ヲ爲ス權限ヲ有ス

第十九條　清算人ハ清算及財産處分ノ方法ヲ定メ朝鮮總督ノ認可ヲ受クベシ

朝鮮總督必要アリト認ムルトキハ清算人ニ對シ清算及財産處分ノ方法ノ變更其ノ他監督上必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第二十條　協議會ハ解散ノ後ト雖モ朝鮮總督ノ認可ヲ受ケ其ノ債務ヲ完濟スルニ必要ナル金額ヲ賦課徵收スルコトヲ得

令第六十四條ニ於テ準用スル令第十九條竝ニ令第六十六條第三項ノ規定ハ前項ノ賦課徵收ニ關シ之ヲ準用ス

第二十一條　協議會ノ清算結了シタルトキハ各事務所ノ所在地ニ於テ清算結了ノ登記ヲ爲スコトヲ要ス

第二十二條　朝鮮民事令ニ於テ依ルコトヲ定メタル民法第七十九條及第八十條ノ規定ハ協議會ノ清算ニ之ヲ準用ス

第二十三條　協議會ノ登記ニ付テハ其ノ事務所ノ所在地ノ地方法院又ハ其ノ支廳ヲ以テ管轄登記所トス

各登記所ニ統制團體登記簿ヲ備フ

第二十四條　本令ノ規定ニ依ル登記ハ朝鮮總督ノ囑託ニ因リテ之ヲ爲ス

第二十五條　登記シタル事項ハ裁判所遲滯ナク之ヲ公告スルコトヲ要ス

第二十六條　朝鮮民事令ニ於テ依ルコトヲ定メタル非訟事件手續法第百二十五條第一項（第百四十一條、第百五十條、第百五十條ノ三、第百五十五條及第百七十七條ノ規定ヲ準用スル部分ヲ除ク）ノ規定ハ協議會ノ登記ニ之ヲ準用ス

第二十七條　令第六十四條ニ於テ準用スル令第三十條第二項ノ證票ハ別記樣式ニ依ル

附　則

本令ハ金融統制團體令施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

別記樣式（用紙ノ大サハ日本標準規格B7トシ中央點線ノ所ヨリ二ツ折トス）

〔朝二〕

（表面）

（裏面）

第　號昭和　年　月　日

朝鮮總督府印

官職

氏名

國家總動員法第三十一條　政府ハ國家總動員上必要アルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ報告ヲ徵シ又ハ當該官吏ヲシテ必要ナル場所ニ臨檢シ業務ノ狀況若ハ帳簿書類其ノ他ノ物件ヲ檢査セシムルコトヲ得

國家總動員法第四十二條　第三十一條ノ規定ニ依ル當該官吏ノ檢査ヲ拒ミ、妨ゲ又ハ忌避シタル者ハ六月以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

金融統制團體令第三十條　主務大臣必要アリト認ムルトキハ國家總動員法第三十一條ノ規定ニ依リ全國金融統制會ヨリ其ノ事業ニ關シ報告ヲ徵シ又ハ當該官吏ヲシテ其ノ事務所ニ臨檢シ業務若ハ經理ノ狀況ヲ檢査セシムルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ當該官吏ヲシテ臨檢檢査セシムル場合ニ於テハ其ノ身分ヲ示ス證票ヲ携帶セシムベシ

金融統制團體令第六十四條抄　第三十三條ノ規定ハ地方金融協議會ニ之ヲ準用ス

金融統制團體令第六十六條第二項抄　第二條及第五條中主務大臣トアルハ朝鮮ヲ地區トスル地方金融協議會ニ在リテハ朝鮮總督トス

〔朝二〕

金融統制團體令第三十條ノ規定ニ依ル證票

第十三輯　軍事　第九章　國家總動員

●價格等統制令

昭和十四年十月十八日
勅令第七百三號

改正　昭和一五年九月第六三五號、一〇月第六七七號、一六年一月第六七號、九月第八四一號、一二月第一一〇六號、一七年六月第五六〇號

第一條　國家總動員法（昭和十三年勅令第三百十七號ニ於テ南洋群島ニ於テ依ル場合ヲ含ム以下同ジ）第十九條ノ規定ニ基キ價格、運送賃、保管料、損害保險料、賃貸料、加工賃、修繕料其ノ他ノ財產的給付（以下價格等ト稱ス）ニ關シ必要ナル命令ヲ爲スハ別ニ定ムルモノヲ除クノ外本令ノ定ムル所ニ依ル

第二條　價格、運送賃、保管料、損害保險料、賃貸料又ハ加工賃（以下價格運送賃等ト稱ス）ハ昭和十四年九月十八日（以下指定期日ト稱ス）ニ於ケル額ヲ超エテ之ヲ契約シ、支拂ヒ又ハ受領スルコトヲ得ズ但シ閣令ノ定ムル所ニ依リ價格運送賃等ノ支拂者又ハ受領者ニ於テ行政官廳ノ許可ヲ受ケタル場合及本令施行ノ際現ニ存スル契約ニシテ其ノ際左ノ各號ノ一ニ該當スルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

〔朝二七〉

一　注文生產品ノ價格ニ付生產者ガ生產ニ著手シタルモノ

二　其ノ他ノ價格ニ付買主其ノ他ノ支拂者ガ目的物ノ引渡ヲ受ケタルモノ

三　運送賃又ハ加工賃ニ付運送人又ハ加工者ガ目的物ノ引渡ヲ受ケタルモノ

四　保管料、損害保險料又ハ賃貸料ニ付支拂者ガ履行遲滯ニ在ルモノ

前項ノ指定期日ニ於ケル額ハ價格等ノ受領者ニ付テノ額ニ依リ受領者別ニ定マルモノトシ指定期日ニ爲シタル契約アル場合ハ其ノ契約額（同ジ事情ノ下ニ於テ數種ノ契約額アリタルトキハ其ノ最高額）、偶々指定期日ニ爲シタル契約ナカリシ場合ハ契約ヲ爲シタルベキ額トス

價格等ニ付前項ノ規定ニ依ル額ナキ場合ニ於テハ閣令ノ定ムルモノヲ以テ指定期日ニ於ケル額トス但シ閣令ノ定ムルモノガ判定困難ナル場合ニ於テ價格等ノ受領者ノ申請アルトキハ行政官廳ニ於テ其ノ額ヲ指示シ其ノ指示額ヲ以テ指定期日ニ於ケル額トス

第三條　商工農業者等ノ組合其ノ他之ニ準ズルモノ閣令ノ定ムル所ニ依リ前條第二項又ハ第三項ノ額ニ代ルベキ額ヲ定メ行政官廳ノ認可ヲ受ケタルトキハ其ノ組合其ノ他之ニ準ズルモノ及其ノ構成員（構成員ガ組合其ノ他之ニ準ズルモノナル場合ハ其ノ構成員ヲモ含ム以下同ジ）ニ付テハ其ノ額ヲ以テ指定期日ニ於ケル額ト看做ス

行政官廳必要アリト認ムルトキハ閣令ノ定ムル所ニ依リ商工農業者等ノ組合其ノ他之ニ準ズルモノノ地區內ニ於テ其ノ構成員タル資格ヲ有スル者ニシテ其ノ構成員ニ非ザルモノニ付テモ前項ノ規定ニ依ル額ヲ以テ指定期日ニ於ケル額ト看做スコトヲ得

前項ノ規定ニ依ル處分アリタル場合ニ於テ第一項ノ規定ニ依ル額ノ變更アリタルトキハ前項ノ額ハ當該變更額ニ變更セラレタルモノトス

第一項ノ規定ニ依ル認可又ハ第二項ノ規定ニ依ル處分ハ此等ノ處分實施ノ際現ニ存スル契約ニシテ其ノ際前條第一項但書各號ノ一ニ該當スルモノニ對シテハ影響ヲ及ボスコトナシ

第四條　行政官廳ハ指定期日ニ於ケル額（前條第一項若ハ第二項又ハ第二十條ノ規定ニ依リ看做サルルモノヲ除ク）ガ著シク不當ト認メラルルトキハ閣令ノ定ムル所ニ依リ其ノ額ヲ引下グルコトヲ得但シ其ノ引下實施ノ際現ニ存スル契約ニシテ其ノ際第二條第一項但書各號ノ一ニ該當スルモノニ對シテハ影響ヲ及ボスコトナシ

第四條ノ二　修繕料其ノ他價格運送賃等以外ノ價格等（以下修繕料等ト稱ス）ニシテ主務大臣ノ指定スルモノハ主務大臣ノ指定スル年月日ニ於ケル額ヲ超エテ之ヲ契約シ、支拂ヒ又ハ受領スルコトヲ得ズ但シ閣令ノ定ムル所ニ依リ修繕料等ノ支拂者又ハ受領者ニ於テ行政官廳ノ許可ヲ受ケタル場合及指定實施ノ際現ニ存スル契約ニシテ其ノ際左ノ各號ノ一ニ該當スルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

一　修繕料等ニ對スル給付ヲ爲ス者ガ目的物ノ引渡ヲ受ケタル場合

二　修繕料等ニ對スル給付ヲ爲ス者ガ修繕料等ニ對スル給付ニ著手シタル場合

第四條ノ三　第二條第二項及第三項竝ニ第四條ノ規定ハ前條ノ規定ニ依リ指定シタル修繕料等ニ付之ヲ準用ス

第四條ノ四　修繕料等ノ受領者ノ組合其ノ他之ニ準ズルモノ閣令ノ定ムル所ニ依リ修繕料等ノ額ヲ定メ行政官廳ノ認可ヲ受ケタルトキハ其ノ組合

〔朝〕

其ノ他之ニ準ズルモノ及其ノ構成員ノ給付ニ對スル修繕料等ハ其ノ額ヲ超エテ之ヲ契約シ、支拂ヒ又ハ受領スルコトヲ得ズ但シ閣令ノ定ムル所ニ依リ修繕料等ノ支拂者又ハ受領者ニ於テ行政官廳ノ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

行政官廳必要アリト認ムルトキハ修繕料等ノ額ヲ變更シテ前項ノ認可ヲ爲スコトヲ得

第五條　第一項ノ規定ニ依ル認可アリタル場合ニ於テ行政官廳必要アリト認ムルトキハ同項ノ規定ノ適用ニ付テハ閣令ノ定ムル所ニ依リ同項ニ規定スル組合其ノ他之ニ準ズルモノノ地區内ニ於テ其ノ構成員タル資格ヲ有スル者ニシテ其ノ構成員ニ非ザルモノヲ其ノ構成員ト看做スコトヲ得

第一項ノ規定ニ依ル認可又ハ前項ノ規定ニ依ル處分ハ此等ノ處分實施ノ際現ニ存スル契約ニシテ其ノ際第四條ノ二但書各號ノ一ニ該當スルモノニ對シテハ影響ヲ及ボスコトナシ

第四條ノ二及前條ノ規定ハ第一項ノ修繕料等ニ付テハ之ヲ適用セズ

第六條　第二條乃至第四條及前條ノ規定ハ有價證券ノ價格及賃貸料、土地及建物ノ價格其ノ他閣令ヲ以テ定ムル價格等ニ付テハ之ヲ適用セズ

價格等ハ第二條乃至第四條ノ四ノ規定ニ拘ラズ他ノ法令ニ定ムル額又ハ他ノ法令ニ基ク行政官廳ノ決定、命令、許可、認可其ノ他ノ處分アリタル額ヲ超エテ之ヲ契約シ、支拂ヒ又ハ受領スルコトヲ得ズ但シ價格運送賃等ニ付テハ本令施行後ノ、修繕料等ニ付テハ第四條ノ二ノ規定ニ依ル指定又ハ第四條ノ四第一項ノ規定ニ依ル認可若ハ同條第三項ノ規定ニ依ル處分アリタル後ノ處分ハ處分實施ノ際現ニ存スル契約ニシテ其ノ際第二條第一項但書各號ノ一又ハ第四條ノ二但書各號ノ一ニ該當スルモノニ對シテハ影響ヲ及ボスコトナシ

第七條　前二條ニ規定スル場合ヲ除クノ外行政官廳閣令ノ定ムル所ニ依リ價格等（有價證券ノ價格及賃貸料ヲ除ク以外同ジ）ノ額ヲ指定シタルトキハ第二條乃至第四條ノ四ノ規定ニ拘ラズ其ノ額ヲ超エテ之ヲ契約シ、支拂ヒ又ハ受領スルコトヲ得ズ但シ閣令ノ定ムル所ニ依リ價格等ノ支拂者又ハ受領者ニ於テ行政官廳ノ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ規定ニ依リ指定實施ノ際現ニ存スル契約ニシテ其ノ際第二條第一項但書各號ノ一又ハ第四條ノ二但書各號ノ一ニ該當スルモノニ對シテハ影響ヲ及ボスコトナシ

第八條　支拂條件、引渡條件其ノ他ノ契約條件ノ變更（第六條ニ規定スル他ノ法令ニ依ルモノ及他ノ法令ニ基ク行政官廳ノ決定、命令、許可、認可其ノ他ノ處分アリタルモノヲ除ク）ニシテ支拂者ニ不利益ト爲ルモノハ其ノ限度ニ於テ之ヲ價格等ノ額ノ引上ト看做ス

第九條　何等ノ名義ヲ以テスルヲ問ハズ第二條、第四條ノ二、第四條ノ四又ハ第六條乃至第七條ノ規定ニ依ル禁止ヲ免ルル行爲ヲ爲スコトヲ得ズ

第十條　主務大臣必要アリト認ムルトキハ閣令ノ定ムル所ニ依リ價格等ノ原價ニ關シ計算ヲ爲サシムルコトヲ得

第十一條　行政官廳必要アリト認ムルトキハ國家總動員法第三十一條ノ規定ニ依リ生産、販賣、運送、保管、賃貸、損害保險、加工若ハ修繕料等ニ對スル給付ニ關シ報告ヲ徵シ又ハ當該官吏ヲシテ工場、事業場、販賣所、倉庫、事務所其ノ他ノ場所ニ臨檢シ業務ノ狀況若ハ帳簿書類其ノ他ノ物件ヲ檢査セシムルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ當該官吏ヲシテ臨檢檢査セシムル場合ニ於テハ其ノ身分ヲ示ス證票ヲ携帶セシムベシ

第十二條　本令ハ左ニ揭グル價格等ニハ之ヲ適用セズ

一　繭、生絲、棉花又ハ綿布ノ取引所ニ於ケル賣買取引ノ價格

二　關東州、滿洲及支那以外ノ地ト本令施行地トノ間ニ於ケル輸出入取引ノ價格及兩地域間ニ於ケル運送ノ運送賃（主務大臣ノ告示スルモノヲ除ク）

三　其ノ他閣令ヲ以テ定ムルモノ

第十三條　本令ハ契約ノ當事者ニシテ營利ヲ目的トシテ當該契約ヲ爲スニ非ザルモノニハ之ヲ適用セズ但シ當該契約ヲ爲スコトガ自己ノ業務ニ屬スル者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第十四條　本令ニ定ムルモノヲ除クノ外本令ノ施行ニ關シ必要ナル事項ハ閣令ヲ以テ之ヲ定ムルコトヲ得

第十五條　本令ノ施行ニ關スル主務大臣ハ左ノ各號ニ定ムル所ニ依ル

〔朝二〕

一　農林畜水産物、飲食料品及農林畜水産業專用物品ノ價格ニ關スル事項ニ付テハ農林大臣但シ酒稅法ノ適用ヲ受クル酒類ノ價格ニ關スル事項ニ付テハ農林大臣及大藏大臣

二　損害保險料ニ關スル事項ニ付テハ大藏大臣

三　醫藥品ノ價格ニ關スル事項ニ付テハ商工大臣及厚生大臣

四　運送賃竝ニ運送ニ直接關聯スル保管料、賃貸料、荷役請負料、作業料、手數料、使用料、運送業者又ハ運送取扱業者ノ荷造料其ノ他閣令ヲ以テ定ムル修繕料等ニ關スル事項ニ付テハ陸上運送ニ在リテハ鐵道大臣、水上運送及航空運送ニ在リテハ遞信大臣

五　田、畑、山林及原野ノ價格及賃貸料、田、畑、山林及原野ノ賣買又ハ賃貸ノ斡旋手數料、家畜ノ賃貸料、家畜ノ賣買又ハ賃貸ノ斡旋手數料、專ラ農林畜水産物及飲食料品ノ保管ヲ目的トスル倉庫（倉庫營業者ノ倉庫ヲ除ク）ノ保管料及倉入倉出料、閣令ヲ以テ定ムル農林畜水産物、飲食料品及農林畜水産業專用物品ノ加工賃竝ニ閣令ヲ以テ定ムル農林畜水産業、飲食料品工業及農林畜水産業專用物品ニ關スル修繕料等ニ關スル事項ニ付テハ農林大臣

六　船舶ノ價格、賃貸料（期間傭船料ヲ含ム）、運航手數料及修繕料竝ニ船舶ノ賣買、賃貸（期間傭船ヲ含ム）又ハ運航委託ノ斡旋手數料ニ關スル事項ニ付テハ遞信大臣但シ總噸數二十噸未滿ノ漁船ノ賣買價格及賃貸料（期間傭船料ヲ含ム）竝ニ總噸數二十噸未滿ノ漁船ノ賣買又ハ賃貸（期間傭船ヲ含ム）ノ斡旋手數料ニ關スル事項ニ付テハ農林大臣及遞信大臣

七　兵器、彈藥、艦船等ノ價格運送賃等ニ關スル第二條ニ規定スル事項及兵器、彈藥、艦船等ノ修繕料ニ關スル第四條ノ二但書ニ規定スル事

項ニシテ軍機保護上必要アルモノニ付テハ陸軍大臣又ハ海軍大臣

八　請負料（手間賃、派出料ノ類ヲ含ム）ニシテ主トシテ勞務ノ供給及提供ニ對スルモノニ關スル事項ニ付テハ厚生大臣

九　前各號ノ場合ヲ除クノ外商工大臣

十　第六條ニ規定スル法令ニ於テ規定スル價格等ニ關スル事項ニ付テハ前各號ニ拘ラズ當該法令ニ於ケル主務大臣

第十六條　前條第七號ニ掲グル場合ヲ除クノ外本令中主務大臣トアルハ朝鮮ニ在リテハ朝鮮總督、臺灣ニ在リテハ臺灣總督、樺太ニ在リテハ樺太廳長官、南洋群島ニ在リテハ南洋廳長官トシ閣令トアルハ朝鮮又ハ臺灣ニ在リテハ總督府令、樺太又ハ南洋群島ニ在リテハ廳令トス

附　則

第十七條　本令ハ昭和十四年十月二十日ヨリ之ヲ施行ス但シ朝鮮、臺灣、樺太及南洋群島ニ在リテハ昭和十四年十月二十七日ヨリ之ヲ施行ス

第十八條　第二條乃至第四條ノ三ノ規定ハ當分ノ內其ノ效力ヲ有ス

第十九條　左ニ掲グル命令ハ之ヲ廢止ス

昭和十四年農林省令第四十二號農林水產物及農林水產業用品販賣價格取締規則

昭和十三年商工省令第二十四號絹絲販賣價格取締規則

昭和十三年商工省令第三十一號ステープルフアイバー及ステープルフアイバー絲販賣價格取締規則

昭和十三年商工省令第五十六號物品販賣價格取締規則

昭和十三年商工省令第六十三號人造絹絲販賣價格取締規則

昭和十三年商工省令第七十五號毛絲販賣價格取締規則

昭和十四年商工省令第六十四號朝鮮物品販賣價格取締規則

昭和十三年朝鮮總督府令第二百十八號朝鮮物品販賣價格取締規則

昭和十三年臺灣總督府令第百十四號物品販賣價格取締規則

昭和十三年樺太廳令第六十三號物品販賣價格取締規則

昭和十三年南洋廳令第三十八號南洋群島物品販賣價格取締規則

昭和十四年商工省令第六十三號絹紡絲販賣價格取締規則第一條第二項及第三項ノ規定ヲ除クノ外朝鮮、臺灣、樺太及南洋群島ニ在リテハ昭和十六年九月十日ヨリ之ヲ施行ス

賃金統制令第二十八條ヲ削除ス

價格等統制令第二條第一項但書又ハ第七條第一項但書ノ規定ニ依ル行政官廳ノ許可ニシテ昭和十六年十月十九日ヲ以テ其ノ有效期間ノ滿了スルモノハ昭和十七年四月十八日迄仍其ノ效力ヲ有ス但シ當該行政官廳ガ別段ノ處分ヲ爲シタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

昭和十四年商工省令第六十三號絹紡絲販賣價格取締規則

昭和十三年朝鮮總督府令第二百十八號朝鮮物品販賣價格取締規則

昭和十三年臺灣總督府令第百十四號物品販賣價格取締規則

昭和十三年樺太廳令第六十三號物品販賣價格取締規則

昭和十三年南洋廳令第三十八號南洋群島物品販賣價格取締規則第一條

第二十一條　左ニ掲グル規定ニ依リ農林大臣、商工大臣、朝鮮總督、臺灣總督、樺太廳長官、南洋廳長官、地方長官、朝鮮總督府道知事、臺灣總督府州知事若ハ廳長又ハ南洋廳支廳長ノ爲シタル販賣價格指定又ハ許可ハ第二條第一項但書又ハ第七條第一項ノ規定ニ依リ各相當ノ行政官廳ノ爲シタル價格ノ額ノ指定又ハ許可ト看做ス但シ閣令ヲ以テ別段ノ定ヲ爲スコトヲ得

昭和十四年農林省令第四十二號農林水產物及農林水產業用品販賣價格取締規則第一條

昭和十四年農林省令第四十二號農林水產物及農林水產業用品販賣價格取締規則

昭和十三年商工省令第二十四號絹絲販賣價格取締規則

昭和十三年商工省令第三十一號ステープルフアイバー及ステープルフアイバー絲販賣價格取締規則

昭和十三年商工省令第五十六號物品販賣價格取締規則

昭和十三年商工省令第六十三號人造絹絲販賣價格取締規則

昭和十三年商工省令第七十五號毛絲販賣價格取締規則

〔朝〕

昭和十三年南洋廳令第三十八號南洋群島物品販賣價格取締規則第一條

昭和十三年樺太廳令第六十三號物品販賣價格取締規則第一條

昭和十四年樺太廳令第三十六號皮革配給統制規則第六條

昭和十三年臺灣總督府令第百十四號物品販賣價格取締規則第一條

附　則（昭和十五年勅令第六百七十六號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス但シ第十八條ノ改正規定ハ附則第二項ノ規定ヲ除クノ外朝鮮、臺灣、樺太及南洋群島ニ在リテハ昭和十五年十月二十五日ヨリ之ヲ施行ス

價格等統制令第二條第一項但書又ハ第七條第一項但書ノ規定ニ依ル行政官廳ノ許可ニシテ昭和十五年十月十九日ヲ以テ其ノ有效期間ノ滿了スルモノハ昭和十六年四月十八日迄仍其ノ效力ヲ有ス但シ當該行政官廳ガ別段ノ處分ヲ爲シタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

附　則（昭和十六年勅令第八百四十一號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス但シ第十八條ノ改正規定及附則第二項及第三項ノ規定ヲ除クノ外朝鮮、臺灣、樺太及南洋群島ニ在リテハ昭和十六年九月十日ヨリ之ヲ施行ス

賃金統制令第二十八條ヲ削除ス

價格等統制令第二條第一項但書ノ規定ニ依ル行政官廳ノ許可ニシテ昭和十六年十月十九日ヲ以テ其ノ有效期間ノ滿了スルモノハ昭和十七年四月十八日迄仍其ノ效力ヲ有ス但シ當該行政官廳ガ別段ノ處分ヲ爲シタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

昭和十三年南洋廳令第三十八號南洋群島物品販賣價格取締規則第一條

昭和十三年樺太廳令第六十三號物品販賣價格取締規則第一條

昭和十四年樺太廳令第三十六號皮革配給統制規則第六條

昭和十三年臺灣總督府令第百十四號物品販賣價格取締規則第一條

昭和十三年南洋廳令第三十八號南洋群島物品販賣價格取締規則第一條

〔朝〕

附　則（昭和十五年勅令第六百七十六號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス但シ第十八條ノ改正規定ハ附則第二項ノ規定ヲ除クノ外朝鮮、臺灣、樺太及南洋群島ニ在リテハ昭和十五年十月二十五日ヨリ之ヲ施行ス

價格等統制令第二條第一項但書又ハ第七條第一項但書ノ規定ニ依ル行政官廳ノ許可ニシテ昭和十五年十月十九日ヲ以テ其ノ有效期間ノ滿了スルモノハ昭和十六年四月十八日迄仍其ノ效力ヲ有ス但シ當該行政官廳ガ別段ノ處分ヲ爲シタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

附　則（昭和十六年勅令第八百四十一號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス但シ第十八條ノ改正規定及附則第二項及第三項ノ規定ヲ除クノ外朝鮮、臺灣、樺太及南洋群島ニ在リテハ昭和十六年九月十日ヨリ之ヲ施行ス

賃金統制令第二十八條ヲ削除ス

價格等統制令第二條第一項但書ノ規定ニ依ル行政官廳ノ許可ニシテ昭和十六年十月十九日ヲ以テ其ノ有效期間ノ滿了スルモノハ昭和十七年四月十八日迄仍其ノ效力ヲ有ス但シ當該行政官廳ガ別段ノ處分ヲ爲シタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

昭和十四年朝鮮總督府令第三十一號（昭和十二年法律第九十二號第二條ノ規定ニ依ル皮革ノ配給統制ニ關スル件）第八條ノ二

昭和十三年臺灣總督府令第八十四號皮革配給統制規則第五條

●價格等統制令施行規則

昭和十四年十月二十七日
朝鮮總督府令第百八十三號

改正　昭和一四年一二月第二二七號、一五年五月第一三一號、一〇月第二二二號、一六年九月第二四一號、一七年一月第六號、五月第一四五號、六月第一六〇號

價格等統制令施行規則左ノ通定ム

價格等統制令施行規則

第一條　價格等統制令（以下單ニ統制令ト稱ス）第二條第一項但書、第四條ノ二但書、第四條ノ四第一項但書又ハ第七條第一項但書ノ申請ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ限リ之ヲ爲スコトヲ得

一　關東州、滿洲及支那以外ノ地ニ輸出セラルルコト明カナル物ヲ賣買スルトキ

二　輸入價格ノ昂騰特ニ著シキ輸入品ヲ賣買スルトキ

三　其ノ他已ムヲ得ザル事由アルトキ

前項ノ許可ハ價格等ノ支拂者又ハ受領者ノ何レカ一方ニ於テ之ヲ受クルヲ以テ足ル

第二條　前條ノ申請ヲ爲サントスル者ハ氏名又ハ名稱、住所又ハ主タル事務所ノ所在地及業務ノ種類竝ニ左ニ揭グル事項ヲ記載シタル申請書ヲ朝鮮總督（朝鮮總督特ニ定メタルトキハ道知事）ニ提出スベシ

一　前條第一項第一號ノ場合ニ於テハ其ノ物ノ名稱、品種、數量及輸出セラルルコトヲ明カナラシムル事項竝ニ價格等ノ支拂者ガ申請ヲ爲ス場合ニ在リテハ買受先、豫定買受價格其ノ他ノ豫定買受條件、豫定販賣先及豫定販賣價格其ノ他ノ豫定販賣條件、價格等ノ受領者ガ申請ヲ爲ス場合ニ在リテハ販賣先及豫定販賣價格其ノ他ノ豫定販賣條件

二　前條第一項第二號ノ場合ニ於テハ其ノ輸入品ノ名稱、品種及數量竝ニ價格等ノ支拂者ガ申請ヲ爲ス場合ニ在リテハ買受先及豫定買受價格其ノ他ノ豫定買受條件、價格等ノ受領者ガ申請ヲ爲ス場合ニ在リテハ買受先、豫定買受價格其ノ他ノ豫定買受條件、販賣先及豫定販賣價格其ノ他ノ豫定販賣條件

三　前條第一項第三號ノ場合ニ於テハ前二號ニ準ズル事項及已ムヲ得ザル事由ノ詳細

第三條　統制令第二條第三項ノ規定ニ依リ指定期日ニ於ケル價格ノ額ヲ定ムルコト左ノ如シ

一　季節品ニ付テハ最近ノ季節ノ市場價格又ハ之ニ準ズルモノニ付一般物價ノ變動ヲ參酌シタルモノ

二　新製品ニ付テハ之ニ類似スル物ノ指定期日ニ於ケル市場價格又ハ之ニ準ズルモノニ付原價ノ差異ヲ參酌シタルモノ

三　前各號ニ揭グル物以外ノ物ニ付テハ指定期日ニ於ケル市場價格又ハ之ニ準ズルモノ

前項ノ規定ハ物以外ノモノノ價格、運送賃、保管料、損害保險料、賃貸料及加工賃ノ額ニ付之ヲ準用ス

第三條ノ二　統制令第二條第三項但書ノ指示ハ朝鮮總督（朝鮮總督特ニ定メタルトキハ道知事）之ヲ爲ス

第三條ノ三　第三條第一項及前條ノ規定ハ統制令第四條ノ三ノ規定ニ依リ同令第二條第三項ノ規定ヲ準用スル場合ニ付之ヲ準用ス

第四條　統制令第三條第一項又ハ第四條ノ四第一項ノ規定ニ依ル認可ノ申請ハ左ニ揭グル區別ニ依リ朝鮮總督又ハ道知事ニ之ヲ爲スベシ

一　數道又ハ全鮮ヲ地區トスル組合其ノ他之ニ準ズルモノニ在リテハ朝鮮總督

二　道又ハ其ノ一部ヲ地區トスル組合其ノ他之ニ準ズルモノニ在リテハ道知事

前項ニ揭グル組合其ノ他之ニ準ズルモノニシテ朝鮮總督ノ指定シタルモノニ付テハ前項各號ノ規定ニ拘ラズ朝鮮總督ノ定ムル行政官廳ニ申請スベシ

第五條　前條ノ申請ヲ爲スニハ左ニ揭グル事項ヲ記載シタル申請書ヲ提出スベシ

一　組合其ノ他之ニ準ズルモノノ名稱及地區

二　構成員タル資格

三　統制令第二條第二項若ハ第三項ノ額ニ代ルベキ額又ハ同令第四條ノ四第一項ノ規定ニ依リ認可ヲ爲シタル額及其ノ實施ノ日

四　認可ニ附シタル制限又ハ條件

第八條　統制令第三條第二項又ハ第四條ノ四第三項ノ處分ハ同條第一項ノ認可ヲ爲シタル朝鮮總督又ハ道知事處分ノ旨及前條各號ニ揭グル事項ヲ公示スルコトニ依リ之ヲ爲ス

第九條　統制令第四條ノ規定ニ依ル處分ハ朝鮮總督又ハ道知事價格等ノ受領者ニ對シ左ノ事項ヲ通知スルニ依リ之ヲ爲ス

一　價格等ノ引下後ノ額

二　引下實施ノ日

前項ノ規定ハ統制令第四條ノ三ノ規定ニ依リ同令第四條ノ規定ヲ準用スル場合ニ付之ヲ準用ス

第十條　統制令第二條乃至第四條ノ規定ハ左ニ揭グル價格等ニハ之ヲ適用セズ

一　財團、營業及無體財產權ノ價格及賃貸料

二　書畫骨董ノ價格

一　數道又ハ全鮮ヲ地區トスル組合其ノ他之ニ準ズルモノニ在リテハ朝鮮總督

二　道又ハ其ノ一部ヲ地區トスル組合其ノ他之ニ準ズルモノニ在リテハ道知事

前項ニ揭グル組合其ノ他之ニ準ズルモノニシテ朝鮮總督ノ指定シタルモノニ付テハ前項各號ノ規定ニ拘ラズ朝鮮總督ノ定ムル行政官廳ニ申請スベシ

第五條　前條ノ申請ヲ爲スニハ左ニ揭グル事項ヲ記載シタル申請書ヲ提出スベシ

一　組合其ノ他之ニ準ズルモノノ名稱及地區

二　構成員タル資格

三　統制令第二條第二項若ハ第三項ノ額ニ代ルベキ額又ハ同令第四條ノ四第一項ノ規定ニ依リ認可ヲ爲シタル額及其ノ實施ノ日

四　認可ニ附シタル制限又ハ條件

第六條　統制令第二條第一項但書、第四條ノ二但書、第四條ノ四第一項但書若ハ第七條第一項但書ノ許可又ハ同令第三條第一項、第四條ノ四第一項若ハ第六條ノ二第一項ノ認可ニハ制限又ハ條件ヲ附スルコトアルベシ

第七條　朝鮮總督又ハ道知事統制令第三條第一項又ハ第四條ノ四第一項ノ認可ヲ爲シタルトキハ左ノ事項ヲ公示ス

一　組合其ノ他之ニ準ズルモノノ名稱及地區

二　構成員タル資格

三　統制令第二條第二項若ハ第三項ノ額ニ代ルベキ額又ハ同令第四條ノ四第一項ノ規定ニ依リ認可ヲ爲シタル額及其ノ實施ノ日

四　認可ニ附シタル制限又ハ條件

第八條　統制令第三條第二項又ハ第四條ノ四第三項ノ處分ハ同條第一項ノ認可ヲ爲シタル朝鮮總督又ハ道知事處分ノ旨及前條各號ニ揭グル事項ヲ公示スルコトニ依リ之ヲ爲ス

第九條　統制令第四條ノ規定ニ依ル處分ハ朝鮮總督又ハ道知事價格等ノ受領者ニ對シ左ノ事項ヲ通知スルニ依リ之ヲ爲ス

一　價格等ノ引下後ノ額

二　引下實施ノ日

前項ノ規定ハ統制令第四條ノ三ノ規定ニ依リ同令第四條ノ規定ヲ準用スル場合ニ付之ヲ準用ス

第十條　統制令第二條乃至第四條ノ規定ハ左ニ揭グル價格等ニハ之ヲ適用セズ

一　財團、營業及無體財產權ノ價格及賃貸料

二　書畫骨董ノ價格

三　鮮魚介類(冷凍魚介類及鰻ヲ除ク)生蔬菜及生果實ノ價格
四　家畜ノ價格及賃貸料竝ニ家禽及立木竹ノ價格
五　輸出品タル綿絲及輸出品ノ原料若ハ材料ニ用フル綿絲(關東州、滿洲及支那向ノモノヲ除ク)ノ價格
六　生絲(玉絲及野蠶絲ヲ除ク)及繭(玉繭及屑繭ヲ除ク)ノ價格

第十一條　統制令第六條第二項ノ規定ニ依リ法令ヲ定ムルコト左ノ如シ

藥品及藥品營業取締令
明治四十五年制令第二十四號(鐵道、輕便鐵道及軌道ノ營業ニ關スル件)
朝鮮鐵道運輸規程(明治四十五年朝鮮總督府令第百十八號)
朝鮮輕便鐵道令
朝鮮水先令
朝鮮阿片取締令
朝鮮私設鐵道令
瓦斯事業取締規則(大正九年朝鮮總督府令第九十號)
紅蔘專賣令
朝鮮煙草專賣令
朝鮮度量衡令
航空法
朝鮮河川令
朝鮮農業倉庫業令
煙草賣捌規則(昭和六年朝鮮總督府令第九十七號)
移出米穀倉庫營業補助規則(昭和六年朝鮮總督府令第百四十九號)
朝鮮電氣事業令
朝鮮自動車交通事業令
石油業法
朝鮮麻藥取締令
臨時船舶管理法
朝鮮重要肥料業統制令
朝鮮臨時肥料配給統制令
人造石油製造事業法
製鐵事業法
昭和十二年法律第九十二號(輸出入品等ニ關スル臨時措置ニ關スル法律)
航空機製造事業法
朝鮮道路令
輕金屬製造事業法
電力調整令
朝鮮小運送業令
朝鮮米穀配給調整令
金屬類回收令
朝鮮蠶絲業統制令
海運統制令
朝鮮鹽專賣令
鹽賣捌規則(昭和十七年朝鮮總督府令第百五十八號)

第十一條ノ二　統制令第六條ノ二第一項ノ規定ニ依ル物ノ價格等ノ指定ハ物ノ性質、機能、構造等ニ鑑ミ其ノ價格等ニ付同令第七條第一項ノ規定ニ依リ一般的ニ額ノ指定ヲ爲スヲ著シク不適當又ハ困難ト認メラルルモノニ限リ之ヲ爲スモノトス

前項ノ物ノ價格等ノ指定ハ告示ニ依リテ之ヲ爲ス

第十一條ノ三　統制令第六條ノ二第一項ノ認可ハ朝鮮總督之ヲ爲ス

第十一條ノ四　統制令第六條ノ二第一項ノ規定ニ依ル認可ノ申請ヲ爲サントスル者ハ氏名又ハ名稱、住所又ハ主タル事務所ノ所在地及業務ノ種類

竝ニ左ニ掲グル事項(物ノ價格以外ノ場合ニ在リテハ之ニ準ズル事項)ヲ記載シタル申請書ヲ朝鮮總督ニ提出スベシ

一　其ノ物ノ名稱、品種、構造、機能其ノ他其ノ物ノ特質ヲ明カニスル事項
二　販賣先、販賣數量、豫定販賣價格其ノ他ノ豫定販賣條件
三　豫定販賣價格見積ノ根據

第十二條　統制令第七條ノ規定ニ依ル額ノ指定ハ朝鮮總督之ヲ爲スモノトス但シ朝鮮總督ニ於テ道知事ガ額ノ指定ヲ爲スベキ旨ヲ定メタルモノニ付テハ道知事額ノ指定ヲ爲スモノトス

第十三條　統制令第七條ノ規定ニ依ル額ノ指定ハ告示ニ依リテ之ヲ爲ス但シ軍機保護上告示ヲ不適當トスルモノニ付テハ價格等ノ受領者ニ對スル通知ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

第十四條　統制令第十一條第一項ノ行政官廳ハ朝鮮總督又ハ道知事トス

同條第二項ノ證票ハ別記様式ニ依ル

第十五條　統制令第十二條第三號ニ掲グル價格等ハ左ニ掲グルモノトス

一　私設保税工場設置ノ特許ヲ受ケタル者ニシテ明治四十四年朝鮮總督府令第八十六號第三條ノ規定ニ依リ輸出振興ノ爲特許手數料ヲ減額セラレタルモノガ其ノ目的ノ爲ニ當該保税工場ノ作業ニ使用スル物品ノ買入價格
二　金地金、金ノ合金、金ヲ主タル材料トスル物及朝鮮産金令ノ含金鑛産物ノ價格竝ニ金資金特別會計法ニ依リ金資金ヲ運用スル場合ノ物ノ價格
三　國營ノ鐵道、軌道及自動車竝ニ其ノ附帶ノ業務ニ關スル運送賃、保管料、賃貸料、修繕料、荷役請負料、作業料、手數料、使用料其ノ他ノ料金
四　統制令施行地以外ノ地相互間(關東州、滿洲及支那ノ各地相互間ヲ除ク)ニ於ケル運送ノ運送賃
五　統制令施行地以外ノ地ヘ支拂ヒ又ハ統制令施行地以外ノ地ヨリ受領スル保險料(統制令施行地ト關東州、滿洲又ハ支那トノ間ニ運送ニ對スル貨物ノ保險又ハ航海ニ對スル船舶ノ保險ノ保險料ヲ除ク)及統制令施行地以外ノ地(關東州、滿洲及支那ヲ除ク)相互間ノ運送ニ對スル貨物ノ保險又ハ航海ニ對スル船舶ノ保險ノ保險料
五ノ二　損害保險料以外ノ保險料
六　再保險料
七　日本船舶ニ非ザル船舶ノ賃貸料(期間傭船料ヲ含ム)及運航手數料
八　昭和十三年朝鮮總督府令第百六十一號(昭和十二年法律第九十二號第一條ニ依ル命令ノ件)第二條ノ二ノ規定ニ依リ調整機關ガ輸出ヲ爲ス場合ニ於ケル調整機關ノ買取價格及輸出價格竝ニ調整機關ガ輸出ノ委託ヲ爲ス場合ニ於ケル調整機關ノ受領價格及受託者ノ輸出價格

第十六條　第二條第一項、第五條又ハ第十一條ノ四ノ規定ニ依リ提出スベキ申請書及之ニ添附スベキ書類ハ各二通ヲ提出スベシ

第十七條　朝鮮總督又ハ道知事必要アリト認ムルトキハ價格等ノ支拂者ノ受領者又ハ組合其ノ他之ニ準ズルモノヲ指定シ其ノ第二條第一項、第五條又ハ第十一條ノ四ノ規定ニ依リ提出スベキ申請書及之ニ添附スベキ書類ニ關シ別段ノ指示ヲ爲スコトヲ得

朝鮮總督必要アリト認ムルトキハ價格等ノ支拂者若ハ受領者又ハ組合其

ノ他之ニ準ズルモノヲ指定シ本令ニ定ムルモノノ外必要ナル書類ノ提出ヲ命ズルコトヲ得

第十八條　本令ニ於テ朝鮮總督、朝鮮總督又ハ道知事、道知事トアルハ陸上運送賃竝ニ陸上運送ニ直接關聯スル保管料、賃貸料、荷役請負料、作業料、手數料、使用料及運送業者又ハ運送取扱業者ノ荷送料ニ關スル事項ニ付テハ第四條第一項第一號ノ場合ヲ除クノ外軌道事業ニ在リテハ朝鮮總督、旅客自動車運輸事業及事業區間ヲ定ムル貨物自動車運送事業ニ在リテハ朝鮮總督又ハ鐵道局長、私設鐵道事業及小運送業ニ在リテハ鐵道局長、旅客自動車運送事業、事業區間ヲ定メザル貨物自動車運送事業其ノ他ノ陸上運送事業ニ在リテハ主タル事業地ヲ管轄スル道知事トス但シ第十四條ノ場合ニ於テ軌道事業ニ在リテハ鐵道局長、旅客自動車運輸事業、旅客自動車運送事業、事業區間ヲ定ムル貨物自動車運送事業及事業區間ヲ定メザル貨物自動車運送事業ニ在リテハ朝鮮總督、鐵道局長又ハ道知事、其ノ他ノ陸上運送事業ニ在リテハ道知事トス

本令ニ於テ朝鮮總督、朝鮮總督又ハ道知事、道知事トアルハ船舶ノ價格、賃貸料、運航手數料及修繕料、船舶ノ賣買、賃貸又ハ運航委託ノ斡旋手數料、水上運送賃竝ニ水上運送ニ直接關聯スル保管料、賃貸料、荷役請負料、作業料、手數料、使用料及運送業者又ハ運送取扱業者ノ荷造料ニ關スル事項ニ付テハ總噸數五百噸未滿ノ船舶ノ賣買價格、賃貸料(期間傭船料ヲ含ム)、運航手數料及運送賃、船舶ノ修繕料竝ニ水上運送ニ直接關聯スル保管料、賃貸料、荷役請負料、作業料、手數料、使用料及運送業者又ハ運送取扱業者ノ荷造料ニ在リテハ遞信局長、其ノ他ニ在リテハ朝鮮總督トス但シ專ラ湖川ヲ航行スル船舶及總噸數二十噸未滿ノ船舶(艀船、曳船及總噸數五噸以上ノ運送船ヲ除ク)ノ賣買價格、賃貸料、運送賃及賣買、賃貸又ハ運航委託ノ斡旋手數料竝ニ總噸數五噸未滿ノ船舶ノ製造價格及修繕料ニ在リテハ道知事トス

第十九條　前條第一項ノ規定ニ依リ朝鮮總督ニ提出スベキ書類ハ鐵道局長ヲ、同條第二項ノ規定ニ依リ朝鮮總督ニ提出スベキ書類ハ遞信局長ヲ經由スベシ

前項ニ定ムル場合ヲ除クノ外本令ニ依リ朝鮮總督ニ提出スベキ書類ハ明治四十三年朝鮮總督府令第五號ノ規定ニ拘ラズ直接朝鮮總督府ニ差出スベシ

前項ノ場合ニ於テハ其ノ寫ヲ道知事ニ提出スベシ

附　則

本令ハ價格等統制令施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス(昭和十四年十月二十七日ヨリ施行)

別記樣式(用紙ノ大サハ日本標準規定B列八番ニ依ルモノトス)

表　面

第　　　號

價格等統制令ニ基ク臨檢檢查證

官　　氏　　名

當該官廳印

年　　月　　日交付

當　該　官　廳

(淡　紅　色)

裏　面

國家總動員法第三十一條　政府ハ國家總動員上必要アルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ報告ヲ徵シ又ハ當該官吏ヲシテ必要ナル場所ニ臨檢シ業務ノ狀況若ハ帳簿書類其ノ他ノ物件ヲ檢查セシムルコトヲ得

國家總動員法第四十二條　第三十一條ノ規定ニ依ル當該官吏ノ檢查ヲ拒ミ、妨ゲ又ハ忌避シタル者ハ六月以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

價格等統制令第十一條　行政官廳必要アリト認ムルトキハ國家總動員法第三十一條ノ規定ニ依リ生産、販賣、運送、保管、賃貸、損害保險、加工若ハ修繕料等ニ對スル給付ニ關シ報告ヲ徵シ又ハ當該官吏ヲシテ工場、事業場、販賣所、倉庫、事務所其ノ他ノ場所ニ臨檢シ業務ノ狀況若ハ帳簿書類其ノ他ノ物件ヲ檢查セシムルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ當該官吏ヲシテ臨檢檢查セシムル場合ニ於テハ其ノ身分ヲ示ス證票ヲ携帶セシムベシ

●原價計算規則

昭和十七年十月十五日
朝鮮總督府令第二百五十八號

原價計算規則左ノ通定ム

原價計算規則

第一條　價格等統制令第十條又ハ會社經理統制令第三十六條第一項ノ規定ニ依ル原價計算ニ關シテハ本令ノ定ムル所ニ依ル

第二條　原價計算ノ準則ハ別冊製造工業原價計算要綱ニ基キ業種別又ハ業種ノ經營規模別ニ朝鮮總督之ヲ定メ告示ス

原價計算ニ關シ提出セシムベキ報告書類ノ樣式ハ前項ノ規定ニ依ル準則毎ニ朝鮮總督之ヲ定メ告示ス

第三條　朝鮮總督原價計算ヲ爲スベキ事業主ノ範圍及原價計算ヲ開始スベキ期日ヲ指定シタルトキハ當該事業主ハ前條第一項ノ規定ニ依ル準則ニ基キ原價計算ヲ爲スベシ但シ朝鮮總督ノ許可ヲ受ケタルトキハ原價計算ノ開始ノ期日ヲ延期スルコトヲ得

第四條　事業主前條ノ規定ニ依リ原價計算ヲ爲サントスルトキハ第二條第一項ノ規定ニ依ル準則ニ基キ原價計算ノ實施手續ヲ定メ原價計算開始ノ期日迄ニ之ヲ朝鮮總督ニ提出スベシ

朝鮮總督必要アリト認ムルトキハ前項ノ原價計算ノ實施手續ノ變更ヲ命ズルコトヲ得

第五條　本令ニ依ル原價計算ニ關シ朝鮮總督ニ提出スベキ書類ハ各二通ヲ作成シ明治四十三年朝鮮總督府令第五號ノ規定ニ拘ラズ直接之ヲ朝鮮總督府ニ差出スベシ

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

(別冊)

製造工業原價計算要綱

第一章　總則

第一　原價計算ノ目的

本要綱ニ依ル原價計算ハ製造工業ニ於ケル正確ナル原價ヲ計算シ以テ適正ナル價格ノ決定及經營能率ノ增進ノ基礎タラシムルコトヲ目的トス

第二　原價(總原價)

本要綱ニ於テ原價トハ製品（半製品及部分品ヲ含ム以下同ジ）ノ生産（修理又ハ加工ヲ含ム以下同ジ）及販賣ノ爲ニ製品ノ一定單位ニ關シテ費消セラルル經濟價値ヲ謂フ

第三　原價計算

本要綱ニ於テ原價計算トハ原價ヲ構成スル要素（以下原價要素ト稱ス）ヲ製品ノ一定單位ニ付計算スル手續ヲ謂フ

原價計算ハ原價ヲ其ノ實際ニ付計算スルモノトス但シ必要アル場合ニハ原價ノ一部ヲ豫定ヲ以テ計算スルコトヲ得豫定ハ過去ノ實績ヲ基礎トシ且將來ノ豫想等ヲ考慮シテ之ヲ適正ニ行フ

原價ノ一部ヲ豫定ヲ以テ計算スル場合ニ於テ原價計算期末ニ生ズベキ實際額ト豫定額トノ差額ハ之ヲ原價計算外ノ損益トシテ處理スルモ其ノ差額ハ一年又ハ一事業年度ヲ通算シテ之ヲ僅少ナラシムルコトニ努ムルモノトス

第四　原價計算ノ期間

原價計算ノ期間ハ一月トス但シ業種ニ依リ已ムヲ得ザル場合ニハ其ノ期間ヲ延長スルコトヲ得

第五　原價ノ構成

原價ハ原則トシテ之ヲ製造原價ト一般管理及販賣費トニ區分ス製造原價トハ製品ノ生産ニ關シテ費消セラルル價値ヲ謂ヒ一般管理及販賣費トハ事業全體ノ管理及製品ノ販賣ニ關シテ費消セラルル價値ヲ謂フ

製造原價又ハ一般管理及販賣費ヲ構成スル要素ハ第六、第七、第十一、第十五、第二十ニ定ムル分類ノ區分ニ依ルモ業種及經營規模ニ依リ適當ノ變更ヲ加フルコトヲ得但シ同一ノ業種ニ屬スル事業ニシテ經營規模ノ同一ナルモノニ在リテハ已ムヲ得ザル場合ヲ除クノ外區分及名稱ハ之ヲ統一スルモノトス

第二章　原價要素

第一節　製造原價ノ要素

第六　製造原價ノ要素

製造原價ハ之ヲ材料費、勞務費及經費ニ區分ス

材料費トハ製品ノ生産ニ關シテ費消セラルル物品ノ價値ヲ謂ヒ勞務費トハ製品ノ生産ニ關シテ費消セラルル勞働給付ノ價値ヲ謂ヒ經費トハ製品ノ生産ニ關シテ消費セラルル價値ニシテ材料費及勞務費ヲ除キタルモノヲ謂フ

第一款　材料費

第七　材料費ノ分類

材料費ハ之ヲ左ノ原價要素ニ區分ス

一　主要材料費（主要原料費）
主要材料費トハ製品ノ生産ニ關シテ直接ニ費消セラレ製品ノ基本的實體トナリテ再現スル物品ノ價値ヲ謂フ

二　部分品費
部分品費トハ其ノ儘製品ニ取付ケラレ其ノ組成部分トナル物品ノ費消價値ヲ謂フ

三　補助材料費
補助材料費トハ燃料、藥品、油類、雜品（釘、螺旋等）等製品ノ生産ニ關シテ補助的ニ費消セラルル物品ノ價値ヲ謂フ

四　消耗工具器具備品費

消耗工具器具備品費トハ耐用年數一年未滿又ハ相當價額未滿ノ工具、器具及備品ノ費消價値ヲ謂フ

五　事務用消耗品費
事務用消耗品費トハ用紙、文房具其ノ他事務用ニ費消セラルル消耗品ノ價値ヲ謂フ

第八　材料消費量ノ計算

材料消費量ノ計算ハ繼續記錄法ニ依ル繼續記錄法トハ出庫ノ都度其ノ數量ヲ材料ノ種類毎ニ記錄シ消費量ヲ計算スル方法ヲ謂フ

材料ニシテ其ノ消費量ヲ繼續記錄法ニ依リテ計算シ難キモノ又ハ其ノ必要ナキモノニハ棚卸計算法ヲ適用スルコトヲ得棚卸計算法トハ定期ニ材料ノ種類毎ニ實地棚卸ヲ行ヒ棚卸量ヲ繰越量及買入量ノ合計ヨリ差引キテ當該期間ノ消費量ヲ綜括的ニ計算スル方法ヲ謂フ

材料ニシテ其ノ消費量ガ製品ノ生産量ニ略比例シテ增減スルモノニ付テハ逆計算法ヲ適用スルコトヲ得逆計算法トハ製品ノ一定單位ニ要スル材料ノ標準消費量ヲ定メ製品ノ生産量ヨリ逆ニ材料ノ消費量ヲ推定計算スル方法ヲ謂フ

第九　材料ノ購入原價

材料ノ購入原價ハ材料ノ買入代價ニ買入手數料、引取運賃、荷役費、保險料、關稅等買入ニ要シタル引取費用ヲ加算シタルモノトス但シ輕微ナル引取費用ハ之ヲ經費トシテ處理スルコトヲ得

材料購入ニ際シテ割引、値引又ハ割戻ヲ受ケタルトキハ原則トシテ之ヲ材料ノ購入原價ニ算入セズ

材料ノ購入事務、檢收、整理、選別、手入、保管等ニ要シタル費用ハ之ヲ材料ノ購入原價ニ算入セズ但シ業種ニ依リ必要アル場合ニハ材料ノ購入原價ニ算入スルコトヲ得

第十　材料ノ消費價格

材料ノ消費價格ハ購入材料ニ在リテハ實際ノ購入原價ヲ以テ計算シ自家生産材料ニ在リテハ實際ノ製造原價ヲ以テ計算ス

同種材料ヲ異ル價格ヲ以テ購入シタル場合ニハ其ノ消費價格ハ左ノ方法ニ依リテ計算ス

一　繼續記錄法ニ在リテハ原則トシテ買入順法又ハ移動平均價格法ニ依リテ計算ス買入順法トハ購入材料ヲ購入口別ニ區分シ購入日附早キ口ノ單價ヲ該口ノ數量ノ盡クル迄其ノ材料ノ消費價格トシテ採用スル方法ヲ謂ヒ移動平均價格法トハ單價ノ相違スル材料ヲ購入スル毎ニ加重平均單價ヲ算出シ之ヲ材料ノ消費價格トシテ採用スル方法ヲ謂フ

二　棚卸計算法又ハ逆計算法ニ在リテハ平均購入原價ヲ以テ計算ス同種ノ自家生産材料ニシテ其ノ製造原價ノ異ル場合ニハ其ノ消費價格ノ計算ハ前項ニ準ズ

材料ノ消費價格ハ必要アル場合ニハ一定期間ニ適用セラルベキ豫定價格ヲ以テ計算スルコトヲ得

第二款　勞務費

第十一　勞務費ノ分類

勞務費ハ之ヲ左ノ原價要素ニ區分ス

一　賃金
賃金ハ基本賃金ノ外加給金（時間外其ノ他ノ割增賃金）ヲ含ム

二　給料

三　雜給

雜給トハ人夫賃其ノ他之ニ準ズルモノヲ謂フ

第十二　消費賃金ノ計算

消費賃金ハ原則トシテ作業時間又ハ作業量（出來高）ニ賃率ヲ乗ジテ之ヲ計算ス作業時間、作業量及賃率ノ計算ハ左ノ方法ニ依ル

一　作業時間又ハ作業量ハ出勤票、作業時間報告書又ハ出來高報告書ニ依リ計算ス

二　賃率ハ時間拂賃金制度ニ在リテハ實際ノ平均賃率ニ依リ出來高拂賃金制度ニ在リテハ實際ノ出來高賃率ニ依ル平均賃率ハ一部門又ハ一職場ニ於ケル一定時間ノ賃金總額ヲ同一期間ノ作業時間總數ヲ以テ除シ計算ス

消費賃金ハ必要アル場合ニハ豫定ヲ以テ計算スルコトヲ得

第十三　從業員賞與手當

從業員賞與手當（退職金ヲ含ム以下同ジ）ハ之ヲ經費トシテ處理ス但シ業種ニ依リ必要アル場合ニハ勞務費ニ算入スルコトヲ得

第十四　勞務副費

從業員募集費、從業員訓練費、災害扶助費、退職給與引當金等從業員ノ管理及福利ニ關スル費用ハ之ヲ勞務費ニ算入セズ但シ災害扶助費、退職給與引當金等ハ業種ニ依リ必要アル場合ニハ勞務費ニ算入スルコトヲ得

第三款　經費

第十五　經費ノ分類

製造原價ヲ構成スル經費ハ之ヲ左ノ原價要素ニ區分ス

一　從業員賞與手當

二　災害扶助費、退職給與引當金等

災害扶助費、退職給與引當金等ニシテ工場ノ從業員ニ對スルモノヲ謂フ

三　厚生費

工場從業員ノ醫務衛生、保健、慰安、修養等ノ爲ニ支拂フ費用ヲ謂フ

四　福利施設負擔額

學校、病院等福利施設ヲ獨立會計ト爲シタル場合ニ於ケル工場ノ負擔額ヲ謂フ

五　減價償却費

イ　建物減價償却費

ロ　構築物減價償却費

ハ　機械裝置減價償却費

ニ　船舶減價償却費

ホ　車輛運搬具減價償却費

ヘ　工具器具備品減價償却費

ト　特許權、實用新案權、意匠權等減價償却費

チ　試驗研究費、試作費減價償却費

六　地代家賃

工場ノ敷地及建物ノ賃借料ヲ謂フ

七　機械裝置運搬具等賃借料

八　特許權使用料

九　保險料

工場ノ建物、機械、貯藏物品等ノ火災保險料其ノ他ノ損害保險料ヲ謂フ

〔朝二〕

十　支拂修繕料

自家保險料ハ支拂保險料ニ相當スル金額ノ限度ニ於テ之ヲ經費トス

十一　支拂電力料

十二　支拂瓦斯代

十三　支拂水道料

十四　支拂運賃

十五　支拂保管料

十六　租税課金

地税及同附加税、家屋税及同附加税、車輛税等ノ租税及公共的出費タル課金ニシテ工場ニ賦課セラルルモノハ之ヲ經費トス

十七　旅費交通費

十八　通信費

十九　交際費

交際費（接待費及機密費ヲ含ム以下同ジ）ハ種類及金額ニ於テ正常ノモノニ限ル

二十　棚卸減耗費

棚卸減耗費ハ正常ノモノニ限ル棚卸減耗費トハ材料、半製品、部分品等ノ保管又ハ運搬中ニ生ズル破損、腐敗、漏洩、蒸發、變質等ニ因ル減耗費ヲ謂フ

二十一　仕損費

仕損費ハ正常ノモノニ限ル

仕損ガ補修ニ依リテ恢復セラルル時ハ之ニ要スル費用ヲ仕損費トス

仕損品ガ賣却價値又ハ利用價値ヲ有スル場合ニハ其ノ見積金額ヲ仕損品ノ原價ヨリ控除シタルモノヲ仕損費トス

二十二　外注加工賃

外注加工賃ハ之ヲ經費トス但シ材料費ト併セテ之ヲ主要材料費又ハ部分品費トシテ處理スルコトヲ妨ゲズ外注加工賃トハ他人ニ材料ヲ供給シテ加工セシメ半製品又ハ部分品トシテ之ヲ引取ル場合ニ於ケル支拂加工賃ヲ謂フ

二十三　雜費

工場ガ第三章第一節第一款ニ定ムル補助部門費計算ヲ爲ス場合ニハ經費ハ概ネ之ヲ前項第一號乃至第二十三號ニ掲グル要素ニ區分ス

工場ガ第三章第一節第一款ニ定ムル補助部門費計算ヲ爲サザル場合ニハ動力發生、用水、運搬、材料ノ購入及保管、修繕、檢査、從業員募集、從業員訓練、福利施設、試驗研究等ニ關スル特別ノ費用トシテ容易ニ捕捉シ得ル諸原價要素ヲ複合シテ動力費、用水費、運搬費、材料保管費、修繕費、檢査費、從業員募集費、從業員訓練費、福利費、試驗研究費等ノ複合費ヲ設定シ之ヲ第一項第一號乃至第二十三號ニ掲グル經費要素ト共ニ經費ノ分類中ニ加フルコトヲ得例ヘバ動力用燃料費、動力係員ノ給料及賃金、買入動力費等ヲ複合シテ動力費ヲ設定シ修繕用材料費、修繕作業係員ノ給料及賃金、支拂修繕料等ヲ複合シテ修繕費ヲ設定シ從業員募集係員ノ給料、募集旅費、募集手數料等ヲ複合シテ從業員募集費ヲ設定スルガ如シ

複合費ヲ設定スル場合之ニ複合セラルル諸原價要素ハ同一業種ニ在リテハ之ヲ統一スルモノトス

〔朝二〕

第十六　減價償却費

減價償却費ハ左ノ各號ノ定ムル所ニ依リ之ヲ計算ス

一　減價償却トハ經常ノ減價償却ヲ意味シ固定資產ノ原價、耐用年數及殘存價額ヲ測定シ當該固定資產ノ原價ヲ每期繼續的ニ減額シ以テ投下資本ノ回收ヲ爲スコトヲ謂フ

二　減價償却ヲ爲スベキ固定資產ノ種類ハ概ネ左ノ如シ

イ　建物

建物トハ建物ノ外廻房、冷房、照明、通風等ノ建物附屬設備ヲ含ム

ロ　構築物

構築物トハ船渠、橋梁、岸壁、棧橋、軌道、貯水池等ノ土地ニ定着スル土木的設備ヲ謂フ

ハ　機械裝置

機械裝置トハ機械及裝置ノ外コンベヤ、ホイスト、起重機等ノ搬送設備ヲ含ム

ニ　船舶

船舶トハ貨物船、機帆船、艀、曳船等ノ水上運輸機關ヲ謂フ

ホ　車輛運搬具

車輛運搬具トハ鐵道車輛、自動車、牽引車等ノ陸上運輸機關ヲ謂フ

ヘ　工具器具備品

工具器具備品トハ耐用年數一年以上ニシテ相當價額以上ノ工具、器具及備品ヲ謂フ

ト　特許權、實用新案權、意匠權等

三　建物、機械裝置、工具器具備品其ノ他ノ有形固定資產ノ減價償却ハ其ノ取得又ハ製作ニ要シタル實際ノ原價ヲ基礎トシテ之ヲ爲ス組立費、基礎工事費、諸稅等有形固定資產ノ取得又ハ製作ニ要シタル正當ノ附帶費用ハ其ノ原價ニ算入スルモノトス

改造又ハ修繕ニ因リ有形固定資產ノ效用又ハ耐用年數ヲ增加シタルトキハ其ノ增加ノ限度ニ於テ改造又ハ修繕ニ要シタル費用ノ一部又ハ全部ヲ有形固定資產ノ原價ニ算入ス

建設助成金ヲ受入レタルトキハ其ノ金額ヲ有形固定資產ノ原價ヨリ控除ス

建設利息ハ固定資產ノ原價ニ算入セズ

四　特許權、實用新案權、意匠權等ハ有償ニテ取得又ハ特別ノ費用ヲ支出シテ創設シタル場合ニ限リ之ヲ固定資產ニ計上シ其ノ原價ヲ基礎トシテ減價償却ヲ爲ス

前項ノ無形固定資產ノ原價ハ有償ニテ取得シタル場合ニハ買入代價ニ取得ニ要シタル費用ヲ算入シタルモノトシ特別ノ費用ヲ支出シテ創設シタル場合ニハ之ニ要シタル諸費用ヲ合計シタルモノトス

五　固定資產ハ各物件別ニ原價ヲ計算シ其ノ原價ヲ基礎トシテ各物件別ニ減價償却ヲ爲ス但シ各物件別ニ計算シ難キ場合ニハ諸物件ヲ一括シテ減價償却ヲ爲スコトヲ得

六　固定資產ノ耐用年數ハ別ニ定ムル固定資產耐用年數表ニ依ル

七　耐用年數經過後ニ於ケル固定資產ノ殘存價額ハ殘存資產ノ種類、用途ヲ考慮シテ之ヲ定ム

八　減價償却ハ定額法ニ依ル但シ業種ニ依リ必要アルトキ又ハ固定資產ノ性質上之ニ依リ難キトキハ定率法ニ依ルコトヲ得

〔朝二〕

九　器具及備品ニシテ減價償却ノ困難ナルモノニ付テハ取替法ヲ以テ減價償却ニ代フルコトヲ得

十　過去ノ期間ニ償却スベカリシ減價ニシテ未償却ノモノハ之ヲ將來ノ減價償却費ニ計上セズ原價計算外ノ損失トシテ處理ス

十一　不慮ノ災害又ハ豫期シ得ザル經濟事情ノ激變ニ因リ固定資產ニ著シキ減價ヲ生ジタル場合ノ特別償却ハ之ヲ原價計算外ノ損失トシテ處理ス

第十七　試驗研究及試作ニ關スル費用

試驗研究及試作ニ關スル費用ニシテ經常ノ性質ヲ有スルモノハ之ヲ當該期間ノ費用トス

新技術採用ノ爲ニ支出シタル試驗研究又ハ試作ニ關スル費用ハ之ヲ繰延ベ固定資產ニ計上スルコトヲ得

項ノ場合ニ於テハ第十六ニ定ムル所ニ依リ其ノ償却ヲ爲ス

第十八　修繕ニ關スル費用

建物、機械、裝置等ノ修繕ニ關スル費用ハ修繕維持ノ程度ニ限リ之ヲ當該期間ノ費用トス

第二節　一般管理及販賣費ノ要素

第十九　一般管理及販賣費

一　前般管理及販賣ニ關スル費用ハ之ヲ一括シ一般管理及販賣費トシテ處理ス但シ一般管理費ト販賣費トニ區別シテ處理スルコトヲ得

第二十　一般管理及販賣費ノ分類

一　一般管理及販賣費ハ之ヲ左ノ原價要素ニ區分ス

一　役員報酬

取締役、監査役其ノ他ノ役員ニ對スル報酬（雜給與ヲ含ム）ヲ謂フ個人事業ニ於ケル事業主報酬ハ適當ナル額ヲ見積リテ之ヲ原價ニ算入スルモノトス

二　給料賃金

一　般管理及販賣事務ニ從事スル從業員ノ給料及賃金ヲ謂フ

三　從業員賞與手當

一　般管理及販賣事務ニ從事スル從業員ノ賞與及手當ヲ謂フ

四　退職給與引當金等

退職給與引當金ニシテ一般管理及販賣事務ニ從事スル從業員ニ對スルモノヲ謂フ

五　厚生費

一　般管理及販賣事務ニ從事スル從業員ノ醫務衞生、保健、慰安、修養等ノ爲ニ支拂フ費用ヲ謂フ

六　福利施設負擔額

學校、病院等福利施設ヲ獨立會計ト爲シタル場合ニ於ケル一般管理及販賣部ノ負擔額ヲ謂フ

七　減價償却費

一　般管理及販賣事務用ノ建物、備品其ノ他ノ固定資產ノ減價償却費ヲ謂フ

八　地代家賃

一　般管理及販賣事務用ノ土地及建物ノ賃借料ヲ謂フ

九　保險料

一　般管理及販賣事務用ノ建物、備品等ノ火災保險料其ノ他ノ損害保險

料ヲ謂フ

十　修繕費

一般管理及販賣事務用ノ建物、備品等ノ修繕費ヲ謂フ但シ修繕維持ノ程度ニ限ル

十一　照明費、煖房費、冷房費

一般管理及販賣事務用ノ照明、煖房、冷房等ノ費用ヲ謂フ

十二　租稅課金

租稅ハ製造原價ニ計上セラルル租稅、固定資產ノ原價ニ算入セラルル租稅、所得稅、法人資本稅、臨時利得稅等ヲ除キタル營業ニ關係アル租稅ヲ謂ヒ課金ハ商工會議所費、組合醵出金其ノ他ノ營業ニ關係アル課金ニシテ製造原價ニ算入セラレザルモノヲ謂フ

十三　旅費交通費

一般管理及販賣事務ニ關スル旅費及交通費ヲ謂フ

十四　通信費

一般管理及販賣事務ニ關スル通信費ヲ謂フ

十五　消耗工具器具備品費

一般管理及販賣事務用ノ消耗工具器具備品費ヲ謂フ

十六　事務用消耗品費

一般管理及販賣事務用ノ事務用消耗品費ヲ謂フ

十七　交際費

交際費ハ種類及金額ニ於テ正常ノモノニ限ル

十八　保管費

十九　運送費

製品ノ發送其ノ他運送ニ關スル費用ヲ謂フ

二十　納入試驗費

二十一　販賣手數料

委託販賣等ノ場合ニ於ケル手數料ヲ謂フ

二十二　販賣調査費

二十三　廣告宣傳費

廣告宣傳費ハ種類及金額ニ於テ正常ノモノニ限ル

二十四　雜費

第三節　原價ニ算入シ得ザル項目

左ニ揭グルモノハ之ヲ原價ニ算入スルコトヲ得ズ

一　火災、風水害、盜難等ニ因ル損失、偶發債務ニ因ル損失、訴訟費其ノ他偶發的事情ニ因ル損失

二　設立費償却、營業權償却、建設利息償却、役員ノ賞與及臨時的退職手當、役員及社員ノ臨時ノ給與、所得稅、法人資本稅竝ニ臨時利得稅、寄附金、贈與其ノ他利益ヲ以テ支辨スベキ性質ヲ有スル項目

三　投資不動產、長期出資、長期貸付金等ノ管理費用及此等ノ資產ニ對スル諸稅、投資資產賣却損其ノ他事業本來ノ目的ニ在ラズシテ利殖、統制其ノ他ノ目的ヲ以テ長期ニ亙リ所有スル資產ニ關スル費用又ハ損失

四　擴張用ノ土地、建物、機械、裝置、建設用材料、特許權等ノ取得、建設又ハ管理ノ費用及此等ノ資產ニ對スル諸稅其ノ他經營擴張ノ爲準備的ニ保有スル資產又ハ建設中ノ設備ニ關スル費用

〔朝二〕

五　未經過保險料、前拂賃借料其ノ他ノ前拂費用

六　財產評價損、貸倒償却又ハ違約金

七　利子竝ニ手形割引料、社債發行差金及發行費償却其ノ他利子ノ性質ヲ有スルモノ

八　前各號ニ揭グルモノノ外法令ニ依リ經費トシテ處理スルコトヲ得ザル費用

第三章　原價計算ノ方法

第一節　製造原價計算

第二十二　製造原價計算ノ手續

製造原價計算ハ製造原價要素ヲ要素別ニ計算シ次ニ之ヲ原價部門ニ集計シ最後ニ製品ノ一定單位ニ負擔セシムル手續ヲ經ルヲ原則トス

第二十三　個別原價計算ト綜合原價計算

製造原價計算ハ之ヲ個別原價計算ト綜合原價計算トニ分ツ

個別原價計算トハ特定ノ製品ニ付個別的ニ其ノ原價ヲ計算スル方法ヲ謂フ種類又ハ規格ヲ異ニスル製品ヲ個別的ニ生產スル工場ニ在リテハ此ノ方法ニ依リ製造原價ヲ計算ス

綜合原價計算トハ一期間ニ於ケル製品全部ノ原價ヲ綜合算定シ次デ之ヲ製品ニ分割シ其ノ原價ヲ計算スル方法ヲ謂フ同種製品ヲ反復繼續シテ大量ニ生產スル工場ニ在リテハ此ノ方法ニ依リ製造原價ヲ計算ス

第二十四　製造原價要素ノ賦課手續上ノ分類

個別原價計算ニ在リテハ原價賦課ノ手續上製造原價要素ハ之ヲ直接費トシ間接費トハ分ツ直接費トニ分ツ直接費トハ特定ノ製品ニ直接ニ負擔セシムル原價要素ヲ謂ヒ直接材料費、直接勞務費及直接經費ニ區分ス間接費トハ多數ノ製品

ニ對シ共通的ニ發生シ特定ノ製品ニ直接ニ負擔セシムルコト困難ナル爲間接ニ負擔セシムル原價要素ヲ謂ヒ間接材料費、間接勞務費及間接經費ヨリ成ル

綜合原價計算ニ在リテモ原價賦課ノ手續上必要アル場合ハ製造原價要素ハ之ヲ個別原價計算ニ準ジテ直接費トシ間接費トニ分ツ

第二款　部門費計算

第二十五　原價部門

製造原價ノ計算ニ在リテハ工場ヲ原價部門ニ分チ部門費計算ヲ爲ス但シ原價計算上補助部門費ノ重要ナラザル工場ニ在リテハ其ノ計算ヲ省略スルコトヲ得

原價部門トハ原價要素ヲ其ノ發生ノ場所ニ從ヒ集計スル計算上ノ區分ヲ謂ヒ必ズシモ生產技術上又ハ職制上ノ部門ニ依リ區分スルコトヲ要セズ

原價部門ハ之ヲ製造部門ト補助部門トニ區分ス

製造部門トハ當該事業ノ目的タル製品ノ生產ノ行ハルル部門ヲ謂フ製造部門ハ作業ノ種別ニ依リ之ヲ各種ノ部門ニ區分ス例ヘバ機械工業ニ於ケル鑄造部、鍛造部、機械部、組立部等又ハ鐵鋼業ニ於ケル骸炭部、製銑部、鋼塊部、鍛造部、壓延部等ノ如シ

補助部門トハ製造部門ニ對シテ補助的關係ニアル部門ヲ謂ヒ之ヲ補助經營部門ト工場管理部門トニ區分ス

補助經營部門トハ當該事業ノ目的タル製品ノ生產ニ直接關與セズ自己ノ製品又ハ生產的用役ヲ製造部門ニ提供スル部門ヲ謂ヒ之ヲ動力部、用水部、修繕部、運搬部、檢查部、工具製作部等ニ細分ス

工場管理部門トハ材料又ハ勞務ノ管理、企畫、設計其ノ他工場ノ管理事

〔朝二〕

務ヲ管掌スル部門ヲ謂ヒ之ヲ材料部(材料購買部及倉庫部)、工具管理部、勞務部、福利部、企畫設計部、試驗研究部、工場事務部等ニ細分ス

製造部門及補助部門ニ屬スル各部門ハ業種、經營規模及生産樣式ノ實情ニ依リ適當ニ之ヲ定ム但シ同一ノ業種ニ屬スル工場ニシテ經營規模及生産樣式ノ同一ナルモノニ在リテハ已ムヲ得ザル場合ヲ除クノ外之ヲ統一スルモノトス

第二十六　部門費計算ノ手續

部門費計算ハ左ノ手續ニ依ル

一　總テノ製造原價要素又ハ一部ノ製造原價要素ヲ製造部門及補助部門ニ屬スル各部門ニ賦課又ハ配賦ス

二　次デ總テノ補助部門費又ハ一部ノ補助部門費ヲ製造部門ニ配賦シ以テ製造部門費ヲ計算ス

工具製作部ハ部門費計算上製造部門ニ屬セシムルコトヲ得

第二十七　部門個別費ト部門共通費

製造原價要素ハ部門配賦手續上之ヲ部門個別費ト部門共通費トニ分ツ

部門個別費トハ特定ノ部門ニ個別的ニ發生シ當該部門ニ賦課スル原價要素ヲ謂フ

例ヘバ特定部門ノ補助材料費、賃金、機械及裝置ノ減價償却費、特許權使用料等ノ如シ

部門共通費トハ數個ノ部門ニ共通的ニ發生シ各部門ニ配賦スル原價要素ヲ謂フ例ヘバ建物減價償却費、建物火災保險料、家賃、地代、租税、旅費、通信費等ノ如シ

部門個別費ハ各部門ニ於ケル發生額ヲ當該部門ニ賦課ス

部門共通費ハ各原價要素ニ付各部門ガ享クル用役ニ應ジ部門ノ面積、容積、從業員數、勞働時間數、生産數量、賃金額、固定資産ノ價額其ノ他適當ナル配賦基準ニ依リ各部門ニ配賦ス配賦基準ハ各原價要素ニ付之ヲ定ム但シ金額大ナラズ且正確ヲ要スル程度ノ小ナル場合ニハ類似科目ヲ一括シテ定ムルコトヲ得配賦基準ハ同一ノ業種ニ屬スル工場ニシテ經營規模ノ同一ナルモノニ在リテハ已ムヲ得ザル場合ヲ除クノ外之ヲ統一スルモノトス

第二十八　補助部門費配賦

補助部門費ノ製造部門ヘノ配賦ハ原則トシテ左ノ方法ニ依ル

一　直接配賦法

直接配賦法ニ在リテハ各補助部門間ニ授受スル用役ハ之ヲ全ク無視シ總テノ補助部門費又ハ一部ノ補助部門費ヲ其ノ用役ヲ享ケタル製造部門ニ用役ノ程度ニ應ジテ直接ニ配賦ス

直接配賦法ノ第一法ハ原則トシテ總テノ補助部門費ヲ製造部門ニ直接ニ配賦スル方法トス

此ノ場合製造部門ヘノ配賦基準ハ左ノ如シ

イ　動力部費　計量器ニ依リ測定シタル各製造部門ノ動力消費量、各製造部門据付機械ノ馬力數又ハ馬力時間數其ノ他適當ナル配賦基準

ロ　用水部費　計量器ニ依リ測定シタル各製造部門ノ用水消費量其ノ他適當ナル配賦基準

ハ　修繕部費　修繕作業ノ單價ヲ基礎トシテ計算シタル各製造部門ノ修繕額其ノ他適當ナル配賦基準

ニ　運搬部費　各製造部門ニ於ケル運搬物品ノ重量、運搬距離、運搬

回數其ノ他適當ナル配賦基準

ホ　檢査部費　各製造部門ニ於ケル檢査工ノ作業時間其ノ他適當ナル配賦基準

ヘ　材料部費　各製造部門ヘノ出庫材料ノ價額、重量其ノ他適當ナル配賦基準

ト　勞務部費又ハ福利部費　各製造部門ノ賃金、從業員數其ノ他適當ナル配賦基準

學校、病院等ノ施設ハ原則トシテ之ヲ獨立會計トシ之ニ對スル工場ノ負擔額ヲ福利部費ニ計上ス

チ　試驗研究部費、企畫設計部費又ハ工場事務部費　各製造部門ノ直接勞働時間數其ノ他適當ナル配賦基準

直接配賦法ノ第二法ハ補助經營部門費ヲ原則トシテ直接ニ製造部門ニ配賦シ工場管理部門費ヲ直接ニ製品ニ配賦スル方法トス補助經營部門費ノ製造部門ヘノ配賦基準ハ前項ニ定ムル配賦基準ニ依ル

二　階梯式配賦法

階梯式配賦法ニ在リテハ補助部門相互間ニ授受スル用役ヲ比較シ最モ多數ノ部門ヘ用役ヲ提供スルモノノ順位ニ從ヒ補助部門ヲ階梯式ニ配列シ此ノ順位ニ從ヒ先ヅ第一順位ニ在ル補助部門ノ部門費ヲ其ノ用役ヲ享ケタル他ノ補助部門及製造部門ニ其ノ享ケタル用役ノ程度ニ應ジテ配賦シ次ニ第二順位ニアル補助部門ノ部門費ヲ其ノ用役ヲ享ケタル第三順位以下ノ補助部門及製造部門ニ其ノ享ケタル用役ノ程度ニ應ジテ配賦シ此ノ計算ヲ繰返スコトニ依リ補助部門費ヲ最終部門タル製造部門ニ配賦シ了ルモノトス

各補助部門費ノ配賦基準ハ直接配賦法ニ定ムル配賦基準ニ依ル

三　相互配賦法

相互配賦法ニ在リテハ補助部門相互間ニ授受スル用役ヲ測定シ先ヅ各補助部門ノ部門費ヲ其ノ用役ヲ享ケタル他ノ補助部門及製造部門ニ用役ノ程度ニ應ジテ配賦シ次デ各補助部門ガ他ノ補助部門ヨリ配賦セラレタル額ヲ製造部門ニ直接ニ配賦ス配賦基準ハ直接配賦法ニ定ムル配賦基準ニ依ル

補助部門費ハ實際額ヲ配賦ス但シ事情ニ依リ動力部費、用水部費、修繕部費等ハ當該用役ノ豫定價格ヲ以テ配賦スルコトヲ得

補助部門費ノ配賦方法及配賦基準ハ業種、經營規模及生産樣式ノ實情ニ依リ適當ニ之ヲ定ム但シ同一ノ業種ニ屬スル工場ニシテ經營規模及生産樣式ノ同一ナルモノニ在リテハ已ムヲ得ザル場合ヲ除クノ外之ヲ統一スルモノトス

第二款　個別原價計算

第二十九　製造指圖書及原價計算表

種類又ハ規格ヲ異ニスル製品ヲ個別的ニ生産スル工場ニ在リテハ製品ノ一定單位毎ニ製造指圖書ヲ發行シ各指圖書別ニ原價計算表(原價元帳)ヲ設ケテ製造原價ヲ計算ス

一製造指圖書ニ依ル生産ヲ數個ノ作業ニ區分シテ製造原價ヲ計算スル場合ニハ各區分作業ニ對シテ副指圖書ヲ發行シ製造原價ハ先ヅ副指圖書毎ニ計算シ更ニ之ヲ主指圖書ニ綜括ス

第三十　製造原價ノ集計

個別原價計算ニ在リテハ直接費ハ之ヲ各指圖書ニ賦課シ間接費ハ原價計

算期間ニ於ケル金額ヲ集計シ指圖書ニ配賦ス

間接費配賦ヲ爲ス場合ニ於テ部門費計算ヲ爲ス場合ニハ原則トシテ製造間接費要素ヲ先ヅ各部門ニ配賦シ次デ總テノ補助部門費又ハ一部ノ補助部門費ヲ製造部門ニ配賦シ最後ニ各製造部門費又ハ各製造部門費及製造部門ニ配賦セラレザル補助部門費ヲ指圖書ニ配賦ス

部門費計算ヲ爲サザル場合ニハ間接費ハ之ヲ直接ニ指圖書ニ配賦ス

第三十一　間接費ノ指圖書ヘノ配賦

間接費配賦ヲ爲ス場合ニ於テ部門費計算ヲ爲ス場合ニハ各製造部門ニ集計セラレタル間接費ハ之ヲ當該製造部門ヲ通過スル指圖書ニ配賦ス其ノ配賦基準ハ直接勞働時間ニ依ル但シ機械作業ヲ主トスル場合ニハ機械作業時間ニ、材料費又ハ賃金ガ製造原價ノ主タル部分ヲ占ムル場合ニハ直接材料費又ハ直接賃金ニ依ルコトヲ得部門費計算ヲ爲ス場合ニ於テ一部ノ補助部門費ヲ製造部門ニ配賦セズシテ直接ニ指圖書ニ配賦スル場合ニハ其ノ各々ニ付適當ナル基準ヲ定メテ之ヲ配賦ス例ヘバ材料部費ハ各指圖書ノ直接材料費ヲ、勞務部費又ハ福利部費ハ各指圖書ノ直接賃金又ハ直接勞働時間ヲ、企畫設計部費、試驗研究部費又ハ工場事務部費ハ各指圖書ニ集計セラレタル製造原價ヲ夫々配賦基準ト爲スガ如シ

間接費ヲ配賦スル場合ニ於テ部門費計算ヲ爲サザル場合ニハ間接費要素ヲ一括シ又ハ間接費要素ヲ其ノ性質ニ依リ數個ノ群ニ分類シ夫夫適當ノ基準ニ依リ指圖書ニ配賦ス

間接費ノ配賦ハ豫定率ニ依ル

間接費ノ配賦方法及配賦基準ハ同一ノ業種ニ屬スル工場ニシテ經營規模ノ同一ナルモノニ在リテハ已ムヲ得ザル場合ヲ除クノ外之ヲ統一スルモノトス

第三十二　作業屑

作業屑ハ其ノ賣却價額又ハ利用價額ヲ見積リ之ヲ直接材料費又ハ製造原價ヨリ控除ス但シ必要アル場合ニハ之ヲ其ノ發生部門ノ部門費ヨリ控除スルコトヲ得

第三款　綜合原價計算

第三十三　綜合原價計算ノ種類

綜合原價計算ハ之ヲ左ノ種類ニ分ツ

一　單一工程綜合計算

單一工程綜合計算ハ同種ノ製品ヲ單一工程ニ依リ連續的ニ生産スル生産樣式ニ適用スルモノニシテ原價計算期間ニ於ケル總製造費用ヲ集計シテ其ノ綜合原價ヲ計算スル方法ヲ謂フ

二　工程別綜合計算

工程別綜合計算ハ同種ノ製品ヲ數個ノ工程ニ依リ連續的ニ生産スル生産樣式ニ適用スルモノニシテ原價計算期間ニ於ケル總製造費用ヲ工程別ニ集計シテ各工程ノ綜合原價ヲ計算スル方法ヲ謂フ

工程トハ第二十五ニ定ムル製造部門ヲ謂ヒ原則トシテ製造過程ニ於テ販賣又ハ貯藏ノ可能ナル半製品ノ形成セラルル段階毎ニ之ヲ定ム工程ハ原價計算上必要アル場合ニハ更ニ作業ノ段階ニ應ジテ之ヲ數個ノ工程ニ細分ス

材料(原料)ガ各工程ヲ通過シ各工程ニ於テハ之ニ加工ヲ爲スニ過ギザル生産樣式ニ在リテハ加工費工程別綜合計算(加工費法)ヲ適用ス加工費工程別綜合計算トハ總製造費用ノ中加工費ノミヲ工程別ニ集計シ

テ各工程ノ加工費ヲ計算シ主要材料費ハ直接ニ製品ニ付計算スル方法ヲ謂フ

三　組別綜合計算

組別綜合計算ハ異種ノ製品ヲ組別ニ連續的ニ生産スル生産樣式ニ適用スルモノニシテ原價計算期間ニ於ケル總製造費用ヲ組別ニ集計シ各組ノ綜合原價ヲ計算スル方法ヲ謂フ

第三十四　綜合原價ノ計算

綜合原價計算ニ在リテハ綜合原價計算表ヲ設ケ原價計算期間ニ於ケル綜合原價ヲ計算ス

部門費計算ヲ爲ス場合ニハ先ヅ總テノ製造原價要素若ハ主要材料費ヲ除キタル製造原價要素又ハ製造間接費要素ヲ各部門ニ賦課又ハ配賦シ次デ補助部門費ヲ製造部門(工程)ニ配賦シ以テ製造部門ノ總製造費用又ハ總加工費ヲ計算ス

單一工程綜合計算ニ在リテハ總製造費用ニ期始繰越仕掛品原價ヲ加ヘ之ヨリ期末仕掛品原價、副産物價額等ヲ控除シタルモノヲ以テ其ノ綜合原價トス

工程別綜合計算ニ在リテハ各工程ノ總製造費用ニ其ノ工程ノ期始繰越仕掛品原價ヲ加ヘ之ヨリ其ノ工程ノ期末仕掛品原價、副産物價額等ヲ控除シタルモノヲ以テ當該工程ノ綜合原價トス第二次工程以下ノ工程ノ總製造費用ニハ前工程ヨリ振替ヘラレタル半製品ノ製造原價ヲ材料費トシテ算入ス

加工費工程別綜合計算ニ在リテハ各工程ノ當期ノ總加工費ニ前期繰越仕掛品中ニ含マルル當該工程ノ加工費ヲ加ヘ之ヨリ期末仕掛品中ニ含マルル當該工程ノ加工費ヲ控除シタルモノヲ以テ其ノ工程ノ加工費トス

組別綜合計算ニ在リテハ總製造費用ヲ直接費ト間接費トニ區分シ直接費ハ各組ニ賦課シ間接費ハ個別原價計算ニ準ジ適當ナル配賦基準ニ依リ各組ニ配賦ス各組ノ總製造費用ニ其ノ期始繰越仕掛品原價ヲ加ヘ之ヨリ期末仕掛品原價、副産物價額等ヲ控除シタルモノヲ以テ各組ノ綜合原價トス

第三十五　仕掛品ノ評價

仕掛品トハ原價計算期末ニ於テ製品ノ生産ノ爲ニ仕掛中ノモノヲ謂フ

期末仕掛品原價ハ仕掛品ニ含マルル主要材料費及加工費ヲ各別ニ算定シテ評價ス主要材料費ニ付テハ期末仕掛品ノ數量ヨリ其ノ中ニ含マルル主要原料又ハ材料ノ消費量ヲ推定シテ其ノ價額ヲ算定ス加工費ニ付テハ仕掛品ノ仕上リ程度ノ完成品ニ對スル比率ヲ定メ之ヲ仕掛品現在量ニ乘ジテ仕掛品ノ完成品換算數量ヲ算定シ當期加工費總額ヲ期末仕掛品ノ完成品換算數量ト當期ニ於ケル完成品數量トノ比例ニ依リ仕掛品ト完成品トニ按分シテ仕掛品ノ加工費ヲ算定ス

期末仕掛品原價ハ前項ノ手續ニ依リ評價スルコト困難ナル場合ニハ仕掛品ノ内ニ含マルル主要材料費又ハ勞務費ヲ算定シ評價スルコトヲ得

仕掛品ノ數量ガ毎期略等シキ場合ニハ仕掛品ハ之ヲ原價計算外ニ置クコトヲ得

第三十六　副産物

副産物トハ主産物ノ製造過程ヨリ必然ニ派生スル物品ヲ謂フ

副産物ノ評價額ハ之ヲ主産物ノ製造費用ヨリ控除ス

副産物ノ評價ハ原則トシテ左ノ方法ニ依ル

一　副産物ニシテ其儘外部ニ賣却シ得ルモノハ賣價豫想額ヨリ保管費、販賣費及通常ノ利益ノ見積額ヲ控除シタル額ヲ以テ之ヲ評價ス

二　副産物ニシテ加工ノ上賣却シ得ルモノハ加工製品ノ賣價豫想額ヨリ加工費、販賣費及通常ノ利益ノ見積額ヲ控除シタル額ヲ以テ之ヲ評價ス

三　副産物ニシテ其ノ儘自家消費セラルルモノハ之ニ因リテ節約セラルベキ物品ノ購入豫想價額ヲ以テ之ヲ評價ス

四　副産物ニシテ加工ノ上自家消費セラルルモノハ之ニ因リテ節約セラルベキ物品ノ購入豫想價額ヨリ加工費ノ見積額ヲ控除シタル額ヲ以テ之ヲ評價ス

副産物ノ價額大ナラザルモノハ前項ノ手續ニ依ルヲ要セズ之ヲ賣却シテ得タル收入ハ原價計算外ノ利益ト爲スコトヲ得

作業屑其ノ他ノ不用品ノ處理ハ副産物ニ準ズ

第三十七　等級別製品計算

等級別製品計算ハ同種製品ヲ等級ニ區別シ工程又ハ組別ノ綜合原價ヲ等級別ニ分割シテ各等級製品ノ製造原價ヲ計算スル方法ヲ謂フ

等級別製品計算ニ在リテハ各等級ノ製品ニ付豫メ等價比率ヲ定メ之ヲ各等級製品ノ生産量ニ乘ジタル積數ノ比ヲ以テ綜合原價ヲ按分シ以テ各等級製品ノ製造原價ヲ計算ス

等價比率ハ各等級製品ノ重量、長サ、面積、純分度、熱量、硬度、各等級製品ニ合マルル主要原價要素ノ標準消費量(例ヘバ主要原料ノ標準消費量又ハ標準主要勞働時間)等ノ數量的尺度又ハ標準調査ニ依リ算定シタル製造原價ヲ基準トシ適正ニ決定ス但シ適當ナル數量的尺度又ハ標準調査ニ依リ算定シタル原價ヲ見出スコト困難ナル場合ニハ各等級製品ノ正常市價ヲ基準トシテ等價比率ヲ決定スルコトヲ得

等級別製品計算ハ工程ニ於テ同一原料ヨリ主副ヲ明確ニ區別シ得ザル異種ノ製品即チ聯産品ヲ連續的ニ生産スル生産樣式ニ之ヲ準用ス聯産品ノ等價比率ハ各聯産品ノ正常市價等ヲ基準トシテ之ヲ決定ス聯産品ニシテ加工ノ上賣却シ得ルモノハ加工製品ノ賣價豫想額ヨリ加工費ノ見積額ヲ控除シタルモノヲ以テ其ノ聯産品ノ市價トス

第三十八　綜合原價計算ノ適用

綜合原價計算ノ計算方式ハ同一ノ業種ニ屬スル工場ニシテ經營規模及生産樣式ノ同一ナルモノニ在リテハ已ムヲ得ザル場合ヲ除クノ外之ヲ統一スルモノトス

第二節　一般管理及販賣費ノ計算

第三十九　販賣直接費ト一般管理及販賣間接費

一般管理及販賣費ノ要素ハ之ヲ販賣直接費ト一般管理及販賣間接費トニ分ツ販賣直接費トハ販賣費要素ノ内特定賣上品ノ販賣ニ要シタルモノニシテ當該賣上品ニ直接ニ負擔セシムルモノヲ謂ヒ一般管理及販賣間接費トハ一般管理及販賣費中販賣直接費ヲ除キタルモノヲ謂フ

第四十　一般管理及販賣費ノ配賦

販賣直接費ハ之ヲ當該賣上品ニ賦課ス

一般管理及販賣間接費ハ賣上品ノ製造原價ヲ基準トシテ賣上品ニ配賦シ又ハ製品等ノ製造原價若ハ加工費ヲ基準トシテ製品等ニ配賦ス

一般管理及販賣間接費ノ配賦ハ豫定率ニ依ルコトヲ得

一般管理及販賣間接費ヲ一般管理費ト販賣間接費トニ區別シテ處理スル場合ニハ一般管理費又ハ販賣間接費ノ配賦ニ付テハ前二項ヲ準用ス

一般管理及販賣間接費ハ必要アル場合ニハ原價部門ヲ設ケテ部門費計算ヲ行ヒ次デ賣上品又ハ製品ニ配賦スルコトヲ得

一般管理及販賣費ノ配賦ハ同一ノ業種ニ屬スル事業ニシテ經營規模ノ同一ナルモノニ在リテハ已ムヲ得ザル場合ヲ除クノ外之ヲ統一スルモノトス

第四章　工業會計ノ勘定及帳簿書類

第四十一　工業會計ト原價計算トノ關係

工業會計ハ單ニ外部ニ對スル營業取引ノミナラズ內部ニ於ケル經營活動ヲモ記錄計算スル諸勘定ヲ設ケ原價計算トノ關聯ヲ保ツベキモノトス

第四十二　勘定組織

工業會計ニ於ケル勘定組織ハ左ノ基準ニ依リ分類ス但シ同一ノ業種ニ屬スル事業ニシテ經營規模ノ同一ナルモノニ在リテハ已ムヲ得ザル場合ヲ除クノ外之ヲ統一スルモノトス

一　靜止勘定

靜止勘定トハ原則トシテ事業年度計算ノミニ關スル勘定ニシテ事業年度中ハ特別ノ場合ノ外記帳セラレザルモノヲ謂ヒ固定資産及資本勘定ノ外長期ノ債權及債務勘定ヲ含ム

二　財務勘定

財務勘定トハ現金取引及短期信用取引ニ關スル勘定ヲ謂フ例ヘバ現金、預金、賣上債權、買入債務、短期借入金等ノ勘定之ニ屬ス

三　原價計算外損益勘定

原價計算外損益勘定トハ製品ノ生産及販賣ニ關聯セザル損益要素ニ關スル勘定ヲ謂フ例ヘバ偶發事故ニ因ル損失、財産評價損、貸倒損失、所得稅、法人資本稅、寄附金、利息等ノ勘定之ニ屬ス

四　製造原價要素勘定

製造原價要素勘定トハ製造原價要素ニ關スル勘定ヲ謂フ例ヘバ材料及材料費勘定、賃金勘定、給料勘定、各經費要素ノ勘定之ニ屬ス

五　部門費勘定

部門費勘定トハ部門費ヲ集計スル勘定ヲ謂フ

部門ヲ區別セザル個別原價計算ノ場合ニハ別ニ間接費ヲ集計スル勘定ヲ設ク

六　製造勘定

製造勘定(仕掛品勘定)トハ製造原價ヲ集計スル勘定ヲ謂ヒ工程別綜合計算ニ在リテハ各工程ノ勘定ハ各工程ノ製造原價ヲ集計スル勘定タルモノトス

七　製品勘定

製品勘定トハ製品、仕損品、副産物、作業屑等ノ受拂ヲ整理スル勘定ヲ謂フ

八　一般管理及販賣費要素勘定

一般管理及販賣費要素ニ關スル勘定ヲ謂フ

九　一般管理及販賣間接費勘定

一般管理及販賣間接費要素ヲ集計スル勘定ヲ謂フ

十　差額勘定

材料費、賃金、製造間接費、一般管理及販賣間接費等ノ計算ヲ豫定ニ

依リテ爲ス場合其ノ實際額ト豫定額トノ差額ヲ處理スル勘定ヲ謂フ

十一　賣上品總原價勘定

賣上品總原價勘定トハ賣上製品ノ總原價ヲ集計スル勘定ヲ謂フ

十二　賣上勘定

賣上勘定トハ製品、仕損品、副產物等ノ賣上ニ關スル勘定ヲ謂フ

十三　月次損益勘定

月次損益勘定トハ製品、仕損品、副產物等ノ賣上ニ依ル賣上損益ヲ月次ニ計算スル勘定ヲ謂フ

十四　年次損益勘定

年次損益勘定トハ事業全體ノ損益ヲ年次ニ計算スル勘定ヲ謂フ

第四十三　帳簿書類

原價ニ關シテハ概ネ左記各號ノ帳簿書類ヲ設ケテ之ヲ記錄計算ス但シ帳簿書類ノ分類、記錄內容等ニ付テハ業種、經營規模其ノ他ノ實情ニ依リ適當ニ之ヲ定ム

一　製造命令ニ關スル書類

二　材料及材料費ニ關スル帳簿書類

三　勞務費ニ關スル帳簿書類

四　經費ニ關スル帳簿書類

五　部門費ノ計算ニ關スル帳簿書類

六　製造原價ノ集計ニ關スル帳簿書類

七　製品、仕損品、副產物、作業屑等ニ關スル帳簿書類

八　一般管理及販賣費ニ關スル帳簿書類

九　總原價ニ關スル帳簿書類

〔朝二〕

●地代家賃統制令

昭和十五年十月十九日
勅令第六百七十八號

改正　昭和一七年二月第九八號

朕地代家賃統制令ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

地代家賃統制令

第一條　國家總動員法（昭和十三年勅令第三百十七號ニ於テ依ル場合ヲ含ム以下同ジ）第十九條ノ規定ニ基ク地代及家賃ニ關スル統制ハ本令ノ定ムル所ニ依ル

第二條　本令ニ於テ借地トハ建物所有ノ目的ヲ以テ賃借セラレ又ハ地上權ヲ設定セラレタル土地ヲ謂ヒ借家トハ賃借セラレタル建物（建物ノ一部タル室ヲ含ム）ヲ謂ヒ

第三條　借地又ハ借家ノ貸主（以下單ニ貸主ト稱ス）ハ借地又ハ借家ニ付左ノ各號ニ規定スル地代又ハ家賃ヲ超エテ地代又ハ家賃ヲ定ムルコトヲ得ズ

一　昭和十三年八月四日以後本令施行前ニ地代又ハ家賃アリタルモノニ付テハ本令施行前ニ於ケル最後ノ地代又ハ家賃

二　前號ニ該當セザル場合ニ於テ本令施行後ニ地代又ハ家賃アルニ至リタルモノニ付テハ本令施行後ニ於ケル最初ノ地代又ハ家賃

前項第二號ニ規定スル地代又ハ家賃アルニ至リタルトキハ貸主ハ之ヲ地方長官ニ屆出ヅベシ

第四條　厚生大臣ノ定ムル事由アル場合ニ於テ地方長官ノ許可アリタルトキハ貸主ハ前條第一項各號ニ規定スル地代又ハ家賃ヲ超エテ地代又ハ家賃ヲ定ムルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ定メタル地代又ハ家賃ハ前條第一項及前項ノ規定ノ適用ニ付テハ之ヲ前條第一項各號ニ規定スル地代又ハ家賃ト看做ス

第五條　第三條第一項第二號ニ規定スル地代又ハ家賃ニ付テハ厚生大臣其ノ適正標準ヲ定ム

第六條　地方長官第三條第一項第一號ニ規定スル地代若ハ家賃ガ著シク不當ナリト認ムルトキ又ハ同項第二號ニ規定スル地代若ハ家賃ガ前條ノ適正標準ニ照シ不當ナリト認ムルトキハ貸主ニ對シ地代又ハ家賃ノ減額ヲ命ズルコトヲ得

前項ノ命令ニ依リ減額シタル地代又ハ家賃ハ第三條第一項及第四條第一項ノ規定ノ適用ニ付テハ之ヲ第三條第一項各號ニ規定スル地代又ハ家賃ト看做ス

第七條　貸主地代又ハ家賃ノ定ニ付左ノ各號ノ一ニ該當スル變更ヲ爲サントスルトキハ地方長官ノ許可ヲ受クベシ

一　金納ヲ物納ニ改メ其ノ他確定金額ヲ以テ定ムルモノヲ確定金額以外ノ方法ヲ以テ定メントスルトキ

二　物納ヲ金納ニ改メ其ノ他確定金額以外ノ方法ヲ以テ定ムルモノヲ確定金額其ノ他別途ノ方法ヲ以テ定メントスルトキ

前項ノ許可ヲ受ケテ變更シタル地代又ハ家賃ハ第三條第一項及第四條第一項ノ規定ノ適用ニ付テハ之ヲ第三條第一項各號ニ規定スル地代又ハ家賃ト看做ス

第八條　下宿屋、共同住宅其ノ他之ニ類スル借家ニ付貸主ノ組合其ノ他之ニ準ズルモノ家賃ノ基準及其ノ借家ノ條件ヲ定メ地方長官ノ認可ヲ受ケ

〔朝二〕

ルトハキ第三條第一項及第四條第一項ノ規定ノ適用ニ付テハ其ノ基準及條件ニ依リ定ムル家賃ヲ以テ第三條第一項各號ニ規定スル家賃ト看做ス

第九條　地方長官必要アリト認ムルトキハ第四條第一項若ハ第七條第一項ノ許可又ハ前條ノ認可ニ制限又ハ條件ヲ附スルコトヲ得

第十條　第四條第一項、第七條第一項若ハ第八條ノ規定ニ依ル許可若ハ認可ニ關スル處分又ハ第六條第一項ノ規定ニ依ル命令ニシテ事案ノ重要ナルモノハ地代家賃審査會ノ意見ヲ聽キ之ヲ爲スコトヲ要ス

地代家賃審査會ニ關スル規程ハ別ニ之ヲ定ム

第十一條　地方長官必要アリト認ムルトキハ貸主ニ對シ地代若ハ家賃ニ關スル帳簿ノ作成ヲ命ジ又ハ下宿屋、共同住宅其ノ他之ニ類スル借家ニ付家賃其ノ他ノ條件ヲ借家ノ見易キ箇所ニ掲示スベキコトヲ命ズルコトヲ得

第十二條　地方長官必要アリト認ムルトキハ國家總動員法第三十一條ノ規定ニ依リ借地又ハ借家ニ關シ貸主、貸主ノ組合其ノ他之ニ準ズルモノ若ハ借主ヨリ報告ヲ徵シ又ハ當該官吏ヲシテ日出ヨリ日沒迄ノ間借地、借家其ノ他ノ場所ニ臨檢シ其ノ狀況若ハ借地、借家ノ契約書、帳簿其ノ他ノ物件ヲ檢査セシムルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ當該官吏ヲシテ臨檢檢査セシムル場合ニ於テハ其ノ身分ヲ示ス證票ヲ携帶セシムベシ

第十三條　第三條、第四條、第六條、第九條及第十條ノ規定ハ敷金、修繕費ノ負擔其ノ他地代又ハ家賃以外ノ借地又ハ借家ノ條件ニシテ厚生大臣ノ指定スルモノニ付之ヲ準用ス

第十四條　貸主ハ何等ノ名義ヲ以テスルヲ問ハズ第三條第一項（前條ニ於テ準用スル場合ヲ含ム）ノ規定ニ依ル禁止ヲ免ルル行爲ヲ爲スコトヲ得ズ

第十五條　本令ハ國又ハ道府縣ガ貸主タル借地又ハ借家ニ付テハ之ヲ適用セズ

第十六條　本令中厚生大臣トアルハ朝鮮ニ在リテハ朝鮮總督、臺灣ニ在リテハ臺灣總督、樺太ニ在リテハ樺太廳長官、南洋群島ニ在リテハ南洋廳長官トシ地方長官トアルハ朝鮮ニ在リテハ道知事、臺灣ニ在リテハ州知事又ハ廳長、樺太ニ在リテハ樺太廳長官、南洋群島ニ在リテハ南洋廳長官トシ道府縣トアルハ朝鮮ニ在リテハ道、臺灣ニ在リテハ州又ハ廳、南洋群島ニ在リテハ南洋群島地方費トシ昭和十三年八月四日トアルハ朝鮮ニ在リテハ昭和十三年十二月三十一日、臺灣、樺太及南洋群島ニ在リテハ昭和十四年九月十八日トス

朝鮮、臺灣、樺太及南洋群島ニ在リテハ地代家賃審査會ニ關スル規定ハ之ヲ適用セズ

附　則

第十七條　本令ハ昭和十五年十月二十日ヨリ之ヲ施行ス但シ朝鮮、臺灣、樺太及南洋群島ニ在リテハ昭和十六年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十八條　朝鮮、臺灣、樺太及南洋群島ニ在リテハ昭和十四年勅令第七百四號地代家賃統制令（以下舊令ト稱ス）ハ昭和十六年六月三十日迄其ノ效力ヲ有ス但シ同日以前ニ爲シタル行爲ニ關スル罰則ノ適用ニ付テハ同日後ト雖モ仍其ノ效力ヲ有ス

第十九條　舊令ニ基キテ爲シタル許可、命令又ハ許可申請ハ之ヲ本令ニ基キテ爲シタル許可、命令又ハ許可申請ト看做ス

第二十條　舊令第十三條、第十四條第一項及第十五條ノ規定ハ昭和十五年十月十九日（朝鮮、臺灣、樺太及南洋群島ニ在リテハ昭和十六年六月三十日）後ト雖モ仍其ノ效力ヲ有ス

第二十一條　舊令第十三條ニ規定スル借地又ハ借家ニ付本令施行後地代又ハ家賃ノ回復セラレタル場合ニ於テハ其ノ回復セラレタル地代又ハ家賃ヲ以テ第三條第一項第一號ニ規定スル地代又ハ家賃ト看做ス

第二十二條　本令施行後舊令第十四條第一項ノ裁判、和解又ハ調停ニ依リ增額セラレタル地代又ハ家賃ハ之ヲ第三條第一項第一號ニ規定スル地代又ハ家賃ト看做ス

第二十三條　第六條ノ規定ハ舊令第十四條第一項ノ裁判、和解又ハ調停ニ依リ增額セラレタル地代又ハ家賃ニ付テハ之ヲ適用セズ

第二十四條　前三條ノ規定ハ舊令第十五條ニ規定スル場合ニ付之ヲ準用ス

●地代家賃統制令施行規則

昭和十六年七月一日
朝鮮總督府令第百八十三號

地代家賃統制令施行規則左ノ通定ム

地代家賃統制令施行規則

第一條　地代家賃統制令（以下單ニ令ト稱ス）第三條第二項ノ規定ニ依ル屆出ハ地代又ハ家賃アルニ至リタル日ヨリ十四日以內ニ左ニ掲グル書類及圖面ヲ以テ之ヲ爲スベシ

一　地代屆又ハ家賃屆（樣式第一號）

二　借地ニ在リテハ位置及敷地、借家ニ在リテハ位置、敷地及間取ヲ示ス平面略圖

三　其ノ他參考ト爲ルベキ書類又ハ圖面アルトキハ其ノ書類又ハ圖面

第二條　令第四條第一項ノ事由アル場合トハ左ノ各號ノ一ニ該當スルニ因リ令第三條第一項各號ニ規定スル地代又ハ家賃ガ著シク低額ナリト認メラルル場合トス

一　貸主ニ於テ借地ニ付改良工事ヲ施行シ又ハ借家ニ付增築若ハ改造ヲ

爲シタルトキ

二　借地又ハ借家ニ對スル租稅其ノ他ノ公課ノ增課アリタルトキ

三　下宿屋、共同住宅其ノ他之ニ類スル借家ニ付光熱費、消耗品費等ノ供益費ノ增高スルニ至リタルトキ

四　裸貸ヲ附貸ニ改ムル等借主ノ利益ニ借地又ハ借家ノ條件ヲ改メタルトキ

五　前各號ニ準ズル事情其ノ他特別ノ事由アルトキ

第三條　令第四條第一項ノ許可ノ申請ヲ爲スニハ左ニ揭グル事項ヲ記載シタル許可申請書ヲ提出スベシ

一　申請者ノ氏名及住所又ハ名稱、代表者ノ氏名及主タル事務所ノ所在地（管理人アルトキハ其ノ氏名及住所ヲ併記スルコト）

二　令第三條第一項各號ニ規定スル地代又ハ家賃ヲ超エテ定メントスル地代又ハ家賃

三　增額ノ實施期日

四　增額ヲ爲サントスル事由（第二條第何號ニ該當スル旨ヲ併記スルコト）

前項ノ許可申請書ニハ左ニ揭グル書類及圖面ヲ添附スベシ

一　借地調書又ハ借家調書（樣式第二號）

二　借地ニ在リテハ位置及敷地ヲ、借家ニ在リテハ位置、敷地及間取ヲ示ス平面略圖

三　其ノ他參考ト爲ルベキ書類又ハ圖面アルトキハ其ノ書類又ハ圖面

第四條　令第五條ノ地代ノ適正標準（年分）ハ土地價格ニ道知事ノ定ムル率ヲ乘ジテ得ベキ金額ニ相當スル額ニ依ルモノトス

第五條　土地價格ハ昭和十三年十二月三十一日以前ニ於ケル當該土地ノ最後ノ取得價格トス但シ當該土地ニ付取得價格ナキトキ又ハ其ノ不明若ハ不相當ナルトキハ昭和十三年十二月三十一日現在ニ於ケル道知事ノ評價額トス

第六條　昭和十四年一月一日以後土地ニ付左ノ各號ノ一ニ該當スル事情アルトキハ道知事ハ前條ノ土地價格ヲ修正シタルモノヲ以テ第四條ノ土地價格ト爲スコトヲ得

一　貸主ニ於テ改良工事ヲ施行シタルトキ

二　貸主ニ於テ受益者負擔金ヲ支拂ヒタルトキ

三　貸主ニ於テ借地權利金ヲ徵收シタルトキ

四　道知事ニ於テ土地價格修正ノ必要アリト認ムル事情アリタルトキ

第七條　令第五條ノ家賃ノ適正標準（月分）ハ左ノ各號ノ金額ニ相當スル額ヲ合算シタルモノニ依ルモノトス

一　建物價格ニ道知事ノ定ムル率ヲ乘ジテ得ベキ金額

二　地代又ハ其ノ相當額（月割額）

三　適正ナル火災保險料ニ相當スル額（月割額）

下宿屋、共同住宅其ノ他之ニ類スル借家ニ在リテハ前項ニ規定スル額ニ供益費（月割額）ヲ加算スルモノトス

供益費トハ前項ニ規定スル借家ニ於テ貸主ノ負擔スル電氣、瓦斯及水道ノ料金其ノ他ノ供益施設ニ要スル費用ヲ謂フ

第八條　建物價格ハ左ニ揭グル費額ノ合計額トス

一　主體建築費

二　附屬設備費（電氣、瓦斯、水道、下水溝、門、塀、物置其ノ他建物ノ使用上必要ナル設備ノ費用）

三　造作費（疊、建具等ノ普通ノ造作ノ備附ニ要スル費用）

第九條　貸主ガ借家ニ付權利金（暖簾代ノ性質ヲ有スルモノヲ除ク）ヲ取得セルトキハ前條ノ建物價格ヨリ其ノ額ヲ控除シタルモノヲ以テ第七條第一項第一號ノ建物價格トス

第十條　道知事第四條及第七條第一項第一號ノ率ヲ定メントスルトキハ朝鮮總督ノ認可ヲ受クベシ之ヲ變更セントスルトキ亦同ジ

第十一條　道知事第四條又ハ第七條第一項第一號ノ率ヲ定メタルトキハ左ニ揭グル事項ヲ告示スベシ

一　第四條又ハ第七條第一項第一號ノ率及其ノ適用地域

二　前號ノ率ノ決定ニ付前提トシタル借地又ハ借家ノ條件

三　其ノ他參考ト爲ルベキ事項

第十二條　建物ノ一部タル居室ノ家賃ノ適正標準ハ當該建物ノ家賃ノ適正標準額ニ付全部ノ居室ノ面積ト其ノ一部タル居室ノ面積トノ比率ニ依リ定マル額ヲ基準トス

前項ノ規定ハ建物ノ一部タル室ニシテ居室ニ非ザルモノノ家賃ノ適正標準ニ付之ヲ準用ス

第十三條　令第六條第一項ノ規定ニ依ル減額ノ命令ハ道知事貸主ニ對シ左ノ事項ヲ通知スルニ依リ之ヲ爲ス

一　減額後ノ地代又ハ家賃

二　減額ノ實施期日

第十四條　第三條ノ規定ハ令第七條第一項ノ許可ノ申請ニ付之ヲ準用ス

第十五條　令第八條ノ認可ノ申請ヲ爲スニハ左ニ揭グル事項ヲ記載シタル認可申請書ヲ提出スベシ

一　組合其ノ他之ニ準ズルモノノ名稱及地區

二　組合其ノ他之ニ準ズルモノノ構成員タル資格及構成員ノ數

三　家賃ノ基準及其ノ借家ノ條件竝ニ其ノ實施期日

四　家賃ノ基準及其ノ借家ノ條件ヲ定ムル事由竝ニ其ノ基準及條件ノ根據

前項ノ認可申請書ニハ左ニ揭グル書類及圖面ヲ添附スベシ

一　借家調書（樣式第三號）

二　借家ノ位置、敷地及間取ヲ示ス平面略圖

三　定款又ハ規約ノ寫

四　令第八條ノ認可ノ申請ヲ爲スベキ旨ノ決議書又ハ同意書ノ寫

第十六條　令第十二條第二項ノ證票ハ樣式第四號ニ依ル

第十七條　令第十三條ノ規定ニ依リ令第三條、第四條、第六條及第九條ノ規定ヲ準用スル借地又ハ借家ノ條件ハ敷金、修繕費ノ負擔、疊、建具其ノ他ノ造作ニ要スル費用ノ負擔、下宿屋、共同住宅其ノ他之ニ類スル借家ニ於ケル供益費ノ負擔、地代又ハ家賃ノ支拂條件及借主ノ貸主ニ給付スル權利金、傳貰金其ノ他ノ財產上ノ利益ニ關スル條件トス

第十八條　第三條及第十三條ノ規定ハ令第十三條ニ揭グル地代又ハ家賃以外ノ借地又ハ借家ノ條件ニ關スルモノニ付之ヲ準用ス

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

昭和十四年朝鮮總督府令第百八十四號地代家賃統制令施行規則第四條ノ規定ハ昭和十六年六月三十日後ト雖モ仍其ノ效力ヲ有ス

様式第一號

(イ) 地代屆

地代屆		
借主氏名		
土地	所在地及面積	
	建物ノ用途、構造及建坪	
	昭和十三年十二月三十一日以前ニ於ケル最後ノ取得價格及取得年月日	
	昭和十四年一月一日以後地代家賃統制令施行規則第六條第一號乃至第三號ニ該當スル事情又ハ之ニ準ズル事情ニシテ土地價格ノ修正ニ付考慮セラルベキモノト認メラルル事情アリタルトキハ其ノ事實及金額其ノ他必要ナル事項	
	地目及地價	
	地稅及同附加稅	
地代及借地條件	地代(年額)	地代アルニ至リタル年月日
	敷金	借地權利金
	借地期間 自年月日 至年月日	地代ノ支拂時期及方法
	維持費ノ負擔區分	
	其ノ他ノ特約ニシテ重要ナルモノ	
其ノ他參考トナルベキ事項		

右之通及御屆候

年　月　日

道知事宛

屆出人(貸主)住所　氏　名 印

記載注意

(1) 「建物ノ用途、構造及建坪」ノ欄ニハ「住宅、內地式、木造、二階建、瓦葺、四十坪」ノ如ク記載スルコト

(2) 昭和十三年十二月三十一日以前ニ於ケル取得價格ナキトキハ其ノ不明ナルトキハ該當欄ニ「ナシ」又ハ「不明」ト記載シ「其ノ他參考トナルベキ事項」ノ欄ニ昭和十三年十二月三十一日現在ニ於ケル見積價格ヲ記載スルコト

(3) 昭和十四年一月一日以後地代家賃統制令施行規則第六條第一號、第二號(受益者負擔金ハ其ノ實納額ヲ記載スルモノトス)及第三號ニ該當スル事情又ハ之ニ準ズル事情ナカリシトキハ該當欄ニ「ナシ」ト記載スルコト

(4) 「地價」並ニ「地稅及同附加稅」ノ欄ニハ一筆ノ土地ノ一部ノ借地ニ在リテハ面積ニ按分シテ算出記載スルコト但シ土地ノ狀況其ノ他ニ依リ面積按分ニ依リ難キ事情アルトキハ適當ニ區分シテ算出記載スルコト此ノ場合ニ於テハ面積按分ニ依リ難キ事情ヲ其ノ他參考トナルベキ事項」ノ欄ニ記載スルコト

(5) 「敷金」、「借地權利金」又ハ「其ノ他ノ特約ニシテ重要ナルモノ」ノ欄ニハ該當事項ナキトキハ夫々「ナシ」ト記載スルコト

(6) 「地代ノ支拂時期及方法」ノ欄ニハ「每月末、現金、持參拂」ノ如ク記載スルコト

(7) 「維持費ノ負擔區分」ノ欄ニハ「維持費貸主負擔」又ハ「維持費貸主負擔但シ下水溝渠ノ維持費ハ借主負擔」ノ如ク記載スルコト

(8) 管理人アルトキハ其ノ氏名及住所ヲ「其ノ他參考トナルベキ事項」ノ欄ニ記載スルコト

(ロ) 家賃屆 (イ)(ニ)及(ホ)ヲ揭ゲル借家ニ該當セザル借家ノ樣式ニ依ルモノトス

家賃屆		
借主氏名		
建物	所在地	
	竣功年月日	
	用途及構造	戶建別
	建坪及延坪	敷地面積
	主體建築費	
	附屬設備費	
	計	
	造作費	
	計	
其ノ他	總計	
	家屋稅及同附加稅ノ合計額並ニ其ノ月割額	
	受益者負擔金ヲ支拂ヒタルトキハ其ノ金額及支拂ヒタル年月日	
	地代(月割額)	
	借地權利金ヲ支拂ヒタルトキハ其ノ金額及支拂ヒタル年月日	
	火災保險	保險契約金額
	保險料及其ノ月割額保險料ノ割引アルトキハ其ノ割引額(月割額)	
家賃及借家條件	家賃	家賃アルニ至リタル年月日
	敷金	借家權利金
	修繕費ノ負擔區分	
	家賃ノ支拂時期及方法	
	其ノ他ノ特約ニシテ重要ナルモノ	
其ノ他參考トナルベキ事項		

右之通及御屆候

年　月　日

道知事宛

屆出人(貸主)住所　氏　名 印

記載注意

(1) 「用途及構造」ノ欄ニハ「貸住宅、內地式、木造、二階建、瓦葺」ノ如ク記載スルコト

(2) 「戶建別」ノ欄ニハ「一戶建」又ハ「何戶建」ノ如ク記載スルコト

(3) 「建坪及延坪」ノ欄ニハ附屬設備タル物置等ノ建物ノ建坪及延坪ヲ含メテ記載スルコト

(4) 「附屬設備費」及「造作費」ノ欄ニハ「門何圓」「塀何圓」「疊何圓」ノ如ク內譯ヲ記載スルコト其ノ不明ナルトキハ該當欄ニ「不明」ト記載スルコト

(5) 主體建築費、附屬設備費及造作費ノ區分ノ不明ナルモノニ在リテハ總計ノミヲ記載シ該當欄ハ何レモ「不明」ト記載スルコト

(6) 「家屋稅及同附加稅ノ合計額並ニ其ノ月割額」ノ欄ニハ家屋稅及同附加稅ノ未ダ賦課ナキモノニ在リテハ「ナシ」ト記載スルコト

(7) 「受益者負擔金ヲ支拂ヒタルトキハ其ノ金額及支拂ヒタル年月日」ノ欄ニハ建物ニ付受益者負擔金ノ賦課アリタル場合ニ於ケル其ノ實納額及支拂ヒタル年月日ヲ記載シ之ナキトキハ「ナシ」ト記載スルコト

(8) 「地代」ノ欄ニハ持地上ノ借家ニ在リテハ地代相當ト認ムル額ヲ「地代相當額」トシテ記載スルコトヲ得ルコト

(9) 「借地權利金ヲ支拂ヒタルトキハ其ノ金額及支拂ヒタル年月日」ノ欄ニハ借地權利金ヲ支拂ヒタルコトナキトキハ「ナシ」ト記載スルコト

(10) 火災保險契約ナキトキハ「保險契約會社」及「保險契約金額」ノ欄ニ何レモ「ナシ」ト記載スルコト此ノ場合ニ於テハ「保險料及其ノ月割額」ノ欄ニ附近ノ同種又ハ類似ノ建物ノ普通ノ契約保險料ノ例ニ依リ保險料相當ト認ムル額及其ノ月割額ヲ「保險料相當額及其ノ月割額」トシテ記載スルコトヲ得ルコト

(11) 「敷金」、「借家權利金」又ハ「其ノ他ノ特約ニシテ重要ナルモノ」ノ欄ニハ該當事項ナキトキハ夫々「ナシ」ト記載スルコト

(12) 「修繕費ノ負擔區分」ノ欄ニハ「修繕費貸主負擔」又ハ「修繕費貸主負擔但シ疊、建具ノ修繕費ハ貸主借主折半負擔」ノ如ク記載スルコト

(13) 「家賃ノ支拂時期及方法」ノ欄ニハ「每月末、現金、持參拂」ノ如ク記載スルコト

(14) 全部改築又ハ解體移築ノモノモ在リテハ其ノ旨ヲ「其ノ他參考トナルベキ事項」ノ欄ニ記載スルコト

(15) 植樹、庭園等ノ事情ハ必要アリト認ムルトキハ之ヲ「其ノ他參考トナルベキ事項」ノ欄ニ記載スルコト

(16) 管理人アルトキハ其ノ氏名及住所ヲ「其ノ他參考トナルベキ事項」ノ欄ニ記載スルコト

(二) 家賃届(三)ニ該當スルモノヲ除キ下宿屋、共同住宅其ノ他之ニ類スル借家ハ本様式ニ依ルモノトス)

家賃届

所在地	居室數及其ノ面積
竣功年月日	戸建別
用途及構造	敷地面積
建坪及延坪	建物名稱

建物其ノ他

建物價格	主體建築費	
	附屬設備費	計
	造作費	計
	總計	
家屋税及同附加税ノ合計額並ニ其ノ月割額		
受益者負擔金ヲ支拂ヒタルトキハ其ノ金額及支拂ヒタル年月日		
地代(月割額)		
借地權利金ヲ支拂ヒタルトキハ其ノ金額及支拂ヒタル年月日		
火災保險	保險契約會社	保險契約金額
	保險料及其ノ月割額保險料ノ割引アルトキハ其ノ割引額(月割額)	

室料及借家條件

一館總計ノ室料月額			
內譯	純室料		
	供益費	費目	所要金額	備考
		計		
敷金				
修繕費ノ負擔區分				
室料ノ支拂時期及方法				
其ノ他ノ特約ニシテ重要ナルモノ				
室料アルニ至リタル年月日				

其ノ他參考トナルベキ事項

右之通及御届候

年　月　日

道知事宛

届出人(貸主)住所　氏　名　印

備考　本届ニハ左ノ様式ニ依ル「各室々料調書」ヲ添附スルコト

各室々料調書

階	室名	坪數(疊數)	室料	室名	坪數(疊數)	室料
一階						
二階						
何階						

(注意)
(イ)室名ハ別ニ添附セル間取ヲ示ス平面略圖ト符合スルヲ要スルコト
(ロ)室料ハ何圓以内又ハ疊一枚當何圓ト記載スルコトヲ得ルコト

〔四〕

記載注意

(1)「一館總計ノ室料月額」ノ「內譯」ノ「純室料」ノ欄ニハ一館總計ノ室料月額ヨリ供益費ノ割額ヲ控除シタル額ヲ記載スルコト

(2)「供益費」ノ欄ニハ貸主ノ負擔スル供益ニ要スル費用ノ費目及所要金額(月割額)ヲ記載シ備考ニ於テ其ノ説明ヲ加フルコト

(記載例)

費目	所要金額	備考
電氣料	圓錢	共同部分電氣料
瓦斯代	圓錢	共同部分瓦斯代
水道料	圓錢	全館ノ水道料
浴場費	圓錢	隔日使用
計	圓錢	

(3) 供益ニ要スル費用ノ全部又ハ一部ヲ室料ト別途ニ徴收スルモノニ在リテハ「室料ノ支拂時期及方法」ノ欄ニ「毎月末現金拂但シ室ノ電氣料及瓦斯代ハ別途徴收」ノ如ク記載スルコト

(4) 一室居住者ノ數ニ依リ室料ヲ增減スル定其ノ他之ニ類スル特別ノ定アルモノハ之ヲ「其ノ他參考トナルベキ事項」ノ欄ニ記載スルコト

(5) 其ノ他様式第一號(ロ)ノ記載注意ニ同ジ

(二) 家賃届(三室以下ノ貸室ノ借家ハ本様式ニ依ルモノトス)

家賃届

建物	所在地	
	用途及構造	戸建別
	建坪及延坪	敷地面積
間代	室名	坪數(疊數)	收容人員	間代
	間代アルニ至リタル年月日			

其ノ他參考トナルベキ事項

右之通及御届候

年　月　日

道知事宛

届出人(貸主)住所　氏　名　印

記載注意

(1) 一室居住者ノ數ニ依リ間代ヲ增減スル定其ノ他之ニ類スル特別ノ定アルモノハ之ヲ其ノ他參考トナルベキ事項」ノ欄ニ記載スルコト

(2) 賄付間貸ニシテ間代ト賄料トヲ區分セザルモノニ在リテハ其ノ區分セザル額ヲ「間代」ノ欄ニ記載スルト共ニ賄付間代ナル旨ヲ「其ノ他參考トナルベキ事項」ノ欄ニ記載スルコト

(3) 當該建ガ借家ナルトキハ其家賃及借家ノ條件ヲ「其ノ他參考トナルベキ事項」ノ欄ニ記載スルコト

(4) 其ノ他様式第一號(ロ)ノ記載注意(1)乃至(3)ニ同ジ

(ホ) 家賃届　傳貰借家ハ本様式ニ依ルモノトス)

家賃届		
借主氏名		所在地
土地及建物	敷地面積	昭和十三年十二月三十一日以前ニ於ケル最後ノ取得價格及取得年月日
	建物竣功年月	建物ノ用途及構造
	建物ノ建坪及延坪	戸建別
	建物價格	
傳貰金及其ノ他ノ條件	傳貰金額	傳貰金アルニ至リタル年月日
	修繕費ノ負擔區分	
	其ノ他ノ特約ニシテ重要ナルモノ	
其ノ他參考トナルキ事項		

右之通及御届候

年　月　日

届出人(貸主)住所　氏　名㊞

道知事宛

備考　建物ヲ數部分ニ區分シテ其ノ全部若ハ一部ヲ傳貰スル場合ニ於テハ左ノ様式ニ依ル各區分傳貰金調書ヲ添附スルコト

各區分傳貰金調書

區分名	坪數	傳貰金	傳貰金アルニ至リタル年月日	修繕費ノ負擔區分	其ノ他ノ特約ニシテ重要ナルモノ

(注意)　區分名ハ別ニ添附セル間取ヲ示ス平面略圖ト符合スルヲ要ス

記載注意

(1)　和十三年十二月三十一日以前ニ於ケル取得價格ナキトキ又ハ其ノ不明ナルトキハ該當欄ニ「ナシ」又ハ「不明」ト記載シ「其ノ他參考トナルベキ事項」ノ欄ニ昭和十三年十二月三十一日現在ニ於ケル見積價格ヲ記載スルコト

(2)　「建物價格」ノ欄ニハ主體建築費、附屬設備費及造作費ノ合計額ヲ記載スルコト

(3)　當該建物ガ借家ナルトキハ其ノ家賃及借家ノ條件(傳貰借家ナルトキハ其ノ傳貰金及其ノ他ノ條件)ヲ「其ノ他參考トナルベキ事項」ノ欄ニ記載スルコト

(4)　傳貰金及其ノ他ノ條件」ノ欄ハ建物ヲ數部分ニ區分シテ其ノ全部若ハ一部ヲ傳貰スル場合ニ於テハ之ヲ空欄トスルコト

(5)　其ノ他様式第一號(ロ)ノ(1)乃至(3)ニ同ジ

様式第二號

(イ) 借地調書

借地調書		
借主氏名		
土地	所在地及面積	
	建物ノ用途、構造及建坪	
	地目及地價	
	地稅及同附加稅	
現在ノ地代及借地條件	地代(年額)	
	敷金	借地權利金
	借地期間 自年月日 至年月日	地代ノ支拂時期及方法
	維持費ノ負擔區分	
	其ノ他ノ特約ニシテ重要ナルモノ	
地代ノ沿革	(1) 自年月日 至年月日 圓錢	(2) 自年月日 至年月日 圓錢
	(3)	
其ノ他參考トナルベキ事項		

記載注意

(1)　「地代ノ沿革」ノ欄ニハ最近十年間ニ於ケル地代ノ沿革ヲ記載スルコト

(2)　當該土地ノ昭和十三年十二月三十一日現在ニ於ケル見積價格ヲ「其ノ他參考トナルベキ事項」ノ欄ニ記載スルコト

尚當該土地ガ昭和十三年十二月三十一日以前ニ於テ賣買其ノ他ノ有償行爲ニ因リ取得セラレタルモノナルトキハ其ノ最後ノ取得價格及取得年月日ヲ併記スルコト

(3)　其ノ他様式第一號(イ)ノ記載注意(1)及(4)乃至(7)ニ同ジ

(ロ) 借家調書（ハ）、（ニ）及（ホ）ニ掲グル借家ニ該當セザル借家ハ本様式ニ依ルモノトス）

借家調書

借主氏名			
建物其ノ他	所在地		
	竣功年月日		
	用途及構造	戸建別	
	建坪及延坪	敷地面積	
	家屋税及同附加税ノ合計額並ニ其ノ月割額		
	受益者負擔金ヲ支拂ヒタルトキハ其ノ金額及支拂ヒタル年月日		
	地代（月割額）		
	借地權利金ヲ支拂ヒタルトキハ其ノ金額及支拂ヒタル年月日		
現在ノ家賃及借家條件	家賃		
	敷金	借家權利金	
	修繕費ノ負擔區分		
	家賃ノ支拂時期及方法		
	其ノ他ノ特約ニシテ重要ナルモノ		
家賃ノ沿革	(1)自 年 月 日 至 年 月 日 圓 錢	(2)自 年 月 日 至 年 月 日 圓 錢	(3
其ノ他參考トナルベキ事項			

記載注意

(1) 「家賃ノ沿革」ノ欄ニハ最近五年間ニ於ケル家賃ノ沿革ヲ記載スルコト

(2) 建築費ノ判明セルモノハ（其ノ內譯トシテ主體建築費、附屬設備費及造作費ノ區分ノ判明セルモノハ其ノ內譯ヲ附シ）之ヲ「其ノ他參考トナルベキ事項」ノ欄ニ記載スルコト倚增築又ハ改造ヲ爲シタルモノニ在リテハ其ノ年月、費用、增築又ハ改造ノ內容其ノ他ノ事項ヲ併記スルコト

(3) 當該建物ニ付最近ニ於ケル取得價格アルトキハ其ノ價格及取得年月日ヲ「其ノ他參考トナルベキ事項」ノ欄ニ記載スルコト

(4) 當該建物ニ付火災保險契約アルトキハ保險契約會社、保險契約金額及保險料（月割額）並ニ保險料ノ割引アルトキハ其ノ割引額（月割額）ヲ「其ノ他參考トナルベキ事項」ノ欄ニ記載スルコト

(5) 其ノ他様式第一號（ロ）ノ記載注意(1)乃至(3)、(6)乃至(9)、(11)乃至(13)及(15)ニ同ジ

(ニ) 借家調書（三室以下ノ貸室ノ借家ハ本様式ニ依ルモノトス）

借家調書

建物		
所在地		
用途及構造		戸建別
建坪及延坪		敷地面積

現在ノ間代			
室名	坪數（疊數）	收容人員	間代

其ノ他參考トナルベキ事項

記載注意

(1) 一室居住者ノ數ニ依リ間代ヲ增減スル定其ノ他之ニ類スル特別ノ定アルモノハ之ヲ「其ノ他參考トナルベキ事項」ノ欄ニ記載スルコト

(2) 賄附間貸ニシテ間代ト賄料トヲ區分セザルモノニ在リテハ其ノ區分セザル額ヲ「間代」ノ欄ニ記載スルト共ニ賄附間代ナル旨ヲ「其ノ他參考トナルベキ事項」ノ欄ニ記載スルコト

(3) 當該建物ガ借家ナルトキハ其ノ家賃及借家ノ條件ヲ「其ノ他參考トナルベキ事項」ノ欄ニ記載スルコト

(4) 其ノ他様式第一號(ロ)ノ記載注意(1)乃至(3)ニ同ジ

(ホ) 借家調書（傳貰借家ハ本様式ニ依ルモノトス）

借家調書

借主氏名		所在地	

土地及建物			
敷地面積		昭和十三年十二月三十一日以前ニ於ケル最後ノ取得價格及取得年月日	
建物竣功年月日		建物ノ用途及構造	
建物ノ建坪及延坪		戸建別	
建物價格			

傳貰金及其ノ他ノ條件	
傳貰金額	
修繕費ノ負擔區分	
其ノ他ノ特約ニシテ重要ナルモノ	

其ノ他參考トナルベキ事項

備考 建物ヲ數部分ニ區分シテ其ノ全部若ハ一部ヲ傳貰シタル場合ニ於テハ左ノ様式ニ依ル各區分傳貰金調書ヲ添附スルコト

各區分傳貰金調書

區分名	坪數	傳貰金	傳貰金アルニ至リタル年月日	修繕費ノ負擔區分	其ノ他ノ特約ニシテ重要ナルモノ

（注意） 區分名ハ別ニ添附セル間取ヲ示ス平面略圖ト符合スルヲ要ス

記載注意 様式第一號(ホ)ニ同ジ

様式第四號（用紙ノ大サハ日本標準規格A7トシ中央點線ノ所ヨリ二ツ折トス）

地代家賃統制令第十二條第二項ノ證票

（表面）

地代家賃統制令第十二條第二項ノ證票

第十三輯　軍事　第九章　國家總動員

（裏面）

第　號　昭和　年　月　日交付

官職　道印　氏名

國家總動員法第三十一條　政府ハ國家總動員上必要アルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ報告ヲ徴シ又ハ當該官吏ヲシテ必要ナル場所ニ臨檢シ業務ノ狀況若ハ帳簿書類其ノ他ノ物件ヲ檢査セシムルコトヲ得

國家總動員法第四十二條　第三十一條ノ規定ニ依ル當該官吏ノ檢査ヲ拒ミ妨ゲ又ハ忌避シタル者ハ六月以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

地代家賃統制令第十二條及第十六條要旨　道知事必要アリト認ムルトキハ國家總動員法第三十一條ノ規定ニ依リ借地又ハ借家ニ關シ貸主、貸主ノ組合其ノ他之ニ準ズルモノ若ハ借主ヨリ報告ヲ徴シ又ハ當該官吏ヲシテ日出ヨリ日沒迄ノ間借地、借家其ノ他ノ場所ニ臨檢シ其ノ狀況若ハ借地、借家ノ契約書、帳簿其ノ他ノ物件ヲ檢査セシムルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ當該官吏ヲシテ臨檢檢査セシムル場合ニ於テハ其ノ身分ヲ示ス證票ヲ携帶セシムベシ

地代家賃統制令施行規則第十六條　令第十二條第二項ノ證票ハ様式第四號ニ依ル

昭和十四年十月二十七日
朝鮮總督府令第百八十四號（抄）

第四條　令第十三條ノ規定ニ依ル回復ハ昭和十四年十一月三十日迄ニ之ヲ爲スベシ

●宅地建物等價格統制令

昭和十五年十一月二十一日
勅令第七百八十一號

朕宅地建物等價格統制令ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

宅地建物等價格統制令

第一條　國家總動員法（昭和十三年勅令第三百十七號ニ於テ依ル場合ヲ含ム以下同ジ）第十九條ノ規定ニ基ク宅地、宅地ニ供セラルル爲讓渡セラルル宅地以外ノ土地及建物ノ價格竝ニ建物ノ所有ヲ目的トスル地上權及土地賃借權ノ價格ニ關スル統制ハ本令ノ定ムル所ニ依ル

第二條　宅地又ハ建物ノ價格ハ左ノ各號ニ掲グル額ヲ超エテ之ヲ契約シ、支拂ヒ又ハ受領スルコトヲ得ズ但シ命令ノ定ムル所ニ依リ讓渡人又ハ讓受人ニ於テ行政官廳ノ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

一　昭和十四年九月十八日以後有償行爲ニ依リ取得シタル宅地又ハ建物ニ付テハ其ノ對價ニ命令ヲ以テ定ムル額ヲ加算シタル額

二　前號ノ場合ヲ除クノ外昭和十四年九月十八日以後建築竣成シタル建物ニシテ建築竣成後使用又ハ收益ヲ爲シタルモノニ付テハ其ノ建築費ニ命令ヲ以テ定ムル額ヲ加算シタル額、建築竣成後使用及收益ヲ爲サザルモノニ付テハ前段ノ額ニ命令ヲ以テ定ムル利潤ヲ加算シタル額

第三條　前條ノ有償行爲、對價及建築費ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第四條　第二條第一號ノ宅地若ハ建物又ハ同條第二號ノ建物ヲ讓渡スル場合ニ於テ其ノ宅地若ハ建物ノ價格ニ付取得若ハ建築ノ後減額スベキ事由生ジタルトキ又ハ其ノ價格ノ判定ヲ困難ナラシムル事由アルトキハ第五條ノ場合ヲ除クノ外命令ノ定ムル所ニ依リ讓渡人ニ於テ其ノ價格ニ付行政官廳ノ認可ヲ受クベシ

前項ノ場合ニ於テハ宅地又ハ建物ノ價格ハ第二條ノ規定ニ拘ラズ前項ノ規定ニ依レル認可アリタル額ヲ超エテ之ヲ契約シ、支拂ヒ又ハ受領スルコトヲ得ズ但シ命令ノ定ムル所ニ依リ讓渡人又ハ讓受人ニ於テ行政官廳ノ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第五條　宅地ノ分讓ヲ爲ス者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ分讓ヲ爲ス宅地ノ價格ニ付行政官廳ノ認可ヲ受クベシ宅地以外ノ土地ヲ宅地ト爲ス目的ヲ以テ分讓ヲ爲ス場合亦同ジ

前項ノ場合ニ於テハ土地ノ價格ハ第二條ノ規定ニ拘ラズ前項ノ規定ニ依レル認可アリタル額ヲ超エテ之ヲ契約シ、支拂ヒ又ハ受領スルコトヲ得ズ

第一項ノ認可ヲ受ケタル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ認可ヲ受ケタル價格

〔朝〕

其ノ他命令ヲ以テ定ムル事項ヲ公示スベシ

第六條　宅地以外ノ土地ガ宅地ニ供セラルル爲讓渡セラルル場合ニ於テハ前條第一項ノ場合ヲ除クノ外命令ノ定ムル所ニ依リ讓渡人又ハ讓受人ニ於テ其ノ土地ノ價格ニ付行政官廳ノ認可ヲ受クベシ讓渡ノ目的ヲ以テ宅地以外ノ土地ヲ宅地ニ變更シテ之ヲ讓渡スル場合亦同ジ

前項ノ場合ニ於テハ土地ノ價格ハ前項ノ規定ニ依レル認可アリタル額ヲ超エテ之ヲ契約シ、支拂ヒ又ハ受領スルコトヲ得ズ

第七條　行政官廳ハ第二條但書ノ規定ニ依レル許可又ハ第三條ノ規定ニ依レル認可ニ關スル處分ニシテ事案ノ重要ナルモノハ宅地建物評價委員會ノ意見ヲ聽キ之ヲ爲スコトヲ要ス

宅地建物評價委員會ニ關スル規程ハ別ニ之ヲ定ム

第八條　何等ノ名義ヲ以テスルヲ問ハズ第二條又ハ第四條乃至第六條ノ規定ニ依レル禁止ヲ免レル行爲ヲ爲スコトヲ得ズ

第九條　行政官廳必要アリト認ムルトキハ國家總動員法第三十一條ノ規定ニ依リ宅地、建物等ノ價格ニ關シ報告ヲ徵シ又ハ當該官吏ヲシテ宅地、建物其ノ他ノ場所ニ臨檢シ其ノ狀況若ハ帳簿書類其ノ他ノ物件ヲ檢査セシムルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ當該官吏ヲシテ臨檢檢査セシムル場合ニ於テハ其ノ身分ヲ示ス證票ヲ携帶セシムベシ

第十條　前八條ノ規定ハ建物ノ所有ヲ目的トスル地上權又ハ土地賃借權ノ價格及土地又ハ建物ノ讓渡契約ニ附隨シテ定メラルル營業權、造作、附屬設備、附屬築造物其ノ他財産上ノ利益ノ價格ニ之ヲ準用ス

第十一條　本令ニ於テ宅地トハ建物所有ノ目的ニ供セラルル土地ヲ謂フ

本令ニ於テ分讓トハ讓渡セントスル自己又ハ他人ノ土地ヲ分割シテ讓渡スベキ旨ヲ廣告シ之ヲ讓渡スルコトヲ謂フ

第十二條　宅地建物評價委員會ニ關スル規定ハ朝鮮、臺灣、樺太及南洋群島ニ在リテハ之ヲ適用セズ

附　則

第十三條　本令ハ昭和十五年十一月二十五日ヨリ之ヲ施行ス但シ朝鮮、臺灣、樺太及南洋群島ニ在リテハ昭和十五年十二月二十六日ヨリ之ヲ施行ス

第十四條　第十五條ノ場合ヲ除クノ外本令施行ノ際現ニ土地又ハ建物ニ付存スル讓渡契約ニシテ其ノ目的物ニ付讓受人ノ權利ニ關スル登記アリタルモノ又ハ其ノ目的物ノ引渡ヲ完了シタルモノニ付テハ第二條、第四條及第六條ノ規定ハ之ヲ適用セズ

前項ノ規定中土地ノ登記ニ關スル部分ハ南洋群島ニ在リテハ之ヲ適用セズ

第十五條　本令施行ノ際現ニ行ハルル土地ノ分讓ニ關シテハ昭和十五年十二月三十一日（朝鮮、臺灣、樺太及南洋群島ニ在リテハ昭和十六年一月三十一日）迄ハ第二條及第四條乃至第六條ノ規定ハ之ヲ適用セズ

前項ノ場合ニ於テ昭和十五年十二月三十一日（朝鮮、臺灣、樺太及南洋群島ニ在リテハ昭和十六年一月三十一日）迄ニ爲シタル土地分讓ノ契約ニシテ同日迄ニ其ノ目的物ニ付讓受人ノ權利ニ關スル登記アリタルモノ又ハ其ノ目的物ノ引渡ヲ完了シタルモノニ付テハ同日後ト雖モ第二條及第四條乃至第六條ノ規定ハ之ヲ適用セズ

前條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十六條　前二條ノ規定ハ建物ノ所有ヲ目的トスル地上權又ハ土地賃借權

ノ價格及土地又ハ建物ノ讓渡契約ニ附隨シテ定メラレタル營業權、造作、附屬設備、附屬築造物其ノ他財產上ノ利益ノ價格ニ之ヲ準用ス

●宅地建物等價格統制令施行規則

昭和十五年十二月二十四日
朝鮮總督府令第三百一號

宅地建物等價格統制令施行規則左ノ通定ム

宅地建物等價格統制令施行規則

第一條　宅地建物等價格統制令（以下令ト稱ス）第二條但書ノ許可ノ申請ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ限リ之ヲ爲スコトヲ得

一　讓渡人ガ當該宅地ニ付著シキ改良工事ヲ爲シタルトキ

二　讓渡人ガ當該建物ニ付增築又ハ改築ヲ爲シタルトキ

三　其ノ他已ムヲ得ザル事由アルトキ

第二條　前條ノ申請ヲ爲サントスル者ハ左ニ揭グル事項ヲ記載シタル申請書ヲ道知事ニ提出スベシ

一　申請人及讓渡又ハ讓受ノ相手方ノ氏名及住所（法人ニ在リテハ其ノ名稱、主タル事務所ノ所在地竝ニ代表者ノ氏名及住所）

二　宅地又ハ建物所在地ノ地番

三　宅地ニ在リテハ其ノ坪數、建物ニ在リテハ其ノ用途、構造、建坪及延坪

四　對價又ハ建築費

五　第三條第一項ニ規定スル額

六　讓渡又ハ讓受ノ價格

七　價格ノ支拂又ハ受領ノ方法其ノ他讓渡又ハ讓受ニ關スル條件

八　許可ヲ受ケントスル事由ノ詳細

第三條　令第二條第一號及第二號前段ノ規定ニ依リ對價又ハ建築費ニ加算スル額ハ左ノ各號ニ該當スルモノニシテ讓渡人ニ於テ支出シタルモノノ額トス

一　登記ニ要シタル費用

二　不動產取得稅及同附加稅

三　建築稅

四　受益者負擔金

令第二條第二號後段ノ規定ニ依リ加算スル利潤ハ建築費ノ百分ノ九ニ相當スル額トス

第四條　令第三條ノ規定ニ依リ對價ノ範圍ヲ定ムルコト左ノ如シ

一　賣買ニ依リ取得シタル宅地又ハ建物ニ在リテハ其ノ買入價格

二　交換ニ依リ取得シタル宅地又ハ建物ニ在リテハ當該交換ニ供セラレタルモノノ價額

三　代物辨濟ニ依リ取得シタル宅地又ハ建物ニ在リテハ當該辨濟ニ因リ消滅セシメラレタル債權ノ價額

四　其ノ他ノ有償行爲ニ依リ取得シタル宅地又ハ建物ニ在リテハ出損シタル費用但シ登記ニ要シタル費用、不動產取得稅及附加稅ヲ除ク

第五條　令第三條ノ規定ニ依リ建築費ノ範圍ヲ定ムルコト左ノ如シ

一　建物ノ工事費（材料費ヲ含ム）

二　設計費及工事監督費

三　工事中ノ地代（自己ノ土地ニ建物ヲ建築シタル場合ニ在リテハ地代相當額）

四　工事中ノ火災保險料

第六條　令第四條第三項ノ規定ニ依リ同條第一項ノ事由ヲ定ムルコト左ノ如シ

一　令第二條第一號ノ宅地若ハ建物又ハ同條第二號ノ建物ニ付讓渡人ニ於テ權利金其ノ他財產上ノ利益ヲ取得シタル場合

二　令第二條第一號ノ宅地若ハ建物又ハ同條第二號ノ建物ニ付讓渡人ニ於テ擔保權ヲ設定シタル場合

三　令第二條第一號ノ宅地若ハ建物又ハ同條第二號ノ建物ガ改築其ノ他ノ事由ニ依リ其ノ坪數ニ減少ヲ來シ又ハ其ノ構造ニ縮少ヲ來シタル場合

四　令第二條第一號ノ宅地若ハ建物又ハ同條第二號ノ建物ヲ分割讓渡スル場合

五　令第二條第一號ノ宅地又ハ建物ノ對價ガ其ノ宅地又ハ建物以外ノモノノ對價ト結合シテ定メラレタル場合ニ於テ當該宅地又ハ建物ヲ獨立シテ讓渡スル場合

六　交換ニ依リ取得シタル令第二條第一號ノ宅地又ハ建物ヲ讓渡スル場合ニ於テ當該交換ニ供セラレタルモノガ有價證券以外ノモノナル場合

七　代物辨濟ニ依リ取得シタル令第二條第一號ノ宅地又ハ建物ヲ讓渡スル場合ニ於テ當該辨濟ニ依リ消滅セシメラレタル債權ガ金錢ヲ目的トスル債權以外ノモノナル場合

第七條　令第四條第一項ノ認可ヲ受ケントスル者ハ左ニ揭グル事項ヲ記載シタル申請書ヲ道知事ニ提出スベシ

一　申請人及讓受人ノ氏名及住所（法人ニ在リテハ其ノ名稱、主タル事務所ノ所在地竝ニ代表者ノ氏名及住所）

二　讓渡スル宅地又ハ建物ニ關シ第二條第二號乃至第五號ニ揭ゲタル事項

三　讓渡價格

四　價格ノ受領ノ方法其ノ他讓渡ニ關スル條件

五　認可ヲ受ケントスル事由ノ詳細

第八條　令第五條第一項ノ認可ヲ受ケントスル者ハ左ニ揭グル事項ヲ記載シタル申請書ヲ分讓廣告前豫メ分讓地所在地ヲ管轄スル道知事ニ提出スベシ

一　申請人ノ氏名、職業及住所（法人ニ在リテハ其ノ名稱、業務ノ種類、主タル事務所ノ所在地竝ニ代表者ノ氏名及住所）

二　分讓地所有者ノ氏名及住所（法人ニ在リテハ其ノ名稱、主タル事務所ノ所在地竝ニ代表者ノ氏名及住所）

三　分讓地ニ關スル分讓地所有者ト分讓者トノ間ニ於ケル委託其ノ他ノ關係

四　分讓地所在地ノ地番竝ニ分讓地ノ地目及坪數

五　分讓地ノ取得原因及取得ノ日

六　分讓地ノ取得價格及申請ノ際ノ評價價格

七　分讓地ニ加ヘタル諸施設及其ノ費用

八　分讓區劃別ノ分讓價格

九　價格ノ受領ノ方法其ノ他ノ賣却條件

十　分讓期間

十一　分譲廣告ノ方法

十二　其ノ他分譲價格ヲ算出スルニ參加ト爲ルベキ事項

前項ノ申請書ニハ分譲區劃ヲ明ナラシメ且分譲區劃別ノ分譲價格ヲ記載シタル分譲計畫圖面ヲ添附スルコトヲ要ス

第九條　令第五條第一項ノ認可ヲ受ケタル者ハ分譲地ノ見易キ箇所ニ左ニ揭グル事項ヲ表示スベシ

一　**前條**第一項第一號、第二號、第四號、第九號及第十號ニ揭ゲタル事項

二　前條第二項ノ分譲計畫圖面

三　分譲地ニ加ヘタル諸施設

新聞紙、雜誌其ノ地ノ方法ニ依リ廣告スル場合亦前項ニ同ジ但シ前項第二號ニ揭グル圖面ニ付テハ之ニ代ヘ認可ヲ受ケタル分譲價格ノ大要ヲ記載スルヲ以テ足ル

第十條　令第六條第一項ノ認可ヲ受ケントスル者ハ左ニ揭グル事項ヲ記載シタル申請書ヲ道知事ニ提出スベシ

一　申請人及譲渡又ハ譲受ノ相手方ノ氏名、職業及住所（法人ニ在リテハ其ノ名稱、業務ノ種類、主タル事務所ノ所在地竝ニ代表者ノ氏名及住所）

二　譲渡セラルル土地所在地ノ地番竝ニ譲渡セラルル土地ノ地目及坪數

三　譲渡セラルル土地ノ取得原因及取得ノ日

四　譲渡セラルル土地ノ取得價格及申請ノ際ノ評價價格

五　譲渡又ハ譲受ノ價格

六　價格ノ支拂又ハ受領ノ方法其ノ他譲渡又ハ譲受ニ關スル條件

七　譲渡セラルル土地ノ使用目的

八　其ノ他分譲價格ヲ算出スルニ參考ト爲ルベキ事項

第十一條　令第二條但書ノ許可又ハ令第六條第一項ノ認可ハ譲渡人又ハ譲受人ノ何レカ一方ニ於テ之ヲ受クルヲ以テ足ル

第十二條　第二條、第七條、第八條及第十條ノ規定ニ依リ提出スベキ申請書及之ニ添附スベキ書類ハ各二通ヲ提出スベシ

第十三條　道知事必要アリト認ムルトキハ土地若ハ建物ノ譲渡人若ハ譲受人又ハ土地ノ分譲ヲ爲ス者ヲ指定シ其ノ第二條、第七條、第八條又ハ第十條ノ規定ニ依リ提出スベキ申請書及之ニ添附スベキ書類ニ關シ別段ノ指示ヲ爲スコトヲ得

道知事必要アリト認ムルトキハ土地若ハ建物ノ譲渡人若ハ譲受人又ハ土地ノ分譲ヲ爲ス者ヲ指定シ本令ニ定ムルモノノ外必要ナル書類ノ提出ヲ命ズルコトヲ得

第十四條　令第九條第一項ノ行政官廳ハ朝鮮總督又ハ道知事トス

同條第二項ノ證票ハ別記樣式ニ依ル

第十五條　第十四條ノ規定ハ建物ノ所有ヲ目的トスル地上權又ハ土地賃借權ノ價格及土地又ハ建物ノ譲渡契約ニ附隨シテ定メラルル營業權、造作、附屬設備、附屬築造物其ノ他財産上ノ利益ノ價格ニ之ヲ準用ス

附　則

本令ハ昭和十五年十二月二十六日ヨリ之ヲ施行ス

別記樣式（用紙ノ大サハ日本標準規格B列八番ニ依ルモノトス）

表面

第　號

宅地建物等價格統制令ニ基ク臨檢檢查證

朝鮮總督府又ハ道印

年　月　日交付

官氏名

朝鮮總督府（道）

裏面

國家總動員法第三十一條　政府ハ國家總動員上必要アルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ報告ヲ徵シ又ハ當該官吏ヲシテ必要ナル場所ニ臨檢シ業務ノ狀況若ハ帳簿書類其ノ他ノ物件ヲ檢查セシムルコトヲ得

國家總動員法第四十二條　第三十一條ノ規定ニ依ル當該官吏ノ檢查ヲ拒ミ、妨ゲ又ハ忌避シタル者ハ六月以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

宅地建物等價格統制令第九條　行政官廳必要アリト認ムルトキハ國家總動員法第三十一條ノ規定ニ依リ宅地建物等ノ價格ニ關シ報告ヲ徵シ又ハ當該官吏ヲシテ宅地、建物其ノ他ノ場所ニ臨檢シ其ノ狀況若ハ帳簿書類其ノ他ノ物件ヲ檢查セシムルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ當該官吏ヲシテ臨檢檢查セシムル場合ニ於テハ其ノ身分ヲ示ス證票ヲ携帶セシムベシ

●臨時農地價格統制令

昭和十六年一月三十日
勅令第百九號

朕臨時農地價格統制令ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

臨時農地價格統制令

第一條　國家總動員法（昭和十三年勅令第三百十七號ニ於テ依ル場合ヲ含ム以下同ジ）第十九條ノ規定ニ基ク農地ノ價格ニ關スル統制ハ宅地建物等價格統制令第五條第一項後段及第六條ノ場合ヲ除クノ外本令ノ定ムル所ニ依ル

第二條　本令ニ於テ農地トハ耕作ノ目的ニ供セラルル土地ヲ謂フ

第三條　農地ノ價格ハ當該農地ノ地租法ニ依ル賃貸價格ニ農林大臣ノ定ムル率ヲ乘ジテ得タル額ヲ超エテ之ヲ契約シ、支拂ヒ又ハ受領スルコトヲ得ズ但シ命令ノ定ムル所ニ依リ農地ノ譲渡人又ハ譲受人ニ於テ地方長官ノ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

農林大臣前項ノ率ヲ定メタルトキハ之ヲ告示ス

第一項ノ規定ニ依ル處分ハ前項ノ規定ニ依ル告示アリタル際現ニ農地ニ付存スル譲渡契約ニシテ當該農地ニ付既ニ譲受人ノ權利ニ關スル登記アリタルモノ又ハ當該農地ノ引渡ヲ完了シタルモノニ對シテハ影響ヲ及ボスコトナシ

第四條　地方長官ハ命令ノ定ムル所ニ依リ農林大臣ノ認可ヲ受ケ區域ヲ指定シ前條ノ率ニ代ルベキ率ヲ定ムルコトヲ得

地方長官前項ノ規定ニ依リ前條ノ率ニ代ルベキ率ヲ定メタルトキハ之ヲ告示ス

前項ノ規定ニ依リ告示アリタルトキハ告示セラレタル率ヲ以テ前條ノ率ト看做ス

第一項ノ規定ニ依ル處分ハ第二項ノ規定ニ依ル告示アリタル際現ニ農地ニ付存スル讓渡契約ニシテ當該農地ニ付既ニ讓受人ノ權利ニ關スル登記アリタルモノ又ハ當該農地ノ引渡ヲ完了シタルモノニ對シテハ影響ヲ及ボスコトナシ

第五條　地租法ニ依ル賃貸價格ナキ農地ヲ讓渡ス場合ニハ其ノ價格ニ付命令ノ定ムル所ニ依リ讓渡人又ハ讓受人ニ於テ地方長官ノ認可ヲ受クベシ

前項ノ場合ニ於テハ農地ノ價格ハ同項ノ規定ニ依ル認可アリタル額ヲ超エテ之ヲ契約シ、支拂ヒ又ハ受領スルコトヲ得ズ

第六條　地方長官ハ第三條第一項但書ノ規定ニ依ル許可又ハ前條第一項ノ規定ニ依ル認可ニ關スル處分ニシテ事案ノ重要ナルモノニ付テハ道府縣農地委員會ノ意見ヲ聽キ之ヲ爲スコトヲ要ス

地方長官第四條第一項ノ規定ニ依リ第三條ノ率ニ代ルベキ率ヲ定メントスルトキ亦同ジ

第七條　何等ノ名義ヲ以テスルヲ問ハズ第三條又ハ第五條ノ規定ニ依ル禁止ヲ免ルル行爲ヲ爲スコトヲ得ズ

第八條　行政官廳必要アリト認ムルトキハ國家總動員法第三十一條ノ規定ニ依リ農地ノ價格ニ關シ報告ヲ徵シ又ハ當該官吏ヲシテ農地其ノ他必要ナル場所ニ臨檢シ其ノ狀況若ハ帳簿書類其ノ他ノ物件ヲ檢査セシムルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ當該官吏ヲシテ臨檢檢査セシムル場合ニ於テハ其ノ身分ヲ示ス證票ヲ携帶セシムベシ

第九條　第三條及第四條ノ規定ハ樺太及南洋群島ニハ之ヲ適用セズ

第六條ノ規定ハ朝鮮、臺灣、樺太及南洋群島ニハ之ヲ適用セズ

本令中地租法ニ依ル賃貸價格トアルハ朝鮮ニ在リテハ地稅令ニ依ル地價、臺灣ニ在リテハ臺灣地租規則ニ依ル租率トス

本令中農林大臣トアルハ朝鮮ニ在リテハ朝鮮總督、臺灣ニ在リテハ臺灣總督、樺太ニ在リテハ樺太廳長官、南洋群島ニ在リテハ南洋廳長官トシ地方長官トアルハ朝鮮ニ在リテハ道知事、臺灣ニ在リテハ州知事又ハ廳長、樺太ニ在リテハ樺太廳長官、南洋群島ニ在リテハ南洋廳長官トス

附　則

本令ハ昭和十六年二月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ朝鮮、臺灣、樺太及南洋群島ニ在リテハ昭和十六年二月十五日ヨリ之ヲ施行ス

第五條ノ規定ハ本令施行ノ際現ニ農地ニ付存スル讓渡契約ニシテ當該農地ニ付既ニ讓受人ノ權利ニ關スル登記アリタルモノ又ハ當該農地ノ引渡ヲ完了シタルモノニ付テハ之ヲ適用セズ

●臨時農地價格統制令施行規則

昭和十六年二月十四日
朝鮮總督府令第四十號

臨時農地價格統制令施行規則左ノ通定ム

臨時農地價格統制令施行規則

第一條　臨時農地價格統制令（以下令ト稱ス）第三條第一項但書ノ許可ノ申請ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ限リ之ヲ爲スコトヲ得

〔朝〕

一　地稅令ニ依リ地價ノ据置期間中ノ農地又ハ朝鮮土地改良令ニ依リ土地改良ヲ施行シタル農地ニシテ其ノ現況ニ比シ地稅令ニ依ル地價著シク低額ナルトキ

二　地稅令ニ依ル地價決定後當該農地ニ付著シキ改良ヲ爲シタルトキ

三　當該農地ガ耕作以外ノ目的ニ供セラルル爲（建物所有ノ目的ニ供セラルル場合ヲ除ク）讓渡セラルルトキ

四　當該農地ニ果樹、桑樹其ノ他ノ毛上アルトキ

五　其ノ他已ムヲ得ザル事由アルトキ

第二條　前條ノ申請ヲ爲サントスル者ハ左ニ揭グル事項ヲ記載シタル申請書ヲ當該農地ノ在ル道ノ道知事ニ提出スベシ

一　申請人及讓渡又ハ讓受ノ相手方ノ氏名、住所及職業（法人ニ在リテハ其ノ名稱、主タル事務所ノ所在地、業務ノ種類竝ニ代表者ノ氏名及住所）

二　當該農地ノ所在地番、地目（土地臺帳ノ地目ガ土地ノ現狀ト異ルトキハ土地臺帳ノ地目及現狀ニ依ル地目）及面積

三　許可ヲ受ケントスル事由ノ詳細

四　當該農地ノ地價竝ニ地價ノ据置期間中ノ農地ニ在リテハ其ノ期間ノ始期及終期

五　當該農地ノ地味、水利及交通ノ良否竝ニ利用狀況

六　當該農地ノ普通收穫高竝ニ小作地ナル場合ニ於テハ小作料ノ種別及額又ハ率

七　當該農地ガ永小作地又ハ賭地權ニ依ル小作地ナル場合ニ於テハ永小作權又ハ賭地權ノ價格

八　當該農地ニ付小作權賣買ノ慣習アル場合ニ於テハ其ノ價格

九　當該農地ノ讓渡後ニ於ケル使用目的

十　當該農地ノ讓渡又ハ讓受ノ原因及價格

十一　價格ノ支拂又ハ受領ノ方法其ノ他讓渡又ハ讓受ニ關スル條件

十二　其ノ他參考ト爲ルベキ事項

第三條　左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ道知事ハ令第四條第一項ノ規定ニ依リ令第三條ノ率ニ代ルベキ率ヲ定ムルコトヲ得

一　區域內ノ農地ガ地稅令ニ依リ地價ノ据置期間中ノ農地又ハ朝鮮土地改良令ニ依リ土地改良ヲ施行シタル農地ナルトキ

二　前號ノ外令第三條ノ率ニ依ルコト不適當ト認メラルルトキ

第四條　令第五條第一項ノ認可ヲ受ケントスル者ハ第二條第一號乃至第三號及第五號乃至第十二號ニ揭グル事項ヲ記載シタル申請書ヲ當該農地ノ在ル道ノ道知事ニ提出スベシ

第五條　令第三條第一項但書ノ許可又ハ令第五條第一項ノ認可ハ讓渡人又ハ讓受人ノ何レカ一方ニ於テ之ヲ受クルヲ以テ足ル

第六條　令第八條第二項ノ證票ハ別記樣式ニ依ル

第七條　本令ノ規定ニ依リ道知事ニ提出スベキ書類ハ當該農地ノ在ル府郡島ノ府尹、郡守又ハ島司ヲ經由スベシ

附　則

本令ハ昭和十六年二月十五日ヨリ之ヲ施行ス

別記樣式（用紙ノ大サハ日本標準規格A7トシ中央點線ノ所ヨリ二ツ折トス）

臨時農地價格統制令第八條ノ規定ニ依ル證票

（裏面）

第　號

昭和　年　月　日交付

當該官廳印

官職氏名

（朝）

國家總動員法第三十一條政府ハ國家總動員上必要アルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ報告ヲ徵シ又ハ當該官吏ヲシテ必要ナル場所ニ臨檢シ業務ノ狀況若ハ帳簿書類其ノ他ノ物件ヲ檢査セシムルコトヲ得

國家總動員法第四十二條第三十一條ノ規定ニ依ル當該官吏ノ檢査ヲ拒ミ、妨ゲ又ハ忌避シタル者ハ六月以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

臨時農地價格統制令第八條行政官廳必要アリト認ムルトキハ國家總動員法第三十一條ノ規定ニ依リ農地ノ價格ニ關シ報告ヲ徵シ又ハ當該官吏ヲシテ農地其ノ他必要ナル場所ニ臨檢シ其ノ狀況若ハ帳簿書類其ノ他ノ物件ヲ檢査セシムルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ當該官吏ヲシテ臨檢檢査セシムル場合ニ於テハ其ノ身分ヲ示ス證票ヲ携帶セシムベシ

臨時農地價格統制令施行規則第六條　令第八條第二項ノ規定ニ依ル證票ハ別記樣式ニ依ル

●小作料統制令

昭和十四年十二月六日
勅令第八百二十三號

朕小作料統制令ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

小作料統制令

第一條　國家總動員法（昭和十三年勅令第三百十七號ニ於テ南洋群島ニ於テ依ル場合ヲ含ム以下同ジ）第十九條ノ規定ニ基キ小作料ニ關シ必要ナル命令ヲ爲スハ本令ノ定ムル所ニ依ル

第二條　本令ニ於テ小作料トハ耕作ノ目的ヲ以テ農地（農地以外ノ土地ガ農地ニ附隨シテ賃借セラルル場合又ハ建物其ノ他ノ工作物ガ農地ニ附隨シテ賃借セラレ其ノ借賃ガ農地ノ借賃ト分別シ得ザル場合ニ於テハ其ノ土地又ハ建物其ノ他ノ工作物ヲ含ム以下同ジ）ガ賃借セラルル場合ニ於ケル借賃又ハ耕作ノ目的ヲ以テ永小作權若ハ賭地權ガ設定セラルル場合ニ於ケル小作料ヲ謂フ

第三條　農地ノ賃貸人又ハ永小作權若ハ賭地權ノ目的タル農地ノ所有者（以下貸主ト稱ス）ハ左ノ各號ノ小作料ノ額若ハ率ヲ超エテ小作料ノ額若ハ率ヲ定メ又ハ左ノ各號ノ小作料ノ種別若ハ減免條件ニ付農地ノ賃借人又ハ永小作權者若ハ賭地權者（以下借主ト稱ス）ノ負擔ノ增加ト爲ルベキ變更ヲ爲スコトヲ得ズ但シ特別ノ事由アル場合ニ於テ地方長官ノ許可アリタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

一　昭和十四年九月十八日ニ於テ小作料ノ定アリタル農地ニ付テハ同日ニ於ケル小作料ノ種別、額又ハ率及減免條件（其ノ不明ナルトキハ同日以後ノ判明セル最初ノ小作料ノ種別、額又ハ率及減免條件）

二　前號ニ該當セザル農地ニシテ昭和十四年九月十九日以後本令施行前ニ小作料ノ定アルニ至リタルモノニ付テハ同日以後ニ於ケル最初ノ小作料ノ種別、額又ハ率及減免條件（其ノ不明ナルトキハ判明セル最初ノ小作料ノ種別、額又ハ率及減免條件）

三　前二號ニ該當セザル農地ニシテ本令施行後ニ小作料ノ定アルニ至リタルモノニ付テハ本令施行後ニ於ケル最初ノ小作料ノ種別、額又ハ率及減免條件

第四條　市町村農地委員會必要アリト認ムルトキハ當該市町村ニ在ル農地ニ付小作料ノ種別、額若ハ率又ハ減免條件ヲ定ムルコトヲ得

市町村農地委員會ハ前項ノ規定ニ依リ定ムル小作料ノ種別、額若ハ率又ハ減免條件ニ付地方長官ノ認可ヲ受クベシ

地方長官前項ノ規定ニ依リ認可ヲ爲シタルトキハ農林大臣ノ定ムル所ニ依リ其ノ旨公示スベシ

前三項ノ規定ハ公示シタル小作料ノ種別、額若ハ率又ハ減免條件ヲ變更スル場合ニ之ヲ準用ス

第五條　地方長官ガ前條第三項又ハ第四項ノ規定ニ依リ公示シタル小作料ノ種別、額若ハ率又ハ減免條件ハ貸主及借主ニ於テ農林大臣ノ定ムル所ニ依リ之ニ依ルベキ旨ノ合意ヲ爲シタルトキハ其ノ農地ニ關シテハ之ヲ第三條ノ規定ノ適用ニ付テハ同條各號ニ掲グル小作料ノ種別、額若ハ率又ハ減免條件ト看做ス

第六條　地方長官小作料ノ種別、額若ハ率又ハ減免條件著シク不當ナリト認ムルトキハ貸主ニ對シ小作料ノ種別ノ變更、額若ハ率ノ減少若ハ減免條件ノ變更ヲ命ジ又ハ減免條件ヲ定ムベキコトヲ命ズルコトヲ得

（朝）

前項ノ地方長官ノ命令ニ依リ變更シタル種別、減少シタル額若ハ率又ハ變更シ若ハ定メタル減免條件ハ第三條ノ規定ノ適用ニ付テハ之ヲ同條各號ニ揭グル小作料ノ種別、額若ハ率又ハ減免條件ト看做ス

第一項ノ規定ハ裁判、裁判上ノ和解、小作調停法、朝鮮小作調停令若ハ明治三十七年律令第三號ニ依ル調停又ハ朝鮮小作調停令ニ依ル認可ノ決定アリタル勸解ニ依リ定マリタル小作料ノ種別、額若ハ率又ハ減免條件ニ付テハ之ヲ適用セズ

第七條　價格等統制令施行後裁判、裁判上ノ和解、小作調停法、朝鮮小作調停令若ハ明治三十七年律令第三號ニ依ル調停又ハ朝鮮小作調停令ニ依ル認可ノ決定アリタル勸解ニ依リ借主ニ有利ニ變更セラレタル小作料ノ種別、額若ハ率又ハ減免條件ハ第三條ノ規定ノ適用ニ付テハ之ヲ同條各號ニ揭グル小作料ノ種別、額若ハ率又ハ減免條件ト看做ス

第八條　地方長官第三條但書ノ規定ニ依ル許可、第四條第二項若ハ第四項ノ規定ニ依ル認可又ハ第六條第一項ノ規定ニ依ル命令ヲ爲サントスルトキハ道府縣農地委員會ノ意見ヲ聽クコトヲ要ス

第九條　貸主ハ本令ノ適用ヲ免ルル爲農地ノ耕作ヲ目的トスル請負其ノ他ノ契約ヲ爲シ又ハ何等ノ名義ヲ以テスルヲ問ハズ借主ニ對シ農地ノ賃貸借契約又ハ永小作權若ハ賭地權ノ設定契約ニ定メザル財產上ノ利益ヲ求ムルコトヲ得ズ

第十條　地方長官必要アリト認ムルトキハ國家總動員法第三十一條ノ規定ニ依リ農地ノ賃貸借、永小作又ハ賭地權ニ依ル小作ニ關シ其ノ當事者ヨリ報告ヲ徵シ又ハ當該官吏ヲシテ日出ヨリ日沒迄ノ間農地其ノ他ノ場所ニ臨檢シ收穫ノ狀況若ハ契約書其ノ他ノ物件ヲ檢查セシムルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ當該官吏ヲシテ臨檢檢查セシムル場合ニ於テハ其ノ身分ヲ示ス證票ヲ携帶セシムベシ

第十一條　第三條乃至第八條ノ規定ハ敷金、補償金穀、修繕費及用排水費ノ負擔竝ニ小作料ノ種別、額又ハ率及減免條件以外ノ農地ノ賃貸借、永小作若ハ賭地權ニ依ル小作又ハ之ニ附隨スル契約ノ條件ニシテ農林大臣ノ指定スルモノニ付之ヲ準用ス

第十二條　本令ハ國又ハ道府縣ガ貸主タル農地ニ付テハ之ヲ適用セズ

第十三條　第四條及第五條ノ規定ハ南洋群島ニハ之ヲ適用セズ

第八條ノ規定ハ朝鮮、臺灣及南洋群島ニハ之ヲ適用セズ

本令中農林大臣トアルハ朝鮮ニ在リテハ朝鮮總督、臺灣ニ在リテハ臺灣總督、南洋群島ニ在リテハ南洋廳長官トシ地方長官トアルハ朝鮮ニ在リテハ道知事（第六條ノ場合ニ在リテハ道知事又ハ府郡島小作委員會）、臺灣ニ在リテハ州知事又ハ廳長、南洋群島ニ在リテハ南洋廳長官トシ道府縣トアルハ朝鮮ニ在リテハ道、臺灣ニ在リテハ州又ハ廳、南洋群島ニ在リテハ南洋群島地方費トシ市町村トアルハ朝鮮ニ在リテハ府郡島、臺灣ニ在リテハ市街庄トシ市町村農地委員會トアルハ朝鮮ニ在リテハ府郡島小作委員會、臺灣ニ在リテハ市尹又ハ街庄長トス

附　則

第十四條　本令ハ內地ニ在リテハ昭和十四年十二月十一日ヨリ、朝鮮、臺灣及南洋群島ニ在リテハ同月十八日ヨリ之ヲ施行ス

本令ハ樺太ニハ之ヲ施行セズ

第十五條　價格等統制令施行前ニ第三條第一號又ハ第二號ノ小作料ノ種別、額若ハ率又ハ減免條件ヲ借主ノ不利益ニ變更シタル農地ニ付テハ貸主ハ農林大臣ノ定ムル所ニ依リ本令施行後最初ニ小作料ノ納期ノ到來スル分ヨリ之ヲ同條第一號又ハ第二號ノ小作料ノ種別、額若ハ率又ハ減免條件ニ回復スベシ

第十六條　前條ノ規定ハ價格等統制令施行前ニ於テ裁判、裁判上ノ和解、小作調停法、朝鮮小作調停令若ハ明治三十七年律令第三號ニ依ル調停又ハ朝鮮小作調停令ニ依ル認可ノ決定アリタル勸解ニ依リ借主ノ不利益ニ變更セラレタル小作料ノ種別、額若ハ率又ハ減免條件ニ付テハ之ヲ適用セズ價格等統制令施行ノ際現ニ繫屬シタル訴訟、裁判上ノ和解事件又ハ調停事件ニ於テ借主ノ不利益ニ變更セラレタル小作料ノ種別、額若ハ率又ハ減免條件ニ付亦同ジ

前項ノ裁判、和解、調停又ハ勸解ニ依リ借主ノ不利益ニ變更セラレタル小作料ノ種別、額若ハ率又ハ減免條件ハ第三條ノ規定ノ適用ニ付テハ之ヲ同條第一號又ハ第二號ノ小作料ノ種別、額若ハ率又ハ減免條件ト看做ス

第十七條　前二條ノ規定ハ敷金、補償金穀、修繕費及用排水費ノ負擔竝ニ小作料ノ種別、額又ハ率及減免條件以外ノ農地ノ賃貸借、永小作若ハ賭地權ニ依ル小作又ハ之ニ附隨スル契約ノ條件ニシテ農林大臣ノ指定スルモノニ付之ヲ準用ス

●小作料統制令施行規則

昭和十四年十二月十八日
朝鮮總督府令第二百十二號

小作料統制令施行規則左ノ通定ム

〔朝〕

小作料統制令施行規則

府郡島小作委員會小作料統制令（以下單ニ令ト稱ス）第四條第二項ノ規定（同條第四項ノ規定ニ於テ準用スル場合ヲ含ム）ニ依ル認可ヲ受ケントスルトキハ左ニ揭グル事項ヲ記載シタル申請書ニ委員會ノ會議錄ノ謄本ヲ添附シ當該府尹、郡守又ハ島司ヲ經由シテ之ヲ道知事ニ提出スベシ

第一條

一　決定ノ理由及經過

二　決定ノ方法

三　農地（農地以外ノ土地ガ農地ニ附隨シテ賃借セラルル場合又ハ建物其ノ他ノ工作物ガ農地ニ附隨シテ賃借セラレ其ノ借賃ガ農地ノ借賃ト分別シ得ザル場合ニ於テハ其ノ土地又ハ建物其ノ他ノ工作物ヲ含ム以下同ジ）ノ所在地番、地目又ハ種類及面積又ハ建坪

四　決定セントスル小作料ノ種別、額若ハ率又ハ減免條件及現在ノ小作料ノ種別、額若ハ率又ハ減免條件

五　農地ノ賃貸人又ハ永小作權若ハ賭地權ノ目的タル農地ノ所有者（以下貸主ト稱ス）及農地ノ賃借人又ハ永小作權者若ハ賭地權者（以下借主ト稱ス）ノ氏名又ハ名稱及住所

六　貸主及借主ノ意嚮

七　其ノ他參考ト爲ルベキ事項

第二條　道知事令第四項第二項ノ規定（同條第四項ノ規定ニ於テ準用スル場合ヲ含ム）ニ依リ認可ヲ爲シタルトキハ左ニ揭グル事項ヲ告示シ當該府尹、郡守、島司及邑面長ヲシテ其ノ旨府郡島廳及邑面事務所ニ揭示セシムベシ

一　認可ノ年月日
二　申請ヲ爲シタル府郡島小作委員會
三　農地ノ所在地番、地目又ハ種類及面積又ハ建坪
四　認可ヲ爲シタル小作料ノ種別、額若ハ率又ハ減免條件

第三條　前條ノ規定ニ依ル告示アリタル小作料ノ種別、額若ハ率又ハ減免條件ニ付貸主及借主ガ之ニ依ラントスルトキハ當該農地ノ在ル府郡島ノ府郡島小作委員會ニ其ノ旨届出ヅベシ

貸主及借主ガ連署シテ前項ノ届出ヲ爲シタルトキハ其ノ届出アリタル日ニ於テ令第五條ノ合意ヲ爲シタルモノトス

貸主及借主ガ各別ニ第一項ノ届出ヲ爲シタルトキハ後ニ届出アリタル日ニ於テ令第五條ノ合意アリタルモノトス此ノ場合ニ於テハ當該府郡島小作委員會ハ遲滯ナク其ノ旨貸主及借主ニ通知スベシ

第四條　府郡島小作委員會ハ前條第一項ノ届出ヲ爲サザル貸主又ハ借主ニ對シ第二條ノ規定ニ依ル告示アリタル小作料ノ種別、額若ハ率又ハ減免條件ニ依ルヤ否ヤニ付意見ヲ徴スルコトヲ得

第五條　第三條ノ規定ニ依リ令第五條ノ合意アリタルトキハ府郡島小作委員會ハ遲滯ナク其ノ旨道知事ニ報告シ且當該府尹、郡守、島司及邑面長ニ通知スベシ

府尹、郡守、島司及邑面長前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ左ニ揭グル事項ヲ公示スベシ

一　第二條ノ規定ニ依ル告示ノ年月日及番號
二　農地ノ所在地番、地目又ハ種類及面積又ハ建坪
三　合意アリタル小作料ノ種別、額若ハ率又ハ減免條件
四　合意アリタル年月日

第六條　令第十條第二項ノ規定ニ依ル證票ハ別記樣式ニ依ル

第七條　令第十一條ノ規定ニ依リ令第三條乃至第八條ノ規定ヲ準用スル農地ノ賃貸借、永小作若ハ賭地權ニ依ル小作又ハ之ニ附隨スル契約ノ條件ハ敷金、補償金穀竝ニ修繕費及用排水費ノ負擔ノ外左ニ揭グルモノトス

令第十七條ノ規定ニ依リ令第十五條及第十六條ノ規定ヲ準用スル農地ノ賃貸借、永小作若ハ賭地權ニ依ル小作又ハ之ニ附隨スル契約ノ條件ニ付亦同ジ

一　公租公課ノ負擔
二　舍音其ノ他農地ノ管理者ニ對スル報酬ノ負擔
三　種穀、肥料、耕牛、農具其ノ他ノ生產資材ノ負擔及其ノ貸付アリタル場合ノ條件
四　改良費ノ負擔
五　小作料ノ支拂條件
六　借主ノ貸主ニ提供スル勞務ニ關スル條件
七　借主ノ貸主ニ給付スル權利金其ノ他ノ財產上ノ利益ニ關スル條件

第八條　第一條乃至第五條ノ規定ハ令第十一條ニ揭グル農地ノ賃貸借、永小作若ハ賭地權ニ依ル小作又ハ之ニ附隨スル契約ノ條件ニ付之ヲ準用ス

第九條　令第十五條（令第十七條ノ規定ニ於テ準用スル場合ヲ含ム）ノ規定ニ依ル回復ハ令施行後最初ニ到來スル小作料ノ納期迄ニ之ヲ爲スベシ

附　則

本令ハ小作料統制令施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

（朝）

別記樣式（用紙ノ大サハ日本標準規格A7トシ中央點線ノ所ヨリ二ツ折ト爲ス）

（表面）

小作料統制令第十條ノ規定ニ依ル證票

（裏面）

第　號

昭和　年　月　日交付

道　印
職
氏
名

（朝二）

國家總動員法第三十一條　政府ハ國家總動員上必要アルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ報告ヲ徴シ又ハ當該官吏ヲシテ必要ナル場所ニ臨檢シ業務ノ狀況若ハ帳簿書類其ノ他ノ物件ヲ檢査セシムルコトヲ得

第四十二條　第三十一條ノ規定ニ依リ當該官吏ノ檢査ヲ拒ミ、妨ゲ又ハ忌避シタル者ハ六月以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

小作料統制令第十條　地方長官必要アリト認ムルトキハ國家總動員法第三十一條ノ規定ニ依リ賃借人ノ賃貸借、永小作又ハ賭地權ニ關シ其ノ當事者ヨリ報告ヲ徴シ又ハ當該官吏ヲシテ日沒迄ノ間農地其ノ他ノ場所ニ臨檢シ收穫ノ狀況若ハ契約書其ノ他ノ物件ヲ檢查セシムルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ當該官吏ヲシテ臨檢檢查セシムル場合ニ於テハ其ノ身分ヲ示ス證票ヲ携帶セシムベシ

小作料統制令施行規則第六條　令第十條第二項ノ規定ニ依ル證票ハ別記樣式ニ依ル

●株式價格統制令

昭和十六年八月三十日
勅令第八百三十四號

〔朝二〉

改正　昭和一六年一二月第一一〇六號、第一一〇九號

株式價格統制令ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

株式價格統制令

第一條　國家總動員法（昭和十三年勅令第三百十七號ニ於テ依ル場合ヲ含ム以下同ジ）第十九條ノ規定ニ基ク株式ノ價格ニ關スル統制ハ本令ノ定ムル所ニ依ル

第二條　大藏大臣ハ株式價格ノ著シキ變動ニ因リ國民經濟ノ圓滑ナル運行ガ阻害セラルルノ虞アリト認ムルトキハ株式ヲ指定シ其ノ最高價格又ハ最低價格ヲ定ムルコトヲ得

前項ノ最高價格又ハ最低價格ハ當該株式ノ一定期日ニ於ケル取引所相場ヲ基準トシテ之ヲ定メ取引所相場ナキモノニ付テハ實物仲値ヲ基準トシテ之ヲ定ム

大藏大臣ハ第一項ノ規定ニ依リ定メタル最高價格又ハ最低價格ガ事情ノ變更ニ因リ著シク不當ト爲リタリト認ムルトキハ之ヲ變更スルコトヲ得

大藏大臣ハ第一項ノ規定ニ依リ最高價格若ハ最低價格ヲ定メ又ハ前項ノ規定ニ依リ之ヲ變更シタルトキハ其ノ旨ヲ告示スベシ

第三條　前條ノ規定ニ依リ最高價格又ハ最低價格ノ定メラレタル株式ニ付テハ有價證券ノ賣買取引ヲ爲ス取引所ノ會員若ハ取引員又ハ有價證券業取締法ニ依ル有價證券業者ハ當該最高價格ヲ超ユル價格若ハ當該最低價格ヲ下ル價格ニ依ル當該株式ノ賣買又ハ其ノ委託、受託若ハ媒介ヲ爲スコトヲ得ズ但シ大藏大臣ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第四條　大藏大臣ハ第二條ノ規定ニ依リ定メタル最高價格又ハ最低價格ヲ存置スルノ必要ナシト認ムルトキハ之ヲ廢止スルコトヲ得

大藏大臣ハ前項ノ規定ニ依リ最高價格又ハ最低價格ヲ廢止シタルトキハ其ノ旨ヲ告示スベシ

第五條　何等ノ名義ヲ以テスルヲ問ハズ第三條ノ規定ニ依ル禁止ヲ免ルル行爲ヲ爲スコトヲ得ズ

第六條　大藏大臣又ハ地方長官ハ必要アリト認ムルトキハ國家總動員法第三十一條ノ規定ニ依リ第三條ノ規定ニ依ル制限ニ關シ必要ナル報告ヲ徴シ又ハ當該官吏ヲシテ事務所、營業所其ノ他ノ場所ニ臨檢シ業務ノ狀況若ハ帳簿書類其ノ他ノ物件ヲ檢査セシムルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ當該官吏ヲシテ臨檢檢査セシムル場合ニ於テハ其ノ身分ヲ示ス證票ヲ携帶セシムベシ

第七條　本令中大藏大臣トアルハ朝鮮ニ在リテハ朝鮮總督、臺灣ニ在リテハ臺灣總督、樺太ニ在リテハ樺太廳長官、南洋群島ニ在リテハ南洋廳長官トシ地方長官トアルハ朝鮮ニ在リテハ道知事、臺灣ニ在リテハ州知事又ハ廳長、樺太ニ在リテハ樺太廳長官、南洋群島ニ在リテハ南洋廳長官トス

第三條中有價證券業取締法ニ依ル有價證券業者トアルハ朝鮮、臺灣、樺太又ハ南洋群島ニ在リテハ取引所ニ依ラザル有價證券ノ賣買又ハ其ノ媒介ノ業ヲ營ム者（銀行、信託會社及有價證券割賦販賣業者ヲ除ク）トス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●軍需品工場事業場檢查令

昭和十四年十月十八日
勅令第七百七號

朕軍需品工場事業場檢查令ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

軍需品工場事業場檢查令

第一條　軍需品調達ノ適正ヲ圖ル爲軍需品又ハ其ノ原料若ハ材料ニ關シ國家總動員法（昭和十三年勅令第三百十七號ニ於テ依ル場合ヲ含ム）第十九條ノ規定ニ基キ原價計算ヲ爲サシメ又ハ同法第三十一條ノ規定ニ基キ報告ヲ徵シ若ハ檢查ヲ爲サシムルハ本令ノ定ムル所ニ依ル

第二條　本令ニ於テ軍需品ト稱スルハ軍ノ命令又ハ契約ニ基キ生產又ハ修理ヲ爲ス兵器其ノ他ノ軍用ニ供スル物資ヲ謂フ但シ第四條ノ規定ニ依リ原價ニ關シ計算ヲ爲サシメ又ハ第五條ノ規定ニ依リ經理若ハ原價ニ關シ報告ヲ徵シ若ハ檢查ヲ爲サシムル軍需品ハ左ニ揭グルモノニ限ル

一　軍機保護ノ必要アル物資
二　軍用規格ノ定アル物資
三　軍ニ於テ生產又ハ修理ヲ指導スル物資
四　軍用ニ供スル物資ニシテ其ノ生產額ガ當該工場事業場ニ於ケル生產額ノ過半ヲ占ムルモノ
五　前各號ニ揭グルモノノ外軍事上特ニ必要アル物資

前項第五號ニ揭グル物資ノ範圍ハ陸軍大臣又ハ海軍大臣內閣總理大臣ニ協議シテ之ヲ定ム

第三條　本令ニ於テ工場事業場ト稱スルハ左ニ揭グルモノヲ謂フ

一　軍ノ命令又ハ契約ニ基キ軍需品又ハ其ノ原料若ハ材料ノ生產又ハ修理ヲ爲ス工場又ハ事業場
二　前號ノ工場又ハ事業場ニ於テ軍ノ命令又ハ契約ニ基キ生產又ハ修理ヲ爲ス軍需品ノ原料又ハ材料ノ生產又ハ修理ヲ爲ス工場又ハ事業場
三　前二號ニ規定スル生產又ハ修理ノ下請ヲ爲ス工場又ハ事業場

第四條　陸軍大臣又ハ海軍大臣必要アリト認ムルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ工場事業場ノ事業主ニ對シ軍需品又ハ其ノ原料若ハ材料ノ原價ニ關シ計算ヲ爲サシムルコトヲ得

第五條　陸軍大臣又ハ海軍大臣軍需品ノ調達ニ關シ必要アリト認ムルトキハ軍需品又ハ其ノ原料若ハ材料ノ生產又ハ修理、之ニ伴フ業務又ハ經理又ハ軍需品又ハ其ノ原料若ハ材料ノ原價ニ關シ工場事業場ノ事業主ヨリ報告ヲ徵シ又ハ當該官吏ヲシテ工場事業場其ノ他必要ナル場所ニ臨檢シ業務ノ狀況又ハ帳簿書類、當該工場事業場ニ於テ生產又ハ修理ヲ爲ス軍需品、其ノ原料又ハ材料其ノ他ノ物件ヲ檢查セシムルコトヲ得

第六條　陸軍大臣又ハ海軍大臣必要アリト認ムルトキハ前條ニ規定スル職權ノ一部ヲ所轄官衙（陸海軍ノ學校ヲ含ム）ノ長ヲシテ行ハシムルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ當該官衙ノ長ハ陸軍大臣又ハ海軍大臣ノ定ムル所ニ依リ前項ノ規定ニ依ル職權ヲ其ノ所屬官衙ノ長ヲシテ行ハシムルコトヲ得

第七條　前二條ノ規定ニ依リ當該官吏ヲシテ臨檢檢查セシムル場合ニ於テハ其ノ身分ヲ示ス證票ヲ携帶セシムベシ

附　則

本令ハ昭和十四年十月二十日ヨリ之ヲ施行ス

〔朝〕

●軍需品工場事業場檢查令施行規則

昭和十四年十月十九日
陸軍省令第五十三號

改正　昭和一七年三月第一三號、四月閣令陸軍省令第一號海軍省令

軍需品工場事業場檢查令施行規則左ノ通定ム

軍需品工場事業場檢查令施行規則

第一條　削除

第二條　令第六條ノ規定ニ依リ左ニ揭グル陸軍ノ官衙（學校ヲ含ム以下之ニ同ジ）ノ長ハ關係工場事業場ニ付令第五條ニ規定スル職權ヲ行フコトヲ得但シ經理若ハ原價ニ關シ報告ヲ徵シ又ハ檢查ヲ爲サシムル工場事業場ニ付テハ豫メ陸軍大臣ノ認可ヲ受クベシ

陸軍技術本部
陸軍航空本部
陸軍運輸部
陸軍兵器廠
陸軍燃料廠
陸軍被服廠
陸軍糧秣廠
陸軍製絨廠
陸軍需品廠
陸軍衞生材料廠
陸軍獸醫資材廠
朝鮮陸軍倉庫
臺灣陸軍倉庫
陸軍軍醫學校
陸軍獸醫學校

前項ニ揭グル以外ノ陸軍ノ官衙ノ長關係工場事業場ニ付令第五條ニ規定スル職權ヲ行フ必要アル場合ニ於テハ陸軍大臣ノ認可ヲ受ケ之ヲ行フコトヲ得

第三條　前條ニ規定スル陸軍ノ官衙ノ長（以下官衙ノ長ト稱ス）ハ令第六條第二項ノ規定ニ依リ工場事業場ヲ指定シテ其ノ職權ヲ其ノ所屬官衙ノ長

〔朝二〕

ヲシテ行ハシムルコトヲ得

第四條　官衙ノ長令第二條第一項第五號ニ掲グル物資ニ付令第五條ノ規定ニ依リ經理若ハ原價ニ關シ報告ヲ徴シ又ハ檢査ヲ爲サシムル必要アルトキハ陸軍大臣ノ認可ヲ受クベシ

第五條　官衙ノ長ハ豫メ陸軍大臣ノ認可ヲ受ケ令第五條ノ規定ニ依リ報告ヲ徴シ又ハ檢査ヲ行フ場合ノ手續ヲ定メ當該工場事業場ノ事業主ニ之ヲ通知スベシ

第六條　官衙ノ長令第五條ノ規定ニ依ル臨檢檢査ヲ爲サシムベキ官吏ヲ命ズル場合ニ於テ所屬ノ監督官長、監督官、會計監督官、監督官補、會計監督官補及工場事業場管理令ニ依ル陸軍ノ監理官アルトキハ之等ヲ以テ充ツルヲ例トス

第七條　官衙ノ長又ハ第三條ニ規定スル所屬官衙ノ長當該官吏ヲシテ臨檢檢査セシムル場合ニ於テハ豫メ當該工場事業場ノ事業主ニ之ヲ通知スベシ但シ已ムヲ得ザル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラズ

第八條　令第七條ノ規定ニ依ル證票ハ別記樣式ニ依ル官衙ノ長前項ノ證票ヲ當該官吏ニ交付シタル場合ニ於テハ當該官吏ノ職官氏名ヲ陸軍大臣ニ報告スベシ

附　則

本令ハ昭和十四年十月二十日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際工場事業場ノ事業主事業年度其ノ他ノ事由ニ依リ第一條ニ規定スル原價計算ヲ爲スコト能ハザルトキハ官衙ノ長ノ認可ヲ受ケ昭和十五年六月三十日迄同條ニ定ムル原價計算ヲ爲サザルコトヲ得

第一條ノ別冊陸軍軍需品工場事業場原價計算要綱略ス

別記樣式（用紙ノ大サハ日本標準規格A7ト）シ中央點線ノ所ヨリ二ツ折ト爲ス）

表面

第　號　　年　月　日交付

陸軍軍需品工場事業場臨檢票

陸軍官衙又ハ學校印

職官氏名

〔朝〕

裏面

國家總動員法第三十一條　政府ハ國家總動員上必要アルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ報告ヲ徴シ又ハ當該官吏ヲシテ必要ナル場所ニ臨檢シ業務ノ狀況若ハ帳簿書類其ノ他ノ物件ヲ檢査セシムルコトヲ得

國家總動員法第四十二條　第三十一條ノ規定ニ依ル當該官吏ノ檢査ヲ拒ミ、妨ゲ又ハ忌避シタル者ハ六月以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

軍需品工場事業場檢査令第五條　陸軍大臣又ハ海軍大臣軍需品ノ調達ニ關シ必要アリト認ムルトキハ軍需品又ハ其ノ原料若ハ材料ノ生產又ハ修理、之ニ伴フ業務又ハ經理又ハ軍需品又ハ其ノ原料若ハ材料ノ原價ニ關シ工場事業場ノ事業主ヨリ報告ヲ徴シ又ハ當該官吏ヲシテ工場事業場其ノ他必要ナル場所ニ臨檢シ業務ノ狀況又ハ帳簿書類、當該工場事業場ニ於テ生產又ハ修理ヲ爲ス軍需品、其ノ原料又ハ材料其ノ他ノ物件ヲ檢査セシムルコトヲ得

同令第六條　陸軍大臣又ハ海軍大臣必要アリト認ムルトキハ前條ニ規定スル職權ノ一部ヲ所轄スル官衙（陸海軍ノ學校ヲ含ム）ノ長ヲシテ行ハシムルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ當該官衙ノ長ハ陸軍大臣又ハ海軍大臣ノ定ムル所ニ依リ前項ノ規定ニ依ル職權ヲ其ノ所屬官衙ノ長ヲシテ行ハシムルコトヲ得

同令第七條　前二條ノ規定ニ依リ當該官吏ヲシテ臨檢檢査セシムル場合ニ於テハ其ノ身分ヲ示ス證票ヲ携帶セシムベシ

陸軍軍需品工場事業場檢査令施行規則第八條第一項　令第七條ノ規定ニ依ル證票ハ別記樣式ニ依ル

〔朝二〕

海軍軍需品工場事業場檢査令施行規則

昭和十五年一月十六日
海軍省令第一號

改正　昭和一六年一一月第四二號、一七年四月陸軍省令第一號、海軍省令第八號、第九號

海軍軍需品工場事業場檢査令施行規則左ノ通定ム

海軍軍需品工場事業場檢査令施行規則

第一條乃至**第三條**削除

第四條　令第五條ノ規定ニ依リ報告ヲ徴シ又ハ當該官吏ヲシテ臨檢檢査ヲ爲サシムル工場又ハ事業場ハ原價計算ヲ行ハシムル工場又ハ事業場トス但シ必要アリト認ムル場合ニ於テハ其ノ他ノ工場又ハ事業場ニ就キ報告ヲ徴シ又ハ當該官吏ヲシテ臨檢檢査ヲ爲サシムルコトアルベシ

第五條　令第四條及令第五條ノ規定ニ依ル事項ノ執行ニ當ラシムル當該官吏ヲ監査官ト稱ス

第六條　令第五條ノ規定ニ依ル報告ハ當該管轄ノ監査官ヲ經由シテ之ヲ爲スベシ

第七條　監査官ノ所在地及其ノ管轄區域ハ別表第一ニ依ル

第八條　令第七條ノ規定ニ依ル證票ノ樣式ハ別表第二ニ依ル

附　則

本令ハ昭和十五年一月二十日ヨリ之ヲ施行ス

第一條　ノ規定ニ依リ原價計算ヲ行フベキ工場又ハ事業場ニシテ本令施行ノ際事業年度區分ノ關係其ノ他ノ事由ニ因リ本令ニ依ル原價計算ヲ行フコト能ハザルモノハ海軍大臣ノ許可ヲ受ケ昭和十五年八月三十一日迄之ヲ行ハザルコトヲ得

昭和十五年一月二十一日以後ニ於テ第一條ニ規定スル海軍購買名簿ニ登錄セラレ又ハ第二條ノ規定ニ依ル通知ヲ受ケタル工場又ハ事業場ニシテ事業年度區分ノ關係其ノ他ノ事由ニ因リ本令ニ依ル原價計算ヲ行フコト能ハザルモノハ海軍大臣ノ許可ヲ受ケ海軍購買名簿ニ登錄セラレ又ハ第二條ノ規定ニ依ル通知ヲ受ケタル日ヨリ六月間之ヲ行ハザルコトヲ得

前二項ノ許可ノ申請ニ付テハ第六條ノ規定ヲ準用ス

別表第一

監査官所在地及其ノ管轄區域

監査官所在地	管轄區域
東京	東京府、神奈川縣（橫須賀市地方、浦賀町地方ヲ除ク）、千葉縣、埼玉縣、茨城縣、栃木縣、群馬縣、山梨縣、長野縣、福島縣、宮城縣、山形縣、岩手縣、秋田縣、青森縣
大阪	大阪府、京都府、滋賀縣、奈良縣、和歌山縣
神戸	兵庫縣、鳥取縣、島根縣（簸川郡及飯石郡以東）、德島縣、高知縣
長崎	長崎縣、熊本縣、鹿兒島縣、沖繩縣、臺灣、朝鮮、關東州
名古屋	愛知縣、岐阜縣、靜岡縣、三重縣
浦賀	神奈川縣（橫須賀市地方、浦賀町地方）
室蘭	北海道、樺太
八幡	福岡縣（宗像郡、鞍手郡及田川郡以東）、大分縣、宮崎縣、山口縣、（阿武郡、美禰郡、厚狹郡及宇部市以西）
廣島	廣島縣、山口縣（阿武郡、美禰郡、厚狹郡及宇部市以西ヲ除ク）、島根縣（簸川郡及飯石郡以東ヲ除ク）、愛媛縣
福岡	福岡縣（宗像郡、鞍手郡及田川郡以東ヲ除ク）、佐賀縣
玉野	岡山縣、香川縣
富山	富山縣、石川縣、福井縣、新潟縣

〔朝二〕

別表第二

證票樣式

本票ノ用紙ノ大サハ日本標準規格A7判（74mm×105mm）トシ中央點線ノ所ヨリ二ツ折ト爲ス

（表面）

第　號　昭和　年　月　日交付

軍需品工場事業場檢査票

職官　海軍省印

氏名

（裏面）

國家總動員法第三十一條　政府ハ國家總動員上必要アルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ報告ヲ徵シ又ハ當該官吏ヲシテ必要ナル場所ニ臨檢シ業務ノ狀況若ハ帳簿書類其ノ他ノ物件ヲ檢査セシムルコトヲ得

國家總動員法第四十二條　第三十一條ノ規定ニ依ル當該官吏ノ檢査ヲ拒ミ、妨ゲ又ハ忌避シタル者ハ六月以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

軍需品工場事業場檢査令第五條　陸軍大臣又ハ海軍大臣軍需品ノ調達ニ關シ必要アリト認ムルトキハ軍需品又ハ其ノ原料若ハ材料ノ生産又ハ修理、之ニ伴フ業務又ハ經理又ハ軍需品又ハ其ノ原料若ハ材料ノ原價ニ關シ工場事業場ノ事業主ヨリ報告ヲ徵シ又ハ當該官吏ヲシテ工場事業場其ノ他必要ナル場所ニ臨檢シ業務ノ狀況又ハ帳簿書類、當該工場事業場ニ於テ生産又ハ修理ヲ爲ス軍需品、其ノ原料又ハ材料其ノ他ノ物件ヲ檢査セシムルコトヲ得

軍需品工場事業場檢査令第七條　前二條ノ規定ニ依リ當該官吏ヲシテ臨檢檢査セシムル場合ニ於テハ其ノ身分ヲ示ス證票ヲ携帶セシムベシ

海軍軍需品工場事業場檢査令施行規則第八條　令第七條ノ規定ニ依ル證票ノ樣式ハ別表第二ニ依ル

〔朝二〕

●原價計算規則

昭和十七年四月一日
閣令
陸軍省令
海軍省令
第一號

原價計算規則左ノ通制定ス

原價計算規則

第一條　價格等統制令第十條、會社經理統制令第三十六條第一項又ハ軍需品工場事業場檢査令第四條ノ規定ニ依ル原價計算ニ關シテハ本令ノ定ムル所ニ依ル

第二條　原價計算ノ準則ハ別册製造工業原價計算要綱ニ基キ業種別又ハ業種ノ經營規模別ニ主務大臣之ヲ定メ告示ス

原價計算ニ關シ提出セシムベキ報告書類ノ樣式ハ前項ノ規定ニ依ル準則毎ニ主務大臣之ヲ定メ告示ス

第三條　主務大臣原價計算ヲ爲スベキ事業ノ範圍及原價計算ヲ開始スベキ期日ヲ指定シタルトキハ當該事業主ハ前條ノ規定ニ依ル準則ニ基キ原價計算ヲ爲スベシ但シ主務大臣ノ許可ヲ受ケタルトキハ原價計算ノ開始ノ期日ヲ延期スルコトヲ得

第四條　事業主前條ノ規定ニ依リ原價計算ヲ爲サントスルトキハ第二條ノ規定ニ依ル準則ニ基キ原價計算ノ實施手續ヲ定メ原價計算開始ノ期日迄ニ之ヲ主務大臣ニ提出スベシ

主務大臣必要アリト認ムルトキハ前項ノ原價計算ノ實施手續ノ變更ヲ命ズルコトヲ得

附　則

第五條　本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第六條　軍需品工場事業場檢査令施行規則中左ノ通改正ス

第一條　削除

第七條　海軍軍需品工場事業場檢査令施行規則中左ノ通改正ス

第一條乃至第三條削除

第八條　第三條ノ規定ニ依リ指定セラルル事業主以外ノ事業主ノ原價計算ニ付テハ前二條ノ規定ニ拘ラズ第三條ノ規定ニ依リ原價計算ヲ開始スベキ期日ノ前日迄ハ仍從前ノ例ニ依ル

第九條　陸軍大臣又ハ海軍大臣第三條ノ規定ニ依リ原價計算ヲ開始スベキ期日ヲ指定シタルトキハ其ノ指定期日ニ於テ從前ノ規定ニ依リ原價計算ヲ爲スベキ旨ヲ指定セラレタル事業主ハ第三條ノ規定ニ依リ指定セラレタルモノト看做ス

（別册）

製造工業原價計算要綱

第一章　總則

第一　原價計算ノ目的

本要綱ニ依ル原價計算ハ製造工業ニ於ケル正確ナル原價ヲ計算シ以テ適正ナル價格ノ決定及經營能率ノ增進ノ基礎タラシムルコトヲ目的トス

第二　原價（總原價）

本要綱ニ於テ原價トハ製品（半製品及部分品ヲ含ム以下同ジ）ノ生產（修理又ハ加工ヲ含ム以下同ジ）及販賣ノ爲ニ製品ノ一定單位ニ關シテ消費セラルル經濟價値ヲ謂フ

第三　原價計算

本要綱ニ於テ原價計算トハ原價ヲ構成スル要素（以下原價要素ト稱ス）ヲ製品ノ一定單位ニ付計算スル手續ヲ謂フ

原價計算ハ原價ヲ其ノ實際ニ付計算スルモノトス但シ必要アル場合ニハ原價ノ一部ヲ豫定ヲ以テ計算スルコトヲ得豫定ハ過去ノ實績ヲ基礎トシ且將來ノ豫想等ヲ考慮シテ之ヲ適正ニ行フ

原價ノ一部ヲ豫定ヲ以テ計算スル場合ニ於テ原價計算期末ニ生ズベキ實際額ト豫定額トノ差額ハ之ヲ原價計算外ノ損益トシテ處理スルモ其ノ差額ハ一年又ハ一事業年度ヲ通算シテ之ヲ僅少ナラシムルコトニ努ムルモノトス

第四　原價計算ノ期間

原價計算ノ期間ハ一月トス但シ業種ニ依リ已ムヲ得ザル場合ニハ其ノ期間ヲ延長スルコトヲ得

第五　原價ノ構成

原價ハ原則トシテ之ヲ製造原價ト一般管理及販賣費トニ區分ス製造原價トハ製品ノ生產ニ關シテ費消セラルル價値ヲ謂ヒ一般管理及販賣費トハ事業全體ノ管理及製品ノ販賣ニ關シテ費消セラルル價値ヲ謂フ

製造原價又ハ一般管理及販賣費ヲ構成スル要素ハ第六、第七、第十一、第十五、第二十ニ定ムル分類ノ區分ニ依ルモ業種及經營規模ニ依リ適當ノ變更ヲ加フルコトヲ得但シ同一ノ業種ニ屬スル事業ニシテ經營規模ノ同一ナルモノニ在リテハ已ムヲ得ザル場合ヲ除クノ外區分及名稱ハ之ヲ統一スルモノトス

第二章　原價要素

第一節　製造原價ノ要素

第六　製造原價ノ要素

製造原價ハ之ヲ材料費、勞務費及經費ニ區分ス

材料費トハ製品ノ生產ニ關シテ費消セラルル物品ノ價値ヲ謂ヒ勞務費トハ製品ノ生產ニ關シテ費消セラルル勞働給付ノ價値ヲ謂ヒ經費トハ製品ノ生產ニ關シテ費消セラルル價値ニシテ材料費及勞務費ヲ除キタルモノヲ謂フ

第一款　材料費

第七　材料費ノ分類

材料費ハ之ヲ左ノ原價要素ニ區分ス

一　主要材料費（主要原料費）

主要材料費トハ製品ノ生產ニ關シテ直接ニ費消セラレ製品ノ基本的實體トナリテ再現スル物品ノ價値ヲ謂フ

二　部分品費

部分品費トハ其ノ儘製品ニ取付ケラレ其ノ組成部分トナル物品ノ費消價値ヲ謂フ

三　補助材料費

補助材料費トハ燃料、藥品、油類、雜品（釘、螺旋等）等製品ノ生產ニ關シテ補助的ニ費消セラルル物品ノ價値ヲ謂フ

四　消耗工具器具備品費

消耗工具器具備品費トハ耐用年數一年未滿又ハ相當價額未滿ノ工具、器具及備品ノ費消價値ヲ謂フ

五　事務用消耗品費

事務用消耗品費トハ用紙、文房具其ノ他事務用ニ費消セラルル消耗品

ノ價値ヲ謂フ

第八　材料消費量ノ計算

材料消費量ノ計算ハ繼續記錄法ニ依ル繼續記錄法トハ出庫ノ都度其ノ數量ヲ材料ノ種類毎ニ記錄シ消費量ヲ計算スル方法ヲ謂フ

一　作業時間又ハ作業量ノ出勤簿、作業時間報告書又ハ出來高報告書ニ依リ計算ス

二　賃率ハ時間拂賃金制度ニ在リテハ實際ノ平均賃率ニ依リ出來高拂賃金制度ニ在リテハ實際ノ出來高ニ平均賃率ニ依ルモノトス

三　給料

雜給トハ人夫賃其ノ他之ニ準ズルモノヲ謂フ

第十二　消費賃金ノ計算

消費賃金ハ原則トシテ作業時間又ハ作業量（出來高）ニ賃率ヲ乘ジテ之ヲ計算ス作業時間ニ依ル場合ニハ其ノ消費價格ハ左ノ方法ニ依リテ計算ス

一　繼續記錄法ニ在リテハ原則トシテ買入順法又ハ移動平均價格法ニ依リ計算ス買入順法トハ購入材料ヲ購入日別ニ區分シ購入日附早キ口ノ單價ヲ該口ノ數量ノ總量ニ乘ジ其ノ材料ノ消費價格トシテ採用スル方法ヲ謂ヒ移動平均價格法トハ單價ノ相違スル材料ヲ購入スル毎ニ加重平均單價ヲ算出シ之ヲ材料ノ消費價格トシテ採用スル方法ヲ謂フ

二　棚卸計算法又ハ逆計算法ニ在リテハ平均購入原價ヲ以テ計算ス

同種ノ自家生產材料ニシテ其ノ製造原價ノ異ル場合ニハ其ノ消費價格ノ計算ハ前項ニ準ズ

材料ノ消費價格ハ必要アル場合ニハ一定期間ニ適用セラルベキ豫定價格ヲ以テ計算スルコトヲ得

第二款　勞務費

第十一　勞務費ノ分類

勞務費ハ之ヲ左ノ原價要素ニ區分ス

一　賃金

賃金ハ基本賃金ノ外加給金（時間外其ノ他ノ割增賃金）ヲ含ム

二　給料

三　雜給

雜給トハ人夫賃其ノ他之ニ準ズルモノヲ謂フ

第十二　消費賃金ノ計算

消費賃金ハ原則トシテ作業時間又ハ作業量（出來高）ニ賃率ヲ乘ジテ之ヲ計算ス作業時間ニ依ル場合ニハ其ノ消費價格ハ左ノ方法ニ依リテ計算ス

一　作業時間又ハ作業量及出勤簿、作業時間報告書又ハ出來高報告書ニ依リ計算ス

二　賃率ハ時間拂賃金制度ニ在リテハ實際ノ平均賃率ニ依リ出來高拂賃金制度ニ在リテハ實際ノ出來高ニ平均賃率ニ依ル場合ニハ其ノ消費價格ハ左ノ方法ニ依リ計算ス

一　繼續記錄法ニ在リテハ原則トシテ買入順法又ハ移動平均價格法ニ依リ計算ス買入順法トハ購入材料ヲ購入日別ニ區分シ購入日附早キ口ノ單價ヲ該口ノ數量ノ總量ニ乘ジ其ノ材料ノ消費價格トシテ採用スル方法ヲ謂ヒ移動平均價格法トハ單價ノ相違スル材料ヲ購入スル毎ニ加重平均單價ヲ算出シ之ヲ材料ノ消費價格トシテ採用スル方法ヲ謂フ

二　棚卸計算法又ハ逆計算法ニ在リテハ平均購入原價ヲ以テ計算ス

同種ノ自家生產材料ニシテ其ノ製造原價ノ異ル場合ニハ其ノ消費價格ノ計算ハ前項ニ準ズ

材料ノ消費價格ハ必要アル場合ニハ一定期間ニ適用セラルベキ豫定價格ヲ以テ計算スルコトヲ得

第二款　勞務費

第十一　勞務費ノ分類

勞務費ハ之ヲ左ノ原價要素ニ區分ス

一　賃金

賃金ハ基本賃金ノ外加給金（時間外其ノ他ノ割增賃金）ヲ含ム

二　給料

三　雜給

雜給トハ人夫賃其ノ他之ニ準ズルモノヲ謂フ

第十二　消費賃金ノ計算

消費賃金ハ原則トシテ作業時間又ハ作業量（出來高）ニ賃率ヲ乘ジテ之ヲ計算ス

工場法、健康保險法、退職積立金及退職手當法等ニ依ル事業主負擔額

健康保險料負擔金等

二　健康保險料負擔金等ハ勞務費ニ算入スベキモノヲ除ク外材料ノ購入原價ニ算入スルコトヲ得

第十　材料ノ消費價格

材料ノ消費價格ハ購入材料ニ在リテハ實際ノ購入原價ヲ以テ計算シ自家製造原價ヲ構成スル經費ハ之ヲ左ノ原價要素ニ區分ス

一　從業員賃與手當

二　健康保險料負擔金等

工場法、健康保險法、退職積立金及退職手當法等ニ依ル事業主負擔額ハ業種ニ依リ必要アル場合ニハ勞務費ニ算入スルコトヲ得

第十四　勞務副費

從業員募集費、從業員訓練費、工場法、健康保險法、退職積立金及退職手當法等ニ依ル事業主負擔額等從業員ノ管理及福利ニ關スル費用ハ之ヲ勞務費ニ算入セズ但シ工場法、健康保險法、退職積立金及退職手當法等ニ依リ必要アル場合ニハ勞務費ニ算入スルコトヲ得

第三款　經費

第十五　經費ノ分類

製造原價ヲ構成スル經費ハ之ヲ左ノ原價要素ニ區分ス

一　從業員賃與手當

二　健康保險料負擔金等

十一　支拂電力料
十二　支拂瓦斯代
十三　支拂水道料
十四　支拂運賃
十五　支拂保管料
十六　租稅課金
地租、家屋稅及同附加稅、車輛稅等ノ租稅及公共的出費タル課金ニシテ工場ニ賦課セラルルモノハ之ヲ經費トス
十七　旅費交通費
十八　通信費
十九　交際費
交際費（接待費及機密費ヲ含ム以下同ジ）ハ種類及金額ニ於テ正當ノモノニ限ル
二十　棚卸減耗費
棚卸減耗費ハ正常ノモノニ限ル棚卸減耗費トハ材料、半製品、部分品等ノ保管又ハ運搬中ニ生ズル破損、腐敗、漏洩、蒸發、變質等ニ因ル減耗費ヲ謂フ
二十一　仕損費
仕損費ハ正當ノモノニ限ル
仕損ガ補修ニ依リテ恢復セラルル時ハ之ニ要スル費用ヲ仕損費トス
仕損品ガ賣却價値又ハ利用價値ヲ有スル場合ニハ其ノ見積金額ヲ仕損品ノ原價ヨリ控除シタルモノヲ仕損費トス
二十二　外注加工賃

外注加工賃ハ之ヲ經費トス但シ材料費ト併セテ之ヲ主要材料費又ハ部分品費トシテ處理スルコトヲ妨ゲズ外注加工賃トハ他人ニ材料ヲ供給シテ加工セシメ半製品又ハ部分品トシテ之ヲ引取ル場合ニ於ケル支拂加工賃ヲ謂フ

二十三　雜費
工場ガ第三章第一節第一款ニ定ムル補助部門費計算ヲ爲ス場合ニハ經費ハ概ネ之ヲ前項第一號乃至第二十三號ニ掲グル要素ニ區分ス
工場ガ第三章第一節第一款ニ定ムル補助部門費計算ヲ爲サザル場合ニハ動力發生、用水、運搬、材料ノ購入及保管、修繕、檢査、從業員募集、從業員訓練、福利施設、試驗研究等ニ關スル特別ノ費用トシテ容易ニ捕捉シ得ル諸原價要素ヲ複合シテ動力費、用水費、運搬費、材料保管費、修繕費、檢査費、從業員募集費、從業員訓練費、福利費、試驗研究費等ノ複合費ヲ設定シ之ヲ第一項第一號乃至第二十三號ニ掲グル經費要素ト共ニ經費ノ分類中ニ加フルコトヲ得例ヘバ動力用燃料費、動力係員ノ給料及賃金、買入動力費等ヲ複合シテ動力費ヲ設定シ修繕用材料費、修繕作業係員ノ給料及賃金、支拂修繕料等ヲ複合シテ修繕費ヲ設定シ從業員募集係員ノ給料、募集旅費、募集手數料等ヲ複合シテ從業員募集費ヲ設定スルガ如シ
複合費ヲ設定スル場合之ニ複合セラルル諸原價要素ハ同一業種ニ在リテハ之ヲ統一スルモノトス

第十六　減價償却費
減價償却費ハ左ノ各號ノ定ムル所ニ依リ之ヲ計算ス
一　減價償却トハ經常ノ減價償却ヲ意味シ固定資産ノ原價、耐用年數及

〔朝二〕

殘存價額ヲ測定シ當該固定資産ノ原價ヲ每期繼續的ニ減額シ以テ投下資本ノ回收ヲ爲スコトヲ謂フ
二　減價償却ヲ爲スベキ固定資産ノ種類ハ概ネ左ノ如シ
イ　建物
建物トハ建物ノ外廻房、冷房、照明、通風等ノ建物附屬設備ヲ含ム
ロ　構築物
構築物トハ船渠、橋梁、岸壁、棧橋、軌道、貯水池等ノ土地ニ定着スル土木的設備ヲ謂フ
ハ　機械裝置
機械裝置トハ機械及裝置ノ外コンベヤ、ホイスト、起重機等ノ搬送設備ヲ含ム
ニ　船舶
船舶トハ貨物船、機帆船、艀、曳船等ノ水上運輸機關ヲ謂フ
ホ　車輛運搬具
車輛運搬具トハ鐵道車輛、自動車、牽引車等ノ陸上運輸機關ヲ謂フ
ヘ　工具器具備品
工具器具備品トハ耐用年數一年以上ニシテ相當價額以上ノ工具、器具及備品ヲ謂フ
ト　特許權、實用新案權、意匠權等
三　建物、機械裝置、工具器具備品其ノ他ノ有形固定資産ノ減價償却ハ其ノ取得又ハ製作ニ要シタル實際ノ原價ヲ基礎トシテ之ヲ爲ス組立費、基礎工事費、諸稅等有形固定資産ノ取得又ハ製作ニ要シタル正當ノ附帶費用ハ其ノ原價ニ算入スルモノトス

改造又ハ修繕ニ因リ有形固定資産ノ效用又ハ耐用年數ヲ增加シタルトキハ其ノ增加ノ限度ニ於テ改造又ハ修繕ニ要シタル費用ノ一部又ハ全部ヲ有形固定資産ノ原價ニ算入ス
建設助成金ヲ受入レタルトキハ其ノ金額ヲ有形固定資産ノ原價ヨリ控除ス
建設利息ハ固定資産ノ原價ニ算入セズ
四　特許權、實用新案權、意匠權等ハ有償ニテ取得又ハ特別ノ費用ヲ支出シテ創設シタル場合ニ限リ之ヲ固定資産ニ計上シ其ノ原價ヲ基礎トシテ減價償却ヲ爲ス
前項ノ無形固定資産ノ原價ハ有償ニテ取得シタル場合ニハ買入代價ニ取得ニ要シタル費用ヲ算入シタルモノトシ特別ノ費用ヲ支出シテ創設シタル場合ニハ之ニ要シタル諸費用ヲ合計シタルモノトス
五　固定資産ハ各物件別ニ原價ヲ計算シ其ノ原價ヲ基礎トシテ各物件別ニ減價償却ヲ爲ス但シ各物件別ニ計算シ難キ場合ニハ諸物件ヲ一括シテ減價償却ヲ爲スコトヲ得
六　固定資産ノ耐用年數ハ別ニ定ムル固定資産耐用年數表ニ依ル
七　耐用年數經過後ニ於ケル固定資産ノ殘存價額ハ殘存資産ノ種類、用途等ヲ考慮シテ之ヲ定ム
八　減價償却ハ定額法ニ依ル但シ業種ニ依リ必要アルトキ又ハ固定資産ノ性質上之ニ依リ難キトキハ定率法ニ依ルコトヲ得
九　器具及備品ニシテ減價償却ノ困難ナルモノニ付テハ取替法ヲ以テ減價償却ニ代フルコトヲ得
十　過去ノ期間ニ償却スベカリシ減價ニシテ未償却ノモノハ之ヲ將來ノ

〔朝二〕

減價償却費ニ計上セズ原價計算外ノ損失トシテ處理ス

十一　不慮ノ災害又ハ豫期シ得ザル經濟事情ノ激變ニ因リ固定資產ニ著シキ減價ヲ生ジタル場合ノ特別償却ハ之ヲ原價計算外ノ損失トシテ處理ス

第十七　試驗研究及試作ニ關スル費用

試驗研究及試作ニ關スル費用ニシテ經常ノ性質ヲ有スルモノハ之ヲ當該期間ノ費用トス

新技術採用ノ爲ニ支出シタル試驗研究又ハ試作ニ關スル費用ハ之ヲ繰延ベ固定資產ニ計上スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ第十六ニ定ムル所ニ依リ其ノ減價償却ヲ爲ス

第十八　修繕ニ關スル費用

建物、機械、裝置等ノ修繕ニ關スル費用ハ修繕維持ノ程度ニ限リ之ヲ當該期間ノ費用トス

第二節　一般管理及販賣費ノ要素

第十九　一般管理及販賣費

一般管理及販賣ニ關スル費用ハ之ヲ一括シ一般管理及販賣費トシテ處理ス但シ一般管理費ト販賣費トニ區別シテ處理スルコトヲ得

第二十　一般管理及販賣費ノ分類

一般管理及販賣費ハ之ヲ左ノ原價要素ニ區分ス

一　役員報酬

取締役、監査役其ノ他ノ役員ニ對スル報酬ヲ謂フ

個人事業ニ於ケル事業主報酬ハ適當ナル額ヲ見積リテ之ヲ原價ニ算入ス

二　給料賃金

一般管理及販賣事務ニ從事スル從業員ノ給料及賃金ヲ謂フ

三　從業員賞與手當

一般管理及販賣事務ニ從事スル從業員ノ賞與及手當ヲ謂フ

四　健康保險料負擔金等

健康保險法、退職積立金及退職手當法等ニ依ル事業主負擔額ニシテ一般管理及販賣事務ニ從事スル從業員ニ對スルモノヲ謂フ

五　厚生費

一般管理及販賣事務ニ從事スル從業員ノ醫務衛生、保健、慰安、修養等ノ爲ニ支拂フ費用ヲ謂フ

六　福利施設負擔額

學校、病院等福利施設ヲ獨立會計ト爲シタル場合ニ於ケル一般管理及販賣部ノ負擔額ヲ謂フ

七　減價償却費

一般管理及販賣事務用ノ建物、備品其ノ他ノ固定資產ノ減價償却費ヲ謂フ

八　地代家賃

一般管理及販賣事務用ノ土地及建物ノ賃借料ヲ謂フ

九　保險料

一般管理及販賣事務用ノ建物、備品等ノ火災保險料其ノ他ノ損害保險料ヲ謂フ

十　修繕費

一般管理及販賣事務用ノ建物、備品等ノ修繕費ヲ謂フ但シ修繕維持ノ

程度ニ限ル

十一　照明費、煖房費、冷房費

一般管理及販賣事務用ノ照明、煖房、冷房等ノ費用ヲ謂フ

十二　租稅課金

租稅ハ製造原價ニ計上セラルル租稅、固定資產ノ原價ニ算入セラルル租稅、法人稅、營業稅及同附加稅、臨時利得稅、所得稅等ヲ除キタル營業ニ關係アル租稅ヲ謂ヒ課金ハ商工會議所費、組合據出金其ノ他ノ營業ニ關係アル課金ニシテ製造原價ニ算入セラレザルモノヲ謂フ

十三　旅費交通費

一般管理及販賣事務ニ關スル旅費及交通費ヲ謂フ

十四　通信費

一般管理及販賣事務ニ關スル通信費ヲ謂フ

十五　消耗工具器具備品費

一般管理及販賣事務用ノ消耗工具器具備品費ヲ謂フ

十六　事務用消耗品費

一般管理及販賣事務用ノ事務用消耗品費ヲ謂フ

十七　交際費

交際費ハ種類及金額ニ於テ正當ノモノニ限ル

十八　保管費

十九　運送費

製品ノ發送其ノ他運送ニ關スル費用ヲ謂フ

二十　納入試驗費

二十一　販賣手數料

委託販賣等ノ場合ニ於ケル手數料ヲ謂フ

二十二　販賣調査費

二十三　廣告宣傳費

廣告宣傳費ハ種類及金額ニ於テ正當ノモノニ限ル

二十四　雜費

第三節　原價ニ算入シ得ザル項目

第二十一　原價ニ算入シ得ザル項目

左ニ掲グルモノハ之ヲ原價ニ算入スルコトヲ得ズ

一　火災、風水害、盜難等ニ因ル損失、偶發債務ニ因ル損失、訴訟費其ノ他偶發的事情ニ因ル損失

二　設立費償却、營業權償却、建設利息償却、役員ノ賞與及臨時的退職手當、役員及社員ノ臨時ノ給與、法人稅、營業稅及同附加稅、臨時利得稅竝ニ所得稅、寄附金、贈與其ノ他利益ヲ以テ支辨スベキ性質ヲ有スル項目

三　投資不動產、長期出資、長期貸付金等ノ管理費用及此等ノ資產ニ對スル諸稅、投資資產賣却損其ノ他事業本來ノ目的ニ在ラズシテ利殖、統制其ノ他ノ目的ヲ以テ長期ニ亙リ所有スル資產ニ關スル費用又ハ損失

四　擴張用ノ土地、建物、機械、裝置、建設用材料、特許權等ノ取得、建設又ハ管理ノ費用及此等ノ資產ニ對スル諸稅其ノ他經營擴張ノ爲豫備的ニ保有スル資產又ハ建設中ノ設備ニ關スル費用

五　未經過保險料、前拂賃借料其ノ他ノ前拂費用

六　財產評價損、貸倒償却又ハ違約金

七　利子竝ニ手形割引料、社債發行差金及發行費償却其ノ他利子ノ性質ヲ有スルモノ

八　前各號ニ掲グルモノノ外法令ニ依リ經費トシテ處理スルコトヲ得ザル費用

第三章　原價計算ノ方法

第一節　製造原價計算

第二十二　製造原價計算ノ手續

製造原價計算ハ製造原價要素ヲ要素別ニ計算シ次ニ之ヲ原價部門ニ集計シ最後ニ製品ノ一定單位ニ負擔セシムル手續ヲ經ルヲ原則トス

第二十三　個別原價計算ト綜合原價計算

製造原價計算ハ之ヲ個別原價計算ト綜合原價計算トニ分ツ

個別原價計算トハ特定ノ製品ニ付個別的ニ其ノ原價ヲ計算スル方法ヲ謂フ種類又ハ規格ヲ異ニスル製品ヲ個別的ニ生産スル工場ニ在リテハ此ノ方法ニ依リ製造原價ヲ計算ス

綜合原價計算トハ一期間ニ於ケル製品全部ノ原價ヲ綜合算定シ次デ之ヲ製品ニ分割シ其ノ原價ヲ計算スル方法ヲ謂フ同種製品ヲ反復繼續シテ大量ニ生産スル工場ニ在リテハ此ノ方法ニ依リ製造原價ヲ計算ス

第二十四　製造原價要素ノ賦課手續上ノ分類

個別原價計算ニ在リテハ原價賦課ノ手續上製造原價要素ハ之ヲ直接費ト間接費トニ分ツ直接費トハ特定ノ製品ニ直接ニ負擔セシムル原價要素ヲ謂ヒ直接材料費、直接勞務費及直接經費ニ區分ス間接費トハ多數ノ製品ニ對シ共通的ニ發生シ特定ノ製品ニ直接ニ負擔セシムルコト困難ナル爲間接ニ負擔セシムル原價要素ヲ謂ヒ間接材料費、間接勞務費及間接經費ヨリ成ル

綜合原價計算ニ在リテモ原價賦課ノ手續上必要アル場合ハ製造原價要素ハ之ヲ個別原價計算ニ準ジテ直接費ト間接費トニ分ツ

第一款　部門費計算

第二十五　原價部門

製造原價ノ計算ニ在リテハ工場ヲ原價部門ニ分チ部門費計算ヲ爲ス但シ原價計算上補助部門費ノ重要ナラザル工場ニ在リテハ其ノ計算ヲ省略スルコトヲ得

原價部門トハ原價要素ヲ其ノ發生ノ場所ニ從ヒ集計スル計算上ノ區分ヲ謂ヒ必ズシモ生産技術上又ハ職制上ノ部門ニ依リ區分スルコトヲ要セズ

原價部門ハ之ヲ製造部門ト補助部門トニ區分ス

製造部門トハ當該事業ノ目的タル製品ノ生産ノ行ハルル部門ヲ謂フ

製造部門ハ作業ノ種別ニ依リ之ヲ各種ノ部門ニ區分ス例ヘバ機械工業ニ於ケル鑄造部、鍛造部、機械部、組立部等又ハ鐵鋼業ニ於ケル骸炭部、製銑部、鋼塊部、鍛造部、壓延部等ノ如シ

補助部門トハ製造部門ニ對シテ補助的關係ニアル部門ヲ謂ヒ之ヲ補助經營部門ト工場管理部門トニ區分ス

補助經營部門トハ當該事業ノ目的タル製品ノ生産ニ直接關與セズ自己ノ製品又ハ生産的用役ヲ製造部門ニ提供スル部門ヲ謂ヒ之ヲ動力部、用水部、修繕部、運搬部、檢査部、工具製作部等ニ細分ス

工場管理部門トハ材料又ハ勞務ノ管理、企畫、設計其ノ他工場ノ管理事務ヲ管掌スル部門ヲ謂ヒ之ヲ材料部（材料購買部及倉庫部）、工具管理部、勞務部、福利部、企畫設計部、試驗研究部、工場事務部等ニ細分ス

製造部門及補助部門ニ屬スル各部門ハ業種、經營規模及生産樣式ノ實情ニ依リ適當ニ之ヲ定ム但シ同一ノ業種ニ屬スル工場ニシテ經營規模及生産樣式ノ同一ナルモノニ在リテハ已ムヲ得ザル場合ヲ除クノ外之ヲ統一スルモノトス

第二十六　部門費計算ノ手續

部門費計算ハ左ノ手續ニ依ル

一　總テノ製造原價要素又ハ一部ノ製造原價要素ヲ製造部門及補助部門ニ屬スル各部門ニ賦課又ハ配賦ス

二　次デ總テノ補助部門費又ハ一部ノ補助部門費ヲ製造部門ニ配賦シ以テ製造部門費ヲ計算ス

工具製作部ハ部門費計算上製造部門ニ屬セシムルコトヲ得

第二十七　部門個別費ト部門共通費

製造原價要素ハ部門配賦手續上之ヲ部門個別費ト部門共通費トニ分ツ

部門個別費トハ特定ノ部門ニ個別的ニ發生シ當該部門ニ賦課スル原價要素ヲ謂フ例ヘバ特定部門ノ補助材料費、賃金、機械及裝置ノ減價償却費、特許權使用料等ノ如シ

部門共通費トハ數個ノ部門ニ共通的ニ發生シ各部門ニ配賦スル原價要素ヲ謂フ例ヘバ建物減價償却費、建物火災保險料、家賃、地代、租稅、旅費、通信費等ノ如シ

部門個別費ハ各部門ニ於ケル發生額ヲ當該部門ニ賦課ス

部門共通費ハ各原價要素ニ付各部門ガ享クル用役ニ應ジ部門ノ面積、容積、從業員數、勞働時間數、生産數量、賃金額、固定資産ノ價額其ノ他適當ナル配賦基準ニ依リ各部門ニ配賦ス配賦基準ハ各原價要素ニ付之ヲ定ム但シ金額大ナラズ且正確ヲ要スル程度ノ小ナル場合ニハ類似科目ヲ一括シテ定ムルコトヲ得配賦基準ハ同一ノ業種ニ屬スル工場ニシテ經營規模ノ同一ナルモノニ在リテハ已ムヲ得ザル場合ヲ除クノ外之ヲ統一スルモノトス

第二十八　補助部門費配賦

補助部門費ノ製造部門ヘノ配賦ハ原則トシテ左ノ方法ニ依ル

一　直接配賦法

直接配賦法ニ在リテハ各補助部門間ニ授受スル用役ハ之ヲ全ク無視シ總テノ補助部門費又ハ一部ノ補助部門費ヲ其ノ用役ヲ享ケタル製造部門ニ用役ノ程度ニ應ジテ直接ニ配賦ス

直接配賦法ノ第一法ハ原則トシテ總テノ補助部門費ヲ製造部門ニ直接ニ配賦スル方法トス

此ノ場合製造部門ヘノ配賦基準ハ左ノ如シ

イ　動力部費　計量器ニ依リ測定シタル各製造部門ノ動力消費量、各製造部門据付機械ノ馬力數又ハ馬力時間數其ノ他適當ナル配賦基準

ロ　用水部費　計量器ニ依リ測定シタル各製造部門ノ用水消費量其ノ他適當ナル配賦基準

ハ　修繕部費　修繕作業ノ單價ヲ基礎トシテ計算シタル各製造部門ノ修繕額其ノ他適當ナル配賦基準

ニ　運搬部費　各製造部門ニ於ケル運搬物品ノ重量、運搬距離、運搬回數其ノ他適當ナル配賦基準

ホ　檢査部費　各製造部門ニ於ケル檢査工ノ作業時間其ノ他適當ナル

配賦基準

へ　材料部費　各製造部門ヘノ出庫材料ノ價額、重量其ノ他適當ナル配賦基準

ト　勞務部費又ハ福利部費　各製造部門ノ賃金、從業員數其ノ他適當ナル配賦基準、學校、病院等ノ施設ハ原則トシテ之ヲ獨立會計トシ之ニ對スル工場ノ負擔額ヲ福利部費ニ計上ス

チ　試驗研究部費、企畫設計部費又ハ工場事務部費　各製造部門ノ直接勞働時間數其ノ他適當ナル配賦基準

直接配賦法ノ第二法ハ補助經營部門費ヲ原則トシテ直接ニ製造部門ニ配賦シ工場管理部門費ヲ直接ニ製品ニ配賦スル方法トス補助經營部門費ノ製造部門ヘノ配賦基準ハ前項ニ定ムル配賦基準ニ依ル

二　階梯式配賦法

階梯式配賦法ニ在リテハ補助部門相互間ニ授受スル用役ヲ比較シ最モ多數ノ部門ヘ用役ヲ提供スルモノノ順位ニ從ヒ補助部門ヲ階梯式ニ配列シ此ノ順位ニ從ヒ先ヅ第一順位ニ在ル補助部門ノ部門費ヲ其ノ用役ヲ享ケタル他ノ補助部門及製造部門ニ其ノ享ケタル用役ノ程度ニ應ジテ配賦シ次ニ第二順位ニアル補助部門ノ部門費ヲ其ノ用役ヲ享ケタル第三順位以下ノ補助部門及製造部門ニ其ノ享ケタル用役ノ程度ニ應ジテ配賦シ此ノ計算ヲ繰返スコトニ依リ補助部門費ヲ最終部門タル製造部門ニ配賦シ了ルモノトス

各補助部門費ノ配賦基準ハ直接配賦法ニ定ムル配賦基準ニ依ル

三　相互配賦法

相互配賦法ニ在リテハ補助部門相互間ニ授受スル用役ヲ測定シ先ヅ各補助部門ノ部門費ヲ其ノ用役ヲ享ケタル他ノ補助部門及製造部門ニ用役ノ程度ニ應ジテ配賦シ次デ各補助部門ガ他ノ補助部門ヨリ配賦セラレタル額ヲ製造部門ニ直接ニ配賦ス配賦基準ハ直接配賦法ニ定ムル配賦基準ニ依ル

補助部門費ハ實際額ヲ配賦ス但シ事情ニ依リ動力部費、用水部費、修繕部費等ハ當該用役ノ豫定價格ヲ以テ配賦スルコトヲ得

補助部門費ノ配賦方法及配賦基準ハ業種、經營規模及生產樣式ノ實情ニ依リ適當ニ之ヲ定ム但シ同一ノ業種ニ屬スル工場ニシテ經營規模及生產樣式ノ同一ナルモノニ在リテハ已ムヲ得ザル場合ヲ除クノ外之ヲ統一スルモノトス

第二款　個別原價計算

第二十九　製造指圖書及原價計算表

種類又ハ規格ヲ異ニスル製品ヲ個別的ニ生產スル工場ニ在リテハ製品ノ一定單位每ニ製造指圖書ヲ發行シ各指圖書別ニ原價計算表（原價元帳）ヲ設ケテ製造原價ヲ計算ス

一製造指圖書ニ依ル生產ヲ數個ノ作業ニ區分シテ製造原價ヲ計算スル場合ニハ各區分作業ニ對シテ副指圖書ヲ發行シ製造原價ハ先ヅ副指圖書每ニ計算シ更ニ之ヲ主指圖書ニ綜括ス

第三十　製造原價ノ集計

個別原價計算ニ在リテハ直接費ハ之ヲ各指圖書ニ賦課シ間接費ハ原價計算期間ニ於ケル金額ヲ集計シ指圖書ニ配賦ス

間接費配賦ヲ爲ス場合ニ於テ部門費計算ヲ爲ス場合ニハ原則トシテ製造間接費要素ヲ先ヅ各部門ニ配賦シ次デ總テノ補助部門費又ハ一部ノ補助部

〔朝二〕

門費ヲ製造部門ニ配賦シ最後ニ各製造部門費又ハ各製造部門費及製造部門ニ配賦セラレザル補助部門費ヲ指圖書ニ配賦ス

部門費計算ヲ爲サザル場合ニハ間接費ハ之ヲ直接ニ指圖書ニ配賦ス

第三十一　間接費ノ指圖書ヘノ配賦

間接費配賦ヲ爲ス場合ニ於テ部門費計算ヲ爲ス場合ニハ各製造部門ニ集計セラレタル間接費ハ之ヲ當該製造部門ヲ通過スル指圖書ニ配賦ス其ノ配賦基準ハ直接勞働時間ニ依ル但シ機械作業ヲ主トスル場合ニハ機械作業時間ニ、材料費又ハ賃金ガ製造原價ノ主タル部分ヲ占ムル場合ニハ直接材料費又ハ直接賃金ニ依ルコトヲ得部門費計算ヲ爲ス場合ニ於テ一部ノ補助部門費ヲ製造部門ニ配賦セズシテ直接ニ指圖書ニ配賦スル場合ニハ其ノ各々ニ付適當ナル基準ヲ定メテ之ヲ配賦ス例ヘバ材料部費ハ各指圖書ノ直接材料費ヲ、勞務部費又ハ福利部費ハ各指圖書ノ直接賃金又ハ直接勞働時間ヲ、企畫設計部費、試驗研究部費又ハ工場事務部費ハ各指圖書ニ集計セラレタル製造原價ヲ夫々配賦基準ト爲スガ如シ

間接費ヲ配賦スル場合ニ於テ部門費計算ヲ爲サザル場合ニハ間接費要素ヲ一括シ又ハ間接費要素ヲ其ノ性質ニ依リ數個ノ群ニ分類シ夫々適當ノ基準ニ依リ指圖書ニ配賦ス

間接費ノ配賦ハ豫定率ニ依ル

間接費ノ配賦方法及配賦基準ハ同一ノ業種ニ屬スル工場ニシテ經營規模ノ同一ナルモノニ在リテハ已ムヲ得ザル場合ヲ除クノ外之ヲ統一スルモノトス

第三十二　作業屑

作業屑ハ其ノ賣却價額又ハ利用價額ヲ見積リ之ヲ直接材料費又ハ製造原價ヨリ控除ス但シ必要アル場合ニハ之ヲ其ノ發生部門ノ部門費ヨリ控除スルコトヲ得

第三款　綜合原價計算

第三十三　綜合原價計算ノ種類

綜合原價計算ハ之ヲ左ノ種類ニ分ツ

一　單一工程綜合計算

單一工程綜合計算ハ同種ノ製品ヲ單一工程ニ依リ連續的ニ生產スル生產樣式ニ適用スルモノニシテ原價計算期間ニ於ケル總製造費用ヲ集計シテ其ノ綜合原價ヲ計算スル方法ヲ謂フ

二　工程別綜合計算

工程別綜合計算ハ同種ノ製品ヲ數箇ノ工程ニ依リ連續的ニ生產スル生產樣式ニ適用スルモノニシテ原價計算期間ニ於ケル總製造費用ヲ工程別ニ集計シテ各工程ノ綜合原價ヲ計算スル方法ヲ謂フ

工程トハ第二十五ニ定ムル製造部門ヲ謂ヒ原則トシテ製造過程ニ於テ販賣又ハ貯藏ノ可能ナル半製品ノ形成セラルル段階每ニ之ヲ定ム工程ハ原價計算上必要アル場合ニハ更ニ作業ノ段階ニ應ジテ之ヲ數箇ノ工程ニ細分ス

材料（原料）ガ各工程ヲ通過シ各工程ニ於テハ之ニ加工ヲ爲スニ過ギザル生產樣式ニ在リテハ加工費工程別綜合計算（加工費法）ヲ適用ス加工費工程別綜合計算トハ總製造費用ノ中加工費ノミヲ工程別ニ集計シテ各工程ノ加工費ヲ計算シ主要材料費ハ直接ニ製品ニ付計算スル方法ヲ謂フ

三　組別綜合計算

〔朝二〕

組別綜合計算ハ異種ノ製品ヲ組別ニ連續的ニ生產スル生產樣式ニ適用スルモノニシテ原價計算期間ニ於ケル總製造費用ヲ組別ニ集計シ各組ノ綜合原價ヲ計算スル方法ヲ謂フ

第三十四　綜合原價ノ計算

綜合原價計算ニ在リテハ綜合原價計算表ヲ設ケ原價計算期間ニ於ケル綜合原價ヲ計算ス

部門費計算ヲ爲ス場合ニハ先ヅ總テノ製造原價要素若ハ主要材料費ヲ除キタル製造原價要素又ハ製造間接費要素ヲ各部門ニ賦課又ハ配賦シ次デ補助部門費ヲ製造部門（工程）ニ配賦シ以テ製造部門ノ總製造費用又ハ總加工費ヲ計算ス

單一工程綜合計算ニ在リテハ總製造費用ニ期始繰越仕掛品原價ヲ加ヘ之ヨリ期末仕掛品原價、副產物價額等ヲ控除シタルモノヲ以テ其ノ綜合原價トス

工程別綜合計算ニ在リテハ各工程ノ總製造費用ニ其ノ工程ノ期始繰越仕掛品原價ヲ加ヘ之ヨリ其ノ工程ノ期末仕掛品原價、副產物價額等ヲ控除シタルモノヲ以テ當該工程ノ綜合原價トス第二次工程以下ノ工程ノ總製造費用ニハ前工程ヨリ振替ヘラレタル半製品ノ製造原價ヲ材料費トシテ算入ス

加工費工程別綜合計算ニ在リテハ各工程ノ當期ノ總加工費ニ前期繰越仕掛品中ニ含マルル當該工程ノ加工費ヲ加ヘ之ヨリ期末仕掛品中ニ含マルル當該工程ノ加工費ヲ控除シタルモノヲ以テ其ノ工程ノ加工費トス

組別綜合計算ニ在リテハ總製造費用ヲ直接費ト間接費トニ區分シ直接費ハ各組ニ賦課シ間接費ハ個別原價計算ニ準ジ適當ナル配賦基準ニ依リ各組ニ配賦ス各組ノ總製造費用ニ其ノ期始繰越仕掛品原價ヲ加ヘ之ヨリ期末仕掛品原價、副產物價額等ヲ控除シタルモノヲ以テ各組ノ綜合原價トス

第三十五　仕掛品ノ評價

仕掛品トハ原價計算期末ニ於テ製品ノ生產ノ爲ニ仕掛中ノモノヲ謂フ

期末仕掛品原價ハ仕掛品ニ含マルル主要材料費及加工費ヲ各別ニ算定シテ評價ス主要材料費ニ付テハ期末仕掛品ノ數量ヨリ其ノ中ニ含マルル主要原料又ハ材料ノ消費量ヲ推定シテ其ノ價額ヲ算定ス加工費ニ付テハ仕掛品ノ仕上リ程度ノ完成品ニ對スル比率ヲ定メ之ヲ仕掛品現在量ニ乘ジテ仕掛品ノ完成品換算數量ヲ算定シ當期加工費總額ヲ期末仕掛品ノ完成品換算數量ト當期ニ於ケル完成品數量トノ比例ニ依リ仕掛品ト完成品ニ按分シテ仕掛品ノ加工費ヲ算定ス

期末仕掛品原價ハ前項ノ手續ニ依リ評價スルコト困難ナル場合ニハ仕掛品ノ中ニ含マルル主要材料費又ハ勞務費ヲ算定シ評價スルコトヲ得

仕掛品ノ數量ガ每期略等シキ場合ニハ仕掛品ハ之ヲ原價計算外ニ置クコトヲ得

第三十六　副產物

副產物トハ主產物ノ製造過程ヨリ必然ニ派生スル物品ヲ謂フ

副產物ノ評價額ハ之ヲ主產物ノ製造費用ヨリ控除ス

副產物ノ評價ハ原則トシテ左ノ方法ニ依ル

一　副產物ニシテ其儘外部ニ賣却シ得ルモノハ賣價豫想額ヨリ保管費、販賣費及通常ノ利益ノ見積額ヲ控除シタル額ヲ以テ之ヲ評價ス

二　副產物ニシテ加工ノ上賣却シ得ルモノハ加工製品ノ賣價豫想額ヨリ

加工費、販賣費及通常ノ利益ノ見積額ヲ控除シタル額ヲ以テ之ヲ評價ス

三　副產物ニシテ其ノ儘自家消費セラルルモノハ之ニ因リテ節約セラルベキ物品ノ購入豫想價額ヲ以テ之ヲ評價ス

四　副產物ニシテ加工ノ上自家消費セラルルモノハ之ニ因リテ節約セラルベキ物品ノ購入豫想價額ヨリ加工費ノ見積額ヲ控除シタル額ヲ以テ之ヲ評價ス

副產物ノ價額大ナラザルモノハ前項ノ手續ニ依ルヲ要セズ之ヲ賣却シテ得タル收入ハ原價計算外ノ利益ト爲スコトヲ得

作業屑其ノ他ノ不用品ノ處理ハ副產物ニ準ズ

第三十七　等級別製品計算

等級別製品計算ハ同種製品ヲ等級ニ區別シ工程又ハ組別ノ綜合原價ヲ等級別ニ分割シテ各等級製品ノ製造原價ヲ計算スル方法ヲ謂フ

等級別製品計算ニ在リテハ各等級ノ製品ニ付豫メ等價比率ヲ定メ之ヲ各等級製品ノ生產量ニ乘ジタル積數ノ比ヲ以テ綜合原價ヲ按分シ以テ各等級製品ノ製造原價ヲ計算ス

等價比率ハ各等級製品ノ重量、長サ、面積、純分度、熱量、硬度、各等級製品ニ含マルル主要原價要素ノ標準消費量（例ヘバ主要原料ノ標準消費量又ハ標準主要勞働時間）等ノ數量的尺度又ハ標準調查ニ依リ算定シタル製造原價ヲ基準トシ適正ニ決定ス但シ適當ナル數量的尺度又ハ標準調查ニ依リ算定シタル原價ヲ見出スコト困難ナル場合ニハ各等級製品ノ正常市價ヲ基準トシテ等價比率ヲ決定スルコトヲ得

等級別製品計算ハ工程ニ於テ同一原料ヨリ主副ヲ明確ニ區別シ得ザル異種ノ製品即チ聯產品ヲ連續的ニ生產スル生產樣式ニ之ヲ準用ス聯產品ノ等價比率ハ各聯產品ノ正常市價等ヲ基準トシテ之ヲ決定ス聯產品ニシテ加工ノ上賣却シ得ルモノハ加工製品ノ賣價豫想額ヨリ加工費ノ見積額ヲ控除シタルモノヲ以テ其ノ聯產品ノ市價トス

第三十八　綜合原價計算ノ適用

綜合原價計算ノ計算方式ハ同一ノ業種ニ屬スル工場ニシテ經營規模及生產樣式ノ同一ナルモノニ在リテハ已ムヲ得ザル場合ヲ除クノ外之ヲ統一スルモノトス

第二節　一般管理及販賣費ノ計算

第三十九　販賣直接費ト一般管理及販賣間接費

一般管理及販賣費ノ要素ハ之ヲ販賣直接費ト一般管理及販賣間接費トニ分ツ販賣直接費トハ販賣費要素ノ內特定賣上品ノ販賣ニ要シタルモノニシテ當該賣上品ニ直接ニ負擔セシムルモノヲ謂ヒ一般管理及販賣間接費トハ一般管理及販賣費中販賣直接費ヲ除キタルモノヲ謂フ

第四十　一般管理及販賣費ノ配賦

販賣直接費ハ之ヲ當該賣上品ニ賦課ス

一般管理及販賣間接費ハ賣上品ノ製造原價ヲ基準トシテ賣上品ニ配賦シ又ハ製品等ノ製造原價若ハ加工費ヲ基準トシテ製品等ニ配賦ス

一般管理及販賣間接費ノ配賦ハ豫定率ニ依ルコトヲ得

一般管理費ト販賣間接費トニ區別シテ處理スル場合ニハ一般管理費又ハ販賣間接費ノ配賦ニ付テハ前二項ヲ準用ス

一般管理及販賣間接費ハ必要アル場合ニハ原價部門ヲ設ケテ部門費計算ヲ行ヒ次デ賣上品又ハ製品ニ配賦スルコトヲ得

一　般管理及販賣費ノ配賦ハ同一ノ業種ニ屬スル事業ニシテ經營規模ノ同一ナルモノニ在リテハ已ムヲ得サル場合ヲ除クノ外之ヲ統一スルモノトス

第四章　工業會計ノ勘定及帳簿書類

第四十一　工業會計ト原價計算トノ關係

工業會計ハ單ニ外部ニ對スル營業取引ノミナラズ內部ニ於ケル經營活動ヲモ記載計算スル諸勘定ヲ設ケ原價計算トノ關聯ヲ保ツ樣ニスルモノトス

第四十二　勘定組織

工業會計ニ於ケル勘定組織ハ左ノ基準ニ依リ分類ス但シ同一ノ業種ニ屬スル事業ニシテ經營規模ノ同一ナルモノニ在リテハ已ムヲ得サル場合ヲ除クノ外之ヲ統一スルモノトス

一　靜止勘定

靜止勘定トハ原則トシテ事業年度末ニ於ケル勘定ニシテ事業年度中ハ特別ノ場合ノ外記帳セラレザルモノヲ謂ヒ固定資產及資本勘定ノ外長期ノ借入及貸付勘定ヲ含ム

二　財務勘定

財務勘定トハ現金取引及短期信用取引ニ關スル勘定ヲ謂フ例ヘハ現金、預金、資上債權、買入債務、短期借入金等ノ勘定之ニ屬ス

三　原價計算外損益勘定

原價計算外損益勘定トハ製品ノ生產及販賣ニ關聯セザル損益要素ニ關スル勘定ヲ謂フ例ヘハ償却事故ニ因ル損失、財產評價損、貨倒損失、法人稅、營業稅、等諸稅、利息等ノ勘定之ニ屬ス

四　製造原價要素勘定

製造原價要素勘定トハ製造原價要素ニ關スル勘定ヲ謂フ例ヘハ材料及

材料費勘定、賃金勘定、給料勘定、各經費要素ノ勘定之ニ屬ス

五　部門費勘定

部門費勘定トハ部門費ヲ集計スル勘定ヲ謂フ

部門ヲ區別セザル個別原價計算ノ場合ニハ別ニ間接費ヲ集計スル勘定ヲ設ク

六　製造勘定

製造勘定（在掛品勘定）トハ製造原價ヲ集計スル勘定ヲ謂ヒ工程別綜合計算ニ在リテハ各工程ノ勘定ハ各工程ノ製造原價ヲ集計スル勘定ヲ總稱スルモノトス

七　製品勘定

製品勘定トハ製品、仕損品、副產物、作業屑等ノ受拂ヲ整理スル勘定ヲ謂フ

八　一般管理及販賣費要素勘定

一般管理及販賣費要素ニ關スル勘定ヲ謂フ

九　一般管理及販賣間接費勘定

一般管理及販賣間接費要素ヲ集計スル勘定ヲ謂フ

十　差額勘定

材料費、賃金、製造間接費、一般管理及販賣間接費等ノ計算ヲ簡定ニ依リテ爲ス場合其ノ實際額ト豫定額トノ差額ヲ處理スル勘定ヲ謂フ

十一　資上品總原價勘定

資上品總原價勘定トハ資上製品ノ總原價ヲ集計スル勘定ヲ謂フ

十二　資上勘定

資上勘定トハ製品、仕損品、副產物等ノ資上ニ關スル勘定ヲ謂フ

一　般管理及販賣費要素ニ關スル勘定ヲ謂フ

九　一般管理及販賣間接費勘定

一般管理及販賣間接費要素ヲ集計スル勘定ヲ謂フ

十　差額勘定

材料費、賃金、製造間接費、一般管理及販賣間接費等ノ計算ヲ簡定ニ依リテ爲ス場合其ノ實際額ト豫定額トノ差額ヲ處理スル勘定ヲ謂フ

十一　資上品總原價勘定

資上品總原價勘定トハ資上製品ノ總原價ヲ集計スル勘定ヲ謂フ

十二　資上勘定

資上勘定トハ製品、仕損品、副產物等ノ資上ニ關スル勘定ヲ謂フ

十三　月次損益勘定

月次損益勘定トハ製品、仕損品、副產物等ノ資上ニ依ル資上損益ヲ月次ニ計算スル勘定ヲ謂フ

十四　年次損益勘定

年次損益勘定トハ事業全體ノ損益ヲ年次ニ計算スル勘定ヲ謂フ

第四十三　帳簿書類

原價ニ關シテハ概ネ左記各號ノ帳簿書類ヲ設ケ之ヲ記帳計算スル但シ同一ノ業種ニ屬スル事業ニシテ經營規模ノ同一ナルモノニ在リテハ已ムヲ得サル場合ヲ除クノ外之ヲ統一スルモノトス

一　靜止勘定

靜止勘定トハ原則トシテ事業年度末ニ於ケル勘定ニシテ事業年度中ハ特別ノ場合ノ外記帳セラレザルモノヲ謂ヒ固定資產及資本勘定ノ外長期ノ借入及貸付勘定ヲ含ム

二　財務勘定

財務勘定トハ現金取引及短期信用取引ニ關スル勘定ヲ謂フ例ヘハ現金、預金、資上債權、買入債務、短期借入金等ノ勘定之ニ屬ス

三　原價計算外損益勘定

原價計算外損益勘定トハ製品ノ生產及販賣ニ關聯セザル損益要素ニ關スル勘定ヲ謂フ例ヘハ償却事故ニ因ル損失、財產評價損、貨倒損失、法人稅、營業稅、等諸稅、利息等ノ勘定之ニ屬ス

四　製造原價要素勘定

製造原價要素勘定トハ製造原價要素ニ關スル勘定ヲ謂フ例ヘハ材料及

十三　月次損益勘定

月次損益勘定トハ製品、仕損品、副產物等ノ資上ニ依ル資上損益ヲ月次ニ計算スル勘定ヲ謂フ

十四　年次損益勘定

年次損益勘定トハ事業全體ノ損益ヲ年次ニ計算スル勘定ヲ謂フ

第四十三　帳簿書類

原價ニ關シテハ概ネ左記各號ノ帳簿書類ヲ設ケ記帳計算スル但シ同一ノ業種ニ屬スル事業ニシテ經營規模ノ同一ナルモノニ在リテハ已ムヲ得サル場合ノ他ノ實情ニ依リ帳

一　適當ニ之ヲ定ム

二　製造命令ニ關スル書類

三　材料及材料費ニ關スル帳簿書類

四　勞務費ニ關スル帳簿書類

五　經費ニ關スル帳簿書類

六　部門費ノ計算ニ關スル帳簿書類

七　製造原價ノ集計ニ關スル帳簿書類

八　一般管理及販賣費ニ關スル帳簿書類

九　製品、仕損品、副產物、作業屑等ニ關スル帳簿書類

十　資上ニ關スル帳簿書類

十一　總原價ニ關スル帳簿書類

●新聞紙等掲載制限令

昭和十六年一月十一日
勅令第三十七號

朕新聞紙等掲載制限令ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

新聞紙等掲載制限令

第一條　國家總動員法（昭和十三年勅令第三百十七號）ニ於テ依ル場合ヲ含ム以下同ジ）第二十條第一項ノ規定ニ基ク新聞紙其ノ他ノ出版物ノ掲載ニ付テノ制限又ハ禁止、同條第二項ノ規定ニ基ク新聞紙其ノ他ノ出版物ノ發賣及頒布ノ禁止竝ニ其ノ差押及其ノ原版ノ差押ニ付テハ本令ノ定ムル所ニ依ル

第二條　左ノ各號ノ一ニ該當スル事項ハ之ヲ新聞紙其ノ他ノ出版物ニ掲載スルコトヲ禁ズ

一　國家總動員法第四十四條ノ規定ニ依リ當該官廳ノ指定シタル總動員業務ニ關スル官廳ノ機密

二　軍機保護法ノ規定ニ依ル軍事上ノ秘密

三　軍用資源秘密保護法ノ規定ニ依ル軍用資源秘密

第三條　內閣總理大臣ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル事項ニ付示達ヲ以テ新聞紙其ノ他ノ出版物ニ對スル掲載事項ノ制限又ハ禁止ヲ爲スコトヲ得

一　外交ニ關シ重大ナル支障ヲ生ズル虞アル事項

二　外國ニ對シ秘匿スルコトヲ要スル事項

三　財政經濟政策ノ遂行ニ重大ナル支障ヲ生ズル虞アル事項

四　其ノ他國策ノ遂行ニ重大ナル支障ヲ生ズル虞アル事項

第四條　前二條ノ制限又ハ禁止ニ違反シタル新聞紙其ノ他ノ出版物ノ發賣及頒布ノ禁止竝ニ其ノ差押及其ノ原版ノ差押ハ內閣總理大臣之ヲ行フ

第五條　本令中內閣總理大臣トアルハ朝鮮、臺灣、樺太又ハ南洋群島ニ在リテハ各朝鮮總督、臺灣總督、樺太廳長官又ハ南洋廳長官トス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●國民職業能力申告令

昭和十四年一月七日
勅令第五號

改正　昭和一五年一〇月第六七三號、一六年六月第七〇九號、一〇月第九二二號、一七年一月第三八號、一一月第七三一號、第七八一號

朕國民職業能力申告令ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

國民職業能力申告令

第一條　國家總動員法第二十一條ノ規定ニ基ク帝國臣民ノ職業能力ニ關スル事項ノ申告及其ノ職業能力ニ關スル檢査ハ別ニ定ムルモノヲ除クノ外本令ノ定ムル所ニ依ル

第二條　職業能力ニ關スル事項ノ申告（以下申告ト稱ス）ハ本令施行地內ニ居住スル年齡十六年以上五十年未滿ノ帝國臣民ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノ（以下要申告者ト稱ス）ニ付之ヲ爲サシムルモノトス但シ命令ヲ以テ定ムル者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

一　本令施行地內ニ於テ引續キ三月以上厚生大臣ノ指定スル職業ニ從事スル者

二　引續キ一年以上前號ノ職業ニ從事シテ其ノ職業ヲ罷メ其ノ職業ヲ罷メタル日ヨリ五年ヲ經過セザル者

三　厚生大臣ノ指定スル大學、專門學校、實業學校其ノ他之ニ準ズベキ各種學校ニ於テ厚生大臣ノ指定スル學科ヲ修メ其ノ學校ヲ卒業シタル者

四　厚生大臣ノ指定スル技能者養成施設ニ於テ所定ノ課程ヲ修了シタル者

五　厚生大臣ノ指定スル檢定若ハ試驗ニ合格シタル者又ハ厚生大臣ノ指定スル免許ヲ受ケタル者

六　其ノ他厚生大臣ノ指定スル者

第三條　要申告者及前條第一號ノ職業ニ從事スル要申告者ヲ使用スル者（以下使用者ト稱ス）ハ要申告者ノ職業能力ニ關スル事項ノ申告義務者（以下申告義務者ト稱ス）トス但シ要申告者ヲ臨時ニ使用スル者ニシテ命令ヲ以テ定ムルモノハ此ノ限ニ在ラズ

第四條　帝國臣民要申告者（第十一條ノ規定ニ該當スル者ヲ除ク）タルニ至リタルトキ又ハ第十一條ノ規定ニ該當スル要申告者ニシテ申告シ居ラザルモノ同條ノ規定ニ該當セザルニ至リタルトキハ申告義務者ハ十四日以內ニ左ニ掲グル事項（就業ノ場所一定セザル者ニ付テハ第八號ニ掲グル事項ヲ除ク）ヲ要申告者ガ職業ニ從事スル者ナル場合ニ在リテハ其ノ者ノ就業地ヲ管轄スル國民職業指導所長ニ、其ノ他ノ者ナル場合ニ在リテハ其ノ者ノ居住地ヲ管轄スル國民職業指導所長ニ申告スベシ申告ヲ爲シタル後ニ於テ要申告者ガ內地、朝鮮、臺灣、樺太又ハ南洋群島ノ何レカノ地域ヨリ他ノ地域ニ居住ノ場所ヲ移シタル場合ニ於テ其ノ地域ニ於テ仍要申告者タルトキ亦同ジ

一　氏名

二　出生ノ年月日

三　本籍

四　居住ノ場所

五　兵役關係

六　學歷
七　職業ニ從事スル者ニ在リテハ其職業名
八　就業ノ場所（二以上ノ就業ノ場所ヲ有スル者ニ付テハ主タル就業ノ場所）
九　第二條第一號ノ職業ニ從事シ又ハ從事シタル者ニ在リテハ其ノ職業ノ經歷及技能程度
十　第二條第四號ニ該當スル者ニ在リテハ其ノ修了シタル課程ニ關スル事項
十一　第二條第五號ニ該當スル者ニ在リテハ其ノ受ケタル試驗、檢定又ハ免許ニ關スル事項
十二　給料又ハ賃金ヲ受クル者ニ在リテハ其ノ額
十三　其ノ他命令ヲ以テ定ムル事項

申告義務者前項ノ申告ヲ爲シタル後ニ於テ同項第一號又ハ第三號乃至第十一號ニ掲グル事項ニ異動ヲ生ジタルトキハ十四日内ニ前項ノ職業紹介所長ニ其ノ旨申告スベシ

第五條　厚生大臣特ニ必要アリト認ムルトキハ前項ノ規定ニ依ル申告ノ外全部又ハ一部ニ付申告ヲ命ズルコトヲ得

第六條　申告シ居ル要申告者左ノ各號ノ一ニ該當スルニ至リタルトキハ申告義務者ハ十四日以内ニ其ノ旨前ニ申告ヲ爲シタル職業紹介所長ニ申告スベシ

一　要申告者タラザルニ至リタルトキ（第四條第一項後段ノ場合ヲ含マズ）
二　第十一條ノ規定ニ該當スルニ至リタルトキ

前項第二號ノ規定ニ依ル申告ヲ爲シタル後ニ於テ要申告者第十一條ノ規定ニ該當セザルニ至リタルトキハ申告義務者十四日以内ニ第四條ノ職業紹介所長ニ其ノ旨申告スベシ

第七條　同一ノ要申告者ニ付其ノ者及其ノ使用者共ニ申告義務者タル場合ニ於ケル申告ハ申告義務者共同シテ之ヲ爲スベシ

第八條　地方長官（東京府ニ在リテハ警視總監以下同ジ）又ハ國民職業指導所長ハ命令ノ定ムル所ニ依リ當該官吏ヲシテ要申告者ニ就キ技能其ノ他ノ職業能力ニ關シ檢査ヲ爲サシムルコトヲ得

第九條　地方長官又ハ國民職業指導所長ハ命令ノ定ムル所ニ依リ本令ノ申告又ハ檢査ニ關シ國家總動員法第三十一條ノ規定ニ基ク報告ヲ徴スルコトヲ得

地方長官又ハ國民職業指導所長ハ本令ノ申告又ハ檢査ニ關シ必要アリト認ムルトキハ國家總動員法第三十一條ノ規定ニ準ジ當該官吏ヲシテ工場、事業場其ノ他ノ場所ニ臨檢シ業務ノ狀況又ハ帳簿書類其ノ他ノ物件ヲ檢査セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ當該官吏ヲシテ其ノ身分ヲ示ス證票ヲ携帶セシムベシ

第十條　厚生大臣必要アリト認ムル場合ニ於テハ他ノ大臣ニ囑託シテ其ノ所轄スル官衙ノ長ヲシテ前二條ノ規定ニ準ジ檢査ニ關スル職權ヲ行ハシムルコトヲ得

第十一條　本令ハ第六條第二號ノ規定ニ依ル申告ニ關スル規定ヲ除クノ外陸海軍人ニシテ現役中ノモノ（歸休下士官兵ヲ除ク）及戰時若ハ事變ニ際シ又ハ兵役法第五十五條第二項ノ規定（志願ニ依リ兵籍ニ編入セラレタル者ニ付テハ之ニ該當スル動員ヲ含ム）ニ依リ召集中ノモノ、兵籍ニ編入セラレタル陸海軍學生生徒（海軍豫備練習生及海軍豫備補習生ヲ含ム）、陸海軍軍屬、國家總動員法第四條ノ規定ニ依リ徴用中ノ者、醫療關係者職業能力申告令ノ規定ニ依リ申告ヲ爲スベキ者、獸醫師等職業能力申告令ノ規定ニ依リ申告ヲ爲スベキ者竝ニ船員法ノ船員及朝鮮船員令ノ船員ニ關スル申告及職業能力ノ檢査ニハ之ヲ適用セズ

第十二條　要申告者ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノノ申告ニ關シテハ命令ノ定ムル所ニ依リ申告期限ヲ延長スルコトヲ得

一　陸海軍軍人ニシテ召集中ノモノ（前條ニ規定スル召集中ノ者ヲ除ク）
二　外國旅行中ノ者
三　其ノ他命令ヲ以テ定ムル者

第十三條　二以上ノ就業ノ場所ヲ有スル者ニ付テハ主タル就業ノ場所ノ所在地ヲ以テ、就業ノ場所一定セザル者及船舶内ニ於テ就業スルノ常況ニアル者ニ付テハ居住地ヲ以テ本令ノ就業地ト看做ス

第十四條　要申告者ニシテ厚生大臣ノ指定スル官廳ニ使用セラレ又ハ使用セラレタルモノニ關スル申告及職業能力ノ檢査ニ付テハ命令ヲ以テ別段ノ定ヲ爲スコトヲ得

第十五條　第二條第六號ノ規定ニ依リ厚生大臣ノ指定スル者ニ關スル申告ニ付テハ命令ヲ以テ別段ノ定ヲ爲スコトヲ得

厚生大臣ハ命令ノ定ムル所ニ依リ市町村長又ハ之ニ準ズベキモノヲシテ前項ノ申告ニ關シ必要ナル事務ヲ補助セシムルコトヲ得

第十六條　要申告者（第二條第六號ニ該當スル者ヲ除ク）ニ付國民勞務手帳法施行令第十三條　軍事　第九章　國家總動員

法施行令第一條、同令附則第二項又ハ昭和十六年勅令第七百五號附則第二項ノ規定ニ依ル申請アリタルトキハ第四條第一項ノ規定ニ依ル申告アリタルモノト看做ス

要申告者（第二條第六號ニ該當スル者ヲ除ク）ニ付國民勞務手帳法施行令第十四條、第十六條、第二十條又ハ第二十一條第一項ノ規定ニ依ル報告アリタルトキハ第四條第二項又ハ第六條ノ規定ニ依ル申告アリタルモノト看做ス

第十七條　本令中厚生大臣トアルハ朝鮮ニ在リテハ朝鮮總督、臺灣ニ在リテハ臺灣總督、樺太ニ在リテハ樺太廳長官、南洋群島ニ在リテハ南洋廳長官トシ地方長官トアルハ朝鮮ニ在リテハ道知事、臺灣ニ在リテハ州知事又ハ廳長、樺太ニ在リテハ樺太廳長官、南洋群島ニ在リテハ南洋廳長官トシ國民職業指導所長トアルハ朝鮮ニ在リテハ府尹、郡守又ハ島司、臺灣ニ在リテハ市尹又ハ郡守（澎湖廳ニ在リテハ廳長）、南洋群島ニ在リテハ南洋廳支廳長トス

第十八條　本令ニ規定スルモノノ外申告ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

附　則

本令ハ昭和十四年一月二十日ヨリ之ヲ施行ス但シ朝鮮、臺灣、樺太及南洋群島ニ於ケル申告及檢査ニ關スル規定ハ昭和十四年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令ノ申告ニシテ昭和十四年三月末日前ニ其ノ申告期限ノ到來スルモノハ同日迄ニ之ヲ爲スヲ妨ゲズ

附　則（昭和十五年勅令第六百七十三號）

本令ハ昭和十五年十月二十日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前從前ノ第四條又ハ第六條ノ規定ニ該當シタル者ノ同條ノ規定ニ依ル申告ノ期限ハ仍從前ノ規定ニ依ル

本令施行前ニ生ジタル第二條第一號ノ職業ニ從事スル者ノ居住ノ場所ノ異動又ハ同條第二號乃至第五號ノ一ニ該當スル者ノ就業ノ場所ノ異動ニ關スル第四條第二項ノ規定ニ依ル申告ノ期限ハ昭和十六年三月三十一日迄トス

●國民職業能力申告令施行規則

昭和十四年五月十五日
朝鮮總督府令第七十七號

改正　昭和一四年一二月勅二一一號、一五年一〇月第二一八號、一六年四月第九六號、一〇月第二八〇號

國民職業能力申告令施行規則左ノ通定ム

國民職業能力申告令施行規則

第一條　國民職業能力申告令（以下單ニ令ト稱ス）第二條第一號ノ職業ニ從事スル要申告者ヲ臨時ニ使用スル者ニシテ左ニ揭グルモノハ令第三條但書ノ規定ニ依リ申告義務者タラザルモノトス但シ要申告者ヲ三十日ヲ超エテ引續キ使用スルニ至リタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

一　三十日以內ノ期限ヲ定メテ要申告者ヲ使用スル者

二　使用期間ノ定ナク要申告者ヲ勞務供給契約ニ基キ又ハ試ニ使用スル者

（朝）

三　要申告者ヲ日日雇入レ使用スル者

第一條ノ二　女子ハ令第二條但書ノ規定ニ依リ申告ヲ爲スコトヲ要セズ

第二條　要申告者ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノニ付爲スベキ申告ハ其ノ者ガ左ノ各號ノ一ニ該當セザルニ至リタル日ヨリ十四日以內ニ之ヲ爲スヲ妨ゲズ

一　令第十二條第一號又ハ第二號ニ該當スル者

二　內地、臺灣、樺太、南洋群島又ハ關東州ニ旅行中ノ者

三　法令ニ因リ拘禁中ノ者

四　疾病、傷痍其ノ他ノ事由ニ因リ申告ヲ爲スコト能ハザルノ狀況ニ在ル者

第三條　令第四條第一項ノ規定ニ依ル申告ハ別表樣式第一號ニ依リ（技能程度ハ別表技能程度申告標準ニ從ヒ）之ヲ爲スベシ

職業能力申告票用紙ハ申告義務者ノ申請ニ依リ又ハ申請ニ依ラズシテ府尹、郡守又ハ島司之ヲ交付ス

令第四條第一項後段ノ規定ニ依ル申告ハ前ニ申告ヲ爲シタル地ガ內地ナル場合ニ在リテハ國民職業指導所長、臺灣ナル場合ニ在リテハ市尹又ハ郡守（澎湖廳ニ在リテハ廳長）、樺太ナル場合ニ在リテハ樺太廳支廳長、南洋群島ナル場合ニ在リテハ南洋廳支廳長ヨリ交付セラレタル職業能力申告手帳ヲ添ヘテ之ヲ爲スベシ

令第四條第二項及第六條ノ規定ニ依ル申告ハ第七條ノ職業能力申告手帳ニ依リ之ヲ爲スベシ

第四條　令第三條ノ使用者其ノ使用スル要申告者（以下被用者ト稱ス）ノ使用ヲ罷メタルトキハ十四日以內ニ別表樣式第二號ニ依リ其ノ旨ヲ前ニ申告ヲ爲シタル府尹、郡守又ハ島司ニ報告スベシ

第五條　要申告者死亡シタルトキハ死亡ノ際其ノ者ガ被用者タリシ場合ニ在リテハ之ヲ使用シタル使用者、被用者タラザリシ場合ニ在リテハ其ノ者ト同居ノ戶主又ハ家族ノ關係ニ在リタル者十四日以內ニ其ノ旨ヲ前ニ申告ヲ爲シタル府尹、郡守又ハ島司ニ報告スベシ

第六條　第三條第四項ノ規定ハ前條ノ規定ニ依ル報告ニ付之ヲ準用ス

第七條　府尹、郡守又ハ島司令第四條第一項ノ規定ニ依ル申告ニ基キ職業能力ニ關スル事項ノ登錄ヲ爲シタルトキハ別表樣式第三號ノ職業能力申告手帳ヲ申告義務者ニ交付スベシ

第八條　職業能力申告手帳ヲ交付セラレタル者其ノ職業能力申告手帳ヲ毀損シ又ハ亡失シタルトキハ其ノ事由ヲ具シ且毀損ノ場合ニ於テハ其ノ職業能力申告手帳ヲ添ヘ前ニ申告ヲ爲シタル府尹、郡守又ハ島司ニ再交付ヲ申請スルコトヲ得

第九條　令第八條ノ檢查ハ被檢查者ヲシテ試問ニ答ヘシメ若ハ作業ヲ爲サシメ又ハ健康診斷ヲ爲シテ之ヲ行フモノトス

道知事、府尹、郡守又ハ島司前項ノ檢查ノ爲必要アリト認ムルトキハ被檢查者ニ對シ期日及場所ヲ指定シテ出頭ヲ命ズルコトヲ得

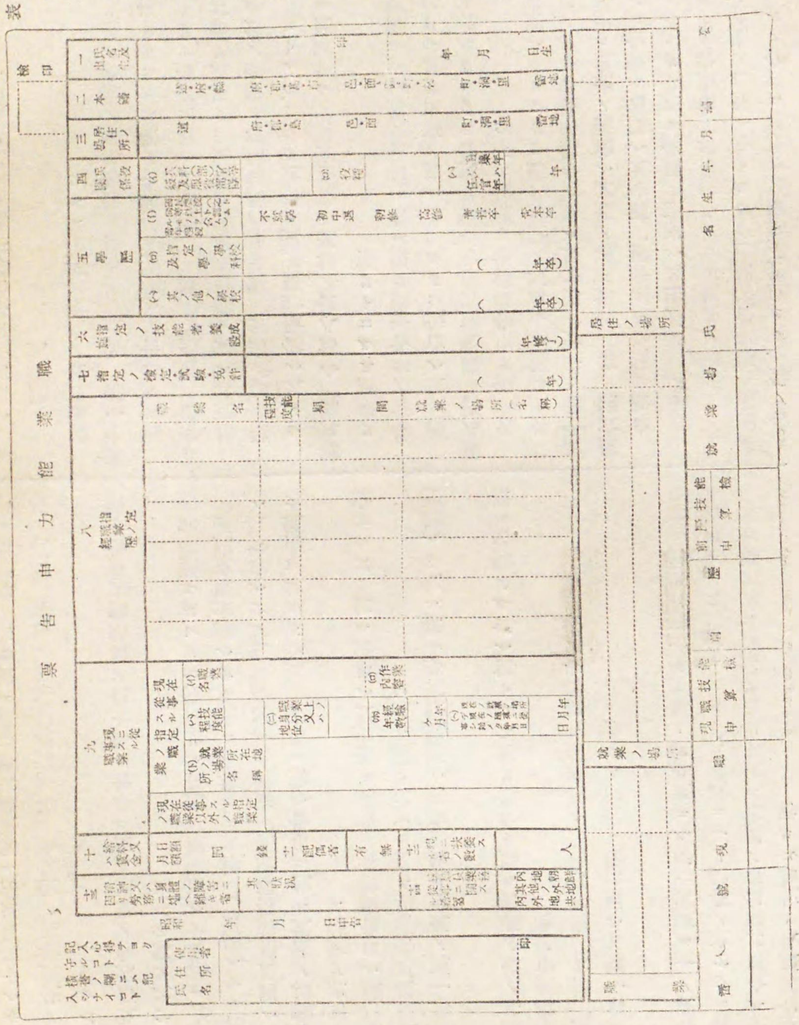
第十條　道知事、府尹、郡守又ハ島司必要アリト認ムルトキハ職業能力ニ關スル申告又ハ檢查ニ付報告ヲ徵スルコトヲ得

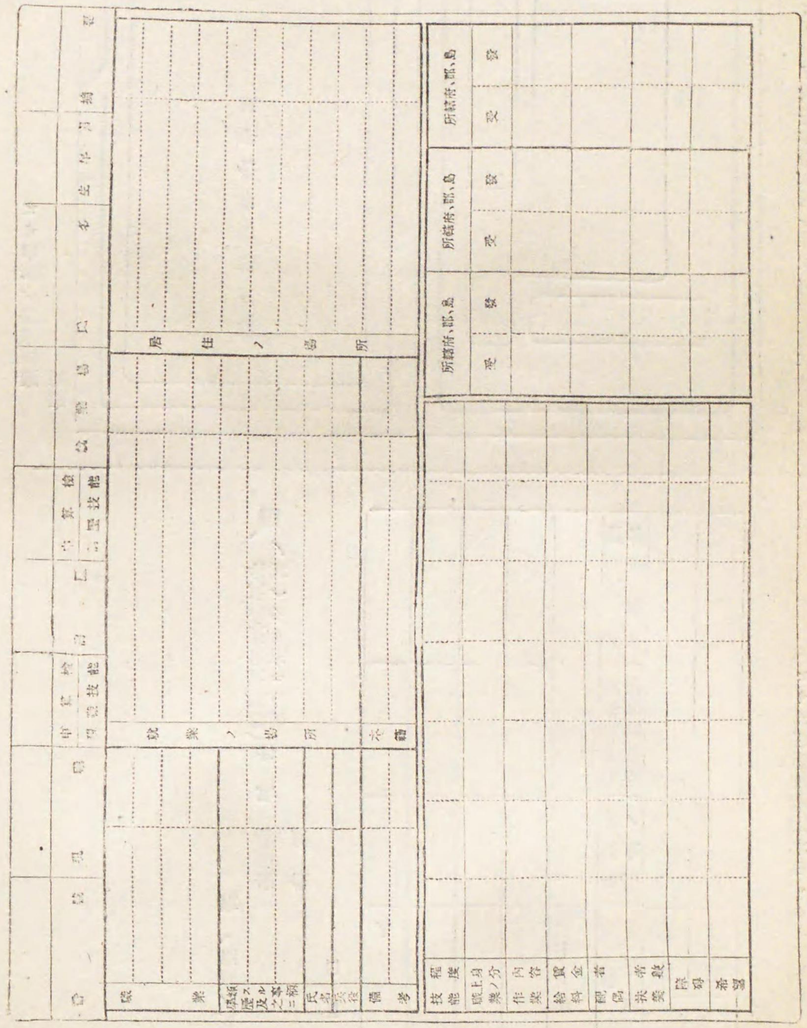
第十一條　當該官吏令第九條第二項ノ規定ニ依リ檢查スル場合ニハ別表樣式第四號ノ證票ヲ携帶スベシ

附　則

本令ハ昭和十四年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

別表様式第一號(用紙ノ大サハ日本標準規格A五トス)





何府尹(郡守又ハ島司)宛

使用者住所

氏名(法人ニ在リテハ其ノ代表者氏名)㊞

昭和　年　月　日

計				
人				
	年月日生			
解雇年月日	要申告者ノ氏名	職業能力申告手帳番號	指定名ノ	手帳交付ノ濟否
要申告者ノ就業シアリタル場所	所在地	名稱		

別表樣式第三號(用紙ノ大サハ日本標準規格B五トス)

解雇報告

第十三輯　軍事　第九章　國家總動員

裏紙

朝鮮總督府

職業能力申告手帳

裏紙內側ハ空白トス

別表樣式第三號(大サハ日本標準規格A六トス)

(1)

注意

一　此ノ手帳ハ申告事項ニ異動ノアツタ場合ノ申告又ハ其ノ他ノ報告ニ必要アルトキ大切ニ保管シナイヤウニ

二　此ノ手帳ハ他人ニ貸與又ハ讓渡シテハイケナイ。

三　此ノ手帳ハ可能ヲ返セ、紛失シタリ汚シテハイケナイ。萬一毀損又ハ汚シタ場合ハ府尹、郡守又ハ島司ニ其ノ事情ヲ速ニ届ケテ再交付申請スルコトガ出來ル。但シ毀損ノ場合ニハ毀損シタ手帳ヲ添ヘテ申請シナケレバナラヌ。

四　左ノ場合ニハ此ノ手帳ニ其ノ事項ヲ記入シテ申告又ハ報告義務者ハ申告又ハ報告シナケレバナラヌ。

(イ)　此ノ手帳記載ノ事項ニ異動ヲ生ジタル場合

(ロ)　要申告者ガ要申告者デナクナツタ場合

(ハ)　要申告者ガ死亡シタ場合

五　記入方法

(イ)　異動ノ記事ハ異動ノ生ジタ年月日ノ順序ニ記入スルコト。

(ロ)　異動ノ年月日ハ「何ヘ」「昭和十四年十月二十二日ナラバ、一四、一〇、二二」ノ如ク記入スルコト。

(ハ)　本欄ノ異動ハ、何ヘ、何ヘ(本籍)京畿道楊平郡龍門面金谷里九八ノ如ク記入スルコト。

(ニ)　居住(京城府黄金町二丁目五〇ノ如ク記入スルコト。

(ホ)　學歴ノ異動ハ、何ヘ京城帝國工業學校(本科)機械工學科(昭和一五年三月卒)ノ如ク記入スルコト。

(ヘ)　檢定、試驗、免許ノ事ハ、何ヘ自動車運轉普通免許(昭和一四年)ノ如ク記入スルコト。

(ト)　就業ノ場所ノ異動ハ(就業場所)ト冠記シ其ノ所在地及名稱ヲ記入スルコト。

(チ)　職業名ノ異動ハ、何ヘ板金工、ヲナキ販賣業ノ如ク記入スルコト。

(リ)　何府尹(郡守又ハ島司)宛

昭和　年　月　日交付

（3）

氏名	出生	年　月　日
本籍		
住居ノ場所		
兵役關係	兵科（部）及服役部隊等	
	官等級	
	役種	在営年又ハ徴集年
學歷		
技能者養成施設		
檢定、試驗、免許		
就業ノ場所	所在地	
	名稱	
指定職業ノ名		

（4）

異動ノ年月日	異動記事	本人印	使用者（住所、氏名）印	×府、島、郡印

異動申告欄

（注意ヲ讀ミ、申告又ハ報告ヲ怠ラヌコト）

（5）

異動ノ年月日	異動記事	本人印	使用者（住所、氏名）印	×府、島、郡印

第六頁乃至第九頁ハ第五頁ニ同ジ

別表樣式第四號（用紙ノ大サハ日本標準規格B七トシ中央點線ノ所ヨリ二ツ折ト爲ス）

表面

國民職業能力申告ニ關スル檢査證票

裏面

第　號　昭和　年　月　日交付

道・府・郡又ハ島印

官職　氏名

國家總動員法第三十一條　政府ハ國家總動員上必要アルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ報告ヲ徵シ又ハ當該官吏ヲシテ必要ナル場所ニ臨檢シ業務ノ狀況若ハ帳簿書類其ノ他ノ物件ヲ檢査セシムルコトヲ得

國家總動員法第四十二條　第三十一條ノ規定ニ依ル當該官吏ノ檢査ヲ拒ミ、妨ゲ又ハ忌避シタル者ハ六月以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

國民職業能力申告令第九條第二項及第十五條要旨　道知事、府尹、郡守又ハ島司ハ本令ノ申告又ハ檢査ニ關シ必要アリト認ムルトキハ國家總動員法第三十一條ノ規定ニ基キ當該官吏ヲシテ工場、事業場其ノ他ノ場所ニ臨檢シ業務ノ狀況又ハ帳簿書類其ノ他ノ物件ヲ檢査セシムルコトヲ得　此ノ場合ニ於テハ當該官吏ヲシテ其ノ身分ヲ示ス證票ヲ携帶セシムベシ

國民職業能力申告令施行規則第十一條　當該官吏令第九條第二項ノ規定ニ依リ檢査スル場合ニハ別表樣式第三號ノ證票ヲ携帶スベシ

機械檢査工

次ノ事項中※印ハ必須他一項ヲ選擇トスル合計三ツ以上ノ能力ヲ有スル者

一級

※一　複雜ナ圖面ガヨメ且仕樣書ガワカルコト
※二　檢査品ノ不良ヲ知リ適當ナ處置ノ決定ガ出來ルコト
三　檢査スル機械全體ノ機能ガワカツテヰルコト
四　各部分品ニ必要ナ物理的性質ト化學的性質トヲ知ツテヰルコト
五　檢査用具ノ考案ガ出來ルコト

二級

次ノ事項中※印ハ必須他一項ヲ選擇トスル合計三ツ以上ノ能力ヲ有スル者

※一　簡單ナ圖面ガヨメ且仕樣書ガワカルコト
※二　檢査用機械器具ノ取扱ガ完全ニ出來ルコト
三　檢査品ノ用途ガ略ワカツテヰルコト
四　特殊金屬材料ノ種類ノ見分ケガ出來ルコト
五　普通機械ノ金屬材料ノ良否ノ見分ケガ出來ルコト

三級

二級ニ達シナイ者

（備考）　特定ノ檢査用具ノ取扱ダケシカ出來ナイ者又ハ選別檢査ダケシカ出來ナイ者ハ三級トスルコト

レンズ檢査工

一級

次ノ三ツノ能力ヲ有スル者

※一　複雜ナ圖面ガヨメ且仕樣書ガワカルコト
※二　光學機械ノガラス部品ノ良否決定ノ基準ヲ立テルコトガ出來ルコト
※三　ガラス材料ノ屈折率、レンズ曲面度、プリズム角度等ノ精密テ檢査ガ出來ルコト

二級

次ノ事項中※印ハ必須他一項ヲ選擇トスル合計二ツ以上ノ能力ヲ有スル者

※一　簡單ナ圖面ガヨメ且仕樣書ガワカルコト
二　檢査法及檢査ノ基準ガ與ヘラレテ一般レンズ又ハプリズムノ研磨程度、焦點距離、異心率、角度、寸法等ノ檢査ガ出來ルコト
三　檢査法及檢査ノ基準ガ與ヘラレテ各種レンズノ收差ノ檢査ガ出來ルコト

三級

二級ニ達シナイ者

採炭夫

次ノ事項中二ツ以上ノ能力ヲ有スル者

一　坑內ノ安全ニツイテ必要ナ知識ヲ持ツテヰルコト
二　採炭作業ニ從事シ發破作業ガ出來ルコト
三　採炭作業ニ從事シ支柱作業ガ出來ルコト
四　採炭作業ニ從事シ切炭機又ハ穿孔機ノ使用ガ出來ルコト

二級　一級ニ達シナイ者

（備考）採炭ノ手傳ダケシカ出來ナイ者ハ二級トスルコト

炭坑支柱夫

一級

次ノ事項中二ツ以上ノ能力ヲ有スル者
一　坑内ノ安全ニツイテ必要ナ知識ヲモツテヰルコト
二　取枠作業ガ出來ルコト
三　捲立枠作業ガ出來ルコト
四　坑道枠作業ガ出來ルコト
五　充塡（バツキング）作業ガ出來ルコト

二級　一級ニ達シナイ者

採鑛夫

一級

次ノ事項中二ツ以上ノ能力ヲ有スル者
一　小型鑿岩機ノ使用ガ出來且發破及支柱作業ニツイテ充分ナ知識ヲモツテヰルコト
二　大型鑿岩機ノ使用ガ完全ニ出來ルコト
三　石目ノ見分ケガ完全ニ出來ルコト

二級　一級ニ達シナイ者

（備考）手堀ダケシカ出來ナイ者ハ二級トスルコト

鑛山支柱夫

一級

次ノ事項中一ツ以上ノ能力ヲ有スル者
一　竪坑支柱作業ガ完全ニ出來ルコト
二　補助支柱ヲ必要トスル箇所ノ發見ガ出來ルコト
三　普通坑道ノ支柱作業ノ段取ガ出來且工數見積ガ出來ルコト

二級　一級ニ達シナイ者

機械選鑛夫

一級

次ノ事項中一ツ以上ノ能力ヲ有スル者
一　破碎機及篩別機ノ運轉及調節ニ熟練シテヰルコト
二　磨鑛機又ハ分級機ノ操作ニ熟練シ且磨鑛ノ良否ノ見分ケガ完全ニ出來ルコト
三　浮選油、試藥等ノ加減、鑛液濃度ノ測定、アルカリ度ノ測定等ガ出來各浮選ノ良否ノ見分ケガ完全ニ出來ルコト
四　ジツガー選鑛機、テーブル選鑛機、磁氣選別機等ニ依ル選鑛作業ニ熟練シテヰルコト

二級　一級ニ達シナイ者

製銑工

一級

次ノ事項中二ツ以上ノ能力ヲ有スル者
一　炉況ヲ判斷シ適當ナ處置ガ出來ルコト
二　原料ノ良否ノ見分ケガ出來且配合ガ略出來ルコト
三　突發事故ニ對シテ適當ナ處置ガ出來ルコト

二級

次ノ事項中一ツ以上ノ能力ヲ有スル者
一　炉ノ故障ノ判定ガ略出來ルコト
二　炉況ニ依リ出銑ノ調節ガ略出來ルコト
三　出銑時ニ於ケル開口及閉止作業ニ熟練シテヰルコト
四　熱風炉ノ操作ニ從事シガスノ處理操作ガ完全ニ出來ルコト

三級　二級ニ達シナイ者

（備考）粉鑛ノ燒結作業ダケシカ出來ナイ者ハ三級トスルコト

製鋼工

一級

次ノ事項中二ツ以上ノ能力ヲ有スル者
一　炉況ヲ判斷シ適當ナ處置ガ出來ルコト
二　出鋼前ノ試料檢査ガ出來ルコト
三　ガスノ良否ノ見分ケガ出來且適當ナ處置ガ出來ルコト
四　突發事故ニ對シ適當ナ處置ガ出來ルコト
五　轉炉ノ操作ニ從事シ火焰ニ依リ炉内材質ノ變化ノ判定ガ出來ルコト

二級

次ノ事項中二ツ以上ノ能力ヲ有スル者
一　炉況ヲ見テ出鋼時ノ判斷ガ略出來ルコト
二　炉ノ故障ノ判定ガ略出來ルコト
三　原料ノ良否ノ見分ケガ略出來ルコト
四　造塊作業ニ於テ湯ノ温度、鋼質及鑄型ノ種類ニ應ジテ湯ノ注入方法ノ加減ガ完全ニ出來ルコト
五　造塊作業ニ於テ鑄型引拔時ノ判斷ガ出來ルコト

三級　二級ニ達シナイ者

（備考）苦灰石、石灰石等ノ焙燒作業ダケシカ出來ナイ者ハ三級トスルコト

非鐵金屬製錬工

一級

次ノ事項中一ツ以上ノ能力ヲ有スル者
一　焙燒程度ノ判定及調節ガ出來ルコト
二　燒結機ノ操作ニ從事シ其ノ調整ガ出來ルコト
三　揮發炉又ハ蒸溜炉ノ操作ニ從事シ其ノ調整ガ出來ルコト
四　焙鑛炉又ハ錬鉱炉ノ羽口操作ガ出來ルコト
五　反射炉ノ操作ニ從事シ炉況ニ依リ原料及燃料ノ調節ガ出來ルコト

一級	六　電氣爐ノ操作ニ從事シ其ノ調整ガ出來ルコト 七　轉爐ノ操作ニ從事シ火焰ニ依リ爐内材質ノ判定ガ出來ルコト 八　濕式製錬作業ニ從事シ浸出又ハ濾過ノ調整ガ出來ルコト 九　濕式製錬又ハ電氣精錬ノ作業ニ從事シ淨液ノ調整ガ出來ルコト 一〇　濕式製錬又ハ電氣精錬ノ作業ニ從事シ電解又ハ沈澱ノ調整ガ出來ルコト 一一　原料、製品、半製品等ノ熔融爐ノ操作ニ從事シ爐況ノ判定ガ出來ルコト
二級	次ノ事項中一ツ以上ノ能力ヲ有スル者 一　ポット燒結及圓鑛ノ作業ガ出來ルコト 二　熔鑛爐、揮發蒸溜爐、反射爐又ハ錬鉱爐ノ操作ニ從事シ床前作業ガ出來ルコト 三　原料、製品、半製品等ノ熔融爐ノ操作ニ從事シ爐前作業ガ出來ルコト 四　濕式製錬又ハ電氣精錬ノ作業ニ從事シ浸出又ハ淨液ノ操作ガ略出來ルコト 五　濕式製錬ノ作業ニ從事シ磨鑛、濃泥又ハ濾過ノ操作ガ略出來ルコト 六　原料、製品、半製品等ノ乾燥爐ノ操作ガ出來ルコト
三級	二級ニ達シナイ者

二級	次ノ事項中一ツ以上ノ能力ヲ有スル者 一　目測ニ依リ爐内溫度ノ判定ガ出來ルコト 二　爐内溫度測定器具ノ使用ガ出來ルコト
三級	二級ニ達シナイ者

壓延伸張工

一級	次ノ事項中※印ハ必須他二項ヲ選擇トスル合計三ツ以上ノ能力ヲ有スル者 ※一　壓延、伸張、引拔、押出等ノ作業ニ熟練シテヰルコト 二　各種製品ノ仕樣及規格ヲ知ツテヰルコト 三　各種材料ノ壓延又ハ伸張ノ遲減率ヲ知ツテヰルコト 四　各種材料ノ壓延可能溫度ノ範圍ヲ知ツテヰルコト 五　ロール、ダイス等ノ機械要部ノ研磨及手直ガ出來ルコト 六　製線作業ニ從事シ抗張力二〇〇瓩平方粍以上ノ鋼線又ハ徑〇・三粍以下ノ鋼線ノ伸張ガ出來ルコト
二級	次ノ事項中※印ハ必須他二項ヲ選擇トスル合計三ツ以上ノ能力ヲ有スル者 ※一　擔當スル機械ノ取扱ガ完全ニ出來ルコト 二　機械ノ簡單ナ研磨及手直ガ出來ルコト 三　熱處理、酸洗等ノ工程ニツイテ必要ナ知識ヲモツテヰルコト
三級	二級ニ達シナイ者 （備考）　材料ノ裝入又ハ取出ノ作業ダケシカ出來ナイ者ハ三級トスルコト

金屬熔融工

一級	次ノ事項中三ツ以上ノ能力ヲ有スル者 一　配合スル地金ノ種類ニ依リ熔融順序ヲ知ツテヰルコト 二　熔融最高溫度、熔劑投入溫度及鑄造溫度ヲ知ツテヰルコト 三　目測ニ依リ熔融金屬ノ量及溫度ノ判定ガ出來ルコト 四　熔融爐ノ修理ニツイテ指揮ガ完全ニ出來ルコト 五　合金ノ配合量ノ計算ガ出來ルコト
二級	次ノ事項中二ツ以上ノ能力ヲ有スル者 一　目測ニ依リ熔融金屬ノ溫度ノ判定ガ出來ルコト 二　熔融爐ノ部分的修理及大型トリベノ修理ガ出來ルコト 三　古地金ノ種類ノ見分ケガ略出來ルコト
三級	二級ニ達シナイ者

操爐工

一級	次ノ事項中四ツ以上ノ能力ヲ有スル者 一　必要ニ應ジテ爐内溫度ノ調節又ハ還元焰及酸化焰ノ調節ガ完全ニ出來ルコト 二　各種材料ノ加工可能溫度ノ範圍ヲ知ツテヰルコト 三　各種燃料ノ性質及ソレガ加熱材料ニ及ボス影響ヲ知ツテヰルコト 四　爐材ノ耐火性質ノ判定ガ出來ルコト 五　擔當スル電氣爐ノ構造ヲ知リ且附屬ノ電氣機械器具及設備ノ取扱ニ熟練シテヰルコト

三級	二級ニ達シナイ者

鑄物工

一級	次ノ事項中※印ハ必須他二項ヲ選擇トスル合計五ツ以上ノ能力ヲ有スル者 ※一　複雜ナ圖面ガヨメルコト ※二　木型ノ作リ方ニツイテ概略ノ知識ヲモツテヰルコト ※三　鑄物ノ不良ヲ知リ適當ナ處置ノ決定ガ出來ルコト 四　圖面ヲ見テ大型鑄物ノ作業段取ヲ決定シ且心金、底板等ノ考案ガ出來ルコト 五　品物ノ用途、材質及大キサニ應ジテ砂ノ配合ガ出來ルコト 六　大型鑄物ノ鑄込所要量ノ計算ガ出來ルコト 七　大型鑄物又ハ複雜ナ薄物ノ鑄込溫度ノ判定ガ出來且鑄込ノ指揮ガ出來ルコト 八　木型ヲ見テ鑄物ノ工數見積ガ出來ルコト 九　湯ノ熔融法ニツイテ概略ノ知識ヲモツテヰルコト 一〇　製品ノ用途ニ應ジテ適當ナ地金ノ選定ガ出來ルコト
二級	次ノ事項中※印ハ必須他二項ヲ選擇トスル合計四ツ以上ノ能

力ヲ有スル者
※一　簡單ナ圖面ガヨメルコト
二級
※二　鑄物ノ不良ニツイテ原因ノ判定ガ略出來ルコト
三　中型鑄物ノ木型ヲ見テ作業段取ノ決定ガ出來ルコト
四　複雜ナ生型ノ製作ガ出來ルコト
五　複雜ナ中子ノ製作ガ出來ルコト
六　複雜ナ機械込作業ガ出來ルコト
三級　二級ニ達シナイ者
（備考）　砂落、ハツリ又ハ簡單ナ小型中子ノ製作ダケシカ出來ナイ者ハ三級トスルコト

鍛工

次ノ事項中※印ハ必須他二項ヲ選擇トスル合計四ツ以上ノ能力ヲ有スル者
※一　加工中ノ鍛工品ニツイテ所要寸法ノ判斷ガ正確ニ出來ルコト
※二　加工中ノ鍛工品ノ不良箇所ヲ發見シ其ノ處置ノ決定ガ出來ルコト
三　圖面又ハ見本ニ依リ材料及工數ノ見積ガ出來ルコト
四　五人ノ以上ノ共同作業ヲ必要トスル大物鍛冶ノ指揮ガ出來ルコト
五　大物鍛冶ニ必要ナ工具及當型ノ考案ガ出來ルコト
六　特殊ノ材料ニツイテソノ溫度ト性質變化ノ關係ヲ知リ加熱中又ハ加工中ノ材料ノ取扱ニツイテ指揮ガ正確ニ出來ルコト
七　材質ニ惡影響ヲ殘サズニ加工ノ出來ル溫度ノ範圍ヲ知ツテヰルコト

次ノ事項中※印ハ必須他二項ヲ選擇トスル合計三ツ以上ノ能力ヲ有スル者
※一　目測ニ依リ普通材料ノ溫度ノ判定ガ出來ルコト
二　先手二人ノ指揮ガ出來ルコト
三　材料ノ見積ガ略出來ルコト
四　擔當スル範圍ノ鍛冶仕事ノ段取ガ出來ルコト
五　機械槌ノ操縱ガ出來ルコト
三級　二級ニ達シナイ者
（備考）　先手ダケシカ出來ナイ者ハ三級トスルコト

熱處理工

次ノ事項中一ツ以上ノ能力ヲ有スル者
一　各種金屬材料（炭素鋼、合金鋼、輕合金、銅合金）ノ中一種ニツイテ製品ノ用途ニ應ジ必要ナ熱處理ガ出來ルコト
二　滲炭又ハ窒化作業ニ伴フ各種ノ操作ガ出來ルコト

次ノ事項中※印ハ必須他二項ヲ選擇トスル合計四ツ以上ノ能力ヲ有スル者
※一　溫度計ニヨリ爐內溫度ノ調節ガ正確ニ出來ルコト
※二　鑛デ熱處理品ノ硬度ノ判定ガ出來ルコト

二級
三　簡單ナ普通鋼品ニツイテ特定ノ熱處理ガ出來ルコト
四　適當ナ指圖ヲ受ケテ特殊鋼品ノ熱處理ガ出來ルコト
五　熱處理後ノ歪取作業ガ出來ルコト
六　滲炭箱ニ品物ヲ正シク詰メルコトガ出來ルコト
七　加熱爐ノ操作ガ出來ルコト
三級　二級ニ達シナイ者
（備考）　鹽化バリウム等ノ加熱バスヲ使用スル燒入ダケシカ出來ナイ者、熱處理機械ノ操作ダケシカ出來ナイ者ハ三級トスルコト

現圖工

次ノ事項中※印ハ必須他一項ヲ選擇トスル合計三ツ以上ノ能力ヲ有スル者
※一　複雜ナ圖面ガヨメ且鑑船、汽罐、橋梁又ハ鐵塔ノ構造ニ精通シテヰルコト
※二　指圖ヲ受ケズニ現圖展開作業ガ出來又ハ現圖ニ依ル型板ノ製作ガ出來ルコト
三　簡單ナ作業ニ對スル工數見積ガ出來ルコト
四　現圖作業ニ必要ナ簡單ナ計算ガ出來ルコト
二級　一級ニ達シナイ者
（備考）　現圖作業ノ手傳ダケシカ出來ナイ者ハ二級トスルコト

撓鐵工

次ノ事項中※印ハ必須他一項ヲ選擇トスル合計三ツ以上ノ能力ヲ有スル者
※一　簡單ナ圖面ガヨメルコト
二　水壓機ニ依ル板、山形ノ撓曲作業ニ熟練シテヰルコト
三　簡單ナ山形ノ度ノ出入及山形ノ撓曲作業ノ段取ガ出來ルコト
四　歪取作業ニ熟練シテヰルコト
五　板ノ灣曲作業ニ熟練シテヰルコト
二級　一級ニ達シナイ者

熔接工

次ノ事項中※印ハ必須他二項ヲ選擇トスル合計四ツ以上ノ能力ヲ有スル者
※一　圖面ヲ見テ歪ノ最モ少イ作業段取ノ決定ガ出來ルコト
※二　擔當スル範圍ノ熔接機ノ構造及取扱ニツイテ充分ノ知識ヲモツテヰルコト
三　工數見積ガ出來ルコト
四　試驗水壓方八瓩平方糎以上ヲ必要トスル罐又ハ槽ノ熔接ガ出來ルコト
五　薄板ノ複雜ナ構造物又ハ薄板ノ大物熔接ガ出來ルコト
六　電弧熔接作業ニ於テ下向、竪向、橫向及上向ノ作業姿勢デ熔接ガ出來又ハ特定ノ作業姿勢デ高級ナ熔接ガ完全ニ出來ルコト
七　鑄鐵、特殊鋼、銅合金、輕合金、ニツケル中一種以上ノ熔接ニ熟練シテヰルコト

次ノ事項中※印ハ必須他一項ヲ選擇トスル合計三ツ以上ノ能力ヲ有スル者

※一　簡單ナ構造物ニツイテ作業段取ノ決定ガ出來ルコト
※二　擔當スル範圍ノ熔接機ノ取扱ニツイテ必要ナ知識ヲモツテヰルコト
三　試驗水壓力二瓲平方糎以上ヲ必要トスル容器ノ熔接ガ出來ルコト
四　薄板構造物ノ電弧又ハガス熔接作業ガ出來ルコト
五　電弧熔接作業ニ於テ下向、竪向又ハ横向ノ作業姿勢デ熔接ガ完全ニ出來ルコト
六　ベツト、スポツト又ハシーム熔接作業ニ熟練シテヰルコト

二級

三級　二級ニ達シナイ者

製罐工

次ノ事項中※印ハ必須他二項ヲ選擇トスル合計三ツ以上ノ能力ヲ有スル者

※一　圖面ト加工物トニ應ジテ段取ヨク加工ガ出來ルコト

一級

二　複雜ナ作業ニツイテ必要ナ現圖ノ作製ガ出來ルコト
三　製罐作業ニツイテ必要ナル工具ノ考案ガ出來ルコト
四　厚板曲ゲ方ノ指揮ガ出來ルコト
五　工數見積ガ出來ルコト

三級　二級ニ達シナイ者

鐵木工

次ノ事項中※印ハ必須他二項ヲ選擇トスル合計三ツ以上ノ能力ヲ有スル者

※一　複雜ナ圖面ガヨメ且組立段取ガ出來ルコト
二　船ノシヤフトセンターヲ出スコトガ出來ルコト
三　盤木、進水臺又ハ支柱ノ調整ガ出來ルコト
四　船體ノ中心若ハ組立位置ノ出シ方又ハ肋骨若ハ骨盤ノ組立調整ガ出來ルコト
五　船ノ構造ニ精通シテヰルコト

一級

次ノ事項中※印ハ必須他二項ヲ選擇トスル合計三ツ以上ノ能力ヲ有スル者

※一　簡單ナ圖面ガヨメルコト
※二　船ノ構造ヲ概略知ツテヰルコト
三　現圖木型ニヨル罫書ガ出來ルコト
四　大工仕事ガ出來ルコト

二級

次ノ事項中※印ハ必須他一項ヲ選擇トスル合計三ツ以上ノ能力ヲ有スル者

※一　簡單ナ構造物ニツイテ作業段取ノ決定ガ出來ルコト
※二　擔當スル範圍ノ熔接機ノ取扱ニツイテ必要ナ知識ヲモツテヰルコト
三　試驗水壓力二瓲平方糎以上ヲ必要トスル容器ノ熔接ガ出來ルコト
四　薄板構造物ノ電弧又ハガス熔接作業ガ出來ルコト
五　電弧熔接作業ニ於テ下向、竪向又ハ横向ノ作業姿勢デ熔接ガ完全ニ出來ルコト
六　ベツト、スポツト又ハシーム熔接作業ニ熟練シテヰルコト

二級

三級　二級ニ達シナイ者

板金工

次ノ事項中※印ハ必須他三項ヲ選擇トスル合計四ツ以上ノ能力ヲ有スル者

※一　圖面ト加工物トニ應ジテ段取ヨク加工ガ出來ルコト
二　工數見積ガ出來ルコト
三　不規則ナ品物ノ展開圖ガカケルコト
四　剳出(管ノ分岐)及曲物(エビ)ノ作業ガ出來ルコト
五　ハンダ附及鑞附ノ作業ニ熟練シテヰルコト
六　厚板(厚サ三粍以上)ノ型出ガ完全ニ出來ルコト

一級

次ノ事項中※印ハ必須他三項ヲ選擇トスル合計四ツ以上ノ能力ヲ有スル者

※一　圖面ガヨメ且簡單ナ作業ノ段取ガ出來ルコト
二　板取作業ガ出來ルコト
三　薄板ノ型出作業ガ出來ルコト
四　手作業デ絞リ作業ガ出來ルコト
五　ハンダ附作業ニ熟練シテヰルコト

二級

三級　二級ニ達シナイ者

金屬プレス工

次ノ事項中※印ハ必須他二項ヲ選擇トスル合計三ツ以上ノ能力ヲ有スル者

※一　複雜ナ作業ニ付テ型準備段取ガ出來ルコト
二　複雜ナ圖面ガヨメルコト
三　工數見積ガ出來ルコト
四　數種ノプレスニツイテ拔型、曲型及絞型ノ使用ガ出來ルコト
五　プレスノ不具合及製品ノ不良ヲ知リ其ノ原因ノ發見ガ出來ルコト

一級

次ノ事項中※印ハ必須他二項ヲ選擇トスル合計三ツ以上ノ能力ヲ有スル者

※一　擔當スルプレスニツイテ各種ノ加工作業ガ能率ヨク出來ルコト
二　簡單ナ型ノ適否ノ判定ガ出來ルコト
三　簡單ナ圖面ガヨメルコト
四　簡單ナ作業ニツイテ型ノ準備ガ出來ルコト

二級

三級　二級ニ達シナイ者

（備考）　自動プレスノ操作ダケシカ出來ナイ者ハ三級トスルコト

銅工

次ノ事項中※印ハ必須他二項ヲ選擇トスル合計四ツ以上ノ能力ヲ有スル者

※一　複雜ナ圖面ガヨメルコト
※二　複雜ナ管曲作業ガ出來ルコト
三　不規則ナ品物ノ展開圖ガカケルコト

一級

四　配管ノ系統圖ヲ理解シ工事ノ段取ガ出來ルコト
五　各種鐵附作業ニ熟練シテヰルコト
六　フランヂ取附作業ガ正確ニ出來ルコト

二級	次ノ事項中※印ハ必須他二項ヲ選擇スル合計三ツ以上ノ能力ヲ有スル者 ※一　簡單ナ圖面ガヨメルコト 二　簡單ナ管曲作業ガ出來ルコト 三　針金デ管ノ曲型ヲトルコトガ出來ルコト 四　簡單ナ配管工事ガ出來ルコト
三級	二級ニ達シナイ者

罫書工

一級	次ノ事項中※印ハ必須他一項ヲ選擇スル合計三ツ以上ノ能力ヲ有スル者 ※一　複雜ナ圖面ガヨメルコト ※二　圖面ト加工物トニ應ジテ段取ヨク罫書ガ出來ルコト 三　材料ニ缺陷ガアル場合製品ノ機能ニ應ジテ適當ナ處置ガ出來ルコト 四　工數見積ガ出來ルコト
二級	次ノ事項中※印ハ必須他一項ヲ選擇スル合計三ツ以上ノ能力ヲ有スル者 ※一　簡單ナ圖面ガヨメルコト ※二　擔當スル範圍ノ罫書ガ出來ルコト

三　型板（テンプレート）等ヲ用ヒテ簡單ナ罫書ガ出來ルコト
四　製品ノ用途ヲ略理解シテヰルコト

三級	二級ニ達シナイ者

旋盤工

一級	次ノ事項中※印ハ必須他三項ヲ選擇スル合計四ツ以上ノ能力ヲ有スル者 ※一　圖面ト加工物トニ應ジテ各種ノ作業段取及加工作業ガ出來ルコト 二　數種類ノ旋盤ニツイテ各種ノ加工作業ガ能率ヨク出來ルコト 三　旋盤ノ不具合及製品ノ不良ヲ知リ其ノ原因ノ發見ガ出來ルコト 四　內パス及外パスヲ用ヒ合セ物仕上ヲ日本標準規格三級嵌合（品物ノ仕上寸法二〇粍前後ナラバ公差正負百分ノ二粍仕上寸法五〇粍前後ナラバ公差正負百分ノ二・五粍程度ノ仕上）以上ニ加工ガ出來ルコト 五　限界ゲージヲ用ヒ日本標準規格二級嵌合（品物ノ仕上寸法二〇粍前後ナラバ公差正負百分ノ〇・九粍仕上寸法五〇粍前後ナラバ公差正負百分ノ一・二粍程度ノ仕上）ヲ適用シタ部分品ノ製作ガ容易ニ出來ルコト 六　大型旋盤作業ニツイテ取附及加工段取ガ出來ルコト

七　工數見積ガ出來ルコト

二級	次ノ事項中※印ハ必須他二項ヲ選擇スル合計四ツ以上ノ能力ヲ有スル者 ※一　簡單ナ圖面ガヨメ且擔當スル範圍ノ作業段取ガ出來ルコト ※二　擔當スル旋盤ニツイテ各種ノ加工作業ガ能率ヨク出來ルコト 三　荒削濟ノ製品ニ對シ中削及仕上削合計四回以下ノ加工デ合セ物仕上ヲ日本標準規格四級嵌合（品物ノ仕上寸法二〇粍前後ナラバ公差正負百分ノ五粍仕上寸法五〇粍前後ナラバ公差正負百分ノ六・五粍程度ノ仕上）以上ニ加工ガ出來ルコト 四　マイクロメータヲ用ヒ日本標準規格三級嵌合（品物ノ仕上寸法二〇粍前後ナラバ公差正負百分ノ二粍仕上寸法五〇粍前後ナラバ公差正負百分ノ二・五粍程度ノ仕上）ヲ適用シタ部分品ノ製作ガ容易ニ出來ルコト 五　各種ネヂノ製作ガ出來ルコト 六　使用刃物ノ研磨ガ出來ルコト 七　高級刃物、マイクロメータ、ジグ、ゲージ類ノ使用法ヲ知ツテヰルコト
三級	二級ニ達シナイ者 タレツト工

一級	次ノ事項中※印ハ必須他二項ヲ選擇スル合計四ツ以上ノ能力ヲ有スル者 ※一　作業上必要ナ程度ニ圖面ガヨメルコト ※二　指定サレタ加工方式ノ理解ガ容易ニ出來ルコト 三　タレツト旋盤ノ不具合及製品ノ不良ヲ知リ其ノ原因ノ發見ガ出來ルコト 四　使用工具ノ適否ノ判定ガ出來且其ノ調整ガ出來ルコト 五　使用工具ノ考案ガ出來ルコト 六　精密度ノ高イ製品ノ多量生產ガ出來ルコト 七　自動又ハ半自動旋盤ノ作業指導ガ出來ルコト
二級	次ノ事項中※印ハ必須他二項ヲ選擇スル合計三ツ以上ノ能力ヲ有スル者 ※一　擔當スルタレツト旋盤ニツイテ各種作業ガ能率ヨク正確ニ出來ルコト 二　日本標準規格三級嵌合（品物ノ仕上寸法二〇粍前後ナラバ公差正負百分ノ二粍仕上寸法五〇粍前後ナラバ公差正負百分ノ二・五粍程度ノ仕上）ヲ適用シタ部分品ノ製作ガ容易ニ出來ルコト 三　使用刃物ノ研磨ガ出來ルコト 四　高級刃物、マイクロメータ、ゲージ類ノ使用法ヲ知ツテヰルコト

三級	二級ニ達シナイ者
	（備考）精密度ノ低イボルト、ナット等ノ多量生産ダケシカ出來ナイ者ハ三級トスルコト
中グリ工	
一級	次ノ事項中※印ハ必須他三項ヲ選擇トスル合計四ツ以上ノ能力ヲ有スル者 ※一　圖面ト加工物トニ應ジテ各種ノ作業段取及加工作業ガ出來ルコト 二　數種類ノ中グリ盤ニツイテ各種ノ加工作業ガ能率ヨク出來ルコト 三　中グリ盤ノ不具合及製品ノ不良ヲ知リ其ノ原因ノ發見ガ出來ルコト 四　內バス及外バスヲ用ヒ合セ物仕上ヲ日本標準規格三級嵌合（品物ノ仕上寸法五〇粍前後ナラバ公差正負百分ノ二・五粍仕上寸法一〇〇粍前後ナラバ公差正負百分ノ三・五粍程度ノ仕上）以上ニ加工ガ出來ルコト 五　限界ゲージヲ用ヒ日本標準規格二級嵌合（品物ノ仕上寸法五〇粍前後ナラバ公差正負百分ノ一・二粍仕上寸法一〇〇粍前後ナラバ公差正負百分ノ一・五粍程度ノ仕上）ヲ適用シタ部分品ノ製作ガ容易ニ出來ルコト 六　大型中グリ盤（シャプトボーリング）ニツイテ取附及加工段取ガ出來ルコト 七　工數見積ガ出來ルコト
二級	次ノ事項中※印ハ必須他三項ヲ選擇トスル合計四ツ以上ノ能力ヲ有スル者 ※一　圖面ト加工物トニ應ジテ各種ノ作業段取及加工作業ガ出來ルコト ※二　擔當スル中グリ盤ニツイテ各種ノ加工作業ガ能率ヨク出來ルコト 三　荒削濟ノ製品ニ對シ中削及仕上削合計四回以下ノ加工デ合セ物仕上ヲ日本標準規格四級嵌合（品物ノ仕上寸法五〇粍前後ナラバ公差正負百分ノ六粍仕上寸法一〇〇粍前後ナラバ公差正負百分ノ八粍程度ノ仕上）以上ニ加工ガ出來ルコト 四　マイクロメータヲ用ヒ日本標準規格三級嵌合（品物ノ仕上寸法二〇粍前後ナラバ公差正負百分ノ二粍仕上寸法五〇粍前後ナラバ公差正負百分ノ二・五粍程度ノ仕上）ヲ適用シタ部分品ノ製作ガ容易ニ出來ルコト 五　使用刃物ノ研磨ガ出來ルコト 六　高級刃物、マイクロメータ、ゲージ類ノ使用法ヲ知ツテヰルコト
三級	二級ニ達シナイ者
研磨工	

一級	次ノ事項中※印ハ必須他二項ヲ選擇トスル合計四ツ以上ノ能力ヲ有スル者 ※一　圖面ト加工物トニ應ジテ各種ノ作業段取及加工作業ガ出來ルコト ※二　數種類ノ研磨盤（手ニ依ル工具研磨專用ノモノヲ除ク）ニツイテ各種ノ加工作業ガ能率ヨク出來ルコト 三　研磨盤ノ不具合及製品ノ不良ヲ知リ其ノ原因ノ發見ガ出來ルコト 四　限界ゲージヲ用ヒ日本標準規格二級嵌合（品物ノ仕上寸法二〇粍前後ナラバ公差正負百分ノ〇・九粍仕上寸法五〇粍前後ナラバ公差正負百分ノ一・二粍程度ノ仕上）ヲ適用シタ部分品ノ製作ガ容易ニ出來ルコト 五　各種砥石車ノ硬度又ハ粒度ト工作物トノ關係ヲ理解シ研磨速度ト送リノ加減ガ出來ルコト 六　工數見積ガ出來ルコト 七　ラッピング仕上作業ガ出來ルコト 八　特殊高級工具ノ研磨ガ出來ルコト 九　ネヂ研磨盤又ハ齒車研磨盤ノ使用ガ完全ニ出來ルコト
二級	三　マイクロメータヲ用ヒ日本標準規格三級嵌合（品物ノ仕上寸法二〇粍前後ナラバ公差正負百分ノ二粍仕上寸法五〇粍前後ナラバ公差正負百分ノ二・五粍程度ノ仕上）ヲ適用シタ部分品ノ製作ガ容易ニ出來ルコト 四　砥上盤（ホーニング盤）作業ガ出來ルコト 五　普通工具ノ研磨ガ出來ルコト 六　マイクロメータ、ゲージ類ノ使用法ヲ知ツテヰルコト
三級	二級ニ達シナイ者
ボール盤工	
一級	次ノ事項中※印ハ必須他一項ヲ選擇トスル合計三ツ以上ノ能力ヲ有スル者 ※一　圖面ト加工物トニ應ジテ各種ノ作業段取及加工作業ガ出來ルコト ※二　數種類ノボール盤ニツイテ各種ノ加工作業ガ能率ヨク出來ルコト 三　ボール盤ノ不具合及製品ノ不良ヲ知リ其ノ原因ノ發見ガ出來ルコト 四　工數見積ガ出來ルコト
二級	次ノ事項中※印ハ必須他一項ヲ選擇トスル合計三ツ以上ノ能力ヲ有スル者 ※一　簡單ナ圖面ガヨメ且擔當スル範圍ノ作業段取ガ出來ルコト ※二　擔當スルボール盤ニツイテ各種ノ加工作業ガ能率ヨク

出來ルコト
三　タップ下孔ヲアケルコトガ出來ルコト
四　鉋ノ研磨ガ出來ルコト
五　高級工具、マイクロメータ、ジグ、ゲージ類ノ使用法ヲ知ツテヰルコト

三級　二級ニ達シナイ者

平削工

次ノ事項中※印ハ必須他一項ヲ選擇トスル合計三ツ以上ノ能力ヲ有スル者

一級

※一　圖面ト加工物トニ應ジテ各種ノ作業段取及加工作業ガ出來ルコト
※二　數種類ノ平削盤ニツイテ各種ノ加工作業ガ能率ヨク正確ニ出來ルコト
三　平削盤ノ不具合及製品ノ不良ヲ知リ其ノ原因ノ發見ガ出來ルコト
四　大型平削盤ニツイテ取附及加工段取ガ出來ルコト
五　工數見積ガ出來ルコト

次ノ事項中※印ハ必須他一項ヲ選擇トスル合計三ツ以上ノ能力ヲ有スル者

二級

※一　簡單ナ圖面ガヨメ且擔當スル範圍ノ作業段取ガ出來ルコト
※二　擔當スル平削盤ニツイテ各種ノ加工作業ガ能率ヨク正確ニ出來ルコト

三級　二級ニ達シナイ者

フライス工

次ノ事項中※印ハ必須他二項ヲ選擇トスル合計四ツ以上ノ能力ヲ有スル者

一級

※一　圖面ト加工物トニ應ジテ各種ノ作業段取及加工作業ガ出來ルコト
※二　竪型及横型ヲ含メテ三種以上ノフライス盤ニツイテ各種ノ加工作業ガ能率ヨク正確ニ出來ルコト
三　フライス盤ノ不具合及製品ノ不良ヲ知リ其ノ原因ノ發見ガ出來ルコト
四　限界ゲージヲ用ヒ日本標準規格二級嵌合（品物ノ仕上寸法二〇粍前後ナラバ公差正負百分ノ〇・九粍仕上寸法五〇粍前後ナラバ公差正負百分ノ一・二粍程度ノ仕上）ヲ適用シタ部分品ノ製作ガ容易ニ出來ルコト
五　工數見積ガ出來ルコト
六　割出臺（インデツキス）作業ニ熟練シテヰルコト

次ノ事項中※印ハ必須他一項ヲ選擇トスル合計三ツ以上ノ能力ヲ有スル者

二級

※一　簡單ナ圖面ガヨメ且擔當スル範圍ノ作業段取ガ出來ルコト
※二　擔當スルフライス盤ニツイテ各種ノ加工作業ガ能率ヨク正確ニ出來ルコト
三　限界ゲージヲ用ヒ日本標準規格三級嵌合（品物ノ仕上

三　使用刃物ノ研磨ガ出來ルコト
四　高級刃物、精密測定器具類ノ使用法ヲ知ツテヰルコト

三級　二級ニ達シナイ者

形削工

次ノ事項中※印ハ必須他十項ヲ選擇トスル合計三ツ以上ノ能力ヲ有スル者

一級

※一　圖面ト加工物トニ應ジテ各種ノ作業段取及加工作業ガ出來ルコト
※二　形削盤又ハ竪削盤ノ數種類ニツイテ各種ノ加工作業ガ能率ヨク正確ニ出來ルコト
三　形削盤又ハ竪削盤ノ不具合及製品ノ不良ヲ知リ其ノ原因ノ發見ガ出來ルコト
四　工數見積ガ出來ルコト

次ノ事項中※印ハ必須他一項ヲ選擇トスル合計三ツ以上ノ能力ヲ有スル者

二級

※一　簡單ナ圖面ガヨメ且擔當スル範圍ノ作業段取ガ出來ルコト
※二　擔當スル形削盤又ハ竪削盤ニツイテ各種ノ加工作業ガ能率ヨク正確ニ出來ルコト
三　使用刃物ノ研磨ガ出來ルコト
四　高級刃物、マイクロメータ、ゲージ類ノ使用法ヲ知ツテヰルコト

三級　二級ニ達シナイ者

歯切工

次ノ事項中※印ハ必須他一項ヲ選擇トスル合計三ツ以上ノ能力ヲ有スル者

一級

※一　圖面ト加工物トニ應ジテ各種ノ作業段取及加工作業ガ出來ルコト
※二　二種以上ノ歯切盤ニツイテ各種ノ加工作業ガ能率ヨク正確ニ出來ルコト
三　歯切盤ノ不具合及製品ノ不良ヲ知リ其ノ原因ノ發見ガ出來ルコト
四　工數見積ガ出來ルコト
五　與ヘラレタ歯切作業ノ計算表ヲ理解シ且其ノ使用ガ完全ニ出來ルコト

次ノ事項中※印ハ必須他一項ヲ選擇トスル合計三ツ以上ノ能力ヲ有スル者

二級

※一　簡單ナ圖面ガヨメ且擔當スル範圍ノ作業段取ガ出來ルコト
※二　擔當スル歯切盤ニツイテ各種ノ加工作業ガ能率ヨク正

寸法二〇粍前後ナラバ公差正負百分ノ二粍仕上寸法五〇粍前後ナラバ公差正負百分ノ二・五粍程度ノ仕上）ヲ適用シタ部分品ノ製作ガ容易ニ出來ルコト
四　高級刃物、マイクロメータ、ゲージ類ノ使用法ヲ知ツテヰルコト

確ニ出來ルコト
三　シングルカツタヲ用ヒテ齒切加工ガ出來ルコト
四　高級刄物、マイクロメータ、ゲージ類ノ使用法ヲ知ツテヰルコト

三級　二級ニ達シナイ者

工具仕上工

一級
次ノ事項中※印ハ必須他二項ヲ選擇トスル合計四ツ以上ノ能力ヲ有スル者
※一　複雜ナ圖面ガヨメルコト
※二　圖面ニ依リ現圖引ガ出來ルコト
三　加工材料ノ性質ト工作機械ノ種類トニ應ジテ工具ノ材質ヲ選定シ且形狀ノ考案ガ出來ルコト
四　圖面ヲ見テ必要ナゲージ、ジグ又ハ仕上工具ノ考案ガ出來ルコト
五　加工材料ノ形狀、性質及プレスノ種類ニ應ジテ適當ナル金型ノ考案ガ出來ルコト
六　現圖ニ依リゲージノ製作ガ出來ルコト
七　工數見積ガ出來ルコト

二級
次ノ事項中※印ハ必須他二項ヲ選擇トスル合計三ツ以上ノ能力ヲ有スル者
※一　簡單ナ圖面ガヨメルコト
二　特定機械ニ使フ工具、金型等ノ製作ガ出來ルコト
三　簡單ナ心出及罫書ガ出來ルコト
四　細目鑪ノ使用ガ完全ニ出來ルコト
五　指圖ヲ受ケテゲージ竝ニ刄物類ノ製作ガ出來ルコト

三級　二級ニ達シナイ者

仕上工

一級
次ノ事項中※印ハ必須他一項ヲ選擇トスル合計三ツ以上ノ能力ヲ有スル者
※一　複雜ナ圖面ガヨメルコト
※二　高級ナ摺合作業ガ出來ルコト
三　各種ノ作業ニツイテ必要ナ工具ノ考案ガ出來ルコト
四　工數見積ガ出來ルコト
五　バランシング作業ガ出來ルコト

二級
次ノ事項中※印ハ必須他一項ヲ選擇トスル合計三ツ以上ノ能力ヲ有スル者
※一　簡單ナ圖面ガヨメルコト
※二　普通ノ摺合作業ガ出來ルコト
三　使用工具ノ適否ノ判定ガ出來ルコト
四　タガネノ使用ガ完全ニ出來ルコト
五　鐵及普通合金ノ性質ヲ略知ツテヰルコト

三級　二級ニ達シナイ者

電機組立工

次ノ事項中※印ハ必須他一項ヲ選擇トスル合計三ツ以上ノ能力ヲ有スル者
※一　保安上必要ナ電氣知識ヲモツテヰルコト
※二　各種電氣機械器具ノ使用法ヲ知ツテヰルコト
三　複雜ナ電氣機械器具ノ組立、補正及修理ガ出來ルコト
四　複雜ナ電氣結線圖ノ理解ガ完全ニ出來ルコト
五　各種電氣機械器具ノ使用ニツイテ必要ナ考案及改良ガ出來ルコト
六　工數見積ガ出來ルコト

二級
次ノ二ツノ能力ヲ有スル者
※一　擔當スル範圍ノ電氣機械器具ニツイテ其ノ使用法ヲ知ツテヰルコト
※二　簡單ナ電氣機械器具ノ組立、補正及修理ガ出來ルコト

三級　二級ニ達シナイ者

電氣通信機組立工

一級
次ノ事項中※印ハ必須他二項ヲ選擇トスル合計三ツ以上ノ能力ヲ有スル者
※一　保安上必要ナ電氣知識ヲモツテヰルコト
二　複雜ナ電氣通信用機械器具ノ組立、補正及修理ガ出來ルコト
三　複雜ナ電氣結線圖ノ理解ガ完全ニ出來ルコト
四　工數見積ガ出來ルコト

二級
次ノ二ツノ能力ヲ有スル者
※一　擔當スル範圍ノ電氣通信用機械器具ニツイテ其ノ使用法ヲ知ツテヰルコト
※二　簡單ナ電氣通信用機械器具ノ組立、補正及修理ガ出來ルコト

三級　二級ニ達シナイ者

精密組立工

一級
一般精密機械器具ノ組立ニ從事スル者ニツイテハ次ノ事項中※印ハ必須他二項ヲ選擇トスル合計三ツ以上ノ能力ヲ有スル者
※一　複雜ナ圖面ガヨメルコト
二　各種作業ニツイテ必要ナ工具ノ考案ガ出來ルコト
三　高級ナ摺合作業ガ出來ルコト
四　機械ニ缺陷ガアル場合其ノ調整スベキ要點ノ指摘ガ出來ルコト
五　工數見積ガ出來ルコト
光學機械ノ組立ニ從事スル者ニツイテハ次ノ事項中※印ハ必須他一項ヲ選擇トスル合計二ツ以上ノ能力ヲ有スル者
※一　複雜ナ圖面ガヨメ又ハガラス部品ノ淸拭作業ガ完全ニ

出來ルコト

二　各種光學機械ニ對スル調整段取ガ出來ルコト

三　精密ナ補正ニ必要ナ工具ノ選擇ニツイテ充分ナ知識ヲモツテヰルコト

四　焦點ガラス、プリズム及接眼鏡等ノ調整ガ正確ニ出來ルコト

五　工數見積ガ出來ルコト

次ノ事項中※印ハ必須他一項ヲ選擇トスル合計三ツ以上ノ能力ヲ有スル者

※一　組立作業ニ必要ナ程度ニ圖面ガヨメルコト

※二　使用工具ノ適否ノ判定ガ出來ルコト

三　タガネ及鑢ノ使用ガ完全ニ出來ルコト

四　普通ノ摺合作業ガ出來ルコト

五　特定ノ機械ニツイテ其ノ調整ガ出來ルコト

三級

二級ニ達シナイ者

機械組立工

次ノ事項中※印ハ必須他二項ヲ選擇トスル合計四ツ以上ノ能力ヲ有スル者

※一　複雜ナ圖面ガヨメルコト

※二　機械器具ノ組立及調整ガ出來ルコト

一級

三　各種作業ニツイテ必要ナ工具考案ガ出來ルコト

四　高級ナ摺合作業ガ出來ルコト

五　大型機械ノ補正及修理ガ出來ルコト

六　軸中心線ノ調整ガ出來ルコト

七　工數見積ガ出來ルコト

次ノ事項中※印ハ必須他一項ヲ選擇トスル合計三ツ以上ノ能力ヲ有スル者

※一　組立作業ニ必要ナ程度ニ圖面ガヨメルコト

※二　使用工具ノ適否ノ判定ガ出來ルコト

三　タガネ及鑢ノ使用ガ完全ニ出來ルコト

四　普通ノ摺合作業ガ出來ルコト

五　小型機械ノ補正及修理ガ出來ルコト

六　大型機械ニツイテ部分的補正及修理ガ出來ルコト

二級

次ノ事項中※印ハ必須他二項ヲ選擇トスル合計四ツ以上ノ能力ヲ有スル者

※一　複雜ナ圖面ガヨメルコト

※二　機械器具ノ組立及調整ガ出來ルコト

三級

二級ニ達シナイ者

航空機組立工

次ノ事項中※印ハ必須他二項ヲ選擇トスル合計四ツ以上ノ能力ヲ有スル者

一級

※一　複雜ナ圖面ガヨメルコト

※二　作業段取及工數見積ガ出來ルコト

三　機體全體ノ調整ニ熟練シテヰルコト

四　發動機ノ操作ニツイテ充分ナ知識ヲモツテヰルコト

五　操縱裝置ノ調整ニ熟練シテヰルコト

六　取附計器ノ構造及機能ヲ理解シテヰルコト

次ノ事項中※印ハ必須他一項ヲ選擇トスル合計三ツ以上ノ能力ヲ有スル者

※一　組立作業ニ必要ナ程度ニ圖面ガヨメルコト

※二　使用工具ノ適否ノ判定ガ出來ルコト

三　普通ノ材料ニツイテ必要ナ知識ヲモツテヰルコト

四　板金作業ガ出來ルコト

五　各部分ノ組立及調整ノ要領ヲ知ツテヰルコト

二級

三級

二級ニ達シナイ者

自動車工

次ノ事項中※印ハ必須他二項ヲ選擇トスル合計四ツ以上ノ能力ヲ有スル者

※一　複雜ナ圖面ガヨメルコト

※二　自動車全體ノ構造及機能ヲ理解シテヰルコト

三　工數見積ガ出來ルコト

四　自動車發動機ノ調整ニ熟練シテヰルコト

五　自動車各部分ノ摺合及調整ガ出來ルコト

六　自動車運轉者免許證ヲモツテヰル者ト同等以上ノ運轉技能ヲモツテヰルコト

七　各種自動車ノ車室艤裝ガ完全ニ出來ルコト

八　各種艤裝材料ノ品質ノ識別ガ出來ルコト

次ノ事項中※印ハ必須他二項ヲ選擇トスル合計三ツ以上ノ能力ヲ有スル者

※一　組立作業ニ必要ナ程度ニ圖面ガヨメルコト

二　自動車各部分ノ構造及機能ヲ略知ツテヰルコト

三　自動車ノ特定部分ノ分解及調整ガ出來ルコト

四　車室ノ特定箇所ノ艤裝ガ出來ルコト

二級

三級

二級ニ達シナイ者

艤裝工

次ノ事項中※印ハ必須他二項ヲ選擇トスル合計四ツ以上ノ能力ヲ有スル者

※一　關聯スル各種ノ圖面ガヨメルコト

※二　擔當スル範圍ニツイテ各種裝置ノ關係ヲ知ツテヰルコト

三　工數見積ガ出來ルコト

四　擔當スル範圍ニツイテ作業進捗程度ノ判斷ガ正確ニ出來ルコト

五　軸系中心調及据附ノ指揮ガ出來ルコト

六　主機械又ハ補機械ノ据附、運轉及調整ノ指揮ガ出來ルコト

七　擔當スル範圍ニツイテ造船艤裝ニ必要ナ現圖展開ガ出來ルコト

一級

八　數種類ノ兵器ニツイテ完全ナ据附ガ出來ルコト
九　艦船内ノ電氣器具ノ据附及調整ガ出來ルコト
一〇　艦船内ノ各種電氣機械　結線及運轉ガ出來ルコト

二級

次ノ事項中※印ハ必須他二項ヲ選擇トスル合計三ツ以上ノ能力ヲ有スル者
※一　擔當スル範圍ノ艤裝ニ必要ナ程度ニ圖面ガヨメルコト
二　擔當スル範圍ノ艤裝ノ段取ガ出來ルコト
三　補機械ノ運轉及調整ガ出來ルコト
四　各種管裝置ノ締附ガ出來ルコト
五　擔當スル兵器ノ据附ガ出來ルコト
六　艦船内ノ電路敷設及電機器具ノ結線ガ出來ルコト

三級

二級ニ達シナイ者

巻線工

コイルノ巻キ方ニ從事スル者ニツイテハ次ノ事項中※印ハ必須他一項ヲ選擇トスル合計三ツ以上ノ能力ヲ有スル者
※一　複雜ナ仕様書ガワカルコト
※二　計器ニ依リ銅線ノ太サ、被覆ノ厚サ等ノ測定ガ出來ルコト
三　コイルノ用途ニ精通シテヰルコト
四　巻型ノ適否ノ判定ガ出來ルコト
コイルノ納メ方ニ從事スル者ニツイテハ次ノ事項中※印ハ必須他二項ヲ選擇トスル合計四ツ以上ノ能力ヲ有スル者

一級

※一　電氣的知識ガアリコイル巻及絶縁工程ノ一般ニツイテ理解シテヰルコト
※二　複雜ナ圖面ガヨメ且ツ仕様書ガワカルコト
三　工數見積ガ出來ルコト
四　計器ニ依リ接續ノ良否、絶縁抵抗及絶縁耐力ノ測定ガ出來ルコト
五　コイルノ接合用材料ニツイテ概略ノ知識ヲモツテヰルコト
六　巻線用銅材料ノ加工工程ニ精通シテヰルコト
七　製品ノワニス處理及乾燥ガ出來ルコト
八　廻轉子ノバランスシング作業ガ出來ルコト
九　コイル及絶縁物ノ乾濕程度ノ見分ケガ出來ルコト
一〇　絶縁物及ワニスノ性質ヲ理解シテヰルコト

二級

コイルノ巻キ方ニ從事スル者ニツイテハ次ノ事項中※印ハ必須他一項ヲ選擇トスル合計二ツ以上ノ能力ヲ有スル者
※一　仕様書ガワカルコト
二　銅線ノ被覆ノ良否ノ見分ケガ出來ルコト
三　銅線ノ接合ニツイテ知識ガアリ且接合ノ良否ノ見分ケガ出來ルコト
コイルノ納メ方ニ從事スル者ニツイテハ次ノ事項中※印ハ必須他一項ヲ選擇トスル合計三ツ以上ノ能力ヲ有スル者
※一　簡單ナ圖面ガヨメ且仕様書ガワカルコト
※二　コイルノ接合部ノ良否ノ見分ケガ出來ルコト

三　鐵心、整流子等ノ良否ノ見分ケガ出來ルコト
四　コイルノ良否ノ見分ケガ出來ルコト
五　廻轉子ノバインド材料ノ良否ノ見分ケガ出來ルコト
六　絶縁物及ワニスノ取扱ニ精通シテヰルコト

三級

二級ニ達シナイ者

絶縁工

次ノ事項中※印ハ必須他二項ヲ選擇トスル合計四ツ以上ノ能力ヲ有スル者
※一　複雜ナ仕様書ガワカルコト
※二　製品ノ用途ニ精通シテヰルコト
三　計器ニ依リワニスノ比重、絶縁抵抗及絶縁耐力ノ測定ガ出來ルコト
四　各種絶縁物及ワニスノ性質ニ精通シ且其ノ取扱ガ出來ルコト
五　各種絶縁物ノ乾濕程度ノ見分ケガ出來ルコト
六　各種絶縁物及ワニスノ優劣ノ見分ケガ出來ルコト
七　ワニスノ處理及乾燥ガ出來ルコト

一級

次ノ事項中※印ハ必須他二項ヲ選擇トスル合計三ツ以上ノ能力ヲ有スル者
※一　仕様書ガワカルコト
二　擔當スル範圍ノ絶縁物ノ取扱ガ出來ルコト

二級

三　擔當スル範圍ノ絶縁物ノ乾濕程度ノ見分ケガ出來ルコト
四　擔當スル範圍ノ絶縁物及ワニスノ優劣ノ見分ケガ出來ルコト

三級

二級ニ達シナイ者

目盛工

次ノ事項中※印ハ必須他一項ヲ選擇トスル合計二ツ以上ノ能力ヲ有スル者
※一　圖面ヲ見テ精密計器類ノ目盛方法ノ決定ガ出來ルコト

一級

二　機械的操作ニ依リ精密目盛ガ出來ルコト
三　化學的操作ニ依リ精密目盛ガ出來ルコト
四　手作業ニ依リ精密目盛ガ出來ルコト

二級

機械的、化學的又ハ手作業ニ依ル目盛作業ニ從事スル者ニツイテハ次ノ事項中一ツ以上ノ能力ヲ有スル者
一　精密度ノ低イ計器ニツイテ指圖ヲ受ケズニ目盛ガ出來ルコト
二　割出方法、使用工具等ニツイテ指圖ヲ受ケ精密目盛ガ出來ルコト

三級

二級ニ達シナイ者

合板工

一級	次ノ事項中一ツ以上ノ能力ヲ有スル者 一　原板作業ニ熟練シ且關聯スル他ノ工程ニツイテ理解シテヰルコト 二　膠著作業ニ熟練シ且關聯スル他ノ工程ニツイテ理解シテヰルコト 三　仕上作業ニ熟練シ且關聯スル他ノ工程ニツイテ理解シテヰルコト 四　乾燥作業ニ熟練シ且關聯スル他ノ工程ニツイテ理解シテヰルコト 五　選別作業ニ熟練シ且關聯スル他ノ工程ニツイテ理解シテヰルコト
二級	一級ニ達シナイ者

木型工

一級	次ノ事項中※印ハ必須他一項ヲ選擇トスル合計三ツ以上ノ能力ヲ有スル者 ※一　複雜ナ圖面ガヨメルコト ※二　鑄造ノ作業工程全般ニツイテ概略ノ知識ヲモツテヰルコト 三　現圖引ガ出來且木取ガ出來ルコト 四　圖面ヲ見テ作業段取ノ決定ガ出來且工數見積ガ出來ルコト
二級	次ノ事項中※印ハ必須他一項ヲ選擇トスル合計三ツ以上ノ能力ヲ有スル者 ※一　簡單ナ圖面ガヨメルコト 二　簡單ナ現圖ガ書ケルコト 三　圖面又ハ現圖ニ依リ曇附ガ出來ルコト 四　木工機械ノ取扱ガ出來ルコト 五　普通取扱フ木材ニツイテ其ノ材質ノ判定ガ出來且其ノ用途ヲ知ツテヰルコト
三級	二級ニ達シナイ者

木工

一級	次ノ事項中※印ハ必須他二項ヲ選擇トスル合計三ツ以上ノ能力ヲ有スル者 ※一　圖面ガヨメルコト 二　工數見積ガ出來ルコト 三　簡單ナモノノ設計ガ出來ルコト 四　木材ノ性質ヲ判斷シ木取及墨附ガ正確ニ出來ルコト
二級	一級ニ達シナイ者 （備考）木型ノ塗裝ダケシカ出來ナイ者ハ三級トスルコト
三級	二級ニ達シナイ者

光學ガラス工

一級	次ノ事項中一ツ以上ノ能力ヲ有スル者 一　中央プリズムノ荒摺作業、研磨作業又ハ心取作業ガ正確ニ出來ルコト 二　五角プリズムノ荒摺作業、研磨作業又ハ心取作業ガ正確ニ出來ルコト 三　距離プリズムノ荒摺作業、研磨作業又ハ心取作業ガ正確ニ出來ルコト 四　伸光レンズノ荒摺作業、研磨作業又ハ心取作業ガ正確ニ出來ルコト 五　屋根形プリズムノ荒摺作業、研磨作業又ハ心取作業ガ正確ニ出來ルコト 六　反射鏡ノ荒摺作業、研磨作業又ハ心取作業ガ正確ニ出來ルコト 七　特殊對物レンズノ荒摺作業、研磨作業又ハ心取作業ガ正確ニ出來ルコト
二級	次ノ事項中一ツ以上ノ能力ヲ有スル者 一　直徑三〇粍以上ノ普通對物レンズノ荒摺作業、研磨作業又ハ心取作業ガ正確ニ出來ルコト 二　三〇粍以上ノプリズムノ荒摺作業、研磨作業又ハ心取作業ガ正確ニ出來ルコト 三　特殊接眼レンズノ荒摺作業、研磨作業又ハ心取作業ガ正確ニ出來ルコト 四　小型窓プリズムノ荒摺作業、研磨作業又ハ心取作業ガ正確ニ出來ルコト 五　水準器ガラスノ荒摺作業、研磨作業又ハ心取作業ガ正確ニ出來ルコト 六　プリズム及精度ノ高イレンズノバルサム作業ガ出來ルコト
三級	二級ニ達シナイ者

有線電信通信士

一級	普通通信デ一分間八五字以上ノ發受信ガ完全ニ出來ル者

二級	音響通信デ一分間七五字以上發受信ガ完全ニ出來ル者
三級	二級ニ達シナイ者
	（備考）自動通信又ハ印刷機通信ダケシカ出來ナイ者ハ三級トスルコト

製圖手

	次ノ事項中二ツ以上ノ能力ヲ有スル者
	一　條件ヲ與ヘラレテ簡單ナ設計ガ出來ルコト
	二　複雜ナ製圖ガ出來ルコト
一級	三　見取圖ガカケルコト
	四　精密ナ圖面ノトレースガ明確ニ出來ルコト
二級	一級ニ達シナイ者
	（備考）寫圖ダケシカ出來ナイ者ハ二級トスルコト

起重機運轉工

	次ノ事項中※印ハ必須他二項ヲ選擇トスル合計三ツ以上ノ能力ヲ有スル者
	※一　起重機ノ運轉ガ完全ニ出來ルコト
一級	二　起重機ノ構造ヲ知ツテヰルコト
	三　起重機ノ故障ノ原因ヲ知リ且其ノ修繕及調整方法ノ判斷ガ出來ルコト
	四　取扱フ品物ヲ見テ其ノ重サノ判斷ガ出來ルコト

	五　揚重用補助用具ノ使ヒ方ヲ知ツテヰルコト
二級	一級ニ達シナイ者
三級	二級ニ達シナイ者

メツキ工

	次ノ事項中二ツ以上ノ能力ヲ有スル者
	一　メツキ操作ニ必要ナ準備段取ガ出來ルコト
	二　擔當スルメツキ原液ノ作リ方ヲ知ツテヰルコト
一級	三　熱式メツキニツイテ材料熔融爐ノ溫度ノ調節ガ出來ルコト
	四　指圖ヲ受ケズニ電氣、熱式又ハ乾式ノメツキガ出來ルコト
二級	一級ニ達シナイ者
	（備考）メツキ操作ノ前後ノ研磨作業ダケシカ出來ナイ者ハ二級トスルコト

塗裝工

	次ノ事項中三ツ以上ノ能力ヲ有スル者
	一　普通ニ用ヒル數種類ノ塗料ニツイテ其ノ性質、用途及色合ヲ知ツテヰルコト
	二　材料ノ配合方法ヲ知ツテヰルコト
一級	三　手塗、吹附又ハ燒附ニ熟練シテヰルコト
	四　各種塗裝用工具ノ使用ニ熟練シテヰルコト
	五　工數見積ガ出來ルコト

一級	一級ニ達シナイ者
二級	（備考）下塗ダケシカ出來ナイ者ハ二級トスルコト

潛水夫

一級	海難救助作業、解纜作業又ハ各種土木作業ノ經驗ガアリ且四〇メートル以上ノ潛水ガ出來ル者
二級	海難救助作業、解纜作業又ハ各種土木作業ノ經驗ガアリ且二〇メートル以上ノ潛水ガ出來ル者
三級	二級ニ達シナイ者

●國民職業能力申告令第二條第六號ノ要申告者ニ關スル申告ノ特例ニ關スル件

昭和十六年十月二十二日
朝鮮總督府令第二百八十一號

國民職業能力申告令第二條第六號ノ要申告者ニ關スル申告ノ特例ニ關スル件左ノ通定ム

第一條　國民職業能力申告令（以下單ニ令ト稱ス）第二條第六號ノ規定ニ依リ朝鮮總督ノ指定シタル者（以下要申告者ト稱ス）ニ關スル令第四條第一項ノ申告ハ毎年九月三十日現在ヲ以テ十月十日迄ニ居住地ヲ管轄スル府尹、郡守又ハ島司ニ之ヲ爲スベシ但シ郡守又ハ島司ニ對シ爲スベキ申告ハ邑面長ヲ經由スベシ

前項ノ申告ヲ爲シタル要申告者ニ關スル令第四條第二項及令第六條ノ申告ハ之ヲ爲スコトヲ要セズ

第二條　道知事ハ交通至難ノ地域又ハ天災事變ノ發生シタル地域ニ居住スル要申告者ノ申告ニ付前條ノ申告期限ヲ延長スルコトヲ得

第三條　第一條ノ申告ハ別記樣式ノ一般職業能力申告票ニ依リ之ヲ爲シ當該申告控ハ其ノ申告シタル日ヨリ一年間要申告者之ヲ保管スベシ

第四條　一般職業能力申告票用紙（以下單ニ申告票用紙ト稱ス）ハ毎年九月三十日迄ニ居住地ヲ管轄スル府尹、郡守又ハ島司之ヲ交付ス

前項ノ申告票用紙ノ交付ハ郡守及島司ニ在リテハ邑面長ヲ經由シテ之ヲ爲スモノトス

要申告者第一項ノ期日迄ニ申告票用紙ノ交付ヲ受ケザルトキハ居住地ヲ管轄スル府尹又ハ邑面長ニ其ノ旨申出デ其ノ交付ヲ受クベシ

第五條　道知事、府尹、郡守又ハ島司ハ要申告者ノ世帶主、戶主其ノ他ノ關係人ヨリ令第九條第一項ノ規定ニ基キ要申告者ノ同居ノ有無又ハ其ノ所在ニ關シ報告ヲ徵スルコトヲ得

第六條　府邑面ニ一般國民登錄調査員ヲ置ク

一般國民登錄調査員ハ府尹又ハ邑面長ノ指揮監督ヲ受ケ申告票用紙ノ配付、一般職業能力申告票ノ蒐集其ノ他之ニ伴フ諸般ノ事務ニ從事ス

第七條　一般國民登錄調査員ハ道知事之ヲ命免ス

一般國民登錄調査員ハ名譽職トス

第八條　要申告者第一條ノ申告ヲ爲シタル後令第二條第一號乃至第五號ノ一ニ該當スルニ至リタルトキハ新ニ令第四條第一項ノ規定ニ依リ、令第二條第一號乃至第五號ノ一ニ該當スル者令第四條第一項ノ申告ヲ爲シタル後第一條ノ要申告者ト爲リタルトキハ新ニ第一條ノ規定ニ依リ申告ヲ爲スモノトス

第九條　令第三條中使用者ニ關スル規定竝ニ國民職業能力申告令施行規則第四條、第五條及第七條ノ規定ハ第一條ノ要申告者ニ關シテハ之ヲ適用セズ

附　則

本令ハ昭和十六年十一月一日ヨリ之ヲ施行ス

昭和十六年ニ限リ本令中九月三十日トアルハ十一月三十日、十月十日トアルハ十二月十日トス

〔朝〕

一般職業能力申告控　何府（郡・島）

一　氏名及出生	印	年　月　日生
二　本籍	道・府・縣　府・郡・島・市　邑・面・區・町・村　町・洞・里　番地	
三　居住ノ場所	道　府・郡・島　邑・面　町・洞・里　番地	
四　學歷	(イ)國民學校青年學校	不就學　初中退　初修　高修　青普修　青本卒
	(ロ)其ノ他ノ學校	（第　學年中途退　年卒）
五　現ニ從事スル職業	(イ)職業名	
	(ロ)職業上ノ地位又ハ身分	
六　就業ノ場所	(イ)事業種別	(ロ)名稱
	(ハ)所在地	
	(ニ)使用者氏名	
七　給料又ハ賃金	月額又ハ日額　圓　錢	
八　配偶者	有　無	
九　現ニ扶養スル者ノ數（本人ノ世帶主トノ續柄ヲ合ム）	人	

昭和　年　月　日申告

受領者印

注意
一　申告控ハ一年間本人保管スルコト
二　※印欄ハ本人ニ於テ記入セザルコト

別記樣式（用紙ノ大サハ日本標準規格B五トス）

※產業大分類名	※產業中分類名	※職業分類名

㊙

一般職業能力申告票　何府（郡・島）

一　氏名及出生	印	年　月　日生
二　本籍	道・府・縣　府・郡・島・市　邑・面・區・町・村　町・洞・里　番地	
三　居住ノ場所	道　府・郡・島　邑・面　町・洞・里　番地	
四　學歷	(イ)國民學校青年學校	不就學　初中退　初修　高修　青普修　青本
	(ロ)其ノ他ノ學校	（第　學年中途退　年卒）
五　現ニ從事スル職業	(イ)職業名	
	(ロ)職業上ノ地位又ハ身分	
六　就業ノ場所	(イ)事業種別	(ロ)名稱
	(ハ)所在地	
	(ニ)使用者氏名	
七　給料又ハ賃金	月額又ハ日額　圓　錢	
八　配偶者	有　無	
九　現ニ扶養スル者ノ數（本人ノ世帶主トノ續柄ヲ合ム）	人	

昭和　年　月　日申告

檢印

●國民職業能力申告令第二條第六號ニ依ル指定

昭和十六年十月二十二日
朝鮮總督府告示第千六百六十七號

國民職業能力申告令第二條第六號ノ規定ニ依リ昭和十六年十一月一日ヨリ左ノ通指定ス

年齢十六年以上四十年未滿ノ者ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當セザルモノ

一　國民職業能力申告令第二條第一號乃至第五號ノ一ニ該當スル者

二　兵役法第四十一條ノ勅令ノ定ムル學校ニ在學スル者

●國民職業能力申告令第十四條ノ規定ニ依ル官廳被用者ノ申告ノ特例ニ關スル件

昭和十四年五月十五日
朝鮮總督府令第七十八號

改正　昭和一五年一一月第二六五號　一二月第二六九號　一六年一月第三二號

國民職業能力申告令第十四條ノ規定ニ依ル官廳被用者ノ申告ノ特例ニ關スル件左ノ通定ム

第一條　國民職業能力申告令（以下單ニ令ト稱ス）第二條ノ要申告者ニシテ朝鮮總督ノ指定スル官廳（以下指定官廳ト稱ス）ニ使用セラルルモノ（以下官廳被用者ト稱ス）ハ令第四條第一項第七號、第八號、第十四號及第十五號ニ揭グル事項竝ニ同項第九號前段ノ者ノ技能程度ヲ當該職業能力申告手帳ニ記入シ當該指定官廳又ハ其ノ支所官廳被用者ノ使用ニ罷メタル旨及使用ヲ罷メタル年月日ヲ爲シタル後ニ於テ同項第四號、第七號乃至第八號ニ揭グル事項ニ異動ヲ生ジタルトキ亦同ジ

第二條　官廳被用者ノ申告ハ當該指定官廳ヲ經由シ當該指定官廳所在地ノ所轄府尹、郡守又ハ島司ニ之ヲ爲スベシ但シ指定官廳所屬ノ支所、支局、事務所、工場其ノ他之ニ準ズルモノ（以下支所ト稱ス）ニ勤務スル官廳被用者ノ申告ハ當該支所ヲ經由シ當該支所所在地ノ所轄府尹、郡守又ハ島司ニ之ヲ爲スヲ妨ゲズ

郵便局（京城鐵道郵便局ヲ除ク）、電信局及電話局ノ官廳被用者ニシテ電氣通信技術者、有線電信通信士、無線電信通信士、通信電路工又ハ通信電機工ニ從事シ又ハ從事シタルモノノ申告ハ所轄遞信局管理事務ヲ分掌スル郵便局ヲ經由シ當該地方遞信局所在地ノ所轄府尹、郡守又ハ島司ニ之ヲ爲スベシ

第三條　指定官廳又ハ支所一般申告ノ經由ニ當リテハ令第四條第一項第七號、第八號及第十四號ニ揭グル事項竝ニ同項第九號前段ノ者ノ技能程度ヲ當該職業能力申告票ニ記入スベシ

第四條　官廳被用者ノ職業能力申告手帳ハ令第四條第二項又ハ第六條ノ規定ニ依ル申告ヲ爲ス場合ノ外申告ノ經由ニ當ル指定官廳又ハ支所之ヲ保管ス

職業能力申告手帳ヲ所持スル要申告者官廳被用者ト爲リタルトキハ遲滯ナク其ノ職業能力申告手帳ヲ申告ノ經由ニ當ル指定官廳又ハ支所ニ提出スベシ

指定官廳又ハ其ノ支所官廳被用者ノ使用ヲ罷メタルトキハ其ノ保管ニ係ル當該職業能力申告手帳ニ使用ヲ罷メタル旨及使用ヲ罷メタル年月日ヲ記入シ要申告者ガ仍官廳被用者ナルトキハ新ニ其ノ者ヲ使用スル指定官廳又ハ其ノ支所ニ移管シ官廳被用者タラザルトキハ要申告者ニ之ヲ交付スベシ

第五條　官廳被用者一般申告ヲ爲シタル後ニ於テ令第四條第一項第七號乃至第九號ニ揭グル事項ニ異動ヲ生ジタルトキ又ハ死亡シタルトキハ申告ノ經由ニ當ル指定官廳又ハ支所ハ其ノ旨ヲ職業能力申告手帳ニ記入シ當該指定官廳又ハ支所所在地ノ所轄府尹、郡守又ハ島司ニ之ヲ通知スベシ

指定官廳又ハ其ノ支所官廳被用者ノ使用ヲ罷メタルトキハ其ノ旨ヲ所轄府尹、郡守又ハ島司ニ通知スベシ

前項ノ場合ニ於テ要申告者ガ仍官廳被用者ナルトキハ新ニ其ノ者ヲ使用スル指定官廳又ハ其ノ支所名、官廳被用者タラザルトキハ其ノ者ノ居住ノ場所ヲ併セテ通知スベシ

第六條　本令ハ臨時ニ使用セラルル官廳被用者ニシテ左ニ揭グルモノニハ之ヲ適用セズ但シ三十日ヲ超エテ引續キ使用セラルルニ至リタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

一　三十日以內ノ期間ヲ定メテ使用セラルル者

二　使用期間ノ定ナク勞務供給契約ニ基キ又ハ試ニ使用セラルル者

三　日日雇入レ使用セラルル者

附　則

本令ハ昭和十四年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

●國民職業能力登錄事務取扱規程

昭和十四年五月十五日
朝鮮總督府訓令第二十八號

第十三輯　軍事　第九章　國家總動員

改正　昭和一四年一二月第八一號

國民職業能力登錄事務取扱規程左ノ通定ム

國民職業能力登錄事務取扱規程

第一章　總則

第一條　國民職業能力登錄ニ關スル事務ニ從事スル職員ハ國民職業能力ノ申告及檢査ニ關スル法令、通牒等ニ通曉シ事務取扱上過誤ナキヲ期スベシ

第二條　職員ハ申告義務者ヲシテ遲滯ナク申告ヲ爲サシムル爲常ニ査察ヲ怠ルベカラズ

第三條　職員ハ登錄事務ニ付知得タル事項ヲ漏洩スベカラズ

登錄カード、諸帳簿、諸統計表等ハ祕ノ扱ト爲シ嚴重ニ之ヲ保管スベシ

第四條　職員ハ要申告者又ハ申告義務者其ノ他ノ者ト應接スル場合ハ特ニ懇切ヲ旨トスベシ

第五條　要申告者、申告義務者其ノ他ノ者ニ對スル通知、照會、揭示其ノ他ノ文書ハ成ルベク平易ナル文體ヲ用ヒ必要アルトキハ振假名ヲ施シ又ハ註釋ヲ加フル等適當ノ方法ヲ講ジ記載事項ヲ了解スルニ便ナラシムベシ

第六條　職業能力申告票（以下單ニ申告票ト稱ス）又ハ職業能力申告手帳（以下單ニ申告手帳ト稱ス）ニ依ル申告、報告又ハ其ノ他ノ申請ニシテ其ノ記載事項ニ輕微ナル誤謬アル場合ニ於テ其ノ誤謬ガ直ニ訂正シ得ベキモノナルトキハ便宜之ヲ訂正スベシ

第二章　一般申告

第七條　一般申告（申告票ニ依ル申告）アリタルトキハ記載事項ヲ仔細ニ審査シ誤謬等ナキトキハ之ニ受付日附印及檢印ヲ押捺シ申告票ニ基キ別記入シ要申告者ガ仍官廳被用者ナルトキハ新ニ其ノ者ヲ使用スル指定官廳又ハ其ノ支所ニ移管シ官廳被用者タラザルトキハ要申告者ニ之ヲ交付スベシ

第五條　官廳被用者一般申告ヲ爲シタル後ニ於テ令第四條第一項第七號乃至第九號ニ揭グル事項ニ異動ヲ生ジタルトキ又ハ死亡シタルトキハ申告ノ經由ニ當ル指定官廳又ハ其ノ支所ハ其ノ旨ヲ職業能力申告手帳ニ記入シ當該指定官廳又ハ支所所在地ノ所轄府尹、郡守又ハ島司ニ之ヲ通知スベシ

指定官廳又ハ其ノ支所官廳被用者ノ使用ヲ罷メタルトキハ其ノ旨ヲ所轄府尹、郡守又ハ島司ニ通知スベシ

前項ノ場合ニ於テ要申告者ガ仍官廳被用者ナルトキハ新ニ其ノ者ヲ使用スル指定官廳又ハ其ノ支所名、官廳被用者タラザルトキハ其ノ者ノ居住ノ場所ヲ併セテ通知スベシ

第六條　本令ハ臨時ニ使用セラルル官廳被用者ニシテ左ニ揭グルモノニハ之ヲ適用セズ但シ三十日ヲ超エテ引續キ使用セラルルニ至リタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

一　三十日以內ノ期間ヲ定メテ使用セラルル者

二　使用期間ノ定ナク勞務供給契約ニ基キ又ハ試ニ使用セラルル者

三　日日雇入レ使用セラルル者

附　則

本令ハ昭和十四年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

●國民職業能力登錄事務取扱規程

昭和十四年五月十五日
朝鮮總督府訓令第二十八號

第十三輯　軍事　第九章　國家總動員

改正　昭和一四年一二月第八一號

國民職業能力登錄事務取扱規程左ノ通定ム

國民職業能力登錄事務取扱規程

第一章　總則

第一條　國民職業能力登錄ニ關スル事務ニ從事スル職員ハ國民職業能力ノ申告及檢査ニ關スル法令、通牒等ニ通曉シ事務取扱上過誤ナキヲ期スベシ

第二條　職員ハ申告義務者ヲシテ遲滯ナク申告ヲ爲サシムル爲常ニ査察ヲ怠ルベカラズ

第三條　職員ハ登錄事務ニ付知得タル事項ヲ漏洩スベカラズ

登錄カード、諸帳簿、諸統計表等ハ祕ノ扱ト爲シ嚴重ニ之ヲ保管スベシ

第四條　職員ハ要申告者又ハ申告義務者其ノ他ノ者ト應接スル場合ハ特ニ懇切ヲ旨トスベシ

第五條　要申告者、申告義務者其ノ他ノ者ニ對スル通知、照會、揭示其ノ他ノ文書ハ成ルベク平易ナル文體ヲ用ヒ必要アルトキハ振假名ヲ施シ又ハ註釋ヲ加フル等適當ノ方法ヲ講ジ記載事項ヲ了解スルニ便ナラシムベシ

第六條　職業能力申告票（以下單ニ申告票ト稱ス）又ハ職業能力申告手帳（以下單ニ申告手帳ト稱ス）ニ依ル申告、報告又ハ其ノ他ノ申請ニシテ其ノ記載事項ニ輕微ナル誤謬アル場合ニ於テ其ノ誤謬ガ直ニ訂正シ得ベキモノナルトキハ便宜之ヲ訂正スベシ

第二章　一般申告

第七條　一般申告（申告票ニ依ル申告）アリタルトキハ記載事項ヲ仔細ニ審査シ誤謬等ナキトキハ之ニ受付日附印及檢印ヲ押捺シ申告票ニ基キ別

表樣式第一號ノ統計傳票ヲ作成シ申告票ハ其ノ儘登錄カードトシテ之ヲ保管スベシ

記載事項ニ記載洩、不明ノ箇所又ハ甚シキ誤記アルトキハ申告票ヲ申告義務者ニ返戻シ再提出ヲ求ムベシ

汚損シタル申告票ハ之ヲ淨寫シ淨寫シタル申告票備考欄ニ其ノ旨ヲ記載シ汚損シタル申告票ハ其ノ表面右肩ニ「淨寫」印ヲ押捺ノ上別ニ之ヲ保管スベシ

第八條　登錄カードノ兩面ノ見出部各欄ニハ左ノ要領ニ依リ所定事項ヲ記入スベシ

一　番號欄ニハ府郡島ノ略稱、年數字及各府郡島毎ニ受付順ニ依リ通番號（毎年一月一日ヲ以テ更新スルコト）ヲ記入スルコト

例　京城　(14)　12.345
　　東萊　(14)　1.531

二　現職欄ニハ申告票九ノ(イ)ノ職業名ヲ指定職業ノ當該番號（以下職業番號ト稱ス）ニ依リ記入スルコト

三　現職技能欄中「申」ノ箇所ニハ申告票九ノ(ハ)ノ技能程度ヲ記入スルコト

四　前歷欄ニハ申告票八ノ職業名中一年以上ノ經歷アルモノノ職業名ヲ職業番號ニ依リ摘記スルコト

五　前歷技能欄中「申」ノ箇所ニハ前號ノ職業ニ付申告票八ノ技能程度ヲ適記スルコト

六　就業場欄ニハ申告票九ノ(ト)ノ就業ノ場所ノ名稱ヲ記入スルコト
名稱ハ成ルベク事務ニ支障ナキ程度ニ略記スルコト

七　氏名欄ニハ申告票一ノ氏名ヲ記入スルコト

八　生年月欄ニハ申告票一ノ年月（日ヲ除ク）ヲ記入スルコト但シ年號ハ「明治」ハ「明」、「大正」ハ「大」ト略記スルコト

第九條　國民職業能力申告令施行規則（以下單ニ規則ト稱ス）第七條ノ規定ニ依リ交付スル申告手帳ハ要申告者ガ被用者ナル場合ハ之ヲ使用者ニ渡スベシ

第十條　登錄カードハ左ノ順位ニ依リ（左ノ各號ノ二以上ニ該當スル場合ハ一、二、三、四、五ノ順位ニ依リ）之ヲカード函ニ格納スベシ

一　現職者（指定職業ニ從事スル者）

イ　就業場別ニ配列スルコト

ロ　就業場名ノ頭字ノ五十音順ニ配列スルコト

ハ　內地人朝鮮人別ニ配列スルコト

ニ　指定職業ノ順位ニ配列スルコト

ホ　技術者ニ在リテハ大學卒、專門學校卒其ノ他ノモノノ順序ニ、技能程度ヲ定メタルモノニ在リテハ等級別ニ配列スルコト（指定職業ノ異動申告アリタル場合ニ於ケル技能程度ハ其ノ者ノ經歷中新ニ就業シタル職業ト同一ノ職業ニ付技能程度ノ申告シタルモノ在ル場合ニ在リテハ其ノ技能程度ニ依リ、然ラザル場合ニ在リテハ新ニ就業シタル指定職業ノ最下位ノ等級ニ依リ配列スルコト）

ヘ　年齡別ニ配列スルコト

ト　氏名ノ五十音順ニ配列スルコト

チ　一就業場ニ現職者一人ノミ就業スル場合ハ他ノモノト區別シ前ハ、ニ、ホ、ヘ、トノ順序ニ配列スルコト

〔朝〕

二　前歷者

イ　內地人朝鮮人別ニ配列スルコト

ロ　居住地別ニ配列スルコト

ハ　指定職業別ニ配列スルコト（二以上ノ前歷ヲ有スル者ニ在リテハ最後ノ經歷ニ依リ配列スルコト）

ニ　技術者ニ在リテハ大學卒、專門學校卒其ノ他ノモノノ順序ニ、技能程度ヲ定メタルモノニ在リテハ等級別ニ配列スルコト

ホ　年齡別ニ配列スルコト

ヘ　氏名ノ五十音順ニ配列スルコト

三　學校卒業者

イ　內地人朝鮮人別ニ配列スルコト

ロ　指定學科別ノ順位ニ配列スルコト（二種以上ノ學科ヲ修メ卒業シタル者ニ在リテハ告示ノ順位ニ從ヒ先順位ノ學科ニ依リ配列スルコト）

ハ　學校程度別學校別ニ配列スルコト

ニ　年齡別ニ配列スルコト

ホ　氏名ノ五十音順ニ配列スルコト

四　技能者養成施設修了者

イ　內地人朝鮮人別ニ配列スルコト

ロ　指定養成施設別ニ配列スルコト（二種以上ノ養成施設ノ課程ヲ修了シタル者ニ在リテハ告示ノ順位ニ從ヒ先順位ノ養成施設ニ依リ配列スルコト）

ハ　修了課目別ニ依リ成ルベク指定職業別ノ順位ニ配列スルコト

〔朝〕

二　年齡別ニ配列スルコト

ホ　氏名ノ五十音順ニ配列スルコト

五　檢定、試驗又ハ免許者

イ　內地人朝鮮人別ニ配列スルコト

ロ　指定ノ檢定、試驗又ハ免許別ノ順位ニ配列スルコト（二種以上ノ檢定若ハ試驗ニ合格シタル者又ハ免許ヲ受ケタル者ニ在リテハ告示ノ順位ニ從ヒ先順位ノ檢定、試驗又ハ免許ニ依リ配列スルコト）

ハ　年齡別ニ配列スルコト

ニ　氏名ノ五十音順ニ配列スルコト

官廳被用者ノ登錄カードハ他ノモノト區別シ指定官廳又ハ支所別ニ前項ノ順位ニ依リ別ノカード函ニ格納スベシ

第十一條　一般申告ノ方法ニ依リ申告アリタル場合ニ於テ申告義務者ガ異動申告ヲ爲スベキモノト認メラルルトキハ其ノ者ニ對シ異動申告ヲ爲スベキ旨注意ヲ與フベシ

第三章　異動申告

第十二條　異動申告（申告手帳ニ依ル申告）アリタルトキハ登錄カード及申告手帳ニ付左ノ通取扱フベシ

一　當該府郡島ニ登錄セラレタル要申告者ノ異動申告

イ　申告ニ基キ登錄カード所定ノ異動欄ニ異動事項ヲ登錄スルコト

ロ　必要アルトキハ登錄カード見出部ヲ訂正スルコト

ハ　登錄カード及申告手帳ノ從前ノ該當記事ニ(異)印ヲ押捺スルコト

ニ　登錄カード異動欄及申告手帳ノ該當欄ニ府郡島印ヲ以テ契印シ日附ヲ記入スルコト

ホ　統計傳票ヲ作成スルコト

ヘ　申告手帳ヲ申告義務者（要申告者ガ被用者ナルトキハ使用者）ニ渡スコト

ト　必要アルトキハ配列ヲ變更シ其ノ月ノ統計ヲ作成シ了ル迄其ノ登錄カードニハ注意標識（青）ヲ附スルコト

二　他ノ府郡島ニ登錄セラレタル要申告者ノ異動申告

イ　申告ニ基キ統計傳票ヲ作成スルコト

ロ　申告手帳ノ從前ノ該當記事ニ㊞印ヲ押捺スルコト

ハ　統計傳票（甲）及申告手帳ノ該當欄ニ府郡島印ヲ以テ契印シ日附ヲ記入スルコト

ニ　申告手帳ヲ申告義務者（要申告者ガ被用者ナルトキハ使用者）ニ渡スコト

ホ　別表樣式第二號ノ登錄カード廻送依賴書（以下單ニ依賴書ト稱ス）ニ統計傳票（乙）ヲ添附シ要申告者ヲ前ニ登錄シタル府郡島ニ送付シ登錄カードノ廻送ヲ求メルコト

ヘ　他ノ府郡島ヨリ發錄カードノ廻送ヲ受ケタルトキハ受付日附印ヲ押捺スルコト

ト　現職者又ハ前歷者ニ在リテハ登錄カードニ基キ統計傳票（甲乙共）ノ前歷欄及技能程度欄ニ前歷及技能程度ヲ記入スルコト

チ　統計傳票ニ基キ登錄カード所定ノ異動欄ニ異動事項ヲ登錄スルコト

リ　必要アルトキハ登錄カード見出部ヲ訂正スルコト

二　登錄カードノ從前ノ該當記事ニ㊞印ヲ押捺スルコト

第十六條　失格申告ヲ受ケザルトキト雖モ年數經過ト共ニ要申告者タラザル統計傳票（甲）及登錄カード異動欄ニ府郡島印ヲ以テ契印シ日附ヲ記入スルコト

ヲ適當ナル配列ヲ爲シ其ノ月ノ統計ヲ作成シ了ル迄登錄カードニハ注意標識（青）ヲ附スルコト

第十三條　府郡島前條第二號ホニ依リ他ノ府郡島ヨリ登錄カードノ廻送ヲ求メラレタルトキハ統計傳票ヲ作成シ登錄カードニ發送日附印ヲ押捺シ之ニ依賴書添附ノ統計傳票（乙）ヲ添ヘ速ニ廻送スベシ

第十三條ノ二　前歷者年數經過ト共ニ前歷者タラザルニ至リタル者ニ付テハ每月末現在ニ於テ調査シ其ノ者ガ學校卒業者、技能者養成施設修了者又ハ檢定、試驗若ハ免許者ニ該當スルモノト認メラルル場合ハ夫夫ノ該當者トシテ取扱ヒ登錄カード見出部ヲ訂正シ統計傳票ヲ作成シ登錄カードノ配列ヲ變更スベシ

第十四條　前使用者ノ解用報告終了セザル爲申告手帳ノ引渡ヲ受クルコト能ハザル旨申告義務者ヨリ申出アリタルトキハ前使用者ニ對シ解用報告ヲ爲スベキコトヲ促ス等適當ナル處置ヲ講ズベシ

第四章　失格申告

第十五條　失格申告（國民職業能力申告令第六條ノ規定ニ依ル申告）ヲ受ケタルトキハ登錄カード及申告手帳ニ付左ノ通取扱フベシ

一　統計傳票ヲ作成シ登錄カードノ表面右肩ニ「失格」印ヲ押捺シ日附ヲ記入シ之ヲ一括保管スルコト

二　申告手帳ヲ回收シ其ノ表紙ニ「失格」印ヲ押捺シ之ヲ一括保管スルコト

第十六條　失格申告ヲ受ケザルトキト雖モ年數經過ト共ニ要申告者タラザ

ルニ至リタル者ニ付テハ每月末現在ニ於テ調査シ申告ヲ促シ申告手帳ノ返還ヲ求メ申告及返還アリタルトキハ其ノ登錄カード及申告手帳ニ付前條ノ規定ニ依リ取扱フベシ

申告及返還ナキトキハ統計傳票作成ノ上其ノ登錄カードハ前條第一號ノ登錄カードト別ニ一括保管スベシ

第五章　解用報告及死亡報告

第十七條　解用報告（規則第四條ノ規定ニ依ル報告）アリタルトキハ登錄カード及申告手帳ニ付左ノ通取扱フベシ

一　統計傳票ヲ作成シ登錄カード所定ノ異動欄（就業ノ場所欄）ニ「解用」ト記入シ見出部ヲ訂正シ登錄カード及申告手帳ノ從前ノ該當記事（就業ノ場所ノ記事）ニ㊞印ヲ押捺ノ上登錄カード異動欄及申告手帳ノ該當欄ニ府郡島印ヲ以テ契印シ日附ヲ記入シ申告義務者ニ渡スコト尙登錄カードニハ異動申告、失格申告、死亡報告、登錄濟通知又ハ他ノ府郡島ヨリ登錄カードノ廻送ノ求アル迄注意標識（綠）ヲ附スルコト

二　解用報告アリタル月ノ翌翌月末日迄ニ異動申告、失格申告、死亡報告、登錄濟通知又ハ他ノ府郡島ヨリ登錄カードノ廻送ノ求ナキトキハ其ノ要申告者ガ失格者、前歷者、學校卒業者、技能者養成施設修了者又ハ檢定、試驗若ハ免許者ニ該當スルモノト認メラルル場合ハ申告ヲ爲スコトヲ促シ登錄カードニ注意標識（赤）ヲ附シ一應夫夫ノ該當者トシテ取扱ヒ統計傳票作成ノ上其ノ登錄カードハ其ノ者ヲ失格者トシテ取扱フ場合ニ在リテハ別ニ保管シ、其ノ他ノ場合ニ在リテハ配列ヲ變更スルコト

第六章　異動通知、死亡通知及解用通知

第十九條　昭和十四年朝鮮總督府令第七十八號（國民職業能力申告令第十四條ノ規定ニ依ル官廳被用者ノ申告ノ特例ニ關スル件）第五條ノ規定ニ依リ異動通知、死亡通知又ハ解用通知ヲ受ケタル場合ニ於テハ各異動申告、死亡報告又ハ解用報告ノ場合ニ準ジ之ヲ取扱フベシ

第七章　職業能力申告手帳ノ作製

第二十條　一般申告アリタルトキハ申告手帳ヲ左ニ依リ作製スベシ

一　裏表紙所定ノ欄ニ府郡島ノ略稱竝ニ登錄カード同一ナル年數字及番號ヲ記入シ要申告者名ヲ明記スルコト

二　登錄カードニ基キ所定ノ欄ニ記入スルコト

三　交付ノ年月日及府尹、郡守又ハ島司ノ職名ヲ記入シ其ノ官印ヲ押捺スルコト

第二十一條　申告手帳再交付ノ申請アリタルトキハ申請ガ規則第八條ニ該當スルモノナリヤ否ヲ審査シ該當スルモノト認メラルルトキハ左ニ依リ之ヲ作製スベシ

一　裏表紙所定ノ欄ニ付テハ前條第一號ニ依リ記入スルコト

二　所定ノ欄ニ付テハ登錄カードノ記載事項ニ基キ記入スルコト

三　再交付ノ年月日ヲ記入シ府尹、郡守又ハ島司ノ職名ヲ記入シ其ノ官印ヲ押捺スルコト

四　申告手帳ノ裏表紙ニ「再交付」ノ印ヲ押捺スルコト

五　登錄カードノ備考欄ニ再交付ト記入シ日附ヲ明示スルコト

第八章　統計

第二十二條　府尹、郡守又ハ島司ハ毎月末現在ニ於ケル登錄者現在調ヲ別表樣式第三號ニ依リ翌月十五日迄ニ道知事ニ報告スベシ

第二十三條　道知事ハ前條ノ報告ニ基キ管內府郡島ノ統計ヲ集計シ府郡島ノ報告ヲ添附シ其ノ月ノ二十五日迄ニ朝鮮總督ニ報告スベシ

第二十四條　府尹、郡守又ハ島司ハ別表樣式第四號ノ就業場臺帳ヲ備付ケ毎月末現在ヲ以テ之ヲ整理スベシ

第九章　雜則

第二十五條　一般申告ニシテ昭和十四年七月三十一日ヲ以テ申告期限トスルモノニ在リテハ第七條ノ統計傳票ハ之ヲ作成セザルコトヲ得但シ申告票ヲ申告義務者ニ返戻スル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラズ

別表樣式第一號（用紙ノ大サハ甲乙共日本標準規格B六トス）

甲　統計傳票

月別受付一貫番號	
登錄カード番號	（　）第　號

要申告者ノ種類	現職	前歷	學卒	養成	檢定
申告ノ種類	一般	異動	失格		
報告ノ種類	解用	死亡			

昭和　年　月　日

區分	舊	新	手帳契印年月日
氏名			
生年月	年　月	年　月	
職業			
前歷			
技能程度			カード契印年月日
就業ノ場所			
居住ノ場所			
學歷等			
備考			

認印作成者　○　何府（郡島）

カードトノ契印

〔朝〕

乙　統計傳票

月別受付一貫番號	
登錄カード番號	（　）第　號

要申告者ノ種類	現職	前歷	學卒	養成	檢定
申告ノ種類	一般	異動	失格		
報告ノ種類	解用	死亡			

昭和　年　月　日

區分	舊	新	手帳契印年月日
氏名			
生年月	年　月	年　月	
職業			
前歷			
技能程度			カード契印年月日
就業ノ場所			
居住ノ場所			
學歷等			
備考			

注意

一　本表ハ甲乙同時ニ作成スルコト

二　甲票（和紙）ハ合綴ノ儘存置シ乙票（洋紙）ハ切取リテ統計ニ使用スルコト但シ第十二條第二號ホニ依リ依頼書ニ添附スル統計傳票ハ返送ヲ受ケタル後之ヲ統計ニ使用スルコト

三　要申告者ノ種類欄ニハ申告又ハ報告直前ノ要申告者ノ種類ニ依リ該當欄ニ○印ヲ記入スルコト

四　申告又ハ報告ノ種類欄ニハ申告又ハ報告ノ種類ニ依リ該當欄ニ○印ヲ記入スルコト

五　一般申告アリタルトキハ新ノ欄ニ記入スルコト

六　異動申告アリタルトキ其ノ異動ガ本籍、氏名又ハ兵役ノミナル場合ニ於テハ本票ヲ作成スルヲ要セズ其ノ他ノ場合ニ於テハ舊ノ欄ニ從前ノ記事ヲ記入シタル上新ノ欄中該當欄ニ異動記事ヲ記入スルコト

七　失格申告又ハ死亡報告アリタルトキハ舊ノ欄ニ從前ノ記事ヲ記入スルコト

八　解用報告アリタルトキハ舊ノ欄ニ從前ノ記事ヲ記入シタル上新ノ欄中就業ノ場所ノ欄ニ「退」ト記入シ居住ノ場所ノ欄ニ報告アリタル居住ノ場所ヲ記入スルコト

九　第十二條第二號イノ規定ニ依リ作成スル統計傳票ニハ新ノ欄中備考欄ニ「何府（郡、島）ヘカード廻送方依頼」ト記入スルコト

十　他ノ府郡島ヨリ登錄カード廻送依頼アリタルニ依リ作成スル統計傳票ニハ新ノ欄中備考欄ニ「何府（郡、島）ヘカード送付」ト記入スルコト

〔朝〕

十一　第十六條第二項ノ規定ニ依リ作成スル統計傳票ニハ新ノ欄中備考欄ニ「年數經過ニ依リ失格」ト記入スルコト

十二　俾用報告アリタル後同一人ニ付作成スル最初ノ統計傳票ニハ舊ノ欄中備考欄ニ「何年何月何日俾用報告」ト記入スルコト

十三　第十七條第二號ノ規定ニ依リ作成スル統計傳票ニハ新ノ欄中備考欄ニ「何々該當者トシテ整理」ト記入スルコト

第十七條第二號ノ整理ヲ爲シタル後同一人ニ付作成スル最初ノ統計傳票ニハ舊ノ欄中備考欄ニ「何年何月何日何々該當者トシテ整理」ト記入スルコト

十四　第十三條ノ二ノ規定ニ依リ作成スル統計傳票ニハ新ノ欄中備考欄ニ「何年何月何日前歷期間滿了ニ付何々該當者トシテ整理」ト記入スルコト

十五　國民職業能力申告令第四條第一項後段ノ規定ニ依ル申告アリタルニ依リ作成スル統計傳票ニハ舊ノ欄中備考欄ニ「內地（臺灣、樺太又ハ南洋群島）ヨリ轉入」ト記入スルコト

十六　第十八條ノ三ノ規定ニ依リ作成スル統計傳票ニハ新ノ欄中備考欄ニ「內地（臺灣、樺太又ハ南洋群島）ニ轉出」ト記入スルコト

別表樣式第二號

登錄カード廻送依賴書

左記番號別紙統計傳票(乙)記載ノ者ノ登錄カード廻送相成度

追テ登錄カード廻送ノ際ニハ本書添附ノ統計傳票(乙)ヲ添ヘ返送相成度

記

カード登錄番號	
（　）第　號	
（　）第　號	
（　）第　號	
（　）第　號	
（　）第　號	

昭和　年　月　日

何府尹（郡守又ハ島司）

官印

何府尹（郡守又ハ島司）殿

注意

一　本書ハ二通作成シ一通ハ控トスルコト

別表樣式第二號ノ二

何何第　號

登錄濟通知書

登錄カード番號	
氏名	
出生ノ年月日	
居住ノ場所	
指定ノ職業名	
就業ノ場所	

〔朝〕

指定ノ學歷	
指定ノ技能者養成施設	
指定ノ檢定、試驗、免許	
備考	

右ノ者貴廳ニ登錄ノトコロ今般國民職業能力申告令第四條第一項後段ノ規定ニ依リ　月　日當廳ニ登錄ヲ爲シタルニ付此段通知ス

昭和　年　月　日

朝鮮何道何府尹（郡守又ハ島司）

官印

殿

注意

一　本書ハ二通作成シ一通ハ控トスルコト

〔朝〕

從業者現在調　甲ノ一

（　　　　　）　昭和　年　月

業名	區分	現從業者總數	出生年別現從業者數
1 鑛山技術者	大學・他・計		
2 冶金技術者	大學・他・計		
3 電氣技術者	大學・他・計		
4 電氣通信技術者	大學・他・計		
5 機械技術者	大學・他・計		
6 航空機技術者	大學・他・計		
7 造船技術者	大學・他・計		
8 化學技術者	大學・他・計		
9 窯業技術者	大學・他・計		
10 木工技術者	大學・他・計		
11 土工技術者	大學・他・計		
12 建築技術者	大學・他・計		
13 氣象技術者	大學・他・計		
14 航空機搭乘員			
小計			

從業者現在調　甲ノ二

（　　　　　）　昭和　年　月　日

業名	技能	現從業者總數	出生年別現從業者數
15 金屬試驗工			
16 實驗工			
17 總械檢査工	上・中・計		
18 レンズ檢査工	上・中・計		
19 試運轉工			
20 分析工			
21 採炭夫	上・中・計		
22 坑內運搬夫			
23 炭坑支柱夫	上・中・計		
24 機械選炭夫			
25 採鑛夫	上・中・計		
26 鑛山支柱夫	上・中・計		
27 鑛內運鑛夫			
28 機械選鑛夫	上・中・計		
29 石油鑛夫			
30 製銑工	上・中・計		
31 製鋼工	上・中・計		
32 非鐵金屬製鍊工	上・中・計		
33 金屬熔解工	上・中・計		
34 鍛造工	上・中・計		
35 壓延伸線工	上・中・計		

（続）

職業、名	技能	現業者	出生年別	技能	現業者	出生年別
55 ｺﾝｸﾘｰﾄ工						
56 ｸﾞﾗﾘ工						
57 舗装工						
58 ﾎﾞｰﾙ盤工						
59 ﾀｲﾙ工						
60 ﾘﾍﾞｯﾄ工						
61 ﾌﾗｲｽ工						
62 歯切工						
63 特殊機械工						
64 工具仕上工						
65 仕上工						
66 精機組立工						
67 電気通信機組立工						
68 精密機械組立工						

（甲ノ四）

（続）

職業、名	技能	現業者	出生年別	技能	現業者	出生年別
69 ﾌﾟﾚｽ工						
70 ﾌﾟﾚｽ工						
71 ﾌﾟﾚｽ工						
72 ﾌﾟﾚｽ工						
73 ﾌﾟﾚｽ工						
74 ﾌﾟﾚｽ工						
75 ﾌﾟﾚｽ工						
76 ﾌﾟﾚｽ工						
77 ﾌﾟﾚｽ工						
78 ﾌﾟﾚｽ工						
79 ﾌﾟﾚｽ工						
80 ﾌﾟﾚｽ工						
81 ﾌﾟﾚｽ工						
82 ﾌﾟﾚｽ工						
83 ﾌﾟﾚｽ工						

（甲ノ三）

技能者現在調　甲ノ五

官廳名又ハ會社名（　　　　）　昭和　年　月分

職業名	技能	現職者總數	明24–26	27–29	30–32	33–35	36–38	39–41	42–44	大1–3	4–6	7–9	10–12	大13–昭1		職業	技能	前歴者總數	明24–26	27–29	30–32	33–35	36–38	39–41	42–44	大1–3	4–6	7–9	10–12	大13–昭1	
69 航空機組立工	一二三計															69	一二三計														
70 自動車工	一二三計															70	一二三計														
71 鏇盤工	一二三計															71	一二三計														
72 電線被覆工																72															
73 撚線工																73															
74 巻線工	一二三計															74	一二三計														
75 絶縁工	一二三計															75	一二三計														
76 目盛工	一二三計															76	一二三計														
77 製材工																77															
78 合板工	一二三計															78	一二三計														
79 木型工	一二三計															79	一二三計														
80 木工	一二三計															80	一二三計														
81 [illegible]工																81															
82 硫酸工																82															
83 鹽酸工																83															
84 硝酸工																84															
85 ソーダ工																85															
86 壓縮ガス工																86															
87 アンモニア合成工																87															
88 カーバイト電爐工																88															
89 アルミニーム製造工																89															
90 石炭乾溜工																90															
91 ガス發生爐工																91															
92 タール分溜工																92															
93 染料工																93															
94 人造石油工																94															
95 石油工																95															
96 油脂工																96															
97 ゴム工																97															
98 セルロイド工																98															
99 パルプ工																99															

〔朝〕

技能者現在調　甲ノ六

官廳名又ハ會社名（　　　　）　昭和　年　月分

職業名	技能	現職者總數	明24–26	27–29	30–32	33–35	36–38	39–41	42–44	大1–3	4–6	7–9	10–12	大13–昭1		職業	技能	前歴者總數	明24–26	27–29	30–32	33–35	36–38	39–41	42–44	大1–3	4–6	7–9	10–12	大13–昭1	
100 人絹工																100															
101 顔料塗料工																101															
102 火薬工																102															
103 火工																103															
104 電極工																104															
105 電池工																105															
106 窯業燒成工																106															
107 ルツボ工																107															
108 特殊ガラス工																108															
109 光學ガラス工	一二三計															109	一二三計														
110 蒸汽機關車運轉手																110															
111 内燃機關車運轉手																111															
112 電車運轉手																112															
113 自動車運轉手																113															
114 航空機整備員																114															
115 有線電信通信士	一二三計															115	一二三計														
116 無線電信通信士																116															
117 漁船運轉手																117															
118 製圖手	一二三計															118	一二三計														
119 金[illegible]手																119															
120 通信線路工																120															
121 通信機械工																121															
122 電力線路工																122															
123 電力機械工																123															
124 汽罐士																124															
125 機械運轉工																125															
126 起重機運轉工	一二三計															126	一二三計														
127 築爐工																127															
128 保温工																128															
129 メッキ工	一二三計															129	一二三計														
130 鎔接工	一二三計															130	一二三計														
131 [illegible]具工																131															
132 塗裝工																132															
133 氣象手																133															
134 潜水夫	一二三計															134	一二三計														
小計																小計															
雇用後歸屬未定計																															
合計																合計															

〔朝〕

登錄者現在調　乙

道名 府郡島名 (　　)昭和　年　月分

區分			總數	明 24—26	27—29	30—32	33—35	36—38	39—41	42—44	大 1—3	4—6	7—9	10—12	大昭 13—1		
學校卒業者	機械	大學															
		專門															
		工業															
	船舶造船	大學															
		專門															
		工業															
	航空	大學															
		專門															
		工業															
	造兵	大學															
	電氣	大學															
		專門															
		工業															
	應用化學	大學															
		專門															
		工業															
	農藝化學	大學															
		專門															
	採鑛冶金	大學															
		專門															
		工業															
	火藥	大學															
	燃料	大學															
		專門															
	土木	大學															
		專門															
		工業															
	建築	大學															
		專門															
		工業															
	土木建築	工業															
	塗工	工業															
	窯業	大學															
		專門															
		工業															
	露語	大學															
		專門															
	西語	大學															
		專門															
	蒙古語	大學															
		專門															
	計																
技能者養成施設修了者	機械																
	電氣																
	通信																
	計																
檢定、試驗、免許者	工業卒																
	航空																
	電氣事業																
	瓦斯																
	火藥																
	化學																
	無線																
	汽罐																
	蹄鐵																
	自動車																
	電氣工事																
	電話																
	計																
合計																	

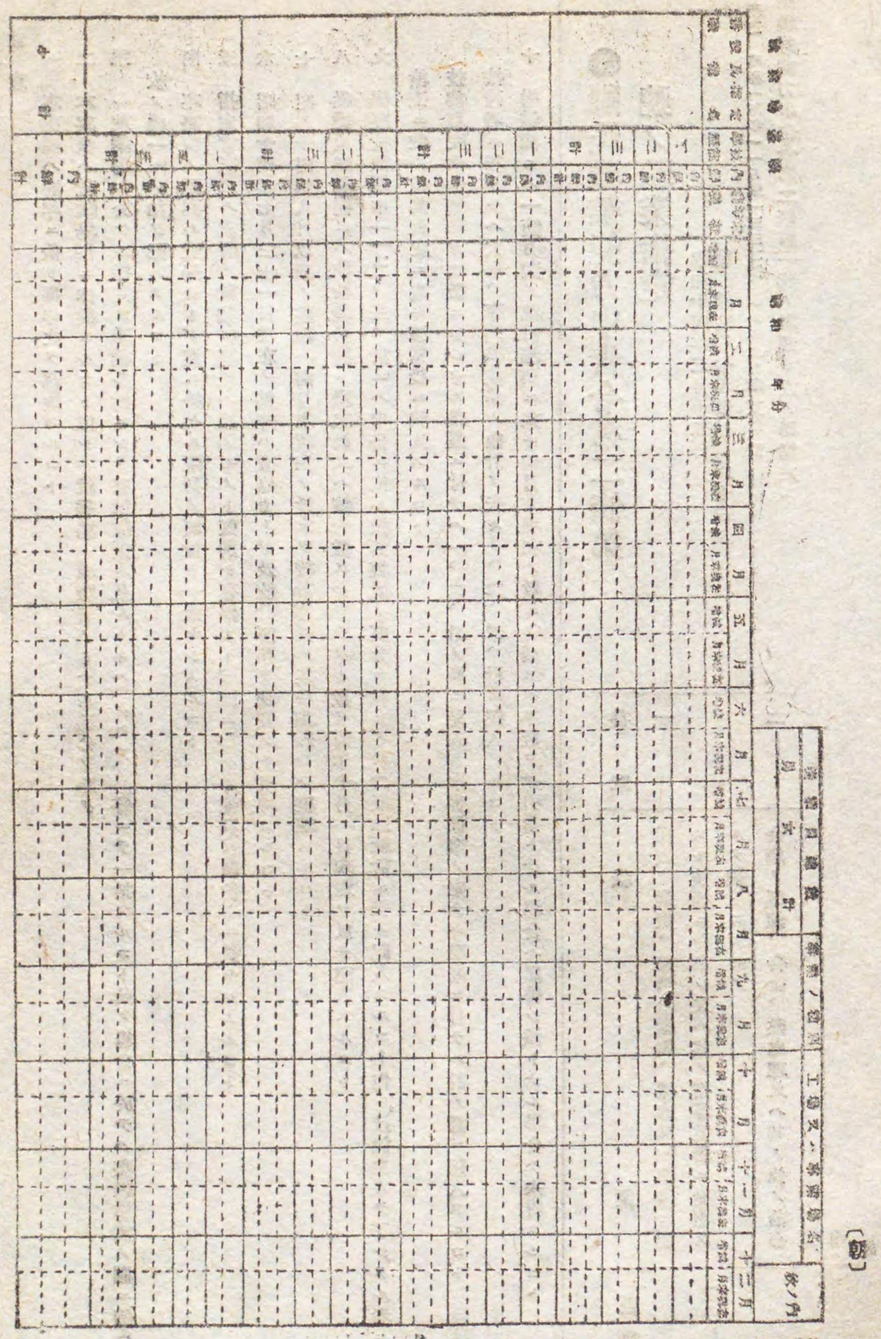
注意

一　本調ハ內地人朝鮮人別ニ作成スルコト

二　昭和十四年七月三十一日現在ノ本調ハ登錄カード及統計傳票ヲ調査ノ上作成スルコト

三　昭和十四年八月以降ノ本調ハ前月末現在ノ數字ヲ統計傳票ニ基キ加除整理シテ作成スルコト但シ內地、臺灣、樺太又ハ南洋群島ノ登錄官廳ニ登錄セラレタル者ハ除外スルコト

〔朝〕



區分			一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	年分
學校卒業者	機械	大學													
		專門													
		工業													
	船舶造船	大學													
		專門													
		工業													
	航空	大學													
		專門													
		工業													
	造兵	大學													
	電氣	大學													
		專門													
		工業													
	應用化學	大學													
		專門													
		工業													
	農藝化學	大學													
		專門													
	採鑛冶金	大學													
		專門													
		工業													
	火藥	大學													
	燃料	大學													
		專門													
	土木	大學													
		專門													
		工業													
	建築	大學													
		專門													
		工業													
	土木建築	工業													
	塗工	工業													
	窯業	大學													
		專門													
		工業													
	露語	大學													
		專門													
	西語	大學													
		專門													
	蒙古語	大學													
		專門													
	計														
技能者養成施設修了者	機械														
	電氣														
	通信														
	計														
檢定、試驗、免許者	工業卒														
	航空														
	電氣事業														
	瓦斯														
	火藥														
	化學														
	無線														
	汽罐														
	蹄鐵														
	自動車														
	電氣工事														
	電話														
	計														
合計															

〔朝〕

注意

一　本臺帳ハ暦年ニ依リ毎年之ヲ調製スルコト

二　本臺帳ハ就業場毎ニ作製スルコト但シ一就業場一現職者ノミナル場合ヲ除ク

三　一就業場ニ於ケル指定ノ職業多數ニシテ臺帳數葉ニ亙ルトキハ「クリップ」等ニテ一括スルコト此ノ場合ニ於テハ臺帳所定ノ欄ニ例ヘバ「三枚ノ内一」ノ如ク記入スルコト

四　本臺帳ノ配列ハ登錄カード函ニ於ケル配列ノ順位ト一致セシムルコト

五　指定官廳又ハ支所ノ就業場臺帳ハ他ノモノト區別シ登錄カード函ニ於ケル配列ニ順位ト一致セシムルコト

六　昭和十四年七月三十一日現在ノ整理ハ登錄カード及統計傳票ヲ調査ノ上整理スルコト

七　昭和十四年八月以降ノ整理ハ前月末現在ノ數字ヲ統計傳票ニ基キ加除シテ整理スルコト

八　從業員總數欄ニハ技術職員數ト職工數又ハ鑛夫數ヲ合計シタル數ヲ前年十月一日現在ヲ以テ記入スルコト

九　學歷技能欄中一、二、三、計ニハ申告ニ依ル技能程度ノ區分ニ從ヒ一級二級三級計ニ夫々記入スルコト但シ技能檢查ヲ了シタル者ニ付テハ檢查ニ依ル技能程度ニ基キ該當級ニ記入スルコト

技能程度申告標準ガ二級ニ分レタル職業ニ付テハ一、二、計ノ欄ニ記入シ申告標準ノ定ナキ職業ニ付テハ計ノ欄ニ記入スルコト

技術者ニ在リテハ大學、專門學校其ノ他計ヲ夫々一、二、三、計ニ記入スルコト

十　增減欄ニハ一箇月間ノ統計傳票ニ基キ前月末現在ノ數ニ加減スベキ數ヲ差引增トナル場合ハ黑書シ減トナル場合ハ朱書スルコト

●國民職業能力申告令第二條第一號ノ職業指定

昭和十四年五月十五日
朝鮮總督府告示第四百二十三號

改正　昭和一五年一一月第一三三二號、一七年二月第一六六號

國民職業能力申告令第二條第一號ノ職業ヲ左ノ通指定ス

番號	職業	職業略稱
一	採炭、選炭、採鑛、選鑛、採油又ハ採鑛ニ關スル技術ニ從事シ又ハ其ノ指導監督ニ從事スルヲ業トスルモノ	鑛山技術者
二	金屬ノ製錬、合金、熱處理又ハ其ノ他ノ冶金ニ關スル技術ニ從事シ又ハ其ノ指導監督ニ從事スルヲ業トスルモノ	冶金技術者
三	電動機、發電機、變壓器等ノ電氣機械器具、電氣計器、電氣照明用機械器具　電線若ハ電纜ノ製作、取附、修繕若ハ取扱又ハ發變電若ハ送配電ニ關スル技術ニ從事シ又ハ其ノ指導監督ニ從事スルヲ業トスルモノ	電氣技術者
四	有線電信電話機、無線電信電話機（放送用ヲ含ム）、電視裝置、電寫裝置、電氣信號機等ノ電氣通信用機械器具ノ製作、取附、修繕又ハ取扱ニ關スル技術ニ從事シ又ハ其ノ指導監督ニ從事スルヲ業トスルモノ	電氣通信技術者
五	陸、舶及航空機用ノ原動機、工作機械、鑛山用機械、冶金用機械、化學用機械、計器、光學機械、精密機械、兵器、車輛、自動車、起重機若ハ其ノ他ノ機械器具ノ製作、修繕若ハ取扱、鐵塔、橋梁等ノ構造物ノ製作若ハ修繕又ハ金屬ノ壓延、鑄造、鍛造等ノ加工ニ關スル技術ニ從事シ又ハ其ノ指導監督ニ從事スルヲ業トスルモノ	機械技術者
六	航空機ノ機體又ハプロペラノ製作ニ關スル技術ニ從事シ又ハ其ノ指導監督ニ從事スルヲ業トスルモノ（航空機用原動機製作ニ從事スルモノヲ除ク）	航空機技術者
七	造船ニ關スル技術ニ從事シ又ハ其ノ指導監督ニ從事スルヲ業トスルモノ	造船技術者
八	有機化學、無機化學、電氣化學、高壓化學等ノ化學ニ關スル技術ニ從事シ又ハ其ノ指導監督ニ從事スルヲ業トスルモノ	化學技術者
九	セメント、ガラス、陶磁器、耐火煉瓦又ハ其ノ他ノ窯業ニ關スル技術ニ從事シ又ハ其ノ指導監督ニ從事スルヲ業トスルモノ	窯業技術者
十	製材、木工品ノ製造又ハ機械類ノ木部ノ製造若ハ修繕ニ關スル技術ニ從事シ又ハ其ノ指導監督ニ從事スルヲ業トスルモノ	木工技術者
十一	道路、橋梁、鐵塔、港灣、河川、砂防、鐵道、軌道、隧道、索道、上下水道又ハ其ノ他ノ土木ニ關スル技術ニ從事シ又ハ其ノ指導監督ニ從事スルヲ業トスルモノ	土木技術者
十二	建築ニ關スル技術ニ從事シ又ハ其ノ指導監督ニ從事スルヲ業トスルモノ	建築技術者
十三	氣象觀測又ハ其ノ他ノ氣象業務ニ關スル技術ニ從事シ又ハ其ノ指導監督ニ從事スルヲ業トスルモノ	氣象技術者
十四	航空士、航空機操縱士、航空機關士ヲ業トスルモノ	航空機塔乘員
十五	金屬材料ノ物理的試驗作業ニ從事スルヲ業トスルモノ（航空機用原動機製作ニ從事スルモノヲ除ク）	金屬試驗工
十六	物理的又ハ化學的ノ實驗作業ニ從事スルヲ業	實驗工

十七	トスルモノ	
	陸、船及航空機用ノ原動機、工作機械、鑛山用機械、冶金用機械、化學用機械、計器、光學機械、精密機械、兵器、鑛船、車輛、航空機、自動車、起重機、其ノ他ノ機械器具、電氣機械器具、電氣計器、電氣通信用機械器具又ハ鐵塔、橋梁等ノ構造物ノ部分品、半製品又ハ製品ノ檢査作業ニ從事スルヲ業トスルモノ	機械檢査工
十八	レンズ、プリズム、レベル等ノ光學ガラスノ檢査作業ニ從事スルヲ業トスルモノ	レンズ檢査工
十九	原動機、機關、ポンプ又ハ其ノ他ノ機械ノ試運轉作業ニ從事スルヲ業トスルモノ	試運轉工
二十	化學分析作業ニ從事スルヲ業トスルモノ	分析工
二十一	石炭又ハ亞炭ノ採掘又ハ探鑛ノ作業ニ從事スルヲ業トスルモノ（手掘夫、發破係夫及鑿岩夫ヲ含ム）	採炭夫
二十二	炭坑々內ニ於テ主トシテ石炭又ハ亞炭ノ運搬作業ニ從事スルヲ業トスルモノ（坑內ノ軌道夫ヲ含ミ坑外ノ運炭ノミニ從事スルモノヲ除ク）	坑內運炭夫
二十三	炭坑々內ニ於テ支柱作業ニ從事スルヲ業トスルモノ	炭坑支柱夫
二十四	炭坑又ハ亞炭坑ニ於テ機械ニ依ル石炭ノ選別作業ニ從事スルヲ業トスルモノ	機械選炭夫
二十五	鑛物ノ採掘又ハ探鑛ノ作業ニ從事スルヲ業トスルモノ（手掘夫、發破係夫及鑿岩夫ヲ含ム）	採鑛夫
二十六	鑛山坑內ニ於テ支柱作業ニ從事スルヲ業トスルモノ	鑛山支柱夫
二十七	鑛山坑內ニ於テ主トシテ鑛物ノ運搬作業ニ從事スルヲ業トスルモノ（坑內ノ軌道夫ヲ含ミ坑外ノ運鑛ノミニ從事スルモノヲ除ク）	坑內運鑛夫
二十八	鑛山ニ於テ機械ニ依ル鑛物ノ選別作業ニ從事スルヲ業トスルモノ（大割夫ヲ含ム）	機械選鑛夫
二十九	石油山ニ於テ鑿井又ハ汲油ノ作業ニ從事スルヲ業トスルモノ	石油鑛夫
三十	銑鐵又ハフェロアロイノ製錬作業（熱風爐操作ヲ含ム）ニ從事スルヲ業トスルモノ	製銑工
三十一	鋼ノ製錬作業（造塊及焙燒ノ作業ヲ含ム）ニ從事スルヲ業トスルモノ	製鋼工
三十二	非鐵金屬ノ濕式製錬、乾式製錬又ハ電氣製錬ノ作業（造塊作業ヲ含ム）ニ從事スルヲ業トスルモノ	非鐵金屬製錬工
三十三	鑄物用又ハ合金用ノ金屬熔融作業ニ從事スルヲ業トスルモノ	金屬熔融工
三十四	金屬加熱爐ノ操作ニ從事スルヲ業トスルモノ	操爐工
三十五	金屬ノ箔、線、棒、管、條、板又ハタイヤノ製造ノ爲機械ニ依ル金屬ノ壓延、伸張、引拔、押出等ノ加工作業ニ從事スルヲ業トスルモノ	壓延伸張工

三十六	鐵、鋼又ハ其ノ他ノ金屬ノ鑄造作業（ダイカスト鑄造作業ヲ含ム）ニ從事スルヲ業トスルモノ	鑄物工
三十七	鍛冶又ハ鍛造ノ作業（プレスニ依ル火造作業ヲ含ミ且農具鍛冶、金具鍛冶、車鍛冶及刃物製造鍛冶ヲ除ク）ニ從事スルヲ業トスルモノ	鍛工
三十八	金屬ノ燒入、燒鈍、燒戻、燒準、滲炭、窒化等ノ熱處理作業ニ從事スルヲ業トスルモノ	熱處理工
三十九	現圖展開作業又ハ型板取（現圖木型作）作業ニ從事スルヲ業トスルモノ	現圖工
四十	船體用鋼材ノ撓曲又ハ成形ノ作業（機械ニ依ル厚板ノ撓曲作業ヲ含ム）ニ從事スルヲ業トスルモノ	撓鐵工
四十一	鋲燒、當盤、鋲打等ノ鋲鋲作業ニ從事スルヲ業トスルモノ	鋲打工
四十二	コーキング又ハ水油防材挿入ノ作業ニ從事スルヲ業トスルモノ	塡隙工
四十三	電氣又ハガスニ依ル金屬ノ熔接又ハ燒切ノ作業ニ從事スルヲ業トスルモノ	熔接工
四十四	汽罐、水槽、煙突、復水器等ノ鋼板類製品ノ加工組立作業ニ從事スルヲ業トスルモノ	製罐工
四十五	剪斷機ニ依ル金屬切斷作業ニ從事スルヲ業トスルモノ	剪斷工
四十六	造船ニ於テ現圖木型ニ依ル罫書又ハ鋼材ノ現場取附組立ノ作業ニ從事スルヲ業トスルモノ（船臺大工ヲ含ム）	鐵木工
四十七	主トシテ手作業ニ依ル金屬薄板ノ加工組立作業ニ從事スルヲ業トスルモノ（ブリキ職及銅打物職ヲ含ム）	板金工
四十八	主トシテプレスニ依ル金屬加工作業ニ從事スルヲ業トスルモノ	金屬プレス工
四十九	主トシテ艦船用ノ金屬板及管ノ加工作業ニ從事スルヲ業トスルモノ	銅工
五十	金屬管ノ加工取附作業ニ從事スルヲ業トスルモノ（鉛工ヲ含ム）	配管工
五十一	鐵材又ハ鋼材ノ加工組立作業ニ從事スルヲ業トスルモノ（第四十號乃至第五十號ニ屬スルモノヲ除ク）	鐵工
五十二	金屬加工ノ爲罫書及心出ノ作業ニ從事スルヲ業トスルモノ	罫書工
五十三	普通旋盤、工具旋盤、卓上旋盤、多數バイト旋盤、模寫旋盤、正面旋盤、竪旋盤、專門旋盤等ノ旋盤ニ依ル金屬加工作業ニ從事スルヲ業トスルモノ	旋盤工
五十四	タレット旋盤、自動旋盤又ハ半自動旋盤ニ依ル金屬加工作業ニ從事スルヲ業トスルモノ	タレット工
五十五	中グリ盤ニ依ル金屬加工作業ニ從事スルヲ業トスルモノ	中グリ工
五十六	研磨盤、ラップ盤、艶出盤又ハ砥上盤ニ依ル金屬加工作業ニ從事スルヲ業トスルモノ	研磨工

五十七	ボール盤ニ依ル金屬加工作業ニ從事スルヲ業トスルモノ	ボール盤工
五十八	平ラ盤ニ依ル金屬加工作業ニ從事スルヲ業トスルモノ（ハ竪削盤ニ依ル金屬加工作業ニ從事スルヲ業トスルモノヲ除ク）	平削工
五十九	形削盤又ハ竪削盤ニ依ル金屬加工作業ニ從事スルヲ業トスルモノ	形削工
六十	フライス盤ニ依ル金屬加工作業ニ從事スルヲ業トスルモノ	フライス工
六十一	歯切盤ニ依リ金屬加工作業ニ從事スルヲ業トスルモノ	歯切工
六十二	工作機械ニ依ル金屬加工作業ニ從事スルヲ業トスルモノ（第五十三號乃至第六十一號ニ屬スルモノヲ除ク）	特殊機械工
六十三	切削工具、剪斷工具、セリダシ工具、ゲージ、ジグ、金型、計測器類（度量衡法ニ依ラザルモノ）、ネヂ切前用補助工具、其ノ他ノ工具、鑢、鋸又ハ刃物ノ仕上、調整又ハ修繕ノ作業ニ從事スルヲ業トスルモノ	工具仕上工
六十四	主トシテ鑢、タガネ等ノ手道具ニ依ル金屬品ノ仕上作業（簡單ナ部分品ノ組立作業ヲ含ム）ニ從事スルヲ業トスルモノ	仕上工
六十五	電動機、其ノ他ノ電氣機械器具又ハ電氣計器ノ仕上、組立、調整、据附又ハ修繕ノ作業ニ從事スルヲ業トスルモノ	電機組立工
六十六	電氣通信用機械器具ノ仕上、組立、調整、据附	電氣通信機組立工
六十七	度量衡器、理化學的機械器具、機械的計測器（時計ヲ含ム）、兵器、光學機械器具又ハ其ノ他ノ精密機械器具ノ仕上、組立、調整、据附又ハ修繕ノ作業ニ從事スルヲ業トスルモノ	精密組立工
六十八	原動機、工作機械又ハ其ノ他ノ機械器具ノ仕上、組立、調整、据附又ハ修繕ノ作業ニ從事スルヲ業トスルモノ	機械組立工
六十九	航空機ノ仕上、組立、艤裝、調整又ハ修繕ノ作業ニ從事スルヲ業トスルモノ	航空機組立工
七十	自動車ノ仕上、組立、艤裝、調整又ハ修繕ノ作業ニ從事スルヲ業トスルモノ	自動車工
七十一	艦船ノ艤裝作業ニ從事スルヲ業トスルモノ	艤裝工
七十二	電線又ハ電纜ノ被覆、鎧裝又ハ被鉛ノ作業ニ從事スルヲ業トスルモノ	電線被裝工
七十三	金屬ノ撚線又ハ合線ノ造作業（鋼索製造作業ヲ含ム）ニ從事スルヲ業トスルモノ	撚線工
七十四	電線コイルノ巻線作業（手巻作業ヲ含ム）ニ從事スルヲ業トスルモノ	巻線工
七十五	電氣裝置及器具ノ絶緣被覆作業ニ從事スルヲ業トスルモノ	絶緣工
七十六	手作業、機械作業又ハ化學作用ニ依ル目盛業（文字書作業ヲ含ム）ニ從事スルヲ業トスルモノ	目盛工
七十七	機械ニ依ル製材又ハ製板ノ作業ニ從事スルヲ	製材工

七十八	業トスルモノ合板ノ製造作業（薄板製造及薄板膠着ノ作業ヲ含ム）ニ從事スルヲ業トスルモノ	合板工
七十九	鑄物用木型ノ製造作業ニ從事スルヲ業トスルモノ	木型工
八十	艦船、航空機、車輛又ハ其ノ他ノ機械器具ノ木部ノ製造作業（墨附作業ヲ含ム）ニ從事スルヲ業トスルモノ（家具職、建具職及指物職ヲ除ク）	木工
八十一	木造船ノ建造作業（短艇製造作業ヲ含ム）ニ從事スルヲ業トスルモノ	造舟工
八十二	硫酸製造ノ化學工程ニ從事スルヲ業トスルモノ	硫酸工
八十三	鹽酸製造ノ化學工程ニ從事スルヲ業トスルモノ	鹽酸工
八十四	硝酸製造ノ化學工程ニ從事スルヲ業トスルモノ	硝酸工
八十五	炭酸ソーダ、苛性ソーダ、金屬ソーダ、其ノ他ノソーダ鹽又ハカリ鹽ノ製造ノ化學工程ニ從事スルヲ業トスルモノ	ソーダ工
八十六	水素、酸素、炭酸ガス、亞硫酸ガス、鹽素ガス又ハ鹽化メチレン、鹽化メチル等ノ液化ガス又ハ壓縮ガスノ製造作業（原料ガス發生作業ヲ含ム）ニ從事スルヲ業トスルモノ	壓縮ガス工
八十七	合成法ニ依ルアンモニア製造ノ化學工程（原料ガス發生及觸媒製造ノ作業ヲ含ム）ニ從事スルヲ業トスルモノ	アンモニア合成工
八十八	カーバイト製造用電氣炉ノ操作ニ從事スルヲ業トスルモノ	カーバイト電炉工
八十九	アルミナ及アルミニウムノ製造ノ化學工程（氷晶石製造作業ヲ含ム）ニ從事スルヲ業トスルモノ	アルミニウム製造工
九十	石炭乾溜ニ依ル石炭ガス、コークス又ハタールノ製造作業（石炭ノ低溫乾溜作業ヲ含ム）ニ從事スルヲ業トスルモノ	石炭乾溜工
九十一	發生炉ガス又ハ水性ガスノ製造作業ニ從事スルヲ業トスルモノ	ガス發生炉工
九十二	タールノ分溜、精製等ノ方法ニ依ルベンゾール、トルオール、キシロール、ナフタリン、石炭酸等ノ化學製品ノ製造作業ニ從事スルヲ業トスルモノ	タール分溜工
九十三	染料製造工場ニ於テタール染料又ハ其ノ中間體ノ製造ノ化學工程ニ從事スルヲ業トスルモノ	染料工
九十四	人造石油製造ノ化學工程ニ從事スルヲ業トスルモノ	人造石油工
九十五	石油ノ蒸溜、分解、精製又ハ洗滌ノ作業ニ從事スルヲ業トスルモノ	石油工
九十六	動植物油脂ノ抽出、精製、分解、鹽化又ハ硬化ノ作業ニ從事スルヲ業トスルモノ	油脂工

九十七	ゴム原料ノ配合、混合等ノ精練作業（再生ゴム製造作業ヲ含ム）又ハタイヤ、ゴム靴、ゴム底足袋若ハゴム引防水布ノ製造作業ニ從事スルヲ業トスルモノ	ゴム工
九十八	セルロイド、醋酸繊維素又ハ繊維素エーテルノ製造ノ化學工程ニ從事スルヲ業トスルモノ	セルロイド工
九十九	製紙用又ハ人絹用ノパルプ製造作業ニ從事スルヲ業トスルモノ	パルプ工
百	人造絹絲、人造短繊維又ハセロファンノ製造ノ化學工程ニ從事スルヲ業トスルモノ（漂泊及洗滌ノ作業ニ從事スルモノヲ除ク）	人絹工
百一	顏料、ボイル油又ハワニスノ製造作業ニ從事スルヲ業トスルモノ	顏料塗料工
百二	火藥類又ハ化學兵器ノ製造作業ニ從事スルヲ業トスルモノ（マツチ製造作業ニ從事スルモノヲ除ク）	火藥工
百三	彈ノ火藥又ハ火工兵器ノ加工、裝塡又ハ修理ノ作業ニ從事スルヲ業トスルモノ	火工
百四	炭素電極ノ製造作業ニ從事スルヲ業トスルモノ	電極工
百五	蓄電池、濕電池又ハ乾電池ノ製造又ハ修繕ノ作業ニ從事スルヲ業トスルモノ（光電池製造作業ニ從事スルモノヲ除ク）	電池工
百六	セメント、陶磁器又ハ耐火煉瓦ノ燒成作業ニ從事スルヲ業トスルモノ	窯業燒成工
百七	金屬又ハガラスノ熔融用ルツボノ製造又ハ修理ノ作業ニ從事スルヲ業トスルモノ	ルツボ工
百八	光學ガラス、鋼ガラス、硬質ガラス、フイルター、安全ガラス等ノ特殊ガラスノ製造作業（ガラスノ熱處理作業ヲ含ム）ニ從事スルヲ業トスルモノ	特殊ガラス工
百九	レンズ、プリズム、レベル、反射鏡、船舶信號用ガラス等ノ光學ガラスノ荒摺、研磨、心取等ノ作業又ハパルサム作業ニ從事スルヲ業トスルモノ	光學ガラス工
百十	蒸汽機關車ノ運轉ニ從事スルヲ業トスルモノ（助手ヲ含ム）	蒸汽機關車運轉手
百十一	內燃汽關車（ヂーゼル動車及ガソリン動車ヲ含ム）ノ運轉ニ從事スルヲ業トスルモノ（助手ヲ含ム）	內燃汽關車運轉手
百十二	電車又ハ電氣汽關車ノ運轉ニ從事スルヲ業トスルモノ	電車運轉手
百十三	自動車ノ運轉ニ從事スルヲ業トスルモノ	自動車運轉手
百十四	飛行場ニ於テ航空機及其ノ附屬品ノ點檢、分解、調整、補修、手入、裝備、試運轉、格納、飛行準備、滑走ノ補助等ノ地上勤務作業ニ從事スルヲ業トスルモノ	航空機整備員
百十五	有線電信ノ發受信操作ニ從事スルヲ業トスルモノ	有線電信通信士
百十六	無線電信ノ發受信操作ニ從事スルヲ業トスル	無線電信通信士

百十七	モノ	
百十八	發動機ヲ有スル二十噸以上三十噸未滿ノ漁船ノ操縱又ハ運轉ニ從事スルヲ業トスルモノ（船員手帳又ハ海技免狀ヲ有スル者ヲ除ク）	漁船運轉手
百十九	製圖又ハ寫圖ノ技術的作業（設計ノ補助作業ヲ含ム）ニ從事スルヲ業トスルモノ	製圖手
百二十	作業企劃、作業研究又ハ單價若ハ原價ノ計算ノ技術的業務ニ從事スルヲ業トスルモノ	企劃手
百二十一	電氣通信電線路（空中線ヲ含ム）ノ建設、保繕又ハ屋內配線工事ノ作業ニ從事スルヲ業トスルモノ	通信電路工
百二十二	電氣通信用機械器具ノ設備又ハ保繕ノ作業ニ從事スルヲ業トスルモノ	通信電機工
百二十三	電線架設、電路敷設、保線、屋外配線工事又ハ送配電ノ作業ニ從事スルヲ業トスルモノ	電力電路工
百二十四	電氣機械ノ据附又ハ運轉ノ作業ニ從事スルヲ業トスルモノ	電力電機工
百二十五	汽罐ノ罐焚又ハ取扱ノ作業ニ從事スルヲ業トスルモノ	汽罐士
百二十六	原動機、機關、ポンプ又ハ機械ノ運轉又ハ保繕ノ作業ニ從事スルヲ業トスルモノ	機械運轉工
百二十七	起重機ノ運轉ニ從事スルヲ業トスルモノ	起重機運轉工
百二十八	熔鐵爐、平爐、熔融爐、加熱爐、窯業用窯、其ノ他ノ工業用爐窯又ハ汽罐煉瓦積部分ノ築造又ハ修築ノ作業ニ從事スルヲ業トスルモノ	築爐工
百二十九	保溫材取附作業ニ從業スルヲ業トスルモノ	保溫工
百三十	メツキ、ボンデライト、パーカライヂング、メタニウム又ハセラダイスノ作業ニ從事スルヲ業トスルモノ	メツキ工
百三十一	塗料ニ依ル塗裝、吹附又ハ燒附ノ作業ニ從事スルヲ業トスルモノ	塗裝工
百三十二	帆、索具、防蔽物等ノ船具ノ製造、修繕又ハ取附ノ作業（錨及鎖ノ取附作業ヲ含ム）ニ從事スルヲ業トスルモノ	綱具工
百三十三	裝蹄ノ作業ニ從事スルヲ業トスルモノ	裝蹄師
百三十四	氣象觀測又ハ其ノ他ノ氣象業務ニ從事スルヲ業トスルモノ	氣象手
百三十五	潛水服ヲ著用シテ行フ水中作業ニ從事スルヲ業トスルモノ	潛水夫
百三十六	家屋建築等ノ大工作業ニ從事スルヲ業トスルモノ	家屋大工
百三十七	セメント塗、モルタル塗又ハ漆喰塗等ノ左官作業ニ從事スルヲ業トスルモノ	左官
	足場架、鐵骨組立其ノ他高所ニ於ケル取付工事等ノ鳶仕事ニ從事スルヲ業トスルモノ	鳶職

●國民職業能力申告令第二條第三號ノ學校指定

昭和十四年五月十五日
朝鮮總督府告示第四百二十四號

改正　昭和一六年四月第四二二號

國民職業能力申告令第二條第三號ノ學校ヲ左ノ通指定ス

大學
一　內地、朝鮮及臺灣ノ大學ノ工學部、理工學部、農學部及理農學部
二　旅順工科大學

三　早稲田大學文學部
四　拓殖大學

專門學校

一　內地、朝鮮及臺灣ノ工業及鑛業ニ關スル專門學校
二　南滿洲工業專門學校
三　內地ノ農林業ニ關スル專門學校
四　內地ノ外國語ニ關スル專門學校
五　拓殖大學專門部

實業學校

一　朝鮮ノ工業學校（實業學校規程第四條ノ規定ニ依リ設ケタル實業學校ニシテ工業學校ノ學科ヲ置クモノヲ含ム）竝ニ內地及臺灣ノ工業學校（大正十年文部省令第五號二種以上ノ實業學校ノ學科ヲ置ク學校ニ關スル規程第一條ノ規定ニ依リ設ケタル實業學校ニシテ工業學校ノ學科ヲ置クモノヲ含ム）ニシテ左ノ各號ノニ該當スルモノ
（一）國民學校初等科修了程度ヲ入學資格トスルモノニシテ修業年限ヲ五年以上トスルモノ
（二）國民學校高等科修了程度ヲ入學資格トスルモノニシテ修業年限ヲ三年（夜間授業ノモノニ在リテハ四年）以上トスルモノ
（三）前二號ト同等以上ノモノ
（四）內地ノ工業學校規程第十一條ノ二又ハ臺灣公立工業學校規則第四條ノ規定ニ依リ設ケタル第二部
二　大連工業學校
三　撫順工業學校

各種學校

一　內地、朝鮮及臺灣ノ工業學校ニ準ズベキ私立學校ニシテ中學校卒業程度ヲ入學資格トシ修業年限ヲ一年以上トスルモノ又ハ之ト同等以上ノモノ

●國民職業能力申告令第二條第三號ノ學科指定

昭和十四年五月十五日
朝鮮總督府告示第四百二十五號

國民職業能力申告令第二條第三號ノ學科ヲ左ノ通指定ス

大學

一　機械工學科（北海道帝國大學工學部第三部類ヲ含ム）
二　船舶工學科（造船學科ヲ含ム）
三　航空學科
四　造兵學科
五　電氣工學科（北海道帝國大學工學部第四部類ヲ含ム）
六　應用化學科（工業化學科、化學工業科、染料化學科及電氣化學科ヲ含ム）
七　採鑛冶金學科（鑛山及冶金學科、採鑛學科、冶金學科、金屬工學科、應用金屬學科及北海道帝國大學工學部第二部類甲ヲ含ム）
八　火藥學科
九　燃料化學科（北海道帝國大學工學部第二部類乙ヲ含ム）
十　土木工學科
十一　建築學科
十二　窯業科

〔朝二〕

十三　文學科（早稲田大學文學部文學科ニ於テ露西亞語ヲ第二外國語トシテ修ムル者ニ限ル）

十四　農藝化學科
十五　拓殖科
十六　商科

第一號及第五號乃至第七號ノ學科ノ中早稲田大學ノ工業經營分科ハ之ヲ除キ第十五號及第十六號ノ學科ニ付テハ拓殖大學ニ於テ露西亞語又ハ西班牙語ヲ修ムル者ニ限ル

專門學校（專門學校ニ非ザル私立學校ニシテ中學校卒業程度ヲ入學資格トシ且修業年限ヲ三年以上トスルモノヲ含ム）

一　機械工學科（精密機械科、機械科、鑛機科及鑛山機械科ヲ含ム）
二　造船工學科
三　航空工學科
四　電氣工學科、電氣科ヲ含ム）
五　應用化學科（電氣化學科及製藥化學科ヲ含ム）
六　採鑛冶金學科（採鑛學科、鑛山工學科、鑛山學科、冶金學科、冶金工學科及採炭工學科ヲ含ム）
七　燃料學科
八　窯業科

九　土木工學科
十　建築學科
十一　農藝化學科
十二　露語部（拓殖大學專門部ニ於テ露西亞語ヲ必修科目トスル者ヲ含ム）
十三　西語部（拓殖大學專門部ニ於テ西班牙語ヲ必修科目トスル者ヲ含ム）
十四　蒙古語部

工業學校（實業學校規程第四條又ハ大正十年文部省令第五號二種以上ノ實業學校ノ學科ヲ置ク學校ニ關スル規程第一條ノ規定ニ依リ設ケタル實業學校ニシテ工業學校ノ學科ヲ置クモノ、專門學校及實業學校ニ非ザル私立學校ニシテ中學校卒業程度ヲ入學資格トシ且修業年限ヲ一年以上三年未滿トスルモノ竝ニ之ト同等ノモノヲ含ム）

一　機械科（機械工作科、精密機械科、精密機械工作科、木型科、鑄工科、鍛工科、計器科、原動機科、採鑛機械科、電氣機械科、電氣科、電氣機械工作科、機械電氣科、化學機械科其ノ他機械科ニ準ズベキ學科ヲ含ム）
二　造船科
三　航空科（機體製作科及航空機關科ヲ含ム）
四　電氣科
五　應用化學科（工業化學科、化學工業科、電氣化學科其ノ他應用化學科ニ準ズベキ學科ヲ含ム）
六　採鑛冶金科（採鑛科及冶金科、鑄工冶金科、鍛工冶金科其ノ他之ニ準ズベキ學科ヲ含ム）
七　土木建築科（土木科、建築科ヲ含ム）
八　窯業科（陶器科、製陶科ヲ含ム）
九　塗工科（家具塗工科ヲ含ム）

●國民職業能力申告令第二條第四號ノ技能者養成施設指定

昭和十四年五月十五日
朝鮮總督府告示第四百二十六號

改正　昭和一六年四月第四二三號

國民職業能力申告令第二條第四號ノ技能者養成施設ヲ左ノ通指定ス

一　官立又ハ公立ノ機械又ハ電氣技能者養成施設ニシテ中學校卒業程度ヲ入所資格トシ修業年限ヲ一年以上トスルモノ又ハ之ト同等以上ノモノ

二　官立ノ通信技能者養成施設ニシテ國民學校高等科修了程度ヲ入所資格トスルモノ又ハ之ト同等以上ノモノ

三　社團法人電信協會管理無線電信講習所（大正十三年以後ノ終了者ニ限ル）

●國民職業能力申告令第二條第五號ノ檢定、試驗及免許指定

昭和十四年五月十五日
朝鮮總督府告示第四百二十七號

改正　昭和一七年二月第一六七號

國民職業能力申告令第二條第五號ノ檢定、試驗及免許ヲ左ノ通指定ス

一　大正十四年文部省令第三十號實業學校卒業程度檢定規程ニ依ル工業學校卒業程度ノ檢定

二　航空法第十六條ノ規定ニ依ル考査

三　昭和七年遞信省令第五十四號電氣事業主任技術者資格檢定規則ニ依ル電氣事業主任技術者ノ資格檢定

四　大正十四年商工省令瓦斯事業法施行規則第四十五條ノ規定ニ依ル詮衡

五　銃砲火藥類取締令施行規則第四十八條又ハ明治四十四年內務省令第二號銃砲火藥類取締法施行細則第四條若ハ第六條ノ二ノ規定ニ依ル詮衡

六　昭和十一年內務省令第二十三號壓縮瓦斯及液化瓦斯取締法施行令第十一條ノ規定ニ依ル詮衡

七　無線通信士資格檢定規則又ハ昭和六年遞信省令第八號無線通信士資格檢定規則ニ依ル無線通信士ノ檢定

八　昭和十年內務省令第二十號汽罐取締令ニ依ル汽罐士免許

九　昭和十五年農林省令第五十七號裝蹄師試驗規則ニ依ル裝蹄師試驗

十　朝鮮自動車取締規則又ハ昭和八年內務省令第二十三號自動車取締令ニ依ル自動車運轉手ノ免許

十一　昭和十年遞信省令第三十一號電氣工事人取締規則ニ依ル電氣工事人ノ免許

十二　昭和十二年遞信省令第七十三號電話規則第四十條ノ規定ニ依ル資格認定

十三　昭和十六年勅令第六百四十四號機械技術者檢定令ニ依ル檢定

●國民職業能力申告令第十四條ノ官廳指定

昭和十四年五月十五日
朝鮮總督府告示第四百二十八號

改正　昭和一五年七月第七一三號、一二月第一五一四號、一六年一月第一〇八號、七月第一〇三七號

國民職業能力申告令第十四條ノ官廳ヲ左ノ通指定ス

陸軍省關係
一　軍兵器部及軍經理部
二　朝鮮陸軍倉庫
三　師團兵器部及師團經理部
四　陸軍航空廠
五　陸軍兵器廠
六　陸軍運輸部

海軍省關係
一　海軍工作部
二　海軍燃料廠
三　海軍港務部
四　海軍軍需部
五　海軍建築部

遞信局關係
一　遞信局
二　地方遞信局
三　海事署
四　貯金管理所
五　郵便局
六　電信局
七　電話局
八　飛行場

鐵道局關係
一　鐵道局
二　地方鐵道局

專賣局關係
一　專賣局
二　地方專賣局
三　專賣局研究所

●醫療關係者職業能力申告令

昭和十三年八月二十四日
勅令第六百號

改正　昭和一七年一〇月第六九五號、一一月第七八一號

朕醫療關係者職業能力申告令ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

醫療關係者職業能力申告令

第一條　國家總動員法第二十一條ノ規定ニ基ク醫師、齒科醫師、藥劑師及看護婦ノ職業能力ニ關スル事項ノ申告竝ニ其ノ職業能力ニ關スル檢査ハ本令ノ定ムル所ニ依ル

第二條　本令ニ於テ醫師トハ國民醫療法ニ依リ厚生大臣ノ免許ヲ受ケタル醫師、齒科醫師トハ同法ニ依リ厚生大臣ノ免許ヲ受ケタル齒科醫師、藥劑師トハ藥劑師法ニ依リ厚生大臣ノ免許ヲ受ケタル藥劑師ヲ謂フ但シ朝鮮ニ在リテハ各朝鮮總督ノ免許ヲ受ケタル醫師、齒科醫師及藥劑師ヲ、

臺灣ニ在リテハ各臺灣總督ノ免許ヲ受ケタル醫師、齒科醫師及藥劑師ヲ、樺太ニ在リテハ各樺太廳長官ノ免許又ハ假免許ヲ受ケタル醫師、齒科醫師及藥劑師ヲ、南洋群島ニ在リテハ各南洋廳長官ノ指定スル者ヲ含ム

本令ニ於テ看護婦トハ命令ヲ以テ定ムル看護婦ヲ謂フ

第三條　醫師、齒科醫師、藥劑師及看護婦ノ職業能力ニ關スル事項ノ申告ハ昭和十三年ノ申告ヲ第一回トシ爾後四年毎ニ一回之ヲ爲サシムルモノトス

前項ノ申告ハ八月一日現在ニ依リ同月十五日迄ニ之ヲ爲スベシ

第一項ノ申告ヲ爲スベキ年ノ八月二日以後ニ於テ醫師、齒科醫師、藥劑師若ハ看護婦ト爲リタル者、第十二條ニ揭グル者ニシテ本令ノ適用ヲ受クルニ至リタルモノ、內地、朝鮮、臺灣、樺太若ハ南洋群島ノ何レカノ地域ヨリ他ノ地域ニ就業ノ場所（就業ノ場所一定セザル者ニ付テハ住所）ヲ有セザル者及船舶內ニ於テ就業スルノ常況ニ在ル者ニ付テハ住所）ヲ移シタル者又ハ本令施行地內ニ住所及就業ノ場所ノ何レヲモ有セザリシ者ニシテ本令施行地內ニ其ノ何レカヲ有スルニ至リタルモノノ申告ハ當該事實ノ生ジタル日ノ次ノ八月一日（當該事實ノ生ジタル日ガ八月一日ナルトキハ其ノ日）現在ニ依リ同月十五日迄ニ之ヲ爲スベシ

第四條　醫師ハ左ニ揭グル事項ヲ就業地ヲ管轄スル地方長官ニ申告スベシ

一　氏名
二　男女ノ別
三　出生ノ年月日
四　本籍
五　住所
六　兵役關係
七　醫籍登錄番號
八　診療能力
九　學歷及職歷
十　就業ノ場所
十一　就業ノ態樣
十二　俸給、給料等ヲ受クル者ナルトキハ其ノ額
十三　健康狀況特ニ總動員業務從事ニ關スル支障ノ有無
十四　配偶者ノ有無及現ニ扶養スル者ノ數
十五　總動員業務從事ニ關スル希望
十六　其ノ他命令ヲ以テ定ムル事項

醫師前項ノ申告ヲ爲シタル後同項第一號、第十號又ハ第十一號ニ揭グル事項ニ變更ヲ生ジタルトキハ第九條ノ規定ニ該當スル場合ヲ除クノ外三十日以內ニ就業地ヲ管轄スル地方長官ニ其ノ旨申告スベシ

第五條　齒科醫師ハ左ニ揭グル事項ヲ就業地ヲ管轄スル地方長官ニ申告スベシ

一　前條第一項第一號乃至第六號及第九號乃至第十五號ニ揭グル事項
二　齒科醫籍登錄番號
三　其ノ他命令ヲ以テ定ムル事項

第六條　藥劑師ハ左ニ揭グル事項ヲ就業地ヲ管轄スル地方長官ニ申告スベシ

一　第四條第一項第一號乃至第六號及第九號乃至第十五號ニ揭グル事項
二　藥劑師名簿登錄番號
三　其ノ他命令ヲ以テ定ムル事項

第七條　看護婦ハ左ニ揭グル事項ヲ就業地ヲ管轄スル地方長官ニ申告スベシ

一　第四條第一項第一號、第三號乃至第五號及第九號乃至第十五號ニ揭グル事項
二　其ノ他命令ヲ以テ定ムル事項

第八條　第四條第二項ノ規定ハ齒科醫師、藥劑師及看護婦ニ之ヲ準用ス

第九條　醫師、齒科醫師、藥劑師又ハ看護婦前六條ノ規定ニ依ル申告ヲ爲シタル後左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ遲滯ナク前ニ申告ヲ爲シタル地方長官ニ其ノ旨申告スベシ

一　第十二條ノ規定ニ該當スルニ至リタルトキ
二　內地、朝鮮、臺灣、樺太又ハ南洋群島ノ何レカノ地域ヨリ他ノ地域ニ住所又ハ就業ノ場所ヲ移シタルトキ
三　本令施行地外ニ住所又ハ就業ノ場所ヲ移シタルトキ

第十條　地方長官ハ命令ノ定ムル所ニ依リ當該官吏ヲシテ本令ノ申告ヲ爲シタル者ニ就キ其ノ職業能力ニ關シ檢查ヲ爲サシムルコトヲ得

第十一條　地方長官ハ命令ノ定ムル所ニ依リ本令ノ申告ニ關シ國家總動員法第三十一條ノ規定ニ基ク報告ヲ徵スルコトヲ得

第十二條　本令ハ第九條第一號ノ規定ニ依ル申告ニ關スル規定ヲ除クノ外陸海軍軍人ニシテ現役中ノモノ（歸休下士官兵ヲ除ク）及戰時若ハ事變ニ際シ又ハ兵役法第五十五條第二項（志願ニ依リ兵籍ニ編入セラレタル者ニ付テハ之ニ該當スル勅令ノ規定ヲ含ム）ノ規定ニ依リ召集中ノモノ、陸海軍軍屬竝ニ國家總動員法第四條ノ規定ニ依リ徵用中ノ者ニ對シテハ之ヲ適用セズ

第十三輯　軍事　第九章　國家總動員

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

昭和十三年ニ限リ第三條第二項中八月一日現在ニ依リ同月十五日迄トアルハ十月十五日現在ニ依リ同月三十一日迄トシ同條第三項中八月二日以後トアルハ十月十六日以後トス

第十三條　醫師、齒科醫師、藥劑師又ハ看護婦ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノノ申告ニ關シテハ命令ノ定ムル所ニ依リ申告期限ヲ延長スルコトヲ得

一　陸海軍軍人ニシテ召集中ノモノ（前條ニ規定スル召集中ノ者ヲ除ク）
二　外國旅行中ノ者
三　其ノ他命令ヲ以テ定ムル者

第十四條　削除

第十五條　二以上ノ就業ノ場所ヲ有スル者ニ付テハ主タル就業ノ場所ノ所在地ヲ以テ、就業ノ場所一定セザル者、就業ノ場所ヲ有セザル者又ハ船舶內ニ於テ就業スルノ常況ニ在ル者ニ付テハ住所地ヲ以テ本令ノ就業地ト看做ス

第十六條　本令中醫籍登錄番號、齒科醫籍登錄番號又ハ藥劑師名錄登錄番號トアルハ朝鮮總督ノ免許ヲ受ケタル醫師、齒科醫師又ハ藥劑師ニ關シテハ各其ノ免許番號トシ地方長官トアルハ朝鮮ニ在リテハ道知事、臺灣ニ在リテハ州知事又ハ廳長、樺太ニ在リテハ樺太廳長官、南洋群島ニ在リテハ南洋廳長官トス

第十七條　本令ニ規定スルモノノ外申告ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

●醫療關係者職業能力申告令施行規則

昭和十三年九月二十一日
朝鮮總督府令第百九十四號

醫療關係者職業能力申告令施行規則左ノ通定ム

醫療關係者職業能力申告令施行規則

第一條　醫療關係者職業能力申告令（以下申告令ト稱ス）第三條ノ規定ニ依ル申告ハ樣式第一號ニ依ル職業能力申告書用紙ヲ以テ之ヲ爲スベシ

申告令第四條第二項及第八條ノ規定ニ依ル申告ハ樣式第二號ニ依ル職業能力異動申告書用紙ヲ以テ之ヲ爲スベシ

第二條　申告令第九條ノ規定ニ依ル申告ニハ左ノ事項ヲ記載スベシ

一　申告者ノ氏名

二　前ニ申告ヲ爲シタル就業ノ場所又ハ住所

三　申告令第九條ニ該當スルニ至リタル年月日及其ノ事實

第三條　醫師、齒科醫師、藥劑師又ハ看護婦申告令第四條第一項、第五條乃至第七條ノ規定ニ依ル申告ヲ爲シタル後住所ヲ變更シタルトキハ申告令第九條第二號及第三號ニ該當スル場合ヲ除クノ外三十日以內ニ就業地ヲ管轄スル道知事ニ其ノ旨申告スベシ

第四條　申告令第三條第一項ニ該當スル年ニ於テハ道知事ハ七月二十日迄ニ職業能力申告書用紙ヲ醫師、齒科醫師、藥劑師及看護婦ニ配付ス

申告ヲ爲スベキ醫師、齒科醫師、藥劑師及看護婦前項ノ期日迄ニ職業能力申告書用紙ノ交付ヲ受ケザルトキハ道知事ニ申出デ之ガ交付ヲ受クベシ

第五條　申告令第二條第二項ノ規定ニ依リ看護婦ヲ定ムルコト左ノ如シ

一　朝鮮看護婦規則ニ依リ看護婦タル者（日本赤十字社救護員タル者ヲ除ク）

十字社救護員タル者ヲ除ク）

第六條　道知事ハ當該官吏ヲシテ申告令ニ依ル申告ヲ爲シタル者ニ就キ身體、技能其ノ他必要ト認ムル事項ノ檢査ヲ爲サシムルコトヲ得

前項ノ場合ニ在リテハ當該官吏ハ樣式第三號ニ依ル證票ヲ携帶スベシ

第七條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ノ申告期限ハ朝鮮ニ歸來シタル日ヨリ十五日目迄之ヲ延長ス

一　申告令第十三條第一號ニ該當スル者ニシテ朝鮮ニ居住セザルモノ

二　申告令第十三條第二號ニ該當スル者

三　內地、臺灣、樺太、南洋群島又ハ關東州ニ旅行中ノ者

第八條　醫師ハ申告令第三條ノ規定ニ依リテ爲ス最初ノ申告ニ限リ副本一通ヲ添附シ提出スベシ

第九條　申告令及本令ノ規定ニ依リ道知事ニ差出スベキ書類ハ就業地ヲ管轄スル警察署ヲ經由スベシ

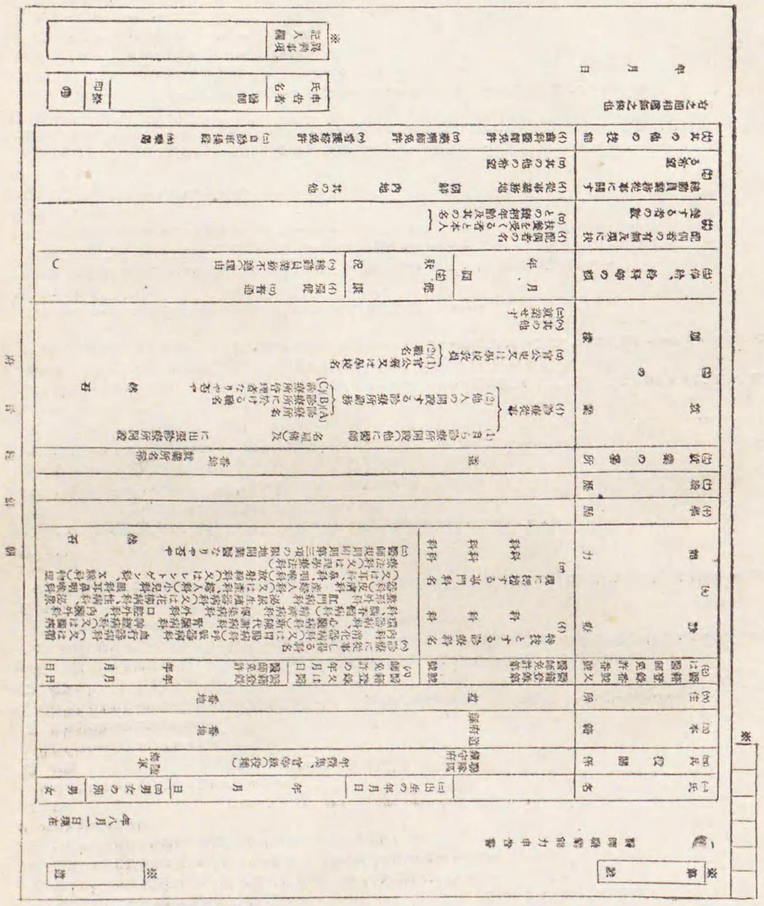
附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第四條中七月二十日迄トアルハ昭和十三年ニ限リ十月十日迄トス

第八條ノ規定ハ昭和十三年ニ行フ申告ニ限リ之ヲ適用セズ

〔朝二〕



〔朝〕

（裏面）

◎記入上の注意

一　一般の注意事項

(イ)　本申告書は一旦受理後の物件等に關聯して數年間保存するものなるを以て各項目記入上の注意を精讀し丁寧に取扱はれたきこと

(ロ)　文字は明瞭に墨又はインクを以て記入すること

(ハ)　同一の記入事項連續するときと雖も「同上」の如き記入を爲さず總て記入すること

(ニ)　誤記したる事項は其の上に線を引き之を抹消し其の傍に正しき文字を記入すること

(ホ)　該當せざる事項又は不要なる箇所は其の上に線を引き之を抹消すること

二　各項目記入上の注意

(一)　氏名

氏名には其の右側に振假名を附すること

(六)　住所

平常住居する場所を記入すること

(七)　齒科醫籍登錄番號又は齒科醫師免許番號

齒科醫師法に依り免許を受けたる者は齒科醫籍登錄番號を記入し、朝鮮總督の免許を受けたる者は齒科醫師免許番號を記入すること

(九)　診療能力

(イ)　特技とする診療科名は現に標榜する專門科名の如何に拘らず事實上自己の特技とする科名を記入すること

(ロ)　診療に從事し得る科名は同欄に掲げたる科名中診療を爲し得る科名のみ殘し、診療を爲し得ざる科名は其の上に線を引き抹消すること、尙各科名以外に從事し得る科名あるときは其の次に從事し得る科名を記入すること

(十)　學歷

高等專門學校以上の學校に付卒業年月及學校名學科名を記入し、尙試驗に依り免許を受けたる者又は學位を有する者は其の旨をも記入すること

(十一)　職歷

職歷、經歷等の就任に關係ある事項及關係なしと雖も主なる事項に付左の例に依り記入すること

(イ)　何年何月ヨリ何々病院(又ハ醫院)醫員(又ハ助手)トシテ勤務

(ロ)　何年何月ヨリ何々診療所ヲ開設シ、現在ニ至ル(又ハ何年何月廢止)

(ハ)　何年何月ヨリ何々病院何々トシテ勤務

(ニ)　何年何月ヨリ何々官公署(又ハ學校)何々官ヲ拜命

(ホ)　何年何月ヨリ何々醫學會(又ハ何會)ニ就業

(十二)　就業の場所

就業の場所とは職業、醫術に關係ある職業に從事する者が平常其の職業に從事する診療所、官公署、學校等の所在場所を謂ひ、職業、醫術に關係なき職業(例へば商業、農業等)の場所は之を含まざるものとす

二以上の就業の場所ある者は主たる就業の場所を記入し、就業の場所一定せざる者は「不定」と記入し、就業の場所なき者は「ナシ」と記入すること

就業の場所ある者は就業場所名欄の下に診療所名、官公署名、學校名等を記入すること

(十三)　就業の種類

(イ)の欄には醫療、醫術に關係ある業務に從事する者の中(イ)(ロ)に該當せざるもののみ其の業務名を記入すること

(ロ)の欄には醫療、醫術に關係なき業務に從事し又は無業なる者のみ該當するものとす

二以上の業務に從事する者は各該當欄に之を併記すること

(十四)　俸給、給料等の額

額の定めなき臨時收入は之を含まざること

(十五)　健康狀況

重症慢性疾病等の如き、一時的疾患に因る故障は(ハ)の總動員業務不適の理由とならざること

總動員業務不適の理由ある場合は疾病に在りては其の病名を、不具又は精神身體の障害に在りては其の不具又は障害の箇所を詳に記すこと

(十六)　配偶者の有無及現に扶養する者の數

(イ)の欄には配偶者の名を記入し配偶者なき者は「ナシ」と記入すること本欄に記入すべき配偶者は入籍したる場合に限る

(ロ)の欄には自己が扶養する者に付左の例に依り記入すること

父	六五才	甲三郎	長男	八才	甲一郎
母	六〇才	乙子	妹	一九才	明子
妻	三〇才	花子			

(十七)　總動員業務從事に關する希望

(ロ)の欄には特に希望する事項又は特に希望せざる事項あらば之を記入すること

三　本申告書を偽り又は本申告に關し當該官吏の爲す檢査を拒み、妨げ若は忌避したる者は國家總動員法に依り處罰せらるることあるを以て注意せらるべし

〔朝〕

様式第一號之乙

（表面）

※受付第　　號　　　　※送　　道

齒科醫師職業能力申告書

昭和　年八月一日現在

(一)氏名		(二)出生の年月日	年　月　日	(三)男女の別	男　女
(四)兵役關係	陸軍 海軍 [illegible]	年徵集、官等級(役種)			
(五)本籍	道府縣	番地			
(六)住所	道	番地			
(七)齒科醫籍登錄番號又は齒科醫師免許番號	齒科醫籍登錄第　號 齒科醫師免許第　號	(八)齒科醫籍登錄又は齒科醫師免許の年月日	齒科醫籍登錄 齒科醫師免許　年　月　日		
(九)診療能力					
(十)學歷					
(十一)職歷					
(十二)就業の場所	道	番地 就業所名稱			
(十三)就業の種類	(イ)齒科診療從事 (1)自ら齒科診療所開設(他に齒科醫師　名雇傭)及　に出張齒科診療所開設 (2)他人の開設する診療所勤務 (A)診療所名 (B)診療所に於ける職名 (C)診療所管理者なりや否や　然　否 (3)其ノ他 (ロ)官公署又は學校勤務 (1)官公署又は學校名 (2)職名 (ハ)其の他 (ニ)就業せず				
(十四)俸給、給料等の額	年　月	(十五)健康狀況	(イ)强健 (ロ)普通 (ハ)總動員業務不適(理由　　)		
(十六)配偶者の有無及現に扶養する者の數	(イ)配偶者の名 (ロ)扶養を受くる者と本人との續柄年齡及其の名				
(十七)總動員業務從事に關する希望	(イ)從事希望地　朝鮮　內地　其の他 (ロ)其の他の希望				
(十八)其の他の技能	(イ)醫師免許 (ロ)藥劑師免許 (ハ)看護婦免許 (ニ)自動車運轉 (ホ)[illegible]				

右之通相違無之候也

年　月　日

申告者 氏名 齒科醫師　　印

※記入者調

注意　一　※印の箇所は記入を要せず

二　裏面記入上の注意を熟讀し誤記なき樣記入せられたし

三　本申告書は就業場所(就業場所不定の者、就業の場所なき者及官公署勤務者は住所地、朝鮮内に於て就業する者は住所地)の道知事に提出せらるべし